

【表紙】	
【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和元年12月26日
【計算期間】	第6期（自 平成30年7月1日 至 令和元年6月30日）
【ファンド名】	レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー templton世界債券ファンド 外貨建てシリーズ (Red Arc Global Investments (Cayman) Trust- Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series)
【発行者名】	シティグループ・ファースト・インベストメント・ マネジメント・リミテッド (Citigroup First Investment Management Limited)
【代表者の役職氏名】	取締役 ソン・リ (Song Li, Director)
【本店の所在の場所】	香港、セントラル、ガーデン・ロード3、チャンピオン・ タワー50/F (50/F, Champion Tower, Three Garden Road, Central, Hong Kong)
【代理人の氏名又は名称】	辯護士 三 浦 健
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【事務連絡者氏名】	辯護士 三 浦 健 同 飯 村 尚 久
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【電話番号】	03（6212）8316
【縦覧に供する場所】	該当事項なし。

（注1）米ドル、豪ドルおよびユーロの円換算額は、便宜上、それぞれ2019年10月31日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝108.88円、1豪ドル＝75.28円、1ユーロ＝121.46円）による。以下同じ。

（注2）サブ・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設定されているが、米ドル建て受益証券、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券は、それぞれ米ドル建て、豪ドル建ておよびユーロ建てのため、本書の金額表示は、別段の記載がない限り米ドル、豪ドルまたはユーロをもって行う。

（注3）本書の中で金額および比率を表示する場合、四捨五入してある。したがって、合計の数字が一致しない場合がある。また、円貨への換算は本書の中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算のうえ、必要な場合、四捨五入してある。したがって、本書中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もある。

- （注４）本書の中で、計算期間（以下「会計年度」ともいう。）とは、７月１日に始まり翌年の６月30日に終了する１年をいう。ただし、第１会計年度は、平成25年８月５日から平成26年６月30日までの期間をいう。なお、サブ・ファンドの運用開始日は、平成25年９月13日である。
- （注５）用語の定義については、本書別紙Ａ「定義」を参照のこと。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

a. ファンドの目的、信託金の限度額

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラスト（以下「トラスト」という。）は、受託会社と管理会社の間で2008年10月21日に締結された信託証書（2015年3月10日付修正・再録信託証書により変更・再録済。）（以下、総称して、「信託証書」という。）に基づき設立されたオープン・エンドのアンブレラ型ユニット・トラストである。

トラストは、アンブレラ型ユニット・トラストとして設立されている。関連するサブ・ファンドに帰属する資産および債務が適用される個別ポートフォリオまたはサブ・ファンドが設定、設立されることができる。各サブ・ファンドに限定的に関係する受益証券が発行される。

有価証券届出書に基づき受益証券の募集を行うサブ・ファンドは、テンブルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズ（以下「ファンド」または「サブ・ファンド」という。）であり、米ドル建て受益証券、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券が発行される。サブ・ファンドの基準通貨は、米ドルとする。各クラス受益証券は、参照通貨で表示される。

信託証書は、ケイマン諸島の法律に準拠する。すべての受益者は、信託証書および信託証書を補足する追補信託証書に定める条項の利益を受ける権利を有し、かかる規定に拘束され、かつかかる規定について通知を受けたとみなされる。（a）本書に定める条件と（b）当該サブ・ファンドに関係する信託証書および追補信託証書に定める条件との間に不一致がある場合は、後者の条件が優先する。

サブ・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を総合したトータル・リターンを最大化することである。サブ・ファンドは、マスター・ファンドの米ドル建て投資証券クラス（以下「マスター・ファンド投資証券」という。）に主に投資することにより本投資目的の達成を目指す。したがって、サブ・ファンドはマスター・ファンドのフィーダー・ファンドを務めるため、実質的に受益証券の売却代金のすべてがマスター・ファンドに投資される。

サブ・ファンドは、ファンド・オブ・ファンズとして組成されている。サブ・ファンドは、トラッカー・ファンドとして設定されていない。したがって、サブ・ファンドのパフォーマンスは、マスター・ファンドのパフォーマンスとは異なることがある。

サブ・ファンドについて、ファンドの信託金の限度額は定められていない。申込可能な受益証券の価額の最大総額は、10億米ドル相当額とする。

b. ファンドの基本的性格

サブ・ファンドは、信託証書および2013年8月5日付追補信託証書（2015年4月14日付変更証書により変更済。）（以下、総称して、「追補信託証書」という。）に基づいて受託会社および管理会社によって設定された。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド（以下「管理会社」という。）は、トラストの管理会社である。管理会社は、各サブ・ファンドに関して一定の管理事務業務（受益証券の割当て、発行、譲渡および買戻しの調整を含むが、これらに限られない。）を実行する責任を有する。

受託会社は、信託証書に基づき、各サブ・ファンドの信託財産を構成する投資対象を運用する責任を有する。

受託会社は、管理会社との間で投資運用契約を締結しており、投資運用契約に基づき、受託会社は、各サブ・ファンドの資産の投資および再投資ならびに投資運用サービスの履行に関する自由裁量の責務を管理会社に委譲している。

受託会社は、サブ・ファンドの資産を保管する任務を保管会社に委託している。さらに、受託会社は、サブ・ファンドの管理事務を管理事務代行会社に委託しており、管理事務代行会社は、サブ・ファンドに関する管理事務業務を担当する。管理事務代行会社は、受益証券1口当たり純資産価格を計算する責任を負う。受託会社および管理会社は、サブ・ファンドの登録名義書換代理人として、シティコープ・フィナンシャル・サービスズ・リミテッドを選任している。

「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（5）その他、（イ）トラストまたはサブ・ファンドの終了」の項に定める規定に従い、または本書に記載するその他の状況において早期に終了する場合を除き、サブ・ファンドは償還日または受託会社および管理会社が決定する日に終了する予定である。償還日とは、2157年10月21日または管理会社および受託会社が合意したこれよりも早い日をいう。

受託会社は、各サブ・ファンドの信託財産を、当該サブ・ファンドの信託期間中、当該サブ・ファンドの受益者の利益のために個別のサブ・ファンドとして、信託証書（関連する追補信託証書を含む。）の条件において、またその権限および規定に従って、個別の独立した信託としてかつケイマン諸島の信託法（2018年改正）（以下「信託法」という。）に基づき保有するものとする。

受託会社は（管理会社と協議の上）、サブ・ファンド決議または受益者決議による承認を得ることなく、大要追補信託証書の様式による共同宣言を行うことにより、随時サブ・ファンドを設定および設立することができる。当該サブ・ファンドは、信託証書（関連する追補信託証書を含む。）の条項に基づき、またその権限および規定に従い行使されるものとする。

各受益証券は無額面とする。

いずれのサブ・ファンドの受益証券も、その保有者に対して、当該サブ・ファンドの信託財産の特定部分における利益または不可分の持分を付与しないものとする。疑義を避けるため付言すると、あるサブ・ファンドの受益証券の保有者は、当該受益証券を保有していることを理由として、他のサブ・ファンドに対して利益を有さないものとする。

いずれかの信託財産の一部を構成する一切の金銭は、信託証書の規定に従い保有または投資されるものとする。

受託会社は、サブ・ファンドに関して、書面による決議をもって、当該サブ・ファンドの受益証券について1以上の独立したクラスおよび／またはシリーズを参照して、随時受益証券を設定し、指定し、発行することができ、また受託会社は、管理会社と協議の上、以下に掲げる方法などを含むかかるクラスまたはシリーズの受益証券を当該サブ・ファンドのその他のクラスまたはシリーズの受益証券と差別化するものとする。

- （a）資産、債務、経費および費用をかかえるクラスおよび／またはシリーズ間で割り当てる方法
- （b）かかるクラスまたはシリーズの純資産価額を計算する方法
- （c）受託会社または管理会社によって選任されたサービス提供者に支払うべき報酬（管理報酬、業績報酬および買戻手数料などを含むが、これらに限られない。）をかかえる各クラスまたはシリーズの受益者から徴収し、請求する方法
- （d）為替ヘッジに起因する費用および損益をかかえる各クラスまたはシリーズの受益証券の保有者から徴収し、請求する方法
- （e）当該サブ・ファンドの信託財産に関するその他資産または債務をかかえる各クラスまたはシリーズに帰属させ、負担させる方法

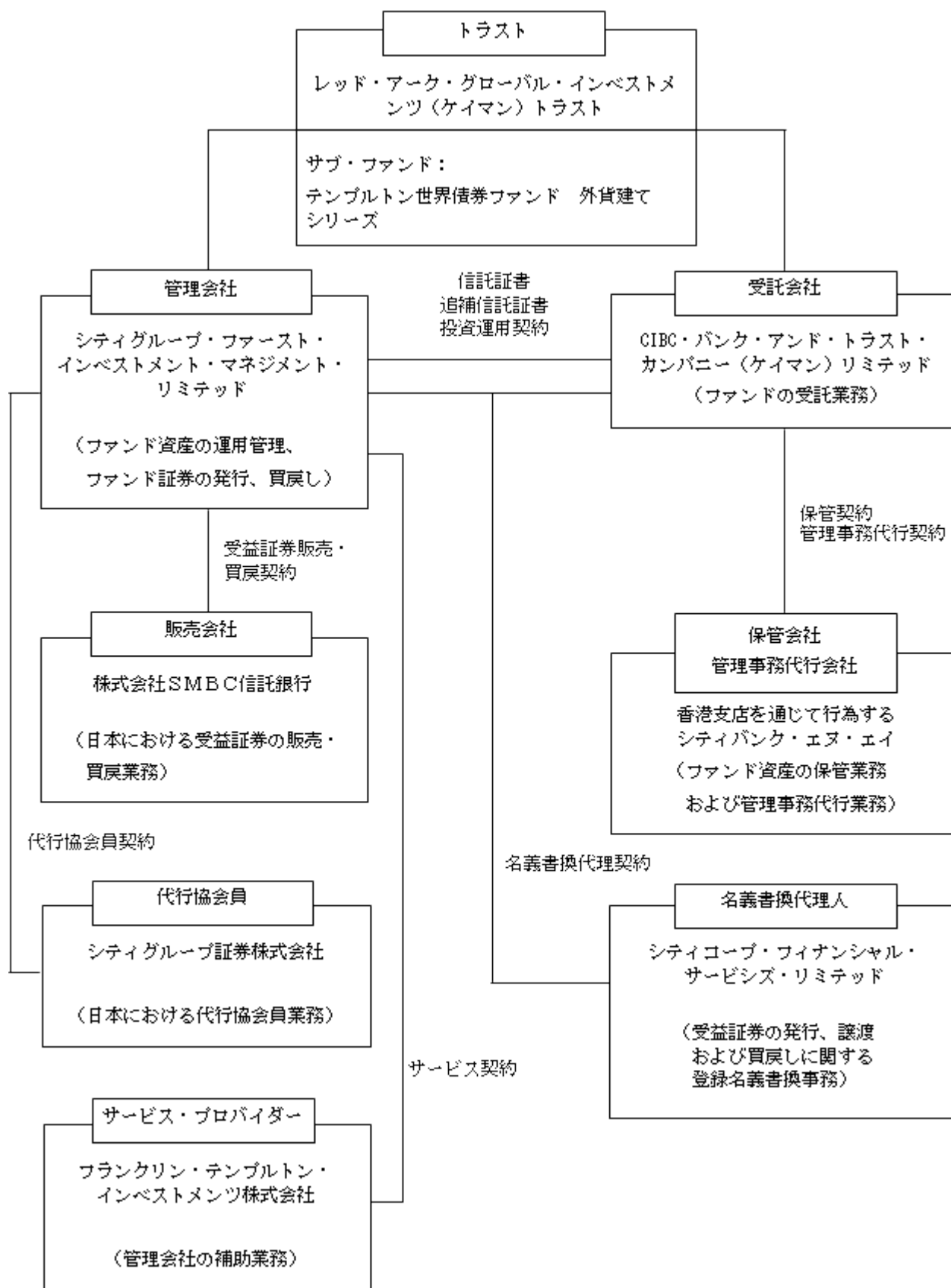
（2）【ファンドの沿革】

1971年1月15日	管理会社設立
2008年10月21日	信託証書締結
2013年8月5日	追補信託証書締結
2013年8月30日	サブ・ファンドの申込開始

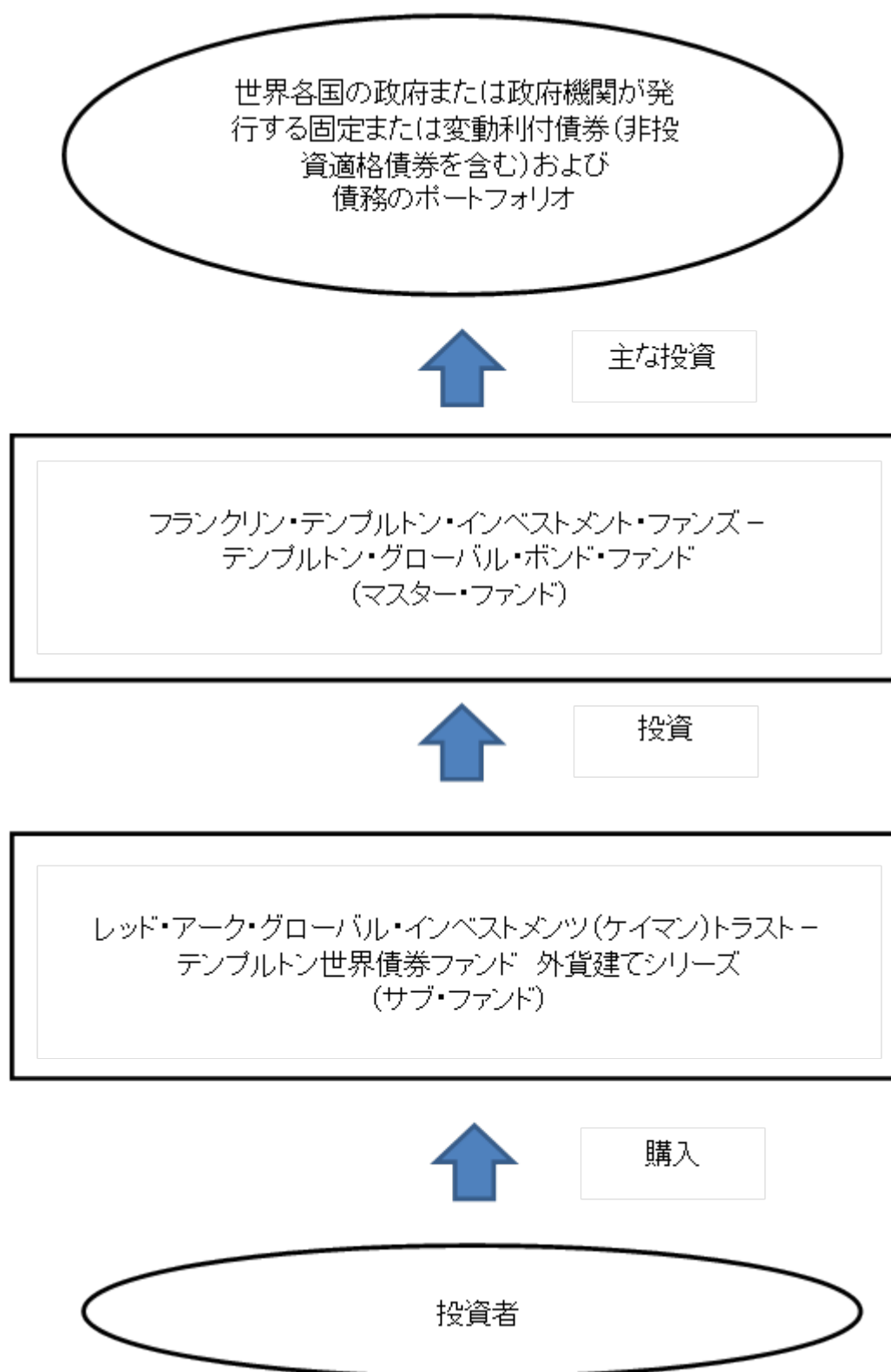
2013年9月13日	サブ・ファンドの運用開始
2015年3月10日	修正・再録信託証書締結
2015年4月14日	追補信託証書の変更証書（以下「変更証書」という。）締結
2015年5月12日	修正・再録信託証書および変更証書効力発生
2015年5月12日	トラストの名称の変更

(3) 【ファンドの仕組み】

① ファンドの仕組み



※サブ・ファンドの運用形態



② 管理会社とファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割および契約等の概要

名称	ファンドの 運営上の役割	契約等の概要
シティグループ・ファースト・イン ベストメント・マネジメント・リミ テッド (Citigroup First Investment Management Limited)	管理会社	受託会社との間で信託証書および追補信託証書を、2015年 3月10日付で投資運用契約（注1）を締結（2015年5月12日効 力発生）。管理会社はサブ・ファンドの資産の運用管理お よび受益証券の発行を行う。
CIBC・バンク・アンド・トラスト・ カンパニー（ケイマン）リミテッド (CIBC Bank and Trust Company (Cayman) Limited)	受託会社	管理会社との間で信託証書および追補信託証書を、2015年 3月10日付で投資運用契約（注1）を締結（2015年5月12日効 力発生）。受託会社はサブ・ファンドの資産の受託会社と しての業務を提供する。
香港支店を通じて行為するシティバ ンク・エヌ・エイ (Citibank N.A., acting through its Hong Kong branch)	保管会社 管理事務 代行会社	2013年8月13日付で受託会社との間で保管契約（注2）を締 結。保管会社は、サブ・ファンドの資産の保管を行う。 2013年8月13日付で受託会社との間で管理事務代行契約（注 3）を締結。サブ・ファンドの管理事務代行業務について、 委任されている。
シティコープ・フィナンシャル・ サービス・リミテッド (Citicorp Financial Services Limited)	名義書換 代理人	2013年8月13日付で管理会社および受託会社との間で名義 書換代理契約（注4）を締結。受益証券の登録名義書換代理人 を務める。
シティグループ証券株式会社	代行協会員	2013年8月12日付で管理会社との間で代行協会員契約（変 更済）（注5）を締結。日本において代行協会員業務を行う。
株式会社SMB C信託銀行	販売会社	2013年8月12日付で管理会社との間で受益証券販売・買戻 契約（注6）を締結。日本において販売・買戻業務を提供す る。
フランクリン・テンプルトン・イン ベストメンツ株式会社	サービス・プ ロバイダー	2013年8月12日付で管理会社との間でサービス契約（注7）を 締結。日本におけるサブ・ファンドに係る販売の援助の提 供において、管理会社を補助する。

- (注1) 投資運用契約とは、受託会社がサブ・ファンドの資産の投資および再投資ならびにサブ・ファンドに関する投資運用サービスの履行に関する自由裁量の責務を管理会社に委譲する契約である。
- (注2) 保管契約とは、受託会社によって資産の保管会社として選任された保管会社が、サブ・ファンドの名義による保管口座の開設および維持ならびに証券および現金等の保管および管理等の保管業務を行うことを約する契約である。
- (注3) 管理事務代行契約とは、受託会社がその権限の一部を管理事務代行会社に授権する契約である。
- (注4) 名義書換代理契約とは、名義書換代理人が受益証券の発行、譲渡および買戻しに関して登録名義書換事務を提供することを約する契約である。
- (注5) 代行協会員契約とは、代行協会員が受益証券に関する目論見書の配布、受益証券1口当たり純資産価格の公表ならびに日本の法令および日本証券業協会規則により作成を要する運用報告書等の文書の販売取扱会社への送付等を行うことを約する契約である。
- (注6) 受益証券販売・買戻契約とは、受益証券の日本における募集の目的で管理会社から交付を受けた受益証券を販売会社が、日本の法令・規則および目論見書に準拠して販売することおよび受益者からの買戻注文を管理会社に取次ぐことを約する契約である。
- (注7) サービス契約とは、サービス・プロバイダーが、マスター・ファンドに関連する特定の情報の提供および入手を含む、とりわけ日本におけるサブ・ファンドに係る販売の援助の提供において、管理会社を補助することを約する契約である。

③ 管理会社の概要

(i) 設立準拠法

管理会社は、香港の法律に基づき設立された。

(ii) 会社の目的

管理会社の目的は、投資ファンドを運営、管理することである。香港法第571章の証券先物法（以下「SF0」という。）第116条に従って、管理会社は、SF0の別紙5に定義されるタイプ4および9の規制対象活動に関して認可を受けている。かかる規制対象活動は、証券および資産運用に関する助言を含む。

(iii) 株式資本の額

管理会社の資本金は200万200香港ドル（約2,778万円）で、2019年10月末日現在全額払込済であり、記名式株式2万2株を発行済である。

また、管理会社の純資産の額は、2019年10月末日現在262,972,579香港ドル（約36億5,269万円）であった。

(注) 香港ドルの円換算額は、便宜上、2019年10月31日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1香港ドル＝13.89円）による。以下別段の記載がない限りこれによる。

(iv) 会社の沿革

1971年1月15日設立。

管理会社は、2007年2月16日香港の証券先物委員会からタイプ4および9の認可を受けた。

(v) 大株主の状況

(2019年10月末日現在)

名称	住所	所有株式数	比率
シティグループ・グローバル・マーケット・ホンコン・ホールディングス・リミテッド (Citigroup Global Markets Hong Kong Holdings Limited)	香港、セントラル、ガーデン・ロード3、 チャンピオン・タワー50/F (50/F, Champion Tower, Three Garden Road, Central, Hong Kong)	2万2株	100%

(4) 【ファンドに係る法制度の概要】

① 準拠法の名称

トラストは、信託法に基づき設立されている。トラストは、また、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法（2019年改正）（以下「ミューチュアル・ファンド法」という。）により規制される。

② 準拠法の内容

（i）信託法

ケイマン諸島の信託の法律は、基本的には英国の信託法に従っており、英国の信託法のほとんどの部分を採用しており、かつ信託に関する英国判例法のほとんどの部分を採用している。さらに、信託法は、英国の1925年受託者法を実質的に基礎としている。投資者は、受託会社に対して資金を払い込み、受益者たる投資者の利益のために投資運用会社が運用する間、受託会社は、一般的に保管銀行としてこれを保持する。各受益者は、信託資産の持分比率に応じて権利を有する。

受託会社は、通常の忠実義務に服し、かつ受益者に対して説明の義務を負う。その機能、義務および責任の詳細は、ユニット・トラストの信託証書に記載される。

大部分のユニット・トラストは、免税信託として登録申請される。その場合、信託証書、ケイマン諸島の居住者またはケイマン諸島を本拠地とする者を、（限られた一定の場合を除き、）受益者とし、ない旨宣言した受託会社の法定の宣誓書が登録料と共に信託登記官に届出される。

免税信託の受託会社は、受託会社、受益者、および信託財産が50年間課税に服しないと約定を取得することができる。

信託は、150年まで存続することができ、一定の場合は無期限に存続できる。

免税信託は、信託登記官に対して、当初手数料および年次手数料を支払わなければならない。

（ii）ミューチュアル・ファンド法

後記「監督官庁の概要」の記載を参照。

（iii）一般投資家向け投資信託（日本）規則（2018年改正）

一般投資家向け投資信託（日本）規則（2018年改正）（以下「ミューチュアル・ファンド規則」という。）は、日本で公衆に向けて販売されるケイマン諸島の一般投資家向け投資信託に関する法的枠組みを定めたものである。

ミューチュアル・ファンド規則は、新たな一般投資家向け投資信託に対し、ケイマン諸島金融庁（以下「CIMA」という。）への投資信託免許の申請を義務づけている。かかる投資信託免許の交付には、CIMAが適当とみなす条件の適用がある。かかる条件のひとつとして一般投資家向け投資信託は、ミューチュアル・ファンド規則に従って事業を行わなければならない。

ミューチュアル・ファンド規則は、一般投資家向け投資信託の設立文書に、証券に付随する権利および制限、資産と負債の評価に関する条件、純資産総額ならびに証券の発行価格および買戻価格の計算方法、証券の発行条件（証券に付随する権利および制限の変更にかかる条件および状況（もしあれば）を含む。）、証券の譲渡または転換の条件、証券の買戻しまたは買戻しの中止の条件ならびに監査人の任命の条項を入れることを義務づけている。

ミューチュアル・ファンド規則は、一般投資家向け投資信託に対し、ミューチュアル・ファンド法に基づきCIMAが承認した管理事務代行会社を任命し、維持することを義務づけている。管理事務代行会社を変更する場合、CIMA、一般投資家向け投資信託の投資家および管理事務代行会社以外の業務提供者に対し、変更の1か月前までに書面で通知しなければならない。一般投資家向け投資信託は、CIMAの事前承認を得ない限り、管理事務代行会社を変更することができない。

また、管理事務代行会社は、投資家名簿の写しを通常の営業時間中に投資家が閲覧できるようにし、かつ、請求に応じて証券の最新の発行価格、償還価格および買戻価格を無料で提供しなければならない。

一般投資家向け投資信託は、ケイマン諸島、同等の法域またはCIMAが承認したその他の法域で規制を受けている保管会社（もしくはプライムブローカー）を任命し、維持しなければならない。保管会社を変更する場合、一般投資家向け投資信託は、当該変更の1か月前までにその旨を書面でCIMA、当該投資信託の投資家および保管会社以外の業務提供者に通知しなければならない。「同等の法域」とは、ケイマン諸島犯罪収益に関する法律（2019年改正）（以下「ケイマン諸島犯罪収益に関する法律」という。）に基づきケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止対策グループにより承認された法域をいう。

一般投資家向け投資信託は、ケイマン諸島、同等の法域またはCIMAが承認したその他の法域で設立され、または適法に事業を営んでいる投資顧問会社を任命し、維持しなければならない。投資顧問会社を変更する場合には、変更の1か月前までにCIMA、投資家および投資顧問会社以外の業務提供者に当該変更について通知しなければならない。さらに、投資顧問会社の取締役を変更する場合には、運用する各一般投資家向け投資信託の運営者の事前の承認を要する。運営者は、かかる変更について、変更の1か月前までに書面でCIMAに通知することが要求される。

一般投資家向け投資信託は、各会計年度が終了してから6か月以内に、監査済財務諸表を織り込んだ財務報告書を作成し、ミューチュアル・ファンド法に従って投資家に配付しなければならない。また、中間財務諸表については当該投資信託の英文目論見書の中で投資家に説明した要領で作成し、配付すればよいものとされている。

（５）【開示制度の概要】

① ケイマン諸島における開示

（イ）ケイマン諸島金融庁（CIMA）への開示

トラストは、英文目論見書を発行しなければならない。英文目論見書は、受益証券についてすべての重要な内容を記載し、投資者となろうとする者がトラストに投資するか否かについて十分な情報に基づく決定をなすうるために必要なその他の情報を記載し、またミューチュアル・ファンド規則の要求する情報を記載しなければならない。英文目論見書は、トラストについての詳細を記載した申請書とともにCIMAに提出しなければならない。

トラストは、CIMAが承認した監査人を選任し、会計年度終了後6か月以内に監査済会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程において、トラストに以下の事由があると信ずべき理由があることを知ったときは、CIMAに報告する法的義務を負っている。

- ・ 弁済期に債務を履行できないことまたはできないであろうこと。
- ・ 投資者または債権者に有害な方法で自発的にその事業を遂行しもしくは事業を解散し、またはその旨意図していること。
- ・ 会計を適切に監査しうる程度に十分な会計記録を備置せずに事業を遂行し、または遂行しようとして意図していること。
- ・ 詐欺的または犯罪的な方法で事業を行い、または行おうとしていること。
- ・ ミューチュアル・ファンド法もしくはその下位規則、ケイマン諸島の金融庁法（2018年改正）、マネー・ロンダリング防止規則（2018年改正）または受託会社の認可条件を遵守せずに事業を行い、または行おうとしていること。

トラストの監査人は、ケーピーエムジー ケイマン諸島である。サブ・ファンドの会計監査は、香港において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて行われる。

サブ・ファンドは、毎年12月31日までには同年6月30日に終了する会計年度の監査済会計書類をCIMAに提出する。

管理事務代行会社は、(a) サブ・ファンド資産の一部または全部が目論見書に記載された投資目的および投資制限に従って投資されていないこと、または(b) 受託会社もしくは管理会社がその設立文書または目論見書に定める規定に従って、サブ・ファンドの業務および投資活動を実質的に遂行していないことを認識した場合、かかる認識後速やかに、(i) 当該事実を受託会社に書面で報告し、(ii) 当該報告書の写しおよび報告に適用ある詳細をCIMAに提出し、その報告書または適切な概要については、サブ・ファンドの次回の年次報告書、および次回の半期報告書または定期報告書が次回の年次報告書に先立ち交付される場合には半期報告書または定期報告書に記載されなければならない。

管理事務代行会社は、(a) サブ・ファンドの募集または償還もしくは買戻しの停止および当該停止理由、ならびに(b) サブ・ファンドを清算する意向および当該清算理由について、実務上速やかに書面でCIMAに通知しなければならない。

受託会社は、各会計年度末の6か月後から20日以内にCIMAにサブ・ファンドの事業について書面で報告書を提出するか、または提出するよう手配しなければならない。当該報告書には、サブ・ファンドに関する以下の事項を記載しなくてはならない。

- (a) すべての旧名称を含むサブ・ファンドの名称
- (b) 投資者により保有されている各組入証券の純資産価額
- (c) 前報告期間からの純資産価額および各組入証券の変動率
- (d) 純資産価額
- (e) 当該報告期間の新規募集口数および価額
- (f) 当該報告期間の償還または買戻しの口数および価額
- (g) 報告期間末における発行済有価証券総数

受託会社は、(a) 受託会社が知る限り、サブ・ファンドの投資方針、投資制限および設立文書を遵守していること、ならびに(b) サブ・ファンドが投資者または債権者の利益を損なうような運営をしていないことを確認する旨の受託会社により署名された宣誓書を、毎年、CIMAに提出するか、または提出するよう手配しなければならない。

サブ・ファンドは、管理事務代行会社の任命について提案された変更を、CIMA、投資者および管理事務代行会社以外の業務提供会社に、当該変更の少なくとも1か月前に、書面で通知しなければならない。

サブ・ファンドは、保管会社の任命について提案された変更を、CIMA、投資者および保管会社以外の業務提供会社に、当該変更の少なくとも1か月前に、書面で通知しなければならない。

サブ・ファンドは、管理会社について提案された変更を、CIMA、投資者およびその他の業務提供会社に、当該変更の少なくとも1か月前に、書面で通知しなければならない。

(ロ) 受益者に対する開示

サブ・ファンドの会計年度は、毎年6月30日に終了する。監査済年次計算書類および未監査の半期計算書類は、香港において一般に公正妥当と認められた会計原則に従い作成され、通常、監査済年次計算書類は、各会計年度の末日から6か月以内に受益者に送付され、未監査の半期計算書類は、これが関連する期間の末日から3か月以内に受益者に送付される。

また、名義書換代理人は、各月の末日時点の受益者に保有されている受益証券の残高を記載した月次報告書を受益者に提供し、さらに、受益証券の申込みまたは買戻しのいずれかをを行った受益者のそれぞれに対しては、当該申込みまたは買戻しの後に追加の残高証明書を提供する。

② 日本における開示

(イ) 監督官庁に対する開示

(a) 金融商品取引法上の開示

管理会社は日本における1億円以上の受益証券の募集をする場合、有価証券届出書を関東財務局長に提出しなければならない。投資者およびその他希望する者は、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（EDINET）等において、これを閲覧することができる。

販売会社は、交付目論見書（金融商品取引法の規定により、あらかじめまたは同時に交付しなければならない目論見書をいう。）を投資者に交付する。また、投資者から請求があった場合は、請求目論見書（金融商品取引法の規定により、投資者から請求された場合に交付しなければならない目論見書をいう。）を交付する。管理会社は、その財務状況等を開示するために、各特定期間終了後6か月以内に有価証券報告書を、また、各半期終了後3か月以内に半期報告書を、さらに、サブ・ファンドに関する重要な事項について変更があった場合にはそのつど臨時報告書を、それぞれ関東財務局長に提出する。投資者およびその他希望する者は、これらの書類をEDINET等において閲覧することができる。

(b) 投資信託及び投資法人に関する法律上の開示

管理会社は、受益証券の募集の取扱い等を行う場合、あらかじめ、投資信託及び投資法人に関する法律（以下「投信法」という。）に従い、サブ・ファンドに係る一定の事項を金融庁長官に届け出なければならない。また、管理会社は、サブ・ファンドの信託証書を変更しようとするとき等においては、あ

らかじめ、変更の内容および理由等を金融庁長官に届け出なければならない。さらに、管理会社は、サブ・ファンドの資産について、サブ・ファンドの各計算期間終了後遅滞なく、投信法に従って、一定の事項につき交付運用報告書および運用報告書（全体版）を作成し、金融庁長官に提出しなければならない。

（ロ）日本の受益者に対する開示

管理会社は、信託証書を変更しようとする場合であってその変更の内容が重大なものである場合等においては、あらかじめ、日本の知れている受益者に対し、変更の内容および理由等を書面をもって通知しなければならない。

管理会社からの通知等で受益者の地位に重大な影響を及ぼす事実、販売会社を通じて日本の受益者に通知される。

交付運用報告書は、日本の知れている受益者に交付され、運用報告書（全体版）は、電磁的方法によりファンドの代行協会員であるシティグループ証券株式会社のホームページにおいて提供される。

（６）【監督官庁の概要】

ミューチュアル・ファンド法

トラストは、ミューチュアル・ファンド法に基づく投資信託として規制される。CIMAは、ミューチュアル・ファンド法の遵守を確保するための監督および執行の権限を有する。ミューチュアル・ファンド法に基づく規則は、CIMAに対する年次の所定の事項の報告および監査済年次財務書類の提出を規定する。規制された投資信託として、CIMAは、いつでも、受託会社に対し、トラストの財務書類の監査を行い、同書類をCIMAが指定する一定の期日までにCIMAに提出するよう指示することができる。これらのCIMAの指示を遵守しない場合、受託会社は、高額な罰金に服することがあり、また、CIMAは、裁判所にトラストの解散を請求することができる。

規制された投資信託が、履行期の到来した義務を履行できないかもしくは履行できなくなる可能性がある場合、投資者や債権者の利益を害する方法で業務を遂行もしくは遂行を企図し、または任意解散を行おうとしている場合、トラストのような免許投資信託の場合、規制された投資信託がミューチュアル・ファンド法に反して、免許の条件を遵守せずに業務を行っているか、行おうとしている場合、規制された投資信託の指示および運営が適正かつ正当な方法で行われていない場合、または、規制された投資信託のマネジャーの地位にある者が、その任務にあたる適正かつ正当な者ではない場合、CIMAは、一定の措置を取ることができる。CIMAの権限には、受託会社の交替を要求すること、受託会社の適切な業務遂行について受託会社に助言を与える者を任命すること、またはトラストの業務監督者を任命すること等が含まれる。CIMAは、その他の権限（その他措置の承認を裁判所に申請する権限を含む。）を行使することができる。

マネー・ロンダリング規制

マネー・ロンダリングの防止を目的とする法律または規則を遵守するために、受託会社は、マネー・ロンダリング防止手続を採用し、維持する必要がある、そして申込者に対して、その身元と資金源を証明する証拠の提出を要求することができる。許可された場合、一定の条件に基づき、受託会社はまた、そのマネー・ロンダリング防止手続（デュー・ディリジェンス情報の取得を含む。）の維持を適切な者に委託することができる。

また、受託会社およびその適式に選任された委託先は、申込者または譲受人の身元および資金源を証明するために必要な情報を請求する権利を留保する。ただし、場合によっては、受託会社およびその適式に選任された委託先は、随時改正または変更されるケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止規則（2018年改正）またはその他の適用ある法律に基づく免除規定が適用される場合で、完全なデュー・ディリジェンスが必要ないと考えられる場合には、情報を要求しないこととすることもできる。

申込者が証明の目的で要求される情報の提出を遅延するか、または怠った場合、受託会社およびその適式に選任された委託先は、申込みの受理を拒絶することができ、その場合、受領された資金は利息を付することなく、当該資金の送金元口座に返金されるものとする。

受託会社、管理会社またはこれらの適式に選任された委託先は、受益者に対する買戻代金の支払いまたは分配金の支払いが適用ある法律もしくは規制に従っていない疑いがあると受託会社、管理会社またはこれらの適式に選任された委託先が自ら判断しもしくはその旨の助言を受けた場合、またはかかる支払いの拒絶が、受託会社、管理会社またはこれらの適式に選任された委託先にとって適用ある法律もしくは規制の遵守を確保するために必要もしくは適切と考えられる場合、当該受益者に対する買戻代金または分配金の支払いを拒絶することができる。

ケイマン諸島における者は、他の者が犯罪行為に従事しまたはテロ行為もしくはテロリストの資産に関与していることを知り、もしくはそのような疑惑を抱き、またはこれらを知り、もしくは疑惑を抱くことについて合理的な根拠を得た場合、またかかる認識もしくは疑惑に関する情報を規制を受ける部門における業務もしくはその他の取引、専門業務、事業もしくは雇用の遂行の過程で知った場合、当該者は、上記の確信または疑惑を、（i）その通報が犯罪行為またはマネー・ロンダリングに関するものである場合はケイマン諸島犯罪収益に関する法律に基づきケイマン諸島の財務報告当局に、または（ii）その通報がテロ行為またはテロリストの資金提供および資産への関与に関するものである場合はケイマン諸島のテロリズム法（2018年改正）に基づき巡査以上の階級の警察官または財務報告当局に対して報告する義務を負う。かかる通報は、法律等で課せられた情報の機密保持または開示制限の違反とはみなされない。

ケイマン諸島データ保護法

ケイマン諸島政府は、2017年5月18日に2017年データ保護法（以下「DPL」という。）を施行した。DPLにより、国際的に受け入れられたデータ・プライバシー原則に基づいた受託会社の法令上の要求を導入する。

受託会社は、DPLの下での受託会社のデータ保護義務および投資者（および投資者と関連する個人）のデータ保護権利を概説する書類（以下「サブ・ファンド・プライバシー通知」という。）を準備してきた。サブ・ファンド・プライバシー通知は投資者に入手可能となる。

潜在的投資者は、サブ・ファンドへの投資ならびに受託会社およびその関連会社および／またはその委託先との関連するやり取り（申込フォームの記入、および（適用ある場合には）電磁的方法でのやり取りまたは電話通話の記録を含む。）の観点から、または受託会社に投資者と関連する個人（例えば、取締役、受託者、従業員、代表者、株主、投資者、クライアント、実質的受益者または代理人）の個人情報を提供する観点から、当該個人は受託会社ならびにその関連会社および／または委託者（管理事務代行会社を含むが、これに限られない。）に対しDPLにおいて個人データを形成する一定の個人情報を提供することに留意すべきである。個人データについてデータ管理者として行為する受託会社ならびに管理事務代行会社、管理会社およびその他のようなその関連者および／または委託者は、データ処理者（または一定の場合に自身の権利においてデータ管理者）として行為する場合がある。

サブ・ファンドへの投資によりおよび／またはサブ・ファンドへの投資を続けることにより、投資者は、サブ・ファンド・プライバシー通知を熟読し理解したと、およびサブ・ファンド・プライバシー通知はサブ・ファンドへの投資に関連するデータ保護権利および義務の概略を提供するとみなされることを承知したものとする。

DPLの監視はケイマン諸島のオンブズマン・オフィスの責任である。受託会社によるDPLの違反は、治癒命令、金銭ペナルティまたは犯罪訴追への紹介を含む、オンブズマンの執行行為を招く可能性がある。

2【投資方針】

（1）【投資方針】

サブ・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を総合したトータル・リターンを最大化することである。サブ・ファンドは、マスター・ファンドの米ドル建て投資証券クラス（以下「マスター・ファンド投資証券」という。）に主に投資することにより本投資目的の達成を目指す。したがって、サブ・ファンドはマスター・ファンドのフィード・ファンドを務めるため、実質的に受益証券の売却代金のすべてがマスター・ファンドに投資される。

サブ・ファンドの資産の大半がマスター・ファンドに投資されるため、サブ・ファンドのパフォーマンスは、マスター・ファンドの投資ポートフォリオのパフォーマンスに依拠する。さらに、以下に詳述されるとおり、為替ヘッジ取引は、サブ・ファンドの投資のパフォーマンスに大きな影響を及ぼすことがある。

投資者は、異なるクラスの受益証券に申し込むことができる。各受益証券クラスは、表示通貨を除き、実質的に同じ権利および条件を有する。

サブ・ファンドの資産の特定の部分は、サブ・ファンドの日々の現金必要性が生じた際にはこれを斟酌しつつ、現金として留保される。サブ・ファンドのキャッシュ・ポリシーの詳細は、後記「キャッシュ・ポリシー」の項において記載されている。

サブ・ファンドは、ファンド・オブ・ファンズとして組成されている。サブ・ファンドは、トラッカー・ファンドとして設定されていない。したがって、サブ・ファンドのパフォーマンスは、マスター・ファンドのパフォーマンスとは異なることがある。

サブ・ファンドの投資目的が達成される保証はない。

マスター・ファンド

マスター・ファンドは、株式会社および可変資本型投資会社としてルクセンブルグ大公国の法律に基づきルクセンブルグにおいて設立された会社であるFTIFのサブ・ファンドである。FTIFは、集団投資事業に関連する2010年12月17日のルクセンブルグ法（随時改正される。）の第I部に基づき譲渡可能証券の集団投資事業の公式リストに登録されている。FTIFは、UCITSとしての資格を有する。

マスター・ファンドの基準通貨は米ドルである。マスター・ファンドの総エクスポージャーを測定するために、バリュー・アット・リスク・アプローチが利用される。「バリュー・アット・リスク」は、正常な市場状況で所定の信頼水準および所定の期間において発生する可能性のある潜在的な損失の最大値を測定する。バリュー・アット・リスクは、あるポートフォリオに特有の通貨額でまたは通貨額が純資産総額により除される場合は割合で、絶対値で表示される。バリュー・アット・リスクはまた、マスター・ファンドのバリュー・アット・リスク（割合で表示される。）が関連するベンチマーク（割合で表示される。）のバリュー・アット・リスクにより除される場合、相対値でも表示され、相対的バリュー・アット・リスクとして知られる比率を生み出す。ルクセンブルグの法律に基づき、絶対的バリュー・アット・リスク制限は現在、純資産総額の20パーセントであり、相対的バリュー・アット・リスク制限は現在、ベンチマーク・バリュー・アット・リスクの2倍または200パーセントである。マスター・ファンドの相対的バリュー・アット・リスク参照ベンチマークは、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・ブロード（50パーセント）、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル（25パーセント）およびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット（25パーセント）から成る混合ベンチマークである。マスター・ファンドのレバレッジの予想水準は、90パーセントである。レバレッジの予想水準は予測に過ぎないため、レバレッジ水準はこれより高くなる可能性がある。マスター・ファンドのレバレッジ水準は、マスター・ファンドがリスク特性を踏まえ、かつ、相対的バリュー・アット・リスク制限を遵守する限り、いずれかの時点でこの予想水準を上回ることも下回ることもある。レバレッジは、派生商品の利用の合計を測定するため、関連するファンドのポートフォリオにおいて直接保有されるその他の物的資産を考慮に入れない。

レバレッジの水準は、マスター・ファンドの純資産総額の割合で表示されるマスター・ファンドが締結するすべての金融派生契約の想定元本の合計として測定される。

この手法では、

- (a) 投資またはヘッジ目的で利用される金融派生商品間の区別を行わない。その結果、リスクの削減を目的とした戦略はマスター・ファンドのレバレッジ水準の引き上げに寄与する。
- (b) デリバティブ・ポジションのネットティングを考慮しない。その結果、ロングおよびショート・ポジションの組み合わせに依拠するデリバティブのロールオーバーおよび戦略は、レバレッジ水準が上昇しない場合の大幅な上昇に寄与するかまたは全体的なマスター・ファンドのリスクを中程度に増加させるだけである。
- (c) デリバティブ裏付け資産のボラティリティを考慮せず、短期資産と長期資産間の区別を行わない。その結果、レバレッジ水準が高いファンドは、レバレッジ水準が低いファンドに比べて必ずしもリスクが高いというわけではない。
- (d) オプション契約のデルタを考慮しないため、オプション契約が行使される可能性は調整されない。その結果、行使される可能性が低いアウト・オブ・ザ・マネー・オプション契約を有しているファンドでは、アウト・オブ・ザ・マネー・オプションの潜在的なレバレッジ効果が裏付け資産の価格が権利行使価格に近づくにつれて増加する傾向があり、裏付け資産の価格がさらに上昇するにつれて消え、契約はディープ・イン・ザ・マネーになるにもかかわらず、オプション契約がイン・ザ・マネーであり、行使される可能性が高く、想定元本の合計が同等のファンドと同じレバレッジを有していることがある。

マスター・ファンドは、世界各国の政府または政府機関が発行する固定または変動利付債券（非投資適格債券を含む。）および債務のポートフォリオに主に投資することにより目的の達成を目指す。

マスター・ファンドは、以下のことをすることができる。

- (a) マスター・ファンドの投資制限に従い、企業発行体の債券（非投資適格債券を含む。）に投資すること。
- (b) 複数の中央政府により組織または援助されている国際機関（国際復興開発銀行または欧州投資銀行等）が発行する債務証券を購入すること。
- (c) 投資目的のために金融派生商品を利用すること。これらの金融派生商品は、規制市場または店頭市場で取引することができ、とりわけ、オプションに加え、スワップ（クレジット・デフォルト・スワップまたはトータル・リターン・スワップ等）、先渡取引およびクロス先渡取引、先物取引（国債先物を含む。）を含む。金融派生商品の利用により、特定のイールドカーブ／デュレーション、通貨またはクレジットのエクスポージャーが負（マイナス）になることがある。
- (d) いずれかの国の他の有価証券、資産または通貨の価値に連動する有価証券および仕組商品に投資すること。
- (e) 純資産の10パーセントまでの範囲内で債務不履行の状態にある有価証券を保有すること。
- (f) いかなる通貨建ての固定利付債券および債務をも購入すること。
- (g) 優先株式または債務から転換または交換された持分証券を保有すること。

サブ・ファンドが投資目的を達成し、または相当額の損失を回避するとの保証はない。サブ・ファンドは、実質的にすべての資産をマスター・ファンドに投資する。その結果、受益者は、マスター・ファンドへの投資に伴うリスクに間接的にさらされる。

フランクリン・アドバイザーズ

マスター・ファンドの投資運用会社は、フランクリン・アドバイザーズ・インクである。フランクリン・アドバイザーズは、マスター・ファンドの純資産の投資および再投資に関して日々の運用を行う。

フランクリン・アドバイザーズおよびその関連会社は、多くの国の様々な公的投資ミューチュアル・ファンドおよび民間クライアントのアドバイザーを務める。フランクリン・テンプルトン・インベストメンツは、70年超にわたり世界中で投資を行っており、世界中のクライアント・ベースに投資運用および顧問サービスを提供する。

フランクリン・アドバイザーズは、フランクリン・リソーシズ・インクの間接完全保有子会社である。フランクリン・リソーシズ・インクは、子会社を通じて、金融サービス業界の様々な側面に従事している。フランクリン・テンプルトン・インベストメンツが現在運用している資産の価値の詳細は、<http://www.franklintempleton.lu>で入手することができる。

キャッシュ・ポリシー

管理会社は、サブ・ファンドの全体的な現金運用に責任を負う。

通常の状態において、サブ・ファンドがキャッシュ・フローの必要性を満たすために、現金配分は、サブ・ファンドの支払債務を満たすのに足りる最低水準で行われ、いかなる状況においても、純資産価額の10パーセントを超えない。現金配分は、保管会社の銀行預金口座にある現金を含むが、これに限られない。

為替ヘッジ取引

管理会社は、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券の参照通貨およびサブ・ファンドの基準通貨間の外国為替エクスポージャーを体系的にヘッジする予定である。

特に、管理会社は、残余満期が1か月を超えないことが期待される先渡取引の形式で外国為替ヘッジ取引を締結することにより当該エクスポージャーをヘッジする予定である。基準通貨および適用ある参照通貨間のヘッジ比率は、関連するクラス受益証券の純資産価額の約90パーセントから約110パーセントの範囲内に維持されることが期待され、日次ベースで調整されることは期待されていない。基準通貨に対する参照通貨の不利な変動の可能性の残余リスクは、関連するクラス受益証券の保有者が負担する。

（２）【投資対象】

前記「（１）投資方針」の項を参照のこと。

純資産総額の10%を超えて投資する投資対象ファンドは、以下のとおりである(2019年10月31日現在)。

投資対象ファンドの名称	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ・テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド
運用の基本方針	インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を総合したトータル・リターンを最大化すること。
投資対象	主に世界各国の政府または政府機関が発行する固定または変動利付債券（非投資適格債券を含む。）および債務のポートフォリオ
投資運用会社	フランクリン・アドバイザーズ・インク

（３）【運用体制】

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、トラストの管理会社である。

管理会社は、管理会社が受託会社に対して当該委託が生ずる前または当該委託が生じた後合理的な期間内に当該委託について書面により通知することを条件に、受託会社の事前の承認を得ることなく、管理会社が決定する１以上の個人、団体または法人に対して、その権利、特典、権能、義務および裁量の全部または一部ならびに信託証書に基づくそのいずれかの職務の履行を（関連するサブ・ファンドの費用で）委託する権能および権限を有する。ただし、以下に掲げる事項をその条件とする。

- （ａ）管理会社は、各委託先が信託証書の規定（適用ある範囲において）を遵守することを確保するために、あらゆる合理的な努力をする。
- （ｂ）適用ある法律によって要求される限りにおいて、管理会社は、当該委託先の作為または不作為についてかかる作為または不作為が管理会社自身のものであるかのように責任を負うが、その他当該委託先またはその再委託先の行為を監督することを義務付けられず、かつ、かかる損失が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行の結果として発生した場合を除き、委託先または再委託先の作為または不作為を理由としてトラスト（いずれかのサブ・ファンドを含む。）が被った損失について一切責任を負わない。
- （ｃ）当該者との書面による合意は、個別的に受託会社に対してではなく、関連するサブ・ファンドの信託財産のみに対して当該合意に基づく求償を制限する条項を含む。

管理会社は、いかなる場合または理由においても、信託財産またはそのいずれか一部が被ったまたはその収益について生じた損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。

管理会社は、トラストに関する潜在的債権者との取引においても、当該債権者に対して支払義務を負うもしくは将来その可能性がある債務、義務または負債を満足させるために、当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産に対してのみ求償権を有することを確保する。

管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負担しまたは当事者となった訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産より補償される。上記にかかわらず、

- （ａ）管理会社は、あるサブ・ファンドの信託財産から、他のサブ・ファンドに関して被った債務に対して補償を受ける権利を有さない。
- （ｂ）管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現

実の詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。

管理会社は、受託会社に対して90日前（または受託会社が合意するより短い期間）の書面による通知を行うことにより退任することができる。管理会社が退任の意思を示した通知を行ってから60日以内に承継管理者が任命されていない場合、すべてのサブ・ファンドが終了する。

管理会社は、受託会社が信託証書に基づくその義務の重大な違反を行い、かつ（当該違反が治癒可能である場合に）当該違反の治癒を要求する管理会社による通知の受領から30日以内にこれを是正しない場合、受託会社に対して書面による通知を行うことにより、いつでも信託証書に基づくその任務から退く権利を有する。

管理会社が退任するかまたは解任された場合であって、かつかかる退任または解任の後受託会社が決定する期間内にあらゆる点において管理会社に代わる者として相応しい者であると受託会社が決定する後任の管理会社を受託会社が特定することができない場合、受託会社は、直ちに全受益者による集会を招集する。当該受益者集会において、受益者は、受益者決議をもって管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名することができ、受益者は、受託会社に対して、その旨を書面により通知するものとする。当該通知後直ちに、受託会社は、追補信託証書および／または適切な場合、投資運用契約の条項により、望ましい後任の管理会社を管理会社として選任する。受益者が管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名しなかった場合、受託会社は、トラストを終了させることができる。

受託会社は、投資運用契約に定める条件でトラストおよび各サブ・ファンドの投資運用者として行為するよう管理会社を任命している。投資運用契約の条件に基づき、管理会社は、各サブ・ファンドの資産の投資および再投資ならびに投資運用サービスの履行につき責任を負う。

投資運用契約に基づき、管理会社は、いかなる場合または理由においても、受託会社、信託財産またはいずれかのサブ・ファンドが負担しまたは被った損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。管理会社は、間接的、特別または派生的な損失につき責任を負わない。管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負い、負担しまたは被る可能性のある訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産から補償を受ける権利を有する。ただし、管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。投資運用契約は、管理会社が受託会社に対して90日以上前に書面による通知を行うことにより（その逆の場合も同様とする。）、または投資運用契約に定めるその他の状況において終了する。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、香港で設立された会社であり、シティグループ・インクの間接完全子会社であるシティグループ・グローバル・マーケティング・ホンコン・ホールディングス・リミテッドの完全子会社である。SF0第116条に従って、管理会社は、SF0の別紙5に定義されるタイプ4および9の規制対象活動に関して認可を受けている。かかる規制対象活動は、証券および資産運用に関する助言を含む。

管理会社の取締役は以下のとおりである。

シリル・トルブレウィッチ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの取締役兼アジア・パシフィック・マルチ・アセット・グループの長である。マルチ・アセット・グループは、資産家、個人、企業および機関顧客に対する投資商品および投資ソリューションの販売の考案、組成および手配を行う地域的投資ソリューションの基盤となる組織である。トルブレウィッチ氏は、グループ長の職務に就くまで、アジアの機関顧客および販売パートナーに対する新商品戦略の指揮をとり、受賞歴のある幅広いソリューション開発を監督していた。トルブレウィッチ氏は、2003年にロンドンのシティグ

ループ・グローバル・マーケット・リミテッドにマルチ・アセット・デリバティブ・ストラクチャラーとして入社し、2007年にアジアに異動した。

ソン・リ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの長であり、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの地域の投資ファンド事業の運営および開発に責任を負う。シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックは、アジア・パシフィックの機関投資家、富裕投資家および一般投資家のために投資ファンドおよびファンド・ソリューションを作り出す。リ氏は、ウォール・ストリートおよびアジアにおいて25年以上の投資経験を有する。シティグループに入社する前は、ニューヨークおよびその後香港のアライアンス・バーンスタイン・アセット・マネジメントにおいて、少数の主力商品で1,600億米ドルにのぼる運用資産額を監督するブレンド・ソリューション・チームでシニア・ポートフォリオ・マネジャーを務めた。アライアンス・バーンスタインに勤務する前は、ニューヨークのドイチェ・アセット・マネジメントおよびシティグループ・アセット・マネジメントでポートフォリオ管理およびリサーチに関する様々な職務に携わっていた。

(4) 【分配方針】

サブ・ファンドが分配可能な相当利益を有することは想定されていない。サブ・ファンドの計算において受領された利益は、管理会社が別段の決定をしない限り、分配される予定はない。

(5) 【投資制限】

投資制限

管理会社は、サブ・ファンドの計算において、サブ・ファンドの総資産の50パーセント超を金融商品取引法に定義される「有価証券」（社債、国債、コマーシャル・ペーパー、証券投資信託の受益証券およびミューチュアル・ファンドの投資証券など）（有価証券とみなされる金融商品取引法第2条第2項各号に掲げる権利を除く。）およびかかる有価証券に関連するデリバティブに対して投資する。

管理会社は、サブ・ファンドのために以下に掲げることを行わない。

- (a) 取得の結果として管理会社が運用するすべての集団投資信託が保有する投資会社ではないいずれかの会社の議決権付株式の総数が当該会社の全発行済議決権付株式の50パーセントを超える場合において、当該会社の株式を取得すること
- (b) サブ・ファンドによって保有される上場されていないか、または容易に換金することができない投資対象の価額の合計が、当該投資対象の取得の結果、当該取得の直後に直近の純資産価額の15パーセントを超えることとなる場合において、上場されていないか、または容易に換金することができない投資対象を取得すること（ただし、かかる制限は、当該投資の評価方法が英文目論見書またはその補遺において明確に開示されている場合および当該投資対象の価格の透明性を確保する適切な方法が取られている場合は、投資対象の取得を妨げないものとする。）
- (c) 自己取引を行い、または本人としての管理会社の取締役と取引を行うこと
- (d) 管理会社、または受益者以外の第三者の利益を図る目的での取引を含む（ただし、これらに限られない。）受益者の利益を害し、またはサブ・ファンドの資産の適切な運用に反する取引を行うこと
- (e) 空売りの結果、サブ・ファンドの計算において空売りされる有価証券の市場価額の総額が当該空売りの直後に純資産価額を超える場合に、空売りを行うこと
- (f) 後記「借入れ」の項に記載の借入制限に従わずに、借入れを行うこと
- (g) 信用リスク（サブ・ファンドの計算において保有される有価証券または他の資産について取引の相手方の債務不履行の結果により、もしくはこれに関係して、またはその他の理由により発生し得るリスクをいう。）を適切かつ適正に管理および統制する方法としてあらかじめ管理会社によって定められた合理的な方法に反し、またはこれに違反する取引を行うこと。

前記投資制限（g）の目的において、サブ・ファンドは、マスター・ファンドのフィーダー・ファンドを務めるため、実質的に受益証券の販売による手取金のすべてがマスター・ファンドに投資され、ならびにマス

ター・ファンドは、UCITSに係る欧州連合の適用ある指令および規則に準拠した信用リスク管理手続を適用している。UCITSに対して適用ある欧州連合の指令および規則において規定されるリスク管理手法に従い、マスター・ファンドの信用リスクが管理されており、かつ、管理される予定であり、かかるリスク管理手法は、管理会社によって、適切かつ適正な方法とみなされる。

借入れ

管理会社および／またはその委託先は、サブ・ファンドの計算において金銭を借り入れることができるが、借入残高の総額が純資産価額の10パーセントを超える結果とはならないことを条件とする。ただし、サブ・ファンドが他のサブ・ファンド、投資ファンドまたは他の種類の集団投資スキームとの併合を含む（ただし、これに限られない。）特別な状況において、12か月を超えない期間で一時的に制限を超える場合はこの限りではない。

コミットメント・アプローチ（簡便法）による受益証券の各クラスの総エクスポージャーは、実物資産の市場価額にデリバティブの性質に係る原資産の市場価額を加えたものを受益証券の関連するクラスに帰属する純資産価額で除し、ネットティングの取決めおよびヘッジの取決めにより調整したものをを用いて計算される。受益証券の各クラスのレバレッジは、受益証券のそれぞれのクラスの総エクスポージャーから100パーセントを差し引いたものに相当する。総エクスポージャーが100パーセントであるということは、レバレッジがないことを意味する（0パーセントのレバレッジ）。

通常の市況のもとでは、米ドル建て受益証券の予想最大レバレッジは、10パーセント、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券とユーロ建て（ヘッジあり）受益証券の予想最大レバレッジは、それぞれ20パーセントである。

3【投資リスク】

（１）リスク要因

各投資者は、自らの投資アドバイザーおよび／独立専門家から独立した投資助言（法律上、規制上、税務上、財務上および／または会計上の助言を含む。）を得るべきである。

これらのリスク要因は、投資アドバイザーまたは投資者が利用する銀行による独立した助言に代わるものではなく、各投資者は、これらの助言をいかなる場合においても受益証券の買付けの決定前に得るべきである。本書に含まれる情報は、投資者の要件、投資目的、経験、知識および状況に合わせてなされる独立した助言に代わるべきものとはなり得ないため、投資決定は、これらのリスク要因のみに依拠して行われるべきではない。

投資者は、受益証券の価値が上昇することもあれば下落する可能性があることを認識すべきである。サブ・ファンドへの投資には重大なリスクが伴い、多くの予測不可能な要因に影響を受ける。サブ・ファンドのリスク特性の急激な変化は、受益証券の価値に重大な悪影響を及ぼしうる。受益証券に流通市場が存在する可能性は低い。投資者は、サブ・ファンドにおけるその投資の相当部分または全部を損失する場合もある。したがって、各投資者は、サブ・ファンドへの投資のリスクに耐えることができるか否かを慎重に考慮すべきである。以下に掲げるリスク要因の記載は、サブ・ファンドへの投資に伴うリスクの完全な説明を意図するものではない。

以下は、サブ・ファンドのもつリスクについて、簡潔に記載したものである。ただし、投資予定者は、本書に記載されたすべてのリスクを検討すべきであり、以下の簡潔なリスクにのみ依拠すべきではない。

リスク要因

サブ・ファンドの受益証券１口当たり純資産価格は、サブ・ファンドに組み入れられている有価証券等の値動きおよび為替相場の変動等により上下する。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、受益証券１口当たり純資産価格の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがある。これらの運用または為替相場の変動等による損益はすべて投資者の皆様はに帰属する。投資信託は預貯金と異なる。

以下は、網羅的なものではなく、サブ・ファンドの主な投資リスクの要点だけを述べたものである。

金利変動リスク

債券の価格は、通常、金利が上昇すれば下落し、金利が低下すれば上昇するといった特性を持っており、金利変動の影響を受ける。

信用リスク

発行国や発行体の債務返済能力、事業状況・財政状況・経済状況、格付け、市場環境の変化等により、債券価格は大きく変動することがある。デフォルト（債務不履行）が生じた場合またはデフォルトが予想された場合、債券価格は大きく下落することがある。そのような場合、当該債券は適時に売買できないこともある。また、取引相手方に債務不履行が生じた場合、サブ・ファンドまたはマスター・ファンドが損失を被るリスクがある。

カントリーリスク

世界各国の金融・証券市場への投資は、それらの国・地域の政治、経済および社会情勢の変化等によって市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな制限や規制が設けられた等の場合には、運用上の制約を受ける可能性がある。このような場合、サブ・ファンドの受益証券１口当たり純資産価格はその影響を受けることがある。また、新興国の金融・証券市場への投資には、政治・経済構造が先進国と比べ不安定であるため、投資環境の急変により市場が混乱した場合や取引に対して新たな制限や規制が設けられた場合、運用上の制約を大きく受ける可能性が想定される。

為替変動リスク

米ドル建て受益証券、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券、ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券の参照（申込）通貨は、それぞれ米ドル、豪ドル、ユーロであるため、投資者が投資した資産を申込通貨以外の通貨で評価する場合、外国為替相場の変動の影響を受ける。よって、ある投資者による受益証券の保有の価値は、関連

する申込通貨建ての受益証券1口当たり純資産価格が上昇した場合であっても、当該投資者が投資した資産を評価する通貨へ換算した場合、下落することがある。

為替ヘッジ取引リスク

豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券に関しては、為替ヘッジ取引（為替先渡しを含むが、これに限られない。）は、かかるクラスの受益証券を保有する者の計算で、原則として、米ドルを売却し、かかる受益証券クラスの参照通貨を購入することにより行われる。為替ヘッジ取引により、米ドルに対する豪ドル安またはユーロ安（場合に応じて）となったとしても、これに相当する豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券またはユーロ建て（ヘッジあり）受益証券の受益証券1口当たり純資産価格が増額することにはならない。基準通貨と適用される参照通貨のヘッジ比率は、各受益証券クラスの純資産価額の約90パーセントから約110パーセントの範囲内にとどめられることが予想される。ヘッジ比率は、各受益証券クラスの純資産価額の約90パーセントから約110パーセントの範囲を外れない限り、毎日調整が行われることは予想されていない。かかるクラスの受益証券を保有する者は、参照通貨が基準通貨に対して不利な方向に変動する可能性のある残余リスクを負う。

サブ・ファンドに関連するリスク

投資目的および取引リスク

サブ・ファンドの投資目的が、いずれかの期間（とりわけ短期）において、達成されるとの保証はない。

投資者は、受益証券の価値が上昇することもあれば下落する可能性があることを認識すべきである。

一以上の市場価格、金利、指数、ボラティリティ、相関性または流動性等の他の市場の要素の水準の変化の結果、サブ・ファンドに関して損失が発生するというリスクがある。

流通市場の不在

受益証券に関して流通市場が形成されることは予定されない。したがって、受益者は、後記「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、2 買戻し手続等、（1）海外における買戻し」の項に定める手続および制限に基づく買戻方法によってのみその受益証券を処分することができる場合もありうる。関連する買戻通知の日付から関連する買戻日までの期間中にその受益証券の買戻しを請求する受益者によって保有される受益証券に帰属する純資産価額の減少に関するリスクは、買戻しを請求する受益者が被る。さらに、受益者が自らの受益証券を買い戻され得ない場合もありうる。

実績

サブ・ファンドまたは管理会社が運用する他の投資ファンドの過去の実績は、必ずしもサブ・ファンドの将来の結果を予示するものではない。

クラス間債務

あるクラスの受益証券保有者は、他のクラスの資産に関していかなる権利も有しない。ただし、特定のクラス受益証券の債務が当該クラスに帰属する資産を超過した場合、サブ・ファンドの債権者は、他のクラス受益証券に帰属する資産に遡求することができる。

買戻しが与える影響

受益者による受益証券の大量の買戻請求が行われる場合、買戻しに必要な現金を調達するために、望ましい時機よりも早期に不利な価格で管理会社にサブ・ファンドの投資対象の清算を余儀なくさせる可能性がある。

決済の不履行

受益証券は、取得日を参照することにより申込みが行われ、発行される。ただし、受益証券の申込者は、当該申込日から3日目の営業日に申込みを決済することのみ要求される。投資者が、申込金額を支払日に決済することができなかった場合（以下「不履行投資者」という。）、管理会社は、決済不履行の対象である当該不履行投資者の受益証券を取り消すことがある。当該不履行投資者があるクラス受益証券の申込みを行った取得日と不履行投資者の受益証券が取り消された日との間に当該同一クラス受益証券の申込みを行う投資者および既存の受益者は、その受益証券について、不履行投資者の受益証券に対する申込みが受け付けられていなかった場合に支払ったであろう金額と比較してより高い1口当たりの申込金額を支払うことになる可能性がある。または、その受益証券について、1口当たりの申込金額の支払いが少なくなることによる恩恵を受ける可能性もある。この場合、既存の受益者は、その保有する受益証券の価値が希薄化する。同様に、当該期間中に買戻しのために同一クラスの受益証券を呈示する受益者は、受領する1口当たりの買戻価格が低くなる可能性がある。または、当該決済の不履行が発生していなかった場合に受領したであろう金額と比較して、より高い1口当たりの買戻価格を受領する可能性もある。後者の場合、残存するすべての受益者の保有する同一クラスの受益証券の価値が希薄化する。決済の不履行が発生した場合、発行済受益証券数、買戻受益証券数、受益者が支払う1口当たりの申込金額または受領する買戻金額は調整されないため、決済の不履行は受益者に対して悪影響を及ぼす可能性がある。管理会社は、期日が到来したときに決済を行う不履行投資者による不履行の結果直接または間接的に生じた損失に対する賠償を得るため、不履行投資者に対して訴えを提起することもできる。

停止リスク

管理会社は、信託証書の条件に基づき、特定の状況において、受益証券の申込みおよび買戻しを停止することに加え、純資産価額の算定を停止することができる。投資者は、停止が実行された場合、受益証券の申込みまたは買戻しを行うことはできない。投資者は、純資産価額の算定が停止されている場合、自らの投資対象の市場価格を取得することはできない。この点に関するさらなる情報については、「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（1）資産の評価、（ロ）純資産価額の算定の一時停止」の項を参照されたい。

無保証

サブ・ファンドは、保証されておらず、元本保護されていない。そのため、受益者が当初投資の総額を取り戻すことができる保証はない。受益者は、投資総額を上限とする損失を被る準備をしておくべきである。

早期終了リスク

サブ・ファンドは、特定の状況において、後記「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（5）その他、（イ）トラストまたはサブ・ファンドの終了」の項に記載されるとおり、予定の終了日の前に終了する可能性がある。

投資戦略に関連するリスク

マスター・フィーダー・ファンド構造

サブ・ファンドは、受益証券の発行による手取金およびその他サブ・ファンドの資産の実質的にすべてを、「マスター・フィーダー」ファンド構造により、マスター・ファンドに投資する。「マスター・フィーダー」ファンド構造は、特に、同一のポートフォリオに投資する複数の投資ビークルが存在する場合、投資者に対して一定の特有のリスクを生じさせる。マスター・ファンドに投資する小型の投資ビークルは、マスター・ファンドに投資する大型の投資ビークルの投資活動により重大な影響を受けることがある。例えば、大型の投資ビークルがマスター・ファンドから撤退した場合、残った投資ビークルは、より高い営業費用を按分して負担することがあり、それによりリターンが減少する。マスター・ファンドの投資者が短期間に元本の多額の換金を行う場合、マスター・ファンドに経済的に最も有利ではない時期および方法で有価証券のポジションを一度

に清算する必要がある可能性があり、これによりマスター・ファンドの資産の価格、ひいては純資産価額に悪影響を与える可能性がある。

サブ・ファンドおよびマスター・ファンドの投資目的の達成

サブ・ファンドおよびマスター・ファンドの投資目的が達成される保証または表明は行われたい。マスター・ファンドおよびサブ・ファンドが投資目的を達成する確約はない。

投資の集中

サブ・ファンドは、受益証券の売却代金の実質的にすべてをマスター・ファンドに投資するため、マスター・ファンドが被る損失は、サブ・ファンドの財務ポジション全体に重大な悪影響を及ぼす。

マスター・ファンドへの依拠

サブ・ファンドの投資目的の達成は、マスター・ファンドの継続的な利用可能性に依拠する。マスター・ファンドは、終了または解散する場合があります、サブ・ファンドがマスター・ファンドにより発行された受益証券に投資することができなくなるその他の理由がある場合がある。いずれの場合においても、受託会社および管理会社は、サブ・ファンドを終了することを決定することができる。

費用水準

マスター・ファンドが支払う報酬は、追加の報酬およびサブ・ファンドによる直接投資に関連するものよりも高い費用になる。サブ・ファンドの費用は、ファンド・オブ・ファンズ・アプローチを用いないその他の投資主体に関連する費用よりも高い割合のサブ・ファンドの純資産を構成することがある。

投資ポートフォリオの流動性

流動性は、サブ・ファンドの計算において適時に投資対象を売却する管理会社の能力に関連する。相対的に流動性が低い有価証券の市場は、より流動性が高い有価証券の市場よりも価格変動性が高い傾向にある。相対的に流動性が低い有価証券へのサブ・ファンドの資産の投資は、管理会社がサブ・ファンドの投資対象を希望する価格で希望する時期に処分する能力を制限する可能性がある。ポートフォリオは、相対的に少ない投資対象に集中することがあり、これはサブ・ファンドの流動性に影響を及ぼしうる。さらに、当該投資対象の再売却は、契約上の条項により制限を受けることがあり、これ自体、当該投資対象の価格に影響を及ぼしうる。取引所が特定の商品または契約の取引を停止し、特定の商品または契約の即座の清算および決済を要求し、または特定の商品または契約の取引が清算のためにのみ行われることを要求する可能性がある。非流動性のリスクは、店頭取引の場合にも発生する。当該商品または契約には規制市場がない場合があり、買呼値および売呼値は、これらの商品または契約のディーラーによってのみ設定される可能性がある。市場性が高くない有価証券への投資は流動性リスクを伴う。さらに、当該有価証券は、評価が困難であり、その発行体は、投資者の保護に関する規制市場の規則に常に従うわけではない。

流動性リスク管理

管理会社は、サブ・ファンドの流動性リスクを効果的に管理するための方策を整備する。（適用性／適切性に応じて）管理会社または管理会社のリスク管理機能は、日次方式により、流動性リスク管理方針の実施を監視する。また、管理会社は、管理会社が買戻しを整然と処理することができ、またすべての投資者が公平に取り扱われることを可能ならしめることができるような流動性リスク管理の手法（後記「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（1）資産の評価、（ロ）純資産価額の算定の一時停止」および「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、2 買戻し手続等、（1）海外における買戻し、買戻しの繰延べ」に記載するもの等）を構築している。

継続的に、管理会社は、内部の流動性指標に対するサブ・ファンドの流動性のポジションを評価している。管理会社は、流動性評価に至る一定の範囲の定量的基準および定量的要素を斟酌する。管理会社がポジションを換金するために必要となる期間および費用を算定することができるように、管理会社は、換金のための平均日数または合計日数に基づき、投資対象に内在する流動性を分析することができる。潜在的に有価証券の日次の数量を超過することおよびこれによる有価証券の価格への影響を避けるため、取引前の分析を実施することができる。管理会社はまた、継続的にサブ・ファンドの流動性ストレス・テストも履行する。流動性リスク管理方針および流動性リスク管理手続は、定期的かつ必要に応じて見直される。

サブ・ファンドが指標を満たすことができない場合、リスク管理機能は、追加の分析を履行することが必要であるか否か、およびサブ・ファンドの流動性リスクを管理するため追加の措置を講じるべきか否かを斟酌する。管理会社は、評価に係る記録を保存する。

取引相手方リスク

サブ・ファンドおよびマスター・ファンドは、契約の条件に関する紛争（正当な主張であるとは限らない。）を理由としてまたは信用もしくは流動性の問題から取引相手方が取引の条件に従って取引を決済しないリスクにさらされ、その結果、サブ・ファンドまたはマスター・ファンドが損失を被ることになる場合がある。当該「取引相手方リスク」は、決済を妨げる事象が生じた場合、または取引が単一もしくは少数グループの取引相手との間で行われた場合に、満期がより長い契約について増大する。受託会社、管理会社またはフランクリン・アドバイザーズのいずれも、取引を特定の取引相手に限ることまたは取引の一部もしくは全部を特定の取引相手に集中させることを制限されていない。さらに、管理会社は、取引相手方の信用度を評価する内部信用評価機能がない。受託会社および／または管理会社が一または複数の取引相手方と取引を行う能力および当該取引相手方の財政的能力について有意義な独立した評価が欠如していることで、サブ・ファンドが損失を被る可能性が増大する場合がある。

サブ・ファンドおよびマスター・ファンドは、非上場デリバティブに関して取引を行う取引相手方の信用リスクにさらされる場合があるが、これは、取引所決済機関の履行保証等組織化された取引所におけるデリバティブの取引参加者に適用されるのと同様の保護が、それらの非上場デリバティブの取引には与えられないことによる。非上場デリバティブの取引相手方は、公認取引所ではなく、取引に従事する特定の会社または企業であるため、取引相手方の支払不能、非流動性、破産または債務不履行および取引相手方との契約の条件に関する紛争は、マスター・ファンドおよび／またはサブ・ファンドに多額の損失をもたらす可能性がある。受託会社および管理会社は、サブ・ファンドおよびマスター・ファンドに関して、特定のデリバティブ取引に関する契約に基づく債務不履行に関して契約上の救済を得られることがある。ただし、当該救済は、提供される担保またはその他の資産が十分でない場合、うまく機能しない可能性がある。そのため、マスター・ファンドおよび／またはサブ・ファンドは、マスター・ファンドおよび／またはサブ・ファンドの取引が規制取引所に限定された場合よりも不履行による大きな損失リスクにさらされる。取引相手方が債務不履行に陥らないとの保証はなく、サブ・ファンドが結果として取引による損失を被らないとの保証もない。

外国為替市場リスク

外国為替相場の変動は、受益証券の価格に影響を及ぼしうる。外国為替取引が行われる市場の変動性は極めて高く、高度な専門的技術を要する。流動性および価格の変化を含む、重大な変化は、非常に短期間、しばしば数分の間に当該市場で起こることがある。外国為替取引リスクは、為替リスク、金利リスクおよび為替市場、外国資本による投資または特定の外貨取引に対する規制を通じた外国政府の介入の可能性などがある。

サブ・ファンドおよび米ドル建て受益証券は、米ドル建てである。豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券は、それぞれ豪ドルおよびユーロ建てである。これにより、投資者の財務活動が主に関連する参照通貨以外の通貨または通貨単位（日本円を含む。）（以下「投資者通貨」という。）建てで行われ、またはこれらによって測定されている場合、外国為替に関して、一定のリスクを伴うことになる。これには、為替相場が著しく変動するリスク（関連する参照通貨の切下げまたは投資者通貨の切上げによる変動を含む。）および関連する参照通貨または投資者通貨（いずれか場合による。）の管轄当局が為替管理を行い、またはこれを変更するリスクが含まれる。投資者通貨の価値が関連する参照通貨に対して上昇した場合、（i）純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格の投資者通貨での換算価値および（ii）支払われるべき分配金（もしあれば）の投資者通貨での換算価値は、減少することになる。このような為替リスクは、経済的事象および政治的事象ならびに関連する通貨の需給といった管理会社が制御することができない要因に左右される。

サブ・ファンドの基準通貨が米ドル建てである結果、支払われる申込金額または買戻代金は、当該申込みまたは買戻しに対応するサブ・ファンドの関連する投資対象への投資または投資対象の清算の手続における為替

換算費用を負う。当該換算は、為替変動および市場で値付けされる買呼値／売呼値のスプレッドにさらされる。

FTIFは、マスター・ファンドのポートフォリオ保有を米ドルで評価するため、米ドルに不利な為替変動は、保有の価値およびこれに対するマスター・ファンドの利回りに影響を及ぼしうる。

マスター・ファンドが保有する有価証券は、基準通貨とは異なる通貨建てである場合があるため、マスター・ファンドは為替管理規制または当該参照通貨とその他の通貨間の為替の変動により有利にも不利にも影響を受ける。為替の変動はマスター・ファンド投資証券の価値に影響を及ぼすことがあり、マスター・ファンドが得る配当および利息の価値ならびにマスター・ファンドが実現する収益および損失にも影響を及ぼすことがある。有価証券の表示通貨が基準通貨に対して上昇した場合、有価証券の価格は上昇しうる。逆に、通貨の為替の下落は、有価証券の価格に悪影響を及ぼす。

マスター・ファンドが為替取引リスクに対してヘッジまたは保護を行うために戦略または商品の利用を試みる場合において、ヘッジまたは保護が成功する保証はない。マスター・ファンドが何らかの取引に関連して為替取引リスクに対するヘッジまたは保護を行う必要はない。

マスター・ファンドがクロス通貨先渡し取引および通貨先物契約の利用を含む、為替管理戦略を利用する場合、当該戦略は、マスター・ファンドの為替に対するエクスポージャーを大幅に変化させ、フランクリン・アドバイザーズの期待通りに通貨が成果を出さない場合、マスター・ファンドに損失が生じうる。

投資者は、中国人民元（以下「人民元」という。）が通貨バスケットを参照して市場の需給に基づき管理された変動為替相場制に従うという事実を認識すべきである。現在、人民元は、中国本土の市場および中国本土外の市場（主に香港）の2つの市場で取引されている。中国本土で取引される人民元は、自由に転換できず、中国本土の政府による為替管理および特定の要件に従う。他方で、中国本土外で取引される人民元は、自由に取引可能である。人民元は中国本土外で自由に取引されるが、人民元スポット取引、先渡し外国為替契約および関連する商品は、この発展中の市場の構造上の複雑さを反映する。したがって、人民元建ての株式クラスは、より大きな外国為替リスクにさらされうる。

為替ヘッジ取引リスク

豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券に関しては、為替ヘッジ取引（為替先渡し取引を含むが、これに限られない。）は、かかるクラスの受益証券を保有する者の計算で、原則として、米ドルを売却し、かかる受益証券クラスの参照通貨を購入することにより行われる。為替ヘッジ取引により、米ドルに対する豪ドル安またはユーロ安（場合に依りて）となったとしても、これに相当する豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券またはユーロ建て（ヘッジあり）受益証券の受益証券1口当たり純資産価格が増額することにはならない。基準通貨と適用される参照通貨のヘッジ比率は、各受益証券クラスの純資産価額の約90パーセントから約110パーセントの範囲内にとどめられることが予想される。ヘッジ比率は、各受益証券クラスの純資産価額の約90パーセントから約110パーセントの範囲を外れない限り、毎日調整が行われることは予想されていない。かかるクラスの受益証券を保有する者は、参照通貨が基準通貨に対して不利な方向に変動する可能性のある残余リスクを負う。

為替ヘッジ取引がその目的を達成するとの保証はない。為替ヘッジ取引を行うために、管理会社は、店頭先渡外国為替契約を締結することがある。店頭先渡外国為替契約は、一般的に、契約開始時に決定される将来の指定日および指定価格にて、ある特定の通貨を別の通貨で売買する契約である。

管理会社が店頭先渡外国為替契約を締結する場合、管理会社は、かかる契約の取引相手方に依拠して、契約の満期時に対象通貨を引渡すかまたはその引渡しを受ける。店頭先渡外国為替契約の日々の値動きには制限がなく、かかる契約のディーラーも、継続的にかかる契約のマーケット・メイクを行うことを義務付けられていない。過去には、店頭先渡外国為替契約のディーラーがかかる契約の値付けを拒否し、または買呼値と売呼値の間が非常に広いスプレッドをもって値付けを行っていた期間があった。店頭先渡外国為替契約のディーラーは、いつでもかかる契約の値付けを拒否する可能性がある。サブ・ファンドの計算において店頭先渡外国為替契約の取引を行う管理会社は、サブ・ファンドを取引相手方の信用リスクおよび市場ディーラーがかかる契約

の値付けを行えないかまたは拒否するリスクにさらす。取引相手方またはディーラーによるこれを行わない不履行により、見込まれていた取引の利益を失うことになる可能性がある。

デリバティブの利用

管理会社は、為替ヘッジのためにデリバティブ商品を利用することがある。デリバティブには、その価値が一または複数の原証券、金融ベンチマーク、通貨または指数と連動する商品および契約が含まれる。デリバティブにより、投資者は、原資産への投資に係るわずかな費用で、特定の有価証券、金融ベンチマーク、通貨または指数の値動きをヘッジし、またはこれらに投機することができる。デリバティブの価値は、原資産の値動きに依拠するところが多い。したがって、原資産の取引に適用されるリスクの多くがデリバティブ取引にも適用される。ただし、その他にもデリバティブ取引に付随するリスクは数多くある。例えば、デリバティブ商品は、ある時点における純資産価額よりも大きなマーケット・エクスポージャーを提供することがあり、不利な市場動向が比較的小規模であっても、サブ・ファンドに多大な損失をもたらすおそれがある。

デリバティブ商品に基づくサブ・ファンドの義務を保証するために差し入れられた有価証券の価値が下落した場合、サブ・ファンドに追加証拠金請求が発生する可能性があり、追加資金を証券プロバイダーに預託しなければならないか、またはかかる担保として差し入れた有価証券が価値の下落分を補填するために強制的に清算されることがある。サブ・ファンドの資産の価値が急落した場合、管理会社は、かかる証拠金債務を完済するのに十分な資産を迅速に清算できないことがある。

サブ・ファンドの計算において売買されるデリバティブ商品は、通常、取引所では取引されない。店頭商品に係る債務者の不履行リスクは、取引所で取引される商品の場合に比べて大きくなる可能性があり、また管理会社がかかる商品を処分するまたはかかる商品に関する反対売買を行うことが、取引所で取引される商品の場合に比べて容易でない場合がある。さらに、取引所で取引されていないデリバティブ商品の「買呼値」と「売呼値」の間には、大幅な差が生じる場合がある。また、取引所で取引されていないデリバティブ商品は、取引所で取引される商品と同種の政府規制に服するものではなく、かかる商品に関連して規制市場の参加者に提供される保護の多くが受けられない場合がある。

決済リスク

有価証券の決済ならびに他の資産の取引および保管に関連する市場慣行は、リスクを増大させることがある。取引を執行するために利用可能な清算、決済および登録のシステムは、取引の決済および譲渡の登録に関連して、遅延および他の重大な困難という結果となることがある。顧客または取引の相手方がその契約上の約束を履行しないという可能性もある。決済についての問題は、純資産価額およびサブ・ファンドの流動性に影響を与えることがある。

将来的な規制上の変更は予測不可能であること

証券市場およびデリバティブ市場には、広範囲にわたる法律、規制および証拠金要件が適用される。さらに、米国証券取引委員会および取引所は、市場に緊急事態が生じた場合に臨時措置（例えば、投機的ポジション制限またはより高額な証拠金要件の遡及的实施、日々の価格制限の設定および取引の停止を含む。）を講じる権限を付与されている。米国内外における有価証券およびデリバティブに関する規制は、変化の激しい法律分野であり、政府および司法機関の措置により変更される場合がある。将来的な規制上の変更がサブ・ファンドおよびマスター・ファンドに及ぼす影響は、予測不可能であるが、重大かつ不利なものとなるおそれがある。

法的リスクおよび法令遵守リスク

国内および／または外国の法律または規制は、サブ・ファンドおよび／またはマスター・ファンドに悪影響を及ぼす形で変更される場合がある。各国間または各法域間の法律の差異により、受託会社または管理会社は、サブ・ファンドに関して締結された法的契約を執行することが困難となる可能性がある。受託会社および管理会社は、法律またはその解釈の変更による悪影響を制限または防止するための措置（サブ・ファンドの投資方針または投資目的を変更することを含むが、これらに限られない。）を講じる権利を留保する。

デリバティブ規制

ドッド・フランク・ウォール街改革および消費者保護法（以下「ドッド・フランク法」という。）は、その広範囲にわたるデリバティブの新しい規制制度を通じて、多くのデリバティブ取引（これまで規制されていなかった店頭デリバティブを含む。）（サブ・ファンドの計算において管理会社が行う取引の種類を含む。）に対し、強制清算、商品取引および証拠金の要件を課すものである。また、ドッド・フランク法は、「スワップ・ディーラー」および「主要スワップ参加者」などの規制対象となる市場参加者の新たな区分を創設しており、かかる市場参加者は、重要かつ新たな資本、登録、記録保持、報告、開示、事業活動およびその他の規制に関する要件に服する。かかる要件の詳細の一部は、未だ商品先物取引委員会、証券取引委員会、連邦準備制度理事会およびその他の規制当局による規則の制定および解釈を通じて明らかにされていない。とはいえ、本書の日付現在において入手可能な情報に基づけば、ドッド・フランク法に基づくデリバティブ規制が及ぼしうる影響により、サブ・ファンドの費用全般は増加するであろう。特に、新たな証拠金要件、ポジション制限および資本に対する賦課は、サブ・ファンドに直接適用されない場合であっても、サブ・ファンドの計算において行われるデリバティブ取引の費用の上昇をもたらすことがある。登録、記録保持、報告および法令遵守などの新たな要件に起因する管理事務費用も、サブ・ファンドに直接適用されない場合であっても、デリバティブ価格の値上がりに反映されることがある。新たな商品取引および取引報告の要件は、デリバティブ取引の流動性の低下を招き、特定のデリバティブの不利な値付けもしくは利用可能度の低下、または裁定機会の減少をもたらすことがあり、サブ・ファンドのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性がある。

ボルカー・ルール

ドッド・フランク・ウォール街改革・消費者保護法第619条は、一定の適用除外のもと、一定の銀行事業体（シティグループおよびその関連会社を含む。）が自己勘定取引に参加すること、特定のプライベート・ファンド（以下「対象ファンド」という。）の所有権を取得もしくは保有すること、対象ファンドのスポンサーとなることまたは対象ファンドと特定の関係を持つことを原則として禁止する、いわゆる「ボルカー・ルール」を米国銀行法に追加した。ボルカー・ルールの対象である銀行事業体は、2015年7月21日（以下「適合期限」という。）までに、既存の活動および投資をボルカー・ルールに準拠させなければならない（当該銀行事業体の適切な米国連邦監督機関の裁量により、1年間の延長が2回まで認められる。）。米国連邦準備制度理事会が発した適合期間を2015年7月21日まで延長する命令により、銀行事業体は、適合期間が終了するまでに、禁止された活動を終了させ、容認されない投資を処分する遵守計画を作成し、実施する必要がある。銀行は、「実務上可能な限り速やかに、かつ、いかなる場合においても適合期間が終了するまでに」遵守計画を設定するよう期待される。

管理会社は、サブ・ファンドが対象ファンドに分類されないようまたは対象ファンドの定義からの適用除外に適合するように設計された、一定の変更（サブ・ファンドが設立された条件を含む。）を適合期限より前にトラストに対して行った。しかしながら、ボルカー・ルールは、比較的新しい法制度であり、いまだに、規制当局がその条件をどのように解釈し、執行するかに関する情報または指針はほとんど存在しない。したがって、サブ・ファンドは当該変更の結果、対象ファンドの範囲外になり、また、対象ファンドの定義からの適用除外の対象になる保証はない。

管理会社が単独の裁量により、サブ・ファンドが対象ファンドであり、管理会社がボルカー・ルールに従いサブ・ファンドを運営し続けることが合理的に実現可能ではない、または実現可能でなくなると判断する場合、サブ・ファンドは終了されることがある。後記「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（5）その他、（イ）トラストまたはサブ・ファンドの終了」の項を参照のこと。当該終了が行われない場合であっても、サブ・ファンドが対象ファンドと判断された場合には、シティグループおよびその関連会社は、サブ・ファンドとの間の一定の取引を認められないことがある。これは、サブ・ファンドおよび管理会社が自らの投資対象を管理する能力に悪影響を及ぼす可能性がある。

利益相反

管理会社および受託会社（ならびにこれらの関連会社）は、随時、サブ・ファンドと類似の投資目的を有する他のファンドおよび顧客に関連して随時要求されるところに従い、受託者、管理事務代行者、登録機関、管理者、保管者、投資運用者または投資顧問、代理人その他として行為し、またはその他の方法でサブ・ファンドと類似の投資目的を有する他のファンドおよび顧客に関与することがある。したがって、これらのいずれの

者も、業務の過程において、サブ・ファンドと潜在的な利益相反を生じる可能性がある。これらの者は、かかる場合には常にサブ・ファンドに対する自己の義務を考慮し、かかる利益相反を公正に解決するよう努める。いかなる場合も、管理会社は、すべての投資機会が公正に配分されることを確実にする。

サブ・ファンドのための取引は、管理会社の関係者との間でまたはこれを通じて行われる予定である。かかる関係者との間でまたはこれを通じて行われる取引の量に制限はない。かかる関係者に支払われる報酬または手数料は、かかる取引の当該時点の市場レートで支払われる報酬または手数料を上回ることがある。

マスター・ファンドに関するリスク

概要

本項は、マスター・ファンドに適用されるリスクの一部について説明するものである。本項は、完全な説明を意図しているものではなく、その時々においてその他のリスクも関連することがある。特に、マスター・ファンドのパフォーマンスは、市況および／または経済状況および政治状況の変化、ならびに法律上、規制上および税務上の要件の変更による影響を受けることがある。投資プログラムが成功するとの保証または表明は行われず、マスター・ファンドの投資目的が達成されとの保証はない。また、過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスの指針となるものではなく、投資対象の価値は、上昇することもあれば、下落することもある。通貨間の為替レートの変動により、マスター・ファンドの投資対象の価値は上昇することもあれば、下落することもある。

マスター・ファンドは、その支配の及ばないリスク（例えば、法律が不明確もしくは変更された国への投資、または確立されたもしくは有効な法的救済手段がない国への投資による法的リスクおよび規制上のリスク）にさらされ、またはEU非加盟国の法域におけるマスター・ファンドの登録により、マスター・ファンドは、当該マスター・ファンドの株主に通知することなく、マスター・ファンドが投資制限を可能な限り活用できなくなる可能性のある、より制限的な規制制度の対象となる場合がある。規制当局、自主規制機関および取引所は、市場に緊急事態が生じた場合に臨時措置を講じる権限を付与されている。将来的な規制上の措置がFTIFおよび／またはマスター・ファンドに及ぼす影響は、重大かつ不利益なものとなるおそれがある。マスター・ファンドは、テロ行為を受けるリスク、経済制裁および外交制裁が一部の国で実施されるリスクもしくは一部の国に課されるリスク、および軍事活動が開始するリスクにさらされる場合がある。そうした事態の影響は不明確であるが、全般的な経済状況および市場の流動性に重大な影響を及ぼすおそれがある。投資者は、一定の状況においてはサブ・ファンドのマスター・ファンド投資証券を買い戻させる権利が停止される場合があることに留意されたい。

マスター・ファンドは、オペレーショナル・リスク、すなわち、オペレーショナル・プロセス（資産の保管、評価および取引処理に関連するものを含む。）に不具合が生じ、損失を生むリスクにさらされることがある。不具合の原因となりうるものは、人為的なミス、物理的および電子的なシステム障害、その他の業務遂行上のリスクならびに外部事象に起因する場合がある。

金利変動

マスター・ファンドは、金利リスクにさらされる。固定利付証券の価値は、一般的に、金利が下落すると価値が上昇し、金利が上昇すると価値が下落する。金利リスクは、かかる金利の動向が有価証券の価値、すなわちマスター・ファンドの場合はその純資産価額にマイナスの影響を及ぼす危険性である。満期までの期間が長い固定利付証券は、短期債よりも金利変動による影響を受けやすい傾向にある。そのため、長期債は、かかるリスクの増加に関して高い利回りを提供する傾向にある。金利変動はマスター・ファンドの受取利息に影響を及ぼす場合があるが、かかる変動は、マスター・ファンド投資証券の純資産価額にも日々プラスまたはマイナスの影響を与える可能性がある。

固定利付証券に関する信用リスク

マスター・ファンドは、債務証券および／または低格付の固定利付証券に投資することがある。低格付の固定利付証券は、「投資適格格付」未満である場合があり、継続的な不確実性に直面し、発行体が適時に元金金の支払いを行えなくなる事態につながりうる事業環境、財務状況または経済状況の悪化にさらされる可能性がある。

マスター・ファンドが保有する一部の有価証券の格付が低いのは、発行体の財務状況もしくは全般的な経済状況もしくはこれらの両方における不利な変化または金利の想定外の上昇が発行体の元利金の支払いを行う能力を損なう可能性がより大きいことを反映してのことである。かかる有価証券は、投資対象の資本価値に影響を及ぼす、より大きな不履行リスクを伴う。

発行体が適時に元利金の支払いを行うことができない（または行うことができないと認識される）場合、有価証券の価値は、当該有価証券の評価額にのみ近似するように決定される可能性がある。特定の有価証券の流動性のある取引市場がない場合、かかる有価証券の公正価値の決定が不可能となることがある。

ムーディーズ・インバスター・サービシズ・インク、S & Pグローバル・レーティング、フィッチ・レーティングス・インクおよび／または現地格付機関が有価証券に付与する格付は、いつでも変更または撤回される場合があり、元利金の支払いの安全性に関する関連する格付機関（以下「格付機関」という。）の独自の格付を反映したものである。現地格付機関が有価証券に付与する格付は、国際的な信用格付機関とは異なる基準を用いている場合がある。格付は、信用度を保証するものではなく、当該有価証券の購入、売却または保有を推奨するものでもない。受益者は、その格付制度に関する詳細について、格付機関に問い合わせるべきである。さらに、格付は、有価証券の市場価値の変動性、有価証券への投資の流動性、または関連する有価証券の発行体の信用度以外のこういった要因が元利金の支払いの見込み水準を決定するのかに関する評価を反映したものである。有価証券は、その格付が購入時の格付未満に格下げされた場合に必ずしも売却できるわけではない。

マスター・ファンドは、投資適格格付よりも低格付の高利回り有価証券に投資することがある。したがって、マスター・ファンドへの投資には、多大な信用リスクを伴う。例えば、高利回り債務証券などの投資適格格付未満の有価証券は、リスクの高い戦略とみなされることがあり、無格付証券および／または債務不履行の状態にある有価証券を含むことがある。

また、低品質かつ高利回りの有価証券は、高品質かつ低利回りの有価証券と比較した際、より大きな価格変動に見舞われることがある。さらに、景気後退時または高金利の時は、有価証券の格付が低い企業のデフォルト率は上昇する傾向にある。高利回り債務証券を発行する企業は、さほど財務基盤が健全でなく、その信用度が低いことにより、支払不能に陥る可能性が高まることがある。かかる企業は、財政的困難に直面する可能性がより高く、経済の変化（景気後退またはかかる企業の元利金の支払能力に影響を及ぼしうる長期間にわたる金利の上昇など）による影響を受けやすい。

ソブリン債

マスター・ファンドは、全世界の政府または政府関連発行体が発行または保証する債務証券（以下「ソブリン債」という。）に投資する。政府発行体またはその代行機関の商品への投資は、多大な経済リスクおよび政治リスクを伴うことがある。ソブリン債の返済を管理する政府機関は、特定の要因（(i)外貨準備高、(ii)支払日における外国為替取引の利用可能額、(iii)政治改革の実施の失敗、および(iv)国際通貨基金に関する方針を含むが、これらに限られない。）により、かかる債務の条件に従い満期時に元本および／または利息の支払いを行えない、または行わない場合がある。

また、ソブリン債の債権者は、(i)発行体による一方的な当該債務の返済繰延、および(ii)（支払不履行または支払遅延の場合に）発行体に対して利用可能な限定的な法的手段を含む、ソブリン発行体に関する追加の制約により影響を受けることがある。

マスター・ファンドは、「新興市場」または「開拓市場」と称される国々の政府または政務関連機関が発行するソブリン債に投資することがあり、政治情勢および経済情勢の強い不透明感、為替変動、本国送金に関する制限または資本管理などの要因により、先進国市場に比べて、さらなるリスクを負う。

ソブリン債の債権者は、かかる債務を再編することおよびかかる債務の返済期限を繰り延べることを求められ、かかる債務の発行体へのさらなる貸付を求められることがある。ソブリン債の債権者の利益は、再編の取り決めの過程で悪影響を受けるおそれがある。マスター・ファンドが投資するソブリン債務証券の発行体は、対外債務を返済することが非常に困難となることがある。かかる困難により、かかる国々は、とりわけ、債務の元利金の支払期限を繰り延べ、一部の債務を再編することを余儀なくされる場合がある。返済期限の繰延べ

および再編の取り決めには、新規の与信契約もしくは与信契約の変更についての交渉または未払元利金の「ブレディ債」もしくは類似の商品への転換による元利金の支払いの減額および支払期限の繰延べ、ならびに利息の支払資金を調達するための新規借款の獲得が含まれることがある。

フランクリン・アドバイザーズの運用リスク

サブ・ファンドの投資パフォーマンスは、マスター・ファンドの投資パフォーマンスに実質的に左右され、またマスター・ファンドの投資パフォーマンスは、フランクリン・アドバイザーズのサービスに実質的に左右される。異常事態（フランクリン・アドバイザーズの業務が、悪辣な行為、何らかの規則または規制の違反を理由に規制当局による調査を受けること、フランクリン・アドバイザーズの主要人物の死亡、無能力、離職、支払不能もしくは退任、またはフランクリン・アドバイザーズに影響を及ぼす企業再編を含むが、これらに限られない。）が発生した場合、マスター・ファンドのパフォーマンスは、そしてサブ・ファンドのパフォーマンスも、悪影響を受けることがある。管理会社およびフランクリン・アドバイザーズのいずれも、マスター・ファンドまたはサブ・ファンドの投資パフォーマンスを保証しない。

クレジット・リンク証券リスク

クレジット・リンク証券は、債務または銀行ローン債務を組み込んだ一または複数の企業債務またはクレジット・デフォルト・スワップのプールに対する持分を表章する債務証券、またはその他かかる企業債務またはクレジット・デフォルト・スワップを担保とする債務証券である。かかる債務証券は、一または複数の企業発行体の債務を表章することがある。マスター・ファンドは、クレジット・リンク証券の発行体（一般的には対象となるクレジット・デフォルト・スワップの売り手）から合意された金利で定期的に利息の支払いを受け、満期日に元本の払戻しを受ける権利を有する。マスター・ファンドは、クレジット・デフォルト・スワップの裏付けとなる一または複数の債務証券に不履行が発生するかまたはその他その利息の支払いがなされない場合、その投資元金およびクレジット・リンク証券への投資期間中に受領することが見込まれていた定期的な利息の支払いを失うリスクを負う。かかる信用事由（破産、適時に元利金の支払いができないことまたは再編を含む。）が発生した場合、影響を受けるマスター・ファンドは、一般的に、不履行が発生した対象債務の実際の価格または不履行が発生した対象債務自体と引換えに、不履行が発生した対象債務の額面価額に対するマスター・ファンドの比例持分の分だけ関連するクレジット・リンク証券の元本残高を減額し、その結果、マスター・ファンドの投資対象の一部を失う。したがって、クレジット・リンク証券の利息は、少なくなった元本残高について発生し、少なくなった元本残高は、満期時に払い戻される。クレジット・リンク証券が単一の企業またはその他の発行体の対象債務に対する持分を表章する場合、当該発行体に関する信用事由は、マスター・ファンドに対し、クレジット・リンク証券が複数の発行体の対象債務に対する持分を表章する場合よりも大きな損失リスクをもたらす。

さらに、マスター・ファンドは、クレジット・リンク証券の発行体が債務不履行に陥るまたは破産するリスクを負う。かかる場合、マスター・ファンドは、投資の元本金額およびこれに対する残存する定期的な利息の支払いを受けることが困難な事態に直面するかまたはかかる支払いを受けられないことがある。

また、クレジット・リンク証券への投資には、当該クレジット・リンク証券の発行体との間で締結されたクレジット・デフォルト・スワップの取引相手方に依拠して、スワップの条件に基づき発行体に定期的な支払いを行うことが伴う。かかる支払いの遅延または停止は、場合によっては、当該クレジット・リンク証券への投資者であるマスター・ファンドに対する支払いの遅延または減少につながるが見込まれる。さらに、クレジット・リンク証券は、発行された有価証券が一般的に当該発行体のみの債務となり、その他の者の債務または責任とはならないよう、遡及権の限定された当該証券の発行体の債務として一般的に構成されている。

ほとんどのクレジット・リンク証券は、機関投資家間で自由に取引できるよう、米国ルール144A証券として構成されている。マスター・ファンドは、通常、マスター・ファンドの流動性に関する指針に従い流動性があると判断されたクレジット・リンク証券のみを購入する。ただし、クレジット・リンク証券の市場は、突如として流動性が低下する場合がある。取引の他の当事者には、デリバティブに対する理解が十分な、デリバティブの買いに関心のある投資者のみがなることができる。流動性の変動は、クレジット・リンク証券の価格の重大、急激かつ予測不可能な変動につながる可能性がある。

特定の場合において、クレジット・リンク証券の市場価格は、入手できないまたは信頼できないことがあり、マスター・ファンドは、フランクリン・アドバイザーズが公正とみなす価格で当該証券を売却することが困難となるおそれがある。

信用リンク証券の価値は、一般的に、発行体が保有する対象債務（もしあれば）およびクレジット・デフォルト・スワップの価値の変動に伴って上下する。さらに、マスター・ファンドに対する支払いが、関連するクレジット・デフォルト・スワップの条件において定められる対象債務に関して受領される金額またはかかる対象債務のパフォーマンスの価値に基づくようにクレジット・リンク証券が構成されている場合、かかる債務の価値の変動は、クレジット・リンク証券の価値に影響を及ぼす。

不履行が発生した債務証券に関するリスク

マスター・ファンドは、発行体が現在利息の支払いを行っていない債務証券（不履行が発生した債務証券）に投資することがある。マスター・ファンドは、発行体が利息の支払いを再開すると見られる、またはその他のプラスとなる進展が近い将来に見られそうであるとフランクリン・アドバイザーズが考える場合、不履行が発生した債務証券を購入することがある。かかる証券は、流動性が低下することがある。

また、低品質の有価証券の場合、これらは一般的に無担保であり、たいていの場合発行体の他の債権者に劣後するため、債務不履行による損失リスクはかなり大きくなることがある。マスター・ファンドのポートフォリオに組み入れられている有価証券の発行体が債務不履行に陥った場合、マスター・ファンドは、かかる有価証券に係る未実現損失を被ることがあり、マスター・ファンドのマスター・ファンド投資証券1株当たり純資産価格が下落する可能性がある。不履行が発生した債務証券は、不履行が発生する前にその価値のほとんどを失う傾向にある。したがって、マスター・ファンドのマスター・ファンド投資証券1株当たり純資産価格は、発行体が債務不履行に陥る前に悪影響を受けることがある。さらに、マスター・ファンドは、不履行が発生した有価証券に係る元利金の支払いの回収を試みる必要がある場合、さらなる費用を負担することがある。

マスター・ファンドが投資する債務証券または債務の発行体には、様々な有価証券または債務の投資特性を再編することのみを目的として設立および運営される事業体が含まれる。かかる事業体は、投資銀行により設立される場合があり、投資銀行は、各事業体の設立およびその有価証券の募集の手配に関連して報酬を受領する。

デリバティブ・リスク

FTIFは、マスター・ファンドの投資目的を達成するため、リスクまたはコストを削減するかまたはさらなる資本または収益を生み出すために様々な金融派生商品を利用することがある。

金融派生商品のパフォーマンスがマスター・ファンドに良い影響をもたらす保証はない。

マスター・ファンドは、ヘッジ目的および投資目的で通貨、有価証券、指数および金利に関するオプション、先物および先渡契約を利用することがある。派生商品のパフォーマンスおよび価格は、少なくとも一部において、裏付資産（スワップ、オプション、先渡し、先物、保証等）のパフォーマンスまたは価格に依拠する。デリバティブ商品は、費用を伴い、変動性が高い場合があり、引き受けるリスクに比して少額の投資を伴うこと（レバレッジ効果）がある。これらの利用の成功は、フランクリン・アドバイザーズが、市場の動向を予測する能力に依拠することがある。リスクは、他方当事者の引渡しの不履行、債務不履行または取引市場が非流動的であるためにポジションの手仕舞いができないことを含む。一部の派生商品は特に、金利の変動に敏感である。

先物取引には、高度のリスクを伴うことがある。当初の証拠金が先物契約の価格に比して少額であるために、取引は「レバレッジがかけられ」または「ギアリング」される。比較的小さな市場の変動が、マスター・ファンドおよびサブ・ファンドに対し有利にも不利にも作用する比例的に大きな影響をもたらす。損失を一定の金額に抑えようと意図する一定の指示がなされた場合であっても、市況によっては、かかる指示の実行ができなくなることがあるため、当該指示の効力が生じないことがある。先渡取引（特に店頭で取引されているもの）には、より増幅された取引相手方リスクが伴う。取引相手方が債務不履行に陥った場合、マスター・ファンドおよび／またはサブ・ファンドは、期待していた支払いまたは資産の引渡しを得られないことがある。このことにより、未実現利益が失われることがある。

オプションの取引にも、高度のリスクが伴うことがある。オプションの売りは、一般的に、オプションの購入よりも相当程度大きなリスクを伴う。マスター・ファンドが受領するプレミアムは固定されているが、マスター・ファンドはその額を優に超える損失を被ることがある。マスター・ファンドはまた、買主がオプションを行使し、マスター・ファンドがオプションを現金により決済するかまたは裏付投資対象を取得もしくは交付するかを義務づけられるリスクにさらされる。オプションが、裏付投資対象の対応するポジションまたは他のオプションの先物に対するポジションを有するマスター・ファンドにより「カバー」されている場合には、リスクは軽減されることがある。正味ベースでのスワップ取引におけるマスター・ファンドの損失リスクは、いずれの当事者が他方当事者に支払い義務を負うかによる。取引相手方がマスター・ファンドに対して正味金額を支払う義務を負う場合、マスター・ファンドの損失リスクは、マスター・ファンドが受領する権利を有する全額を失うことであり、マスター・ファンドが正味金額を支払う義務を負う場合、マスター・ファンドの損失リスクは支払期限が到来している正味金額に限られる。店頭市場で取引されている商品は、取引量が少ないことがあり、主に証券取引所で取引されている商品より価格が不安定である場合がある。かかる商品は、より幅広く取引されている商品よりも流動性が低いことがある。さらに、かかる商品の価格が未公表のディーラーのマーク・アップを含んでいる場合があり、マスター・ファンドが購入価格の一部として支払うことがある。

ユーロ圏リスク

マスター・ファンドは、ユーロ圏に投資することがある。ソブリン債の負担の増加（例えば、自己の債務を履行しないユーロ圏の政府は、その債務を再編することを余儀なくされ、信用獲得および借換えにおいて困難に直面する可能性がある。）および欧州諸国の経済成長の停滞は、銀行システムの破綻可能性または実際の破綻ならびにユーロ圏およびユーロの解体可能性を含む欧州の金融市場の不確実性とあわせて、欧州において、また潜在的にその他の市場においても、金利ならびに固定利付証券および持分証券双方の価格に悪影響を及ぼす可能性がある。これらの事象は、欧州への投資に伴うボラティリティ・リスク、流動性リスクおよび通貨リスクを増加させる可能性がある。前記の欧州における経済的および財政的困難は、欧州中に広がる可能性があり、その結果、一または複数の欧州諸国がユーロ圏を脱退する可能性があり、またはユーロ圏内の政府が自己の債務を履行しない可能性がある。ユーロ圏またはユーロの解体に係るあらゆる場合において、関連あるファンドは、追加のオペレーショナル・リスクまたはパフォーマンス・リスクにさらされる可能性がある。

欧州政府、欧州中央銀行およびその他の当局は、現在の財政状態に対処するための措置（例えば、経済再建を実施することおよび国民に対して緊縮財政政策を課すこと）を講じているが、当該措置は、望ましい効果を発揮しないことがあり、したがって欧州の将来の安定性および成長は不確実である。マスター・ファンドのパフォーマンスおよび価額は、不利な信用事由（例えば、政府信用格付けの格下げまたはいずれかのユーロ圏内諸国の債務不履行もしくは破産）が存在する場合に、悪影響を及ぼされる可能性がある。

マスター・ファンドの流動性リスク

流動性リスクは、資産側の流動性リスクと、負債側の流動性リスクという2つの形を取る。資産側の流動性リスクとは、ポジションの知覚価値もしくは信用度の急激な変化といった要因または一般的に不利な市況を原因として、マスター・ファンドが有価証券またはポジションをその相場価格または市場価格で売却できないことをいう。負債側の流動性リスクとは、マスター・ファンドが買戻請求に応じるのに十分な現金を調達するために有価証券またはポジションを売却できないことを原因として、マスター・ファンドが買戻請求に応じることができないことをいう。マスター・ファンドの有価証券が取引されている市場はまた、取引所の取引活動の停止を引き起こす不利な状況も経験しうる。これらの要因による流動性の低下は、マスター・ファンドの純資産価額、また前述のとおり、マスター・ファンドが適時に買戻請求に応じる能力に悪影響を及ぼす可能性がある。

市場リスク

本リスクは、あらゆる種類の投資に影響を及ぼす一般的なリスクである。価格動向は、主に、金融市場動向および発行体の経済動向により決定され、当該発行体は、それ自体が世界経済の全体的情勢ならびに各国において一般的である経済的および政治的情勢により影響を及ぼされている。マスター・ファンドが保有する有価

証券が価格変動するのに応じて、サブ・ファンドのマスター・ファンドに対する投資の価額は上下する。サブ・ファンドは、自己が投資した金額を取り戻せない可能性がある。

仕組債リスク

クレジット・リンク債、エクイティ・リンク債および同様の債券といった仕組債には、それに記載される原証券に連動してその価額が変動することが意図されている債券を組成する相手方を伴う。金融デリバティブ商品とは異なり、現金が債券の買主から売主に移転する。当該商品への投資は、原証券の価額が減少した場合、損失をもたらす可能性がある。債券発行体が債務不履行に陥るリスクも存在する。追加のリスクは、かかる債券プログラムの文書が高度にカスタマイズされる傾向にあるという事実から発生する。仕組債の流動性は、原証券、通常の債券または債務証券の流動性よりも低くなることもあり、これにより、ポジションの売却能力またはポジションの売却が実行される価格のいずれかが悪影響を及ぼされる可能性がある。

スワップ契約リスク

マスター・ファンドは、マスター・ファンドが特定の望ましいリターンをもたらす商品に直接的に投資した場合よりも低いコストでの当該リターンの取得を試みるために、金利、指数および為替レートスワップ契約を締結する可能性がある。スワップ契約は、主に機関投資家により数日間から1年超の期間に関して締結される二当事者間契約である。標準的な「スワップ」取引において、両当事者は、特定の予め決められた投資対象または商品において得られたまたは実現されたリターン（またはリターン率の差異）を交換することに合意する。当事者間で交換、つまり「スワップ」される総リターンは、「想定元本」に関して、すなわち、特定の金利で、特定の外国通貨に、または特定の指数を表章する有価証券の「バスケット」に投資された、特定の米ドル建ての金額に関するリターンまたは当該金額の価額上昇に関して、計算される。スワップ契約の「想定元本」は、スワップ契約の当事者らが交換することに合意している義務を計算するための架空の基準に過ぎない。スワップ契約に基づくマスター・ファンドの義務（または権利）は、一般的に、当該契約に基づき支払われまたは受領される、当該スワップ契約の各当事者が保有するポジションの相対的価値に基づいた純額にのみ等しくなる。

マスター・ファンドのスワップ契約の利用が、マスター・ファンドの投資目的の促進に成功するか否かは、一定の種類の投資対象が他の投資対象よりも大きなリターンをもたらす可能性があるか否かについて正確に予測するフランクリン・アドバイザーズ的能力に依存する。スワップ契約は、二当事者間契約であり、7暦日以上を有することから、非流動的であるとみなされる可能性がある。さらに、マスター・ファンドは、スワップ契約の相手方が債務不履行または破産した場合、スワップ契約に基づき受領する予定の金額を損失するリスクを負担する。

新興市場リスク

投資は、異なる国の法人、政府および公法上の事業体により発行された異なる通貨建ての有価証券に対してマスター・ファンドが直接または間接的に行われることがあり、一定のリスクを伴う。かかるリスクは、一般に、発展途上国および新興市場において増加する。

かかる有価証券は、高度なリスクを伴うことがあり、投機的であるとみなされるべきである。リスクには、（i）収用、没収的課税、国有化ならびに社会的、政治的および経済的な安定性についてのリスクがより大きいこと、（ii）現在、新興市場の発行体の有価証券の市場規模が小さく、また、取引高が少ないまたは取引が生じないことにより、流動性が失われ、価格変動が大きくなること、（iii）国益に影響を及ぼすものとみなされる発行体または産業への投資に対する制限等、投資機会の制限につながる国家政策が実行されうること、（iv）民間投資および外国投資ならびに私有財産に係る法整備が欠如していること、（v）本国送金に対して制限が課せられること、（vi）為替レートが変動すること、（vii）投資者に対する情報が限られていること、および投資者に対する開示要件がより厳格でないこと、（viii）為替管理またはその他の地方自治体の法律もしくは規制が課せられる可能性があること、（ix）デフレおよびインフレによる悪影響のリスクが増加すること、（x）マスター・ファンドの法的請求が限定される可能性があること、ならびに（xi）保管および／または決済システムが完全に整備されていない可能性があることが含まれる。

政治的または経済的な不安定は、投資者の信頼に影響を及ぼすことがあり、ひいては、新興市場の参照事業体の債券および／またはマスター・ファンドが投資する関連する債券（該当する場合）の価値、ならびにマスター・ファンドがさらされる外国為替市場に悪影響を及ぼす可能性がある。

さらに、国有化、収用、没収的課税、配当、利子、キャピタル・ゲインもしくはその他の所得に対する源泉徴収税もしくはその他の税金の課税、政変、政府規制、社会的不安定、外交上の展開または戦争が生じる可能性があり、これらはいずれも、新興市場通貨の経済またはサブ・ファンドの投資対象の価値に悪影響を及ぼす可能性がある。

投資者は、特に、新興市場の法人および公法上の事業体により発行された有価証券の流動性が先進工業国の類似の有価証券に比べて著しく低い可能性があることを理解すべきである。

保管リスク

フランクリン・アドバイザーズは、保管および／または決済システムが完全に整備されていない市場に直接または間接的に投資することがある。かかる市場で取引され、（副保管会社の利用が必要な場合は）かかる副保管会社に委託されたマスター・ファンドの資産は、一定のリスクにさらされることがある。かかるリスクには、正確でない引渡しと支払いの同時決済（DVP決済）、現物市場であることおよびそれ故の偽造有価証券の流通、コーポレート・アクションに関する情報の不足、有価証券の入手可能性に影響を及ぼす登録手続、適切な法的／財務インフラの不足、ならびに振替決済に伴う補償資金／リスク資金の不足が含まれるが、これらに限られない。

以上のリスク要因の記載は、サブ・ファンドへの投資に伴うリスクの完全な説明を意図するものではない。サブ・ファンドは、その資産の大部分をマスター・ファンドに投資する。よって、受益者は、マスター・ファンドへの投資に伴うリスクに間接的にさらされることとなる。投資予定者は、サブ・ファンドへの投資を行うか否かを決定する前に、本書をすべて慎重に検討すべきである。

（２）リスクに対する管理体制

リスク管理、投資運用の査定および法務管理

管理会社は、定期的にサブ・ファンドのポートフォリオのリスク要因を討論し、サブ・ファンドが過度なリスクにさらされていないかを検討するためにポートフォリオを検討する委員会を開催する。サブ・ファンドの投資哲学および投資方針に関する事項は、サブ・ファンドの投資運用に関する目論見書の他の一切の関連する事項とともに、管理会社およびサブ・ファンドの管理事務代行会社である香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイによって常に監視され、かつ統制されている。

リスクの管理体制

サブ・ファンドに固有のリスクは、管理会社の取締役会によって管理される。

規制および投資制限の遵守はまた、管理事務代行契約に基づきサブ・ファンドに対して一般的な管理事務（会計および評価サービスならびに年次報告書および半期報告書の作成を含む。）を提供する管理事務代行会社の協力を得て、管理会社の取締役会によって監督される。

サブ・ファンドはヘッジ目的のためにのみデリバティブ取引等を行っている。サブ・ファンドは、各デリバティブ取引等の想定元本がサブ・ファンドの純資産総額を超えないように管理している（簡便法）。

マネー・ロンダリング防止

citifirst.im@citi.comのアドレスで管理会社に対して連絡することにより、投資者は、現在のサブ・ファンドに関するマネー・ロンダリング防止遵守責任者、マネー・ロンダリング報告責任者およびマネー・ロンダリング報告副責任者の詳細（連絡先の詳細を含む。）を入手することができる。

（３）リスクに関する参考情報

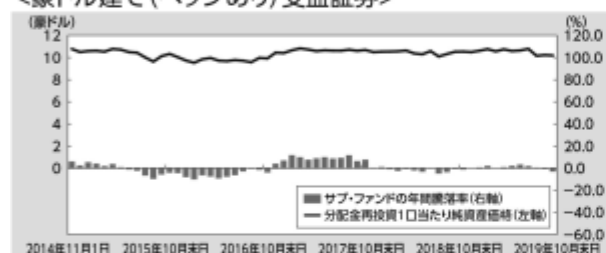
下記グラフは、サブ・ファンドの投資リスクをご理解いただくための情報の一つとしてご利用ください。

サブ・ファンドの年間騰落率および 分配金再投資1口当たり純資産価格の推移

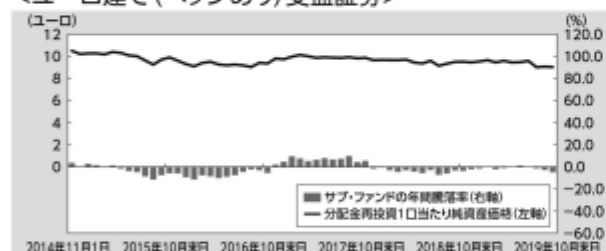
<米ドル建て受益証券>



<豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券>



<ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券>



※分配金再投資1口当たり純資産価格は、分配金（税引前）を再投資したものとみなして計算した1口当たり純資産価格が記載されており、実際の1口当たり純資産価格と異なる場合があります。

※サブ・ファンドは設定以来、本書の日付現在時点まで分配を行っていないため、本項でいう「分配金再投資1口当たり純資産価格」の値は「受益証券1口当たり純資産価格」の値と同じとなります。

※サブ・ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の1口当たり純資産価格に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※サブ・ファンドの年間騰落率は、サブ・ファンドの基準通貨である米ドル、豪ドルおよびユーロ建てで計算されており、円貨に為替換算されておりません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。また、各指数には外貨建てのものが含まれるため、これらを円貨換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。

○ 各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(配当込み)

先進国株・・・FTSE先進国株価インデックス(除く日本、円ベース)

新興国株・・・S&P 新興国総合指数

日本国債・・・FTSE日本国債インデックス

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・米ドルベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(ヘッジなし・米ドルベース)

(注) S&P 新興国総合指数は、Bloomberg L.P. で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。なお、サブ・ファンドは、東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、東京証券取引所は、サブ・ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を負いません。

FTSE先進国株価インデックス(除く日本、円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited, FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

FTSE日本国債インデックス、FTSE世界国債インデックス、FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

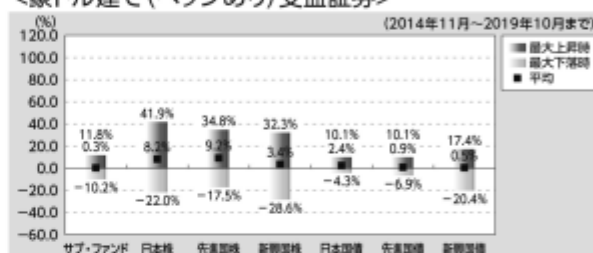
サブ・ファンドと他の代表的な資産クラスとの 騰落率の比較

グラフは、サブ・ファンドと代表的な資産クラスのリスクを定量的に比較できるように作成したものです。

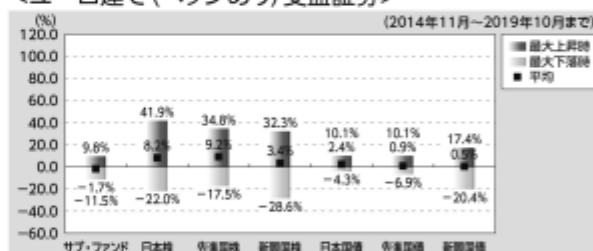
<米ドル建て受益証券>



<豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券>



<ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券>



出所:Bloomberg L.P.のデータを基に森・満田松本法律事務所が作成

※全ての資産クラスがサブ・ファンドの投資対象とは限りません。

※2014年11月から2019年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値をサブ・ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

※決算日に対応した数値とは異なります。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

① 海外における申込手数料

該当事項なし。

② 日本国内における申込手数料

販売会社により、受益証券の取得申込みにあたって、上限2.20パーセント（税抜2.00パーセント）の申込手数料が課される。購入（申込み）手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続きの対価である。申込手数料の詳細については、販売会社に照会のこと。

（注１）管理会社と販売会社が随時合意することによりこれと異なる取り決めを行うことができる。

（注２）申込手数料については、販売会社の定める乗換優遇措置または償還乗換優遇措置が適用される場合がある。

（注３）円資金から該当通貨に交換したうえでお申し込みの場合、別途、為替手数料が片道１円／往復２円（上限）かかる。

（注４）手数料率は、消費税率に応じて変更となることがある。

（２）【買戻し手数料】

① 海外における買戻し手数料

該当事項なし。

② 日本国内における買戻し手数料

該当事項なし。

（３）【管理報酬等】

① 受託会社の報酬

受託会社は、サブ・ファンドの信託財産から、年額１万米ドルの受託報酬を受領する権利を有し、毎四半期後払いで支払われる。

受託会社の報酬は、ファンドの受託業務およびこれに付随する業務の対価として受託会社に支払われる。

2019年６月30日に終了した会計年度中の上記受託会社報酬は、10,250米ドルであった。

② 管理会社の報酬

管理会社は、サブ・ファンドの信託財産から、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われる、純資産価額に対する年率0.16パーセントの料率による管理会社報酬を受領する権利を有する。

管理会社の報酬は、ファンド資産の運用管理、ファンド証券の発行、買戻し業務の対価として管理会社に支払われる。

2019年６月30日に終了した会計年度中の上記管理会社報酬は、23,358米ドルであった。

③ 管理事務代行会社および保管会社の報酬

管理事務代行会社および保管会社の報酬は、ファンド資産の管理事務代行業務およびファンド資産の保管業務の対価として管理事務代行会社および保管会社に支払われる。

香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイは、サブ・ファンドの信託財産から、純資産価額に対して年率0.08パーセントを上限とする管理事務代行および保管に係る報酬を受領する権利を有し、かかる報酬は、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われる。

名義書換代理人の報酬は、受益証券の発行、譲渡および買戻しに関する登録名義書換事務の対価として名義書換代理人に支払われる。

2019年６月30日に終了した会計年度中の上記管理事務代行会社、名義書換代理人および保管会社の報酬は、8,759米ドルであった。

④ 代行協会員の報酬

代行協会員は、サブ・ファンドの信託財産から、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われる、純資産価額に対する年率0.01パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有する。

代行協会の報酬は、目論見書の配布、受益証券1口当たり純資産価格の公表、運用報告書等の文書の販売取扱会社への送付等の業務の対価として代行協会に支払われる。

2019年6月30日に終了した会計年度中の上記代行協会報酬は、1,460米ドルであった。

⑤ 販売会社の報酬

各販売会社は、サブ・ファンドの信託財産から、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われる、販売会社が登録受益者となっている各受益証券の受益証券1口当たり純資産価格に対する年率0.75パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有する。

販売会社の報酬は、日本におけるファンドの受益証券の販売業務、購入・買戻しの取次ぎ業務、運用報告書の交付等購入後の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価として販売会社に支払われる。

2019年6月30日に終了した会計年度中の上記販売会社報酬は、109,490米ドルであった。

⑥ サービス・プロバイダーの報酬

サービス・プロバイダーは、サブ・ファンドの信託財産から、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われる、販売会社としての資格における株式会社SMB C信託銀行または管理会社によって随時選任される日本における販売会社が登録保有者である各受益証券の受益証券1口当たり純資産価格に対して年率0.08パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有する。

サービス・プロバイダーの報酬は、日本におけるサブ・ファンドに係る販売の援助の提供における、管理会社の補助業務の対価としてサービス・プロバイダーに支払われる。

2019年6月30日に終了した会計年度中の上記サービス・プロバイダー報酬は、11,679米ドルであった。

⑦ マスター・ファンドの報酬

以下は、マスター・ファンドへの投資に関連する報酬の概要である。

マスター・ファンドへの投資を通じて、サブ・ファンドは、以下のとおり、マスター・ファンドに対するサービス提供者に関連する報酬およびその他の費用も間接的に負担する。

フランクリン・アドバイザーズに支払うべき管理報酬は、マスター・ファンドの日々の調整済純資産に対して年率0.55パーセントである。

フランクリン・アドバイザーズに支払うべき管理報酬に加えて、マスター・ファンドは、保管サービスに係る費用（日次純資産に対して年率0.01パーセントから0.14パーセントの範囲）、および登録・名義書換代行・法人事務代行・所在地事務代行・管理事務代行会社のサービスに係る費用（日次純資産に対して年率0.20パーセントを上限とする。）も負担する。

かかる報酬には、マスター・ファンドの資産および負債に関する取引に関する通常の銀行報酬・手数料および仲介報酬・手数料、ならびに随時合意されるその他のサービスについてマスター・ファンドが負担する合理的な立替費用は含まれない。支払われる金額は、マスター・ファンドの財務書類に記載される。

（４）【その他の手数料等】

① マネー・ロンダリング防止遵守責任者の報酬および報告責任者の報酬

マネー・ロンダリング防止遵守責任者、マネー・ロンダリング報告責任者およびマネー・ロンダリング報告副責任者は、それぞれ、サブ・ファンドの信託財産から、マネー・ロンダリング防止の遵守および報告ならびにその他の類似し付随する業務に関する報酬を受領する権利を有する。

② その他の費用

受託会社は、関連するサブ・ファンドの信託財産からのみ、受託会社、管理会社またはその他により負担される、以下のいずれか（またはすべて）を含むがこれらに限定されない当該サブ・ファンドの設立、運用、管理および維持に関するすべての費用を支払い、またはその支払を確保することができる。（a）当該サブ・ファンドの設立、登録または存続に関して受託会社または管理会社が正当に負担するすべての経費および費用、（b）すべての合理的な法律、監査、会計および税務費用ならびに当該サブ・ファンドに関して提供されたサービスに関するすべてのその他の専門家およびその他の手数料、（c）受託会社および／または管理会社と当該サブ・ファンドの受益者との関係より発生するすべての経費および費用（当該サブ・ファンドの受益証券の名義書換ならびに当該サブ・ファンドの受益者に対する通達および通知を含むがこれに限定されない。）ならびに受託会社および／または管理会社と第三者との関係より発生するすべての経費および費用、（d）当該サブ・ファンドに関する年次報告書および半期の未監査報告書ならびにそれに添付される報告書または文書ならびに受託会社または管理会社が当該サブ・ファンドの受益者に対して行うその他の通信の作成、印刷および郵送またはその他発送において正当に発生しまたこれに付帯するすべての合理的な費用、（e）英文目論見書または当該サブ・ファンドの受益証券の公募に関する英文目論見書の関連する補遺または当該サブ・ファンドに関する情報を投資予定者に提供する内容説明書または類似文書の作成および印刷において発生する経費、（f）当該サブ・ファンドの純資産価額の計算および詳細の提供に関する費用、（g）受益者集会の招集および開催において発生するすべての費用、（h）ファンドもしくは当該サブ・ファンドまたは当該サブ・ファンドのいずれかの投資対象に対する権原証券の安全な保管に関する追補信託証券、契約書またはその他の文書に関して、またはこれらの作成において発生するすべての費用、（i）当該サブ・ファンドに関する預金または貸付におけるもしくはこれに付帯するあらゆる性質のすべての合理的な費用、（j）当該サブ・ファンドのいずれかの投資対象の取得または換金に関して支払うべき印紙およびその他の課徴金、税金、政府の課税、仲介手数料、譲渡手数料、登録料ならびにその他の手数料、（k）当該サブ・ファンドまたはその代理人によるすべての借入に係る利息ならびに当該借入の手配に関するまたこれより発生する手数料および費用、（l）当該サブ・ファンドがいずれかの法域の政府もしくはその他の当局またはその機関に対して支払うべきすべての税金および法人手数料、（m）宣伝または広告費用（もしあれば）、（n）郵便、電話およびファックスに係る経費ならびにその他のすべての運営費用、（o）当該サブ・ファンドの運営、管理または宣伝に関して選任されたサービス提供者（管理事務代行会社、保管会社または販売会社を含むがこれらに限られない。）に対して受託会社または管理会社のいずれかが支払義務を負うすべてのもしくはいずれかの報酬、経費または費用、（p）当該サブ・ファンドの投資対象の取得、保有および／または処分に関して発生する債務、経費および費用（手数料、謝礼、運用コンサルタントの報酬または類似の支払いを含むがこれらに限られない。）、（q）当該サブ・ファンドの通常業務および／または運用一般に関して発生する債務、経費および費用、（r）関連する信託財産の清算においてもしくはこれに関してまたはその他当該サブ・ファンドの終了において発生する債務、経費および費用、および（s）受託会社または管理会社が信託証券に基づくそれぞれの義務に関してトラストに関して正当に負担するいずれかの支出または立替費用。特定のサブ・ファンドのみに帰属するものではないと管理会社が判断するいずれかの上記の費用は、通常、各サブ・ファンドの当該時の純資産価額に基づきまたは管理会社が随時特定の場合に決定するその他の基準においてサブ・ファンドの信託財産間で配分される。

2019年6月30日に終了した会計年度中の上記②に記載された費用、経費、手数料、報酬の合計は、68,812米ドルであった。

③ 現金払戻しおよびソフト・コミッション

管理会社は、サブ・ファンドの計算において行われる取引に関して証券業者からいかなる現金手数料その他の払戻しを受けないものとする。ただし、管理会社および／または証券業者の関連会社は、管理会社および／または証券業者の関連会社が、当事者が随時管理会社および／または証券業者の関連会社に対して、物品、サービスその他の利益（リサーチおよび顧問サービス、専門的ソフトウェアまたはリサーチ・サービスおよびパフォーマンス測定が付随するコンピュータ・ハードウェアなど）を提供または手配する取決めを締結している他者の代理人によるかまたは当該代理人を通じて、取引を実行する権利を留保しており、当該取決めの性質とは、当該物品、サービスその他の利益の提供が、サブ・ファンドに全体として利益をもたらすことが合理的に予想でき、かつ、サブ・ファンドに関するサービス提供においてサブ・ファンドまたは管理会社および／もしくは証券業者の関連会社のパフォーマンスを高めることに寄与することができ、また、当該取決めに関して、直接支払が生じることはないが代わりに管理会社および／または証券業者の関連会社がかかる当事者に業務を委ねることを約束する。）。かかる当事者を通じて実行される取引は、最善の実行基準に合致し、適用ある法律を遵守していなければならない、また、仲介手数料率は、通常の機関投資家を対象とした包括的サービスの仲介手数料を超えてはならない。疑義を避けるために付言すると、かかる物品およびサービスには、旅行、宿泊設備、娯楽、一般事務用品もしくはサービス、一般的オフィス設備および物件、会費、従業員給与または直接的金銭支払いは含まれない。

（５）【課税上の取扱い】

投資者は、適用ある法域の関連の法律に基づく受益証券の取得、保有、買戻しの請求、譲渡または売却が当該投資者に与える効果（税務上および規制上の効果ならびに為替管理規制を含む。）に関して、各自の専門家の顧問と相談すべきである。投資者に対する当該効果（適用可能性を含む。）および税金控除の金額は、投資者の国籍、住所、本籍または設立を有する国の法律および慣行ならびに各自の個人的な状況によって異なる。

ケイマン諸島の課税に関する以下の記載は、本書の日付の時点においてケイマン諸島で有効な法律および慣行に関して管理会社が受けた助言に基づくものである。投資者は、課税の水準および基準が変動する場合があります。また税金控除の金額が納税者の個人的な状況に依拠する旨を認識すべきである。

（Ａ）日本

本書の日付現在、日本の受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなる。

Ⅰ ファンドが税法上公募外国公社債投資信託である場合

- （１）受益証券は、特定口座を取り扱う金融商品取引業者の特定口座において取り扱うことができる。
- （２）国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、ファンドの分配金は、公募国内公社債投資信託の普通分配金と同じ取扱いとなる。
- （３）国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、日本の個人受益者が支払いを受けるファンドの分配金については、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が日本国内で行われる。
日本の個人受益者は、申告分離課税が適用されるので原則として確定申告をすることになるが、確定申告不要を選択することにより、源泉徴収された税額のみで課税関係を終了させることもできる。
確定申告不要を選択しない場合、一定の上場株式等（租税特別措置法に定める上場株式等をいう。以下同じ。）の譲渡損失（繰越損失を含む。）との損益通算が可能である。
- （４）日本の法人受益者が支払いを受けるファンドの分配金（表示通貨ベースの償還金額と元本相当額との差益を含む。）については、国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、所得税のみ15.315%の税率による源泉徴収が日本国内で行われ（一定の公共法人等（所得税法別表第

一に掲げる内国法人をいう。以下同じ。）または金融機関等を除く。）、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される（2038年1月1日以後は15%の税率となる。）。

- (5) 日本の個人受益者が、受益証券を買戻請求等により譲渡した場合（他のクラスの受益証券に転換した場合を含む。）は、上場株式等に係る譲渡益課税の対象とされ、受益証券の譲渡損益（譲渡価額から取得価額等を控除した金額（邦貨換算額）をいう。以下同じ。）に対して、源泉徴収選択口座において、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が日本国内で行われる。受益証券の譲渡損益は申告分離課税の対象となり、税率は源泉徴収税率と同一であるが、確定申告不要を選択した場合は源泉徴収された税額のみで課税関係は終了する。

譲渡損益は、一定の他の上場株式等の譲渡損益および一定の上場株式等の配当所得等との損益通算が可能である。確定申告を行う場合、一定の譲渡損失の翌年以降3年間の繰越も可能である。

- (6) 日本の個人受益者の場合、ファンドの償還についても譲渡があったものとみなされ、(5)と同様の取扱いとなる。
- (7) 日本の個人受益者についての分配金ならびに譲渡および買戻しの対価については、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される。

(注) 日本の受益者は、個人であるか法人であるかにかかわらず、ケイマン諸島に住所または登記上の営業所もしくは恒久的施設を有しない場合、受益証券への投資に対しケイマン諸島税務当局により課税されることは一切ない。

II ファンドが税法上公募外国株式投資信託である場合

- (1) 受益証券は、特定口座を取り扱う金融商品取引業者の特定口座において取り扱うことができる。
- (2) 国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、ファンドの分配金は、公募国内株式投資信託の普通分配金と同じ取扱いとなる。
- (3) 国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、日本の個人受益者が支払いを受けるファンドの分配金については、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が行われる。

日本の個人受益者は、総合課税または申告分離課税のいずれかを選択して確定申告をすることもできるが、確定申告不要を選択することにより、源泉徴収された税額のみで課税関係を終了させることもできる。

申告分離課税を選択した場合、一定の上場株式等の譲渡損失（繰越損失を含みます。）との損益通算が可能である。

- (4) 日本の法人受益者が支払いを受けるファンドの分配金（表示通貨ベースの償還金額と元本相当額との差益を含む。）については、国内における支払の取扱者を通じて支払いを受ける場合、所得税のみ15.315%の税率による源泉徴収が日本国内で行われ（一定の公共法人等を除く。）、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される（2038年1月1日以後は15%の税率となる。）。
- (5) 日本の個人受益者が、受益証券を買戻請求等により譲渡した場合（他のクラスの受益証券に転換した場合を含む。）は、上場株式等に係る譲渡益課税の対象とされ、受益証券の譲渡損益に対して、源泉徴収選択口座において、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が行われる。受益証券の譲渡損益は申告分離課税の対象となり、税率は源泉徴収税率と同一であるが、確定申告不要を選択した場合は源泉徴収された税額のみで課税関係は終了する。

譲渡損益は、一定の他の上場株式等の譲渡損益および一定の上場株式等の配当所得等との損益通算が可能である。確定申告を行う場合、一定の譲渡損失の翌年以降3年間の繰越も可能である。

（６）日本の個人受益者の場合、ファンドの償還についても譲渡があったものとみなされ、（５）と同様の取扱いとなる。

（７）日本の個人受益者についての分配金ならびに譲渡および買戻しの対価については、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される。

（注）日本の受益者は、個人であるか法人であるかにかかわらず、ケイマン諸島に住所または登記上の営業所もしくは恒久的施設を有しない場合、受益証券への投資に対しケイマン諸島税務当局により課税されることは一切ない。

Ⅲ 本書の日付現在では、ファンドは、税法上、公募外国株式投資信託として取り扱われる。ただし、将来における税務当局の判断によりこれと異なる取扱いがなされる可能性もある。

Ⅳ 税制等の変更により上記ⅠないしⅢに記載されている取扱いは変更されることがある。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認することを推奨する。

（Ｂ）ケイマン諸島

現行法に基づいて、ケイマン諸島政府はトラスト、サブ・ファンドまたは受益者に対して所得税、法人税、キャピタル・ゲイン税、遺産税、相続税、贈与税または源泉徴収税を賦課しない。またトラストに関する支払に対して適用あるケイマン諸島が当事者となっている二重課税防止条約はない。本書の日付の時点において、ケイマン諸島には為替管理が存在しない。

トラストは、信託法第81条に従って、ケイマン諸島の財務長官より保証書を受領している。かかる保証書には、トラストの設定の日付から向こう50年間にケイマン諸島でその後制定された所得、資本資産、資本利得またはキャピタル・ゲインに租税を課す法律および相続税的な性格を有する租税を課す法律は、トラストを構成する資産もしくはトラストに帰因する所得、またはかかる資産もしくは所得に関連して受益会社または受益者には適用されないことが明記される。ケイマン諸島において、受益証券の譲渡または買戻しに印紙税は課されない。

サブ・ファンドが投資する有価証券に係る税金

サブ・ファンドの計算において受託会社により実現される利子、配当およびその他の所得、ならびに有価証券の売却により実現されるキャピタル・ゲインは、当該所得の源泉となる法域により課税される源泉徴収税およびその他の税金の対象となる場合がある。受託会社がサブ・ファンドの計算において支払う税金の率は、各国に投資される資産の額およびかかる税金を軽減するサブ・ファンドの能力（もしあれば）が明らかではないため、予測することは不可能である。

ケイマン諸島—金融口座情報および関連事項の自動的交換

ケイマン諸島は、国際的な税務コンプライアンスの向上および情報交換の促進のため、米国および英国との間で2つの政府間協定に調印した（以下、米国との間の協定を「US IGA」といい、英国との間の協定を「UK IGA」という。）。また、ケイマン諸島は、80か国を超える他の諸国とともに、金融口座情報の自動的交換に関するOECD基準—共通報告基準（以下「CRS」といい、US IGAとUK IGAとあわせて「AEOI」という。）を実施するための多国間協定に調印した。

US IGA、UK IGAおよびCRSの効力を生じさせるため、ケイマン諸島規則（以下「AEOI規則」と総称する。）が発行されている。AEOI規則に基づき、ケイマン諸島税務情報局は、US IGAおよびUK IGAならびにCRSの適用に関する手引書を公表している。UK IGA、関連する規則および手引書の関連する規定は廃止され、またCRSをもって置き換えられる予定である。

ケイマン諸島のすべての「金融機関」は、AEOI規則の登録要件、デュー・ディリジェンス要件および報告要件を遵守する義務を負う。ただし、かかる金融機関が一または複数のAEOI規制に関して「非報告金融機関」（関連するAEOI規則において定義される。）となることを認める免除に依拠することができる場合はこの限りではなく、この場合においては、登録要件のみがCRSに基づき適用される。

AEOIの目的において、サブ・ファンドは、トラストの一部である。トラストは、非報告金融機関の免除のいずれにも依拠することを企図しておらず、それゆえAEOI規則のすべての要件を遵守することを意図している。

AEOI規則により、報告金融機関としてのトラストは、とりわけ、(i) (US IGAに服する場合のみ) G I I N／グローバル仲介人識別番号を取得するためにIRS／米国内国歳入庁（以下「IRS」という。）に登録すること、(ii) ケイマン諸島税務情報局に登録し、これにより「報告金融機関」としての自らの地位をケイマン諸島税務情報局に通知すること、(iii) トラストがCRSに基づく自らの義務に対処する方法を記載する書面による方針および手続を採用および実施すること、(iv) 「報告対象口座」とみなされるか否かを確認するため、自らに開設されている口座のデュー・ディリジェンスを実施することおよび(v) 当該報告対象口座に関する情報をケイマン諸島税務情報局に報告することを義務付けられている。ケイマン諸島税務情報局は、毎年、ある報告対象口座に関連する海外の財政当局（例として、米国の報告対象口座の場合はIRS）に対し、ケイマン諸島税務情報局に報告された情報を自動的に送信する。

US IGAの定めにより、US IGAを実施するAEOI規則を遵守するケイマン諸島の金融機関は、アメリカ合衆国の外国口座税務コンプライアンス法（以下「US FATCA」という。）のデュー・ディリジェンスおよび報告要件を充足するとみなされ、したがってUS FATCAの要件を「遵守しているとみなされ」、FATCA源泉徴収税を課税されることはなく、および非協力的口座を解約する必要はない。ケイマン諸島の報告金融機関は、FATCA源泉徴収税の課税を免除されるために、自らのUS FATCA上の地位に関し、米国の納税申告用紙に身元証明確認書類を添付して米国源泉徴収代理人に対して提供することが必要となることがある。US FATCA源泉徴収税は、US IGAの条項に基づき、トラスト／サブ・ファンドに対する支払いに対して課されないが、トラスト／サブ・ファンドが「重大な不遵守」の結果として不参加金融機関（US IGAに定義される。）とみなされた場合には、この限りではない。US IGAを実施するAEOI規則の下では、ケイマン諸島の金融機関は、US FATCAその他による口座保有者による支払いまたは口座保有者に対する支払いに対して税金を源泉徴収する義務を負わない。

サブ・ファンドに対する投資および／またはサブ・ファンドに対する投資の継続により、投資者は、トラストに対する追加情報の提供が必要となることがあること、トラストによるAEOI規則への遵守の結果、投資者情報の開示に至ることがあること、および投資者情報が海外の財政当局との間で交換されることがあることを了解したとみなされるものとする。投資者が（結果にかかわらず）要求された情報を提供しない場合、受託会社は、その裁量において、対象となる投資者にかかわる強制償還もしくは強制買戻しおよび／もしくは投資者の口座の閉鎖を含む（ただし、これらに限られない。）対応措置を講じ、および／もしくはすべての救済措置を求める義務を負うことがあり、ならびに／またはこれらをなす権利を留保している。ケイマン諸島税務情報局が発出した指針に従い、サブ・ファンドは、投資者の口座開設から90日以内に身元証明確認書類を受領しない場合、同人の口座を閉鎖する必要がある。

受益証券の購入を検討する投資者は、サブ・ファンドに関する税金の勘案事項について自身の税務顧問に相談するべきである。

（C）香港

管理会社の活動を理由としてトラストが香港において恒久的施設を有するとみなされる場合があるが、トラストが営業地を香港に置くことは想定されていない。かかる事実により、トラストがケイマン諸島の法律に基づき、同法に準拠して設定されるにもかかわらず香港歳入庁によって香港の収益税の課税対象に該当するとはみなされない旨の保証が付与されているとはいうことができない。香港の収益税の潜在的負担を最小化する方法により、トラストの活動が実行され、および管理されることが想定されている。

香港は、(a) 香港に源泉を有し、および(b) 香港において実行された取引、事業または職務に帰せられる収益に対して、16.5パーセントの固定税率による収益税を課す。投資対象の売却により生じたキャピタル・ゲインは、原則として香港の課税目的において収益とはみなされず、それゆえ香港の課税の対象とはならない。しかしながら、単純な投資活動とは対照的に、香港において実行される取引活動によって生じたとみなされる収益は、潜在的に香港の収益税の課税対象となる。

歳入（オフショア・ファンドについての収益税免除）規則（以下「規則」という。）は、2006年3月10日に発効した。規則に基づき、トラストは、規則に基づく特定の要件を満たすことを条件として、一定の取引に関する潜在的な収益税の義務を免除されることになる。

（D）米国の課税

受益証券を買付けることにより、各投資者は、各投資者が米国の連邦所得税の目的における米国人ではないことおよび各投資者が米国の連邦所得税の目的における米国人に対して受益証券を譲渡しないことを表明する。

投資者は、自らの市民権のある国、所在地とする国、設立国、設定国、居住国または通常の居住国の法律に基づく受益証券の申込み、購入、保有、交換、換金その他処分により生じうる税効果またはその他の効果に関して、各自の専門アドバイザーに相談すべきである。これらの効果（投資者に対する税金控除の利用可能性およびその金額を含む。）は、当該投資者の市民権のある国、居住国、所在地とする国または設立国の法律および慣行ならびに各自の個人的な状況によって異なる。課税に関する以下の記載は、本書の日付の時点においてケイマン諸島で有効な法律および慣行に関して、また、当該時点における米国の連邦所得税法に関するサブ・ファンドに係る一定の租税上の勘案事項について、管理会社が受けた一般的な助言に基づくものであり、あらゆる投資者の特定の状況に具体的に対応することを意図するものではなく、また、かかる対応を意味するものでもない。

本書に記載された米国の連邦所得税法上の勘案事項に関する議論は、サブ・ファンドおよび管理会社による受益証券の販売促進およびマーケティングに関連して記述されたものである。かかる議論は、ある者に対する税務上の助言となるよう意図または記載されたものではなく、また、ある者に課せられる可能性のある米国連邦税制上の罰則を回避するために当該者により利用されるよう意図または記載されたものでもなく、かかるように利用してはならない。受益者となる予定の者は、自らの税務顧問に各自の個々の状況に基づく助言を求めるべきである。

外国口座税務コンプライアンス法

米国内国歳入法の外国口座税務コンプライアンス法に係る規定は、一般に「FATCA」と呼ばれ、FATCAに基づき広義に定義されている外国金融機関（以下「FFI」という。）に対し、米国人である口座保有者の特定を義務付けることを目的とした情報報告および源泉徴収税に関する制度が実施される。米国財務省は、最近、FATCAを導入する最終規則を公表した。米国財務省および内国歳入庁はFATCAに関する追加ガイダンスを定めることができ、または米国がケイマン諸島との間でFATCA実施に関する政府間協定を締結することができる。いずれの場合も、サブ・ファンドに対するFATCAルールを適用を修正することができる。

原則として、FATCAは、FFIに対し、米国人によるFFIにおける特定の非米国事業体および特定の口座の直接および間接的な所有を強制的に米国内国歳入庁（以下「内国歳入庁」という。）に報告させることを目的としている。FATCAルールは、一定の米国源泉所得（利子および配当を含む。）、および米国源泉の利子または配当を生み出さうる資産を2017年1月1日以降に売却その他処分することにより得る譲渡代金に関して一定の区分のFFIに対してなされる支払い（以下「源泉徴収対象支払い」と総称する。）について、新たに30パーセントのFATCA源泉徴収税を課税することを通じて、内国歳入庁に対する報告を強制する。直近の米国の指針に基づき、2014年7月1日から、源泉徴収ルールが段階的に適用されている。

また、FATCAルールは、内国歳入庁との間で契約（以下「FFI契約」という。）を締結したFFI（以下「参加FFI」という。）によりなされ、源泉徴収対象支払いに帰属する一定の支払い（以下「外国パススルー支払い」という。）に関しても、30パーセントの源泉徴収税を課税する。最終規則では、外国パススルー支払いに対する源泉徴収についてはルールが定められていないが、将来、米国によりガイダンスが定められる可能性がある。最終規則は、2017年1月1日より前においては外国パススルー支払いに対する源泉徴収が義務付けられないことを示唆している。

FATCAルールは、一般に、以下の者に対しては源泉徴収税を課税しない。

- ・ FFIではなく、かつ、自らが米国人ではないこと、または非米国事業体の場合は、自らが実質米国所有者を有していないことを適切に証明する非米国人
- ・ 内国歳入庁との間でFFI契約を締結した参加FFI

FFI契約に従い、参加FFIは、米国人が所有する当該参加FFIの口座、および米国人により所有される事業体が所有する当該参加FFIの口座に関する一定の情報を内国歳入庁に報告することに同意しなければならない。また、内国歳入庁が定める一定の確認、デューディリジェンスおよびその他の手続（一定の状況において内国歳入庁様式W-8、内国歳入庁様式W-9またはその他の適切な書類を取得する義務、および内国歳入庁に対する当該情報の報告を妨げる米国以外の法律について署名済みの権利放棄書を取得する義務を含む。）を遵守しなければならない。

サブ・ファンドは、FFIとみなされることが予想される。よって、FATCAルールに基づき、サブ・ファンドの計算において受託会社または管理会社に対してなされる源泉徴収対象支払いおよび外国パススルー支払いは、原則として、サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社と内国歳入庁との間においてFFI契約の効力が生じていない限り、30パーセントのFATCA源泉徴収税の課税対象となる。サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社は、現在、内国歳入庁との間でFFI契約を締結することを予定している。

サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社のいずれかが、FFI契約を締結することができず、その他FFI契約を締結せず、またはFFI契約の効力を維持しない場合には、サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社への一定の支払いに対し、上記の方法で30パーセントのFATCA源泉徴収税が課税される可能性がある。また、マスター・ファンドが有効なFFI契約を締結または維持することについての保証はない。マスター・ファンドによって受領される一定の支払いに対して30パーセントのFATCA源泉徴収税が課された場合、当該源泉徴収は、マスター・ファンドの資産の価額に影響を及ぼすことがある。

サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社と内国歳入庁との間においてFFI契約の効力が生じている場合、2014年7月1日からサブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社が投資者に対して行う源泉徴収対象支払い、および将来米国が定める指針に規定される場合は、2017年以降にサブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社が投資者に対して行う外国パススルー支払いは、投資者が、（i）内国歳入庁との間でFFI契約を締結していないFFI（通常、ファンド、銀行または保管会社を含む。）であるか、または（ii）FATCAルールに基づき定められるその他一定のカテゴリーに属する場合（サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社に対して下記の段落に記載される情報を提供していない投資者を含む。）は、30パーセントのFATCA源泉徴収税の課税対象となる可能性がある。

FATCAの目的上、サブ・ファンドの各受益者は、かかるFFIの口座保有者とみなされる。内国歳入庁との間のFFI契約に基づく自らの義務を履行するサブ・ファンドの能力は、各受益者が、サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社に対し、かかる義務を履行するために必要であるとサブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社が判断する一切の情報（当該受益者の直接または間接の所有者に関する情報を含む。）を提供するかどうかによって左右される。各受益者は、英文目論見書補遺に添付される申込書において、サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社からの要求に応じてかかる情報を提供することに同意する。サブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社が内国歳入庁との間におけるFFI契約に基づく自らの義務を履行しなかった場合、または受益者がサブ・ファンドの計算における受託会社または管理会社に対しかかる必要な情報を提供しなかった場合は、上記の一定の状況において、FATCAに基づく30パーセントの源泉徴収税が課税される可能性がある。受益者となる予定の者は、自らのサブ・ファンドへの投資に対してFATCAが及ぼす可能性のある影響に関して、各自の税務アドバイザーに相談することが推奨される。

5【運用状況】

ファンドの運用状況は、以下のとおりである。

（１）【投資状況】

資産別および地域別の投資状況

（2019年10月末日現在）

資産の種類	発行地	時価合計（米ドル）	投資比率（％）
投資証券	ルクセンブルグ	12,794,814.90	99.92
現金・その他の資産（負債控除後）		10,501.29	0.08
合計 （純資産価額）		12,805,316.19 （約1,394百万円）	100.00

（注）投資比率とは、サブ・ファンドの純資産価額に対する当該資産の時価の比率をいう。以下同じ。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

（2019年10月末日現在）

順位	銘柄	発行地	種類	口数	取得金額		時価		投資比率 （％）
					単価 （米ドル）	合計 （米ドル）	単価 （米ドル）	合計 （米ドル）	
1	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズ－テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド I-ACC米ドル建て投資証券クラス	ルクセンブルグ	投資証券	508,537.953	23.44	11,919,400	25.16	12,794,815	99.92

②【投資不動産物件】

2019年10月末日現在、該当事項なし。

③【その他投資資産の主要なもの】

2019年10月末日現在、該当事項なし。

（３）【運用実績】**①【純資産の推移】**

下記会計年度および2019年10月末日までの１年間における各月末の純資産の推移は、次のとおりである。

＜米ドル建て受益証券＞

	純資産価額		１口当たり純資産価格	
	(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(円)
第１会計年度末 (2014年６月末日)	47,204,495.18	5,139,625	10.495	1,143
第２会計年度末 (2015年６月末日)	38,889,485.62	4,234,287	10.144	1,104
第３会計年度末 (2016年６月末日)	23,984,093.46	2,611,388	9.327	1,016
第４会計年度末 (2017年６月末日)	16,710,779.19	1,819,470	10.226	1,113
第５会計年度末 (2018年６月末日)	11,725,170.03	1,276,637	9.909	1,079
第６会計年度末 (2019年６月末日)	10,731,974.05	1,168,497	10.347	1,127
2018年11月末日	10,830,953.51	1,179,274	10.173	1,108
12月末日	10,775,186.51	1,173,202	10.147	1,105
2019年１月末日	10,822,310.81	1,178,333	10.273	1,119
２月末日	10,908,675.85	1,187,737	10.419	1,134
３月末日	10,553,683.21	1,149,085	10.238	1,115
４月末日	10,695,760.65	1,164,554	10.419	1,134
５月末日	10,492,455.95	1,142,419	10.290	1,120
６月末日	10,731,974.05	1,168,497	10.347	1,127
７月末日	10,426,367.41	1,135,223	10.503	1,144
８月末日	9,570,671.48	1,042,055	9.915	1,080
９月末日	9,420,059.13	1,025,656	9.994	1,088
10月末日	9,189,481.66	1,000,551	9.976	1,086

（注）各会計年度末、2018年12月末日および2019年６月末日の純資産価額および１口当たり純資産価格の財務書類（ファンドの経理状況）記載の数値との差異は、一定の調整の結果生じている。以下同じ。

＜豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券＞

	純資産価額		1口当たり純資産価格	
	(豪ドル)	(千円)	(豪ドル)	(円)
第1会計年度末 (2014年6月末日)	12,233,407.51	920,931	10.629	800
第2会計年度末 (2015年6月末日)	8,474,157.70	637,935	10.490	790
第3会計年度末 (2016年6月末日)	8,060,522.95	606,796	9.677	728
第4会計年度末 (2017年6月末日)	4,196,907.51	315,943	10.649	802
第5会計年度末 (2018年6月末日)	3,297,043.48	248,201	10.292	775
第6会計年度末 (2019年6月末日)	4,463,685.73	336,026	10.636	801
2018年11月末日	3,307,434.39	248,984	10.533	793
12月末日	3,444,374.72	259,293	10.490	790
2019年1月末日	3,822,995.93	287,795	10.613	799
2月末日	3,899,337.46	293,542	10.758	810
3月末日	3,827,910.56	288,165	10.560	795
4月末日	4,493,743.95	338,289	10.738	808
5月末日	4,432,238.08	333,659	10.590	797
6月末日	4,463,685.73	336,026	10.636	801
7月末日	4,471,441.84	336,610	10.782	812
8月末日	4,191,381.93	315,527	10.155	764
9月末日	4,224,084.24	317,989	10.222	770
10月末日	4,105,361.78	309,052	10.186	767

＜ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券＞

	純資産価額		1口当たり純資産価格	
	(ユーロ)	(千円)	(ユーロ)	(円)
第1会計年度末 (2014年6月末日)	2,461,316.80	298,952	10.463	1,271
第2会計年度末 (2015年6月末日)	2,291,896.26	278,374	10.072	1,223
第3会計年度末 (2016年6月末日)	1,629,381.23	197,905	9.183	1,115
第4会計年度末 (2017年6月末日)	1,349,993.60	163,970	9.907	1,203
第5会計年度末 (2018年6月末日)	1,040,801.60	126,416	9.347	1,135
第6会計年度末 (2019年6月末日)	768,129.56	93,297	9.461	1,149
2018年11月末日	812,247.43	98,656	9.502	1,154
12月末日	807,309.70	98,056	9.444	1,147
2019年1月末日	814,558.93	98,936	9.530	1,158
2月末日	824,082.22	100,093	9.641	1,171
3月末日	807,320.42	98,057	9.445	1,147
4月末日	819,272.65	99,509	9.585	1,164
5月末日	806,525.96	97,961	9.436	1,146
6月末日	768,129.56	93,297	9.461	1,149
7月末日	758,457.20	92,122	9.578	1,163
8月末日	713,717.89	86,688	9.013	1,095
9月末日	717,365.60	87,131	9.059	1,100
10月末日	714,217.97	86,749	9.019	1,095

＜参考情報＞

純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格の推移

＜米ドル建て受益証券＞

(2013年9月13日(運用開始日)～2019年10月末日)



＜豪ドル建て(ヘッジあり)受益証券＞

(2013年9月13日(運用開始日)～2019年10月末日)



＜ユーロ建て(ヘッジあり)受益証券＞

(2013年9月13日(運用開始日)～2019年10月末日)



※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を保証または示唆するものではない。

②【分配の推移】

該当事項なし。

③【収益率の推移】

<米ドル建て受益証券>

期間	収益率（注）
第1会計年度 （2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日）	4.95%
第2会計年度 （2014年7月1日～2015年6月末日）	-3.34%
第3会計年度 （2015年7月1日～2016年6月末日）	-8.05%
第4会計年度 （2016年7月1日～2017年6月末日）	9.64%
第5会計年度 （2017年7月1日～2018年6月末日）	-3.10%
第6会計年度 （2018年7月1日～2019年6月末日）	4.42%

<豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券>

期間	収益率（注）
第1会計年度 （2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日）	6.29%
第2会計年度 （2014年7月1日～2015年6月末日）	-1.31%
第3会計年度 （2015年7月1日～2016年6月末日）	-7.75%
第4会計年度 （2016年7月1日～2017年6月末日）	10.04%
第5会計年度 （2017年7月1日～2018年6月末日）	-3.35%
第6会計年度 （2018年7月1日～2019年6月末日）	3.34%

＜ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券＞

期間	収益率（注）
第1会計年度 （2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日）	4.63%
第2会計年度 （2014年7月1日～2015年6月末日）	-3.74%
第3会計年度 （2015年7月1日～2016年6月末日）	-8.83%
第4会計年度 （2016年7月1日～2017年6月末日）	7.88%
第5会計年度 （2017年7月1日～2018年6月末日）	-5.65%
第6会計年度 （2018年7月1日～2019年6月末日）	1.22%

（注）収益率（％）＝ $100 \times (a - b) / b$

a＝会計年度末の1口当たり純資産価格（当該期間の分配金（税引前）の合計額を加えた額）

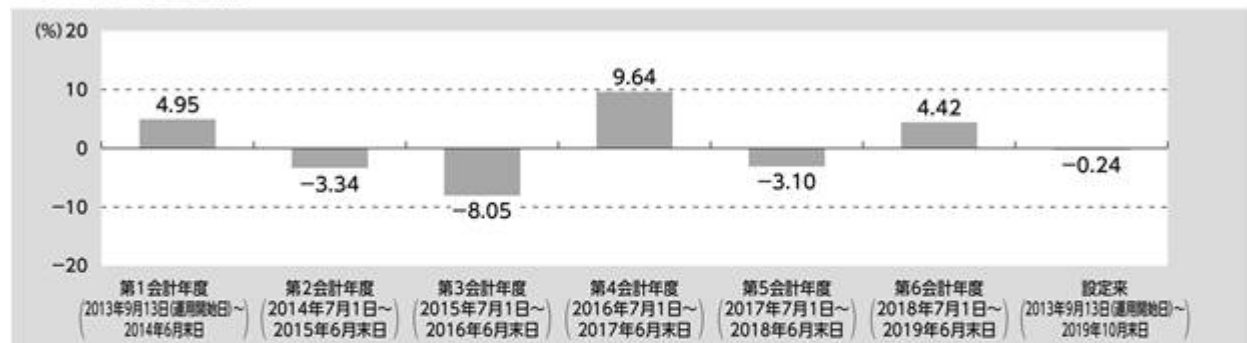
b＝当該会計年度の直前の会計年度末の1口当たり純資産価格（分配落の額）

（第1会計年度の場合、1口当たり当初発行価格（米ドル建て受益証券：10米ドル、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券：10豪ドル、ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券：10ユーロ））

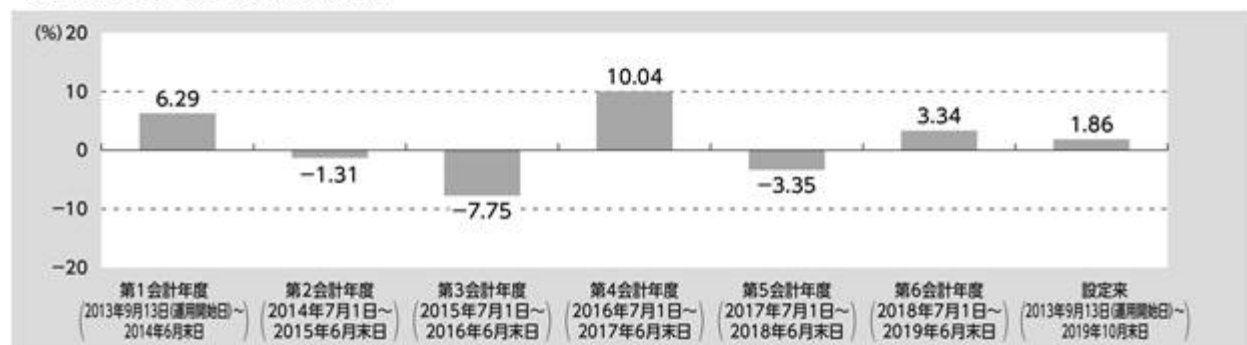
<参考情報>

収益率の推移

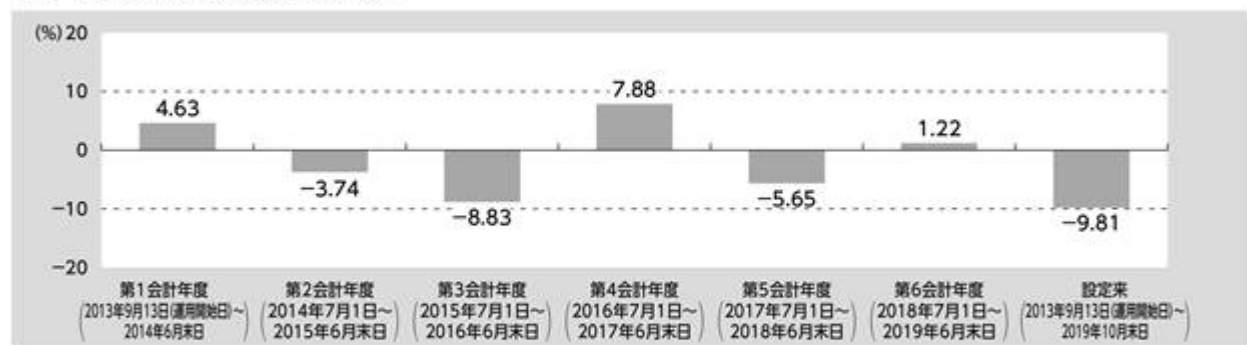
<米ドル建て受益証券>



<豪ドル建て(ヘッジあり)受益証券>



<ユーロ建て(ヘッジあり)受益証券>



(注) 収益率(%)=100×(a-b)÷b

a = 会計年度末(または上記期間末)の1口当たり純資産価格(当該期間の分配金(税引前)の合計額を加えた額)

b = 当該会計年度の直前の会計年度末(または当該期間の直前の営業日)の1口当たり純資産価格(分配前の額)

(第1会計年度および設定来の場合、1口当たり当初発行価格(米ドル建て受益証券:10米ドル、豪ドル建て(ヘッジあり)受益証券:10豪ドル、ユーロ建て(ヘッジあり)受益証券:10ユーロ))

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

（４）【販売及び買戻しの実績】

下記会計年度における販売および買戻しの実績ならびに下記会計年度末日現在の発行済口数は、次のとおりである。

<米ドル建て受益証券>

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度 (2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日)	5,649,999.225 (5,649,999.225)	1,152,275.410 (1,152,275.410)	4,497,723.815 (4,497,723.815)
第2会計年度 (2014年7月1日～ 2015年6月末日)	988,912.962 (988,912.962)	1,652,866.295 (1,652,866.295)	3,833,770.482 (3,833,770.482)
第3会計年度 (2015年7月1日～ 2016年6月末日)	95,047.671 (95,047.671)	1,357,480.370 (1,357,480.370)	2,571,337.783 (2,571,337.783)
第4会計年度 (2016年7月1日～ 2017年6月末日)	115,643.499 (115,643.499)	1,052,798.202 (1,052,798.202)	1,634,183.080 (1,634,183.080)
第5会計年度 (2017年7月1日～ 2018年6月末日)	46,248.094 (46,248.094)	497,161.818 (497,161.818)	1,183,269.356 (1,183,269.356)
第6会計年度 (2018年7月1日～ 2019年6月末日)	72,941.181 (72,941.181)	218,967.255 (218,967.255)	1,037,243.282 (1,037,243.282)

<豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券>

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度 (2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日)	1,469,342.234 (1,469,342.234)	318,356.255 (318,356.255)	1,150,985.979 (1,150,985.979)
第2会計年度 (2014年7月1日～ 2015年6月末日)	262,602.779 (262,602.779)	605,740.732 (605,740.732)	807,848.026 (807,848.026)
第3会計年度 (2015年7月1日～ 2016年6月末日)	250,329.765 (250,329.765)	225,302.621 (225,302.621)	832,875.170 (832,875.170)
第4会計年度 (2016年7月1日～ 2017年6月末日)	25,505.490 (25,505.490)	464,264.185 (464,264.185)	394,116.475 (394,116.475)
第5会計年度 (2017年7月1日～ 2018年6月末日)	18,400.459 (18,400.459)	92,166.056 (92,166.056)	320,350.878 (320,350.878)
第6会計年度 (2018年7月1日～ 2019年6月末日)	133,469.880 (133,469.880)	34,143.649 (34,143.649)	419,677.109 (419,677.109)

＜ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券＞

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度 (2013年9月13日（運用開始日）～ 2014年6月末日)	269,404.269 (269,404.269)	34,165.676 (34,165.676)	235,238.593 (235,238.593)
第2会計年度 (2014年7月1日～ 2015年6月末日)	42,476.626 (42,476.626)	50,167.189 (50,167.189)	227,548.030 (227,548.030)
第3会計年度 (2015年7月1日～ 2016年6月末日)	13,310.936 (13,310.936)	63,432.042 (63,432.042)	177,426.924 (177,426.924)
第4会計年度 (2016年7月1日～ 2017年6月末日)	5,477.811 (5,477.811)	46,640.242 (46,640.242)	136,264.493 (136,264.493)
第5会計年度 (2017年7月1日～ 2018年6月末日)	3,366.996 (3,366.996)	28,280.529 (28,280.529)	111,350.960 (111,350.960)
第6会計年度 (2018年7月1日～ 2019年6月末日)	315.060 (315.060)	30,476.975 (30,476.975)	81,189.045 (81,189.045)

（注1）括弧内の数字は、本邦内における販売口数、買戻口数および発行済口数を表す。

（注2）第1会計年度の販売口数は、当初申込期間（2013年8月30日から2013年9月11日まで）中の販売口数を含む。

（注3）本「（4）販売及び買戻しの実績」の数値は、財務書類と基準時点や端数処理方法が異なるため、財務書類の数値とは一致していない（「第3 ファンドの経理状況、1 財務諸表」の財務諸表に対する注記10参照。）。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）海外における販売

申し込むことができる受益証券の価額の最大総額は、10億米ドル相当額である。

制裁

受託会社は、適用ある制裁制度の対象である団体、個人、組織および／または投資との間で受託会社が取引を行うことを制限する法律の対象となっている。

したがって、受託会社は、申込者に対して、同者が次に掲げる(i)から(iii)に掲げるものに該当せず、および、同者が知り得、または信じ得る限りにおいて、同者の実質的な所有者、支配者または権限保持者（以下「関連当事者」という。）（もしあれば）が次に掲げる(i)から(iii)に掲げるものに該当しない旨を継続的に表明および保証することを要求する。(i) 米国財務省外国資産管理局（以下「OFAC」という。）によって整備され、もしくは欧州連合（以下「EU」という。）および／もしくは連合王国（以下「英国」という。）の規則に基づく制裁対象団体もしくは制裁対象個人の名簿に列挙されるもの（後者については、行政委任立法によってケイマン諸島に対しても拡張されていることによる。）、(ii) その国もしくは領域に関連して、国際連合、OFAC、EUおよび／もしくは英国によって発動された制裁の適用がある国もしくは領域において、業務上の拠点を有しており、もしくは住所を有しているもの、または(iii) その他の国際連合、OFAC、EUもしくは英国によって発動された制裁の対象であるもの（後者については、行政委任立法によってケイマン諸島に対しても拡張されていることによる。）（以下、総称して、「制裁対象者」という。）。

申込者または関連当事者が制裁対象者であり、または制裁対象者となった場合、受託会社は、直ちに、および申込者に対して通知することなく、申込者が制裁対象者ではなくなるまで、または適用法に基づき当該取引を継続するための許可が取得されるまで、申込者および／または申込者のサブ・ファンドに対する持分と追加の取引を行うことを中止することが必要となることがある（以下「制裁対象者事由」という。）。制裁対象者事由の結果申込者が被る一切の債務、経費、費用、損害および／または損失（直接損失、非直接損失または間接損失、利益の損失、収入の損失、外部評価の損失ならびにすべての利息、違約金および弁護士費用ならびに他の専門家の経費および費用を含むが、これらに限られない。）に関して、受託会社、その取締役、管理事務代行会社および管理会社は、いかなる性質の債務も負わないものとする。

米国の課税

受益証券を買い付けることにより、各投資者は、各投資者が米国の連邦所得税の目的における米国人ではないことおよび各投資者が米国の連邦所得税の目的における米国人に対して受益証券を譲渡しないことを表明する。

申込

受益証券は、以下に記載する場合を除き、各取得日における適用ある申込価格で申し込むことができる。

受益証券1口当たり申込価格は、当該取得日現在の関連するクラスの適用ある受益証券1口当たり純資産価格である。

手続

受益証券の申込者および追加の受益証券の申込みを希望する受益者は、記入済の申込書または名義書換代理人が随時決定するその他の様式を（必要に応じて申込者の身元および申込金の資金源を証明する補足書類と併せて）、名義書換代理人によって関連する取得日に関する申込日の17時（東京時間）までに受領されるように送付しなければならない。当該受益証券に係る支払いは、関連する取得日の後3営業日目の17時（東京時間）までに販売会社によって名義書換代理人またはその指図先に対して行われるものとする。ただし、管理会社および該当する販売会社は、かかる決済の期限を、特定の場合において両者が必要とみなすその他の日時まで延長することを合意することができる。

すべての申込金は、申込者名義で保有される口座から払い出されなければならない。第三者方払いは認められない。

受益証券は、管理会社が特定の場合について別途決定した場合を除き、各受益証券の参照通貨建てで支払われなければならない。

受益証券の取得申込みは、関連する参照通貨を参照して表示されなければならない。発行される関連する受益証券の口数を決定するため、申込金額を、適用ある取得日における該当クラスの受益証券1口当たり純資産価格で除す。上記にかかわらず、管理会社と受益者が合意した場合には、取得申込みは、受益証券口数を参照して表示することができる。

受益証券は、受益証券の1,000分の1口単位までの端数により発行されることができる。

受託会社、名義書換代理人または管理会社は、それぞれの絶対的な裁量において、何らかの理由によりまたは理由なしに申込を拒絶することができ、かかる理由を開示する義務を負わない。記入済の申込書は、一旦名義書換代理人により受領された場合、撤回不能となる。名義書換代理人は、記入済の申込書の原本ならびに要求される場合は申込者の身元および申込金の資金源の証明に必要なすべての書類を受領した後に、受理された申込者に対して、所有確認書を発行する。名義書換代理人が所有確認書の発行を認める前に、名義書換代理人が申込者からの追加情報が必要であると判断した場合、名義書換代理人は、申込者に対して書面による通知を行い、必要な情報を請求する。

疑義を避けるため付言すると、要求された申込者の身元および申込金の資金源の証明に必要なすべての情報および書類が受領されるまで、受益証券の申込は処理されず、受益証券は発行されない。名義書換代理人が関連する取得日から1か月以内にかかる情報および書類を受領しない場合、受領された申込金は、利息を付することなく、当該申込金の払出口座に返金される。

受益証券の申込みが受け付けられた場合、関連する取得日後までかかる受益証券の申込者が受益者名簿に記載されない場合であっても、受益証券は、関連する取得日を効力発生日として、発行されたものとして取扱われる。

非適格申込者

申込書は、各申込予定者が、とりわけ、各自が適格投資家であり、かつ適用ある法律に違反することなく受益証券の取得および保有を行うことができる旨を表明し、保証することを要求する。

受益証券は、管理会社の意見において、サブ・ファンドが本来負担することのない納税義務を負い、または本来被ることのないその他の金銭的な不利益を被る可能性がある状況においては、いかなる者に対しても募集され、または発行されることができない。

受益証券の申込者は、とりわけ、サブ・ファンドに対する投資のリスクを評価するための金融に関する知識、専門能力および経験を有し、サブ・ファンドが投資する資産への投資に伴うリスクならびに当該資産の保有および／または取引の方法を認識し、またサブ・ファンドに対するそのすべての投資の損失を負うことができる旨を申込書において表明し、保証しなければならない。

受益証券の様式

すべての受益証券は、記名式受益証券である。受益者の権原は、受益証券の券面ではなく、受益者名簿への記載により証明される。

最低申込金額

最低追加申込金額は、（i）米ドル建て受益証券については100米ドル以上0.01米ドル単位、（ii）豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券については100豪ドル以上0.01豪ドル単位、および（iii）ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券については100ユーロ以上0.01ユーロ単位、または管理会社が一般的にもしくは特定の場合において決定するその他の金額とする。

上記にかかわらず、管理会社と該当する販売会社が合意した場合には、申込者1人当たりの最低申込金額は、米ドル建て受益証券0.001口以上米ドル建て受益証券0.001口単位、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券0.001口以上豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券0.001口単位、およびユーロ建て（ヘッジあり）受益証券0.001口以上ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券0.001口単位とすることができる。

（2）日本における販売

日本においては、有価証券届出書「第一部 証券情報、（７）申込期間」に記載される申込期間中の日本における営業日に、同「第一部 証券情報」に従い、受益証券の申込みが行われる。その場合、販売会社は、「外国証券取引口座約款」を投資者に交付し、投資者は、当該約款に基づく取引口座の設定を申し込む旨を記載した申込書を提出する。投資者は、申込期間中の申込みに関しては関連する取得日の後３営業日目に、申込金額等を販売会社に支払うものとする。

なお、日本における販売会社であるＳＭＢＣ信託銀行では、通常申込の日に申込金額等の引き落としを行う。

申込単位（購入単位）は、販売会社が（管理会社と合意のうえ）随時決定しかつ投資者に申込み前に通知する発行最低価額とする。申込単位（購入単位）の詳細については、販売会社に照会のこと。

日本の受益者は、関連する取得日に関する申込日の15時（東京時間）までに販売会社に通知を行うことにより、受益証券の購入を請求することができる。

販売会社により、受益証券の取得申込みにあたって、上限2.20パーセント（税抜2.00パーセント）の申込手数料が課される。申込手数料の詳細については、販売会社に照会のこと。

（注１）管理会社と販売会社が随時合意することによりこれと異なる取り決めを行うことができる。

（注２）申込手数料については、販売会社の定める乗換優遇措置または償還乗換優遇措置が適用される場合がある。

（注３）円資金から該当通貨に交換したうえでお申し込みの場合、別途、為替手数料が片道１円／往復２円（上限）かかる。

（注４）手数料率は、消費税率に応じて変更となることがある。

申込可能な受益証券の価額の最大総額は、10億米ドル相当額とする。

投資者は、受益証券の保管を販売会社に委託した場合、申込金額および申込手数料の支払いと引換えに、取引残高報告書または他の通知書を販売会社から受領する。申込金額の支払いは、受益証券の関連するクラスの参照通貨で支払うものとする。

なお、日本証券業協会の協会員である販売会社は、ファンドの純資産が１億円未満となる等、同協会の定める「外国証券の取引に関する規則」中の「外国投資信託受益証券の選別基準」に受益証券が適合しなくなったときは、受益証券の日本における販売を行うことができない。

販売会社は、申込者が過度な取引を行った履歴がある場合、受益証券の取得申込注文を、その単独の判断において拒否する合理的な努力を行うことについて合意している。受益証券の短期取引をすべて防止できる保証はない。

２【買戻し手続等】

（１）海外における買戻し

以下に定めるところに従い、受益証券は、各買戻日において受益者の任意により買い戻されることができる。

受益証券の買戻しを希望する受益者は、記入済の買戻通知または名義書換代理人が随時決定するその他の通知を、関連する買戻日に関する申込日の17時（東京時間）までに名義書換代理人によって受領されるように送付しなければならない。

いずれの受益者も、管理会社または名義書換代理人が別段に同意しない限り、一旦提出した買戻通知を撤回することはできない。

いずれかの受益者がいずれかの買戻日に買い戻すことのできる受益証券の最小口数は、１口以上1,000分の１口単位である。ただし、受益者が保有する受益証券の総計が１口に満たない場合、保有者はその全部を買戻しに供することができる。

受託会社、管理会社または名義書換代理人は、その絶対的な裁量において、いずれかの受益者に対する買戻代金の支払いによって、関連する法域においていずれかの者がマネー・ロンダリング防止に関する法律に抵触または違反する結果となる疑いがあると判断しもしくはその旨の助言を受けた場合、またはかかる支払いの拒絶が、受託会社、管理会社または名義書換代理人による関連する法域のマネー・ロンダリング防止に関する法律の遵守を確保するのに必要である場合、当該受益者に対する買戻しの支払いを拒絶することができる。

買戻通知が受け付けられた場合、当該買戻通知が受け付けられた受益者が受益者名簿から削除されたか否かにかかわらず、または買戻価格が算定され、もしくは支払われたか否かにかかわらず、関連する買戻日を効力発生日として、受益証券は、買い戻されたものとして取り扱われる。したがって、関連する買戻日以後、当該資格における受益者は、（いずれも買い戻される受益証券に関して）買戻価格および関連する買戻日より前に宣言されたが、未払いである分配金を受領する権利を除くほか、買い戻される受益証券に関して、信託証書または追補信託証書に基づき発生する一切の権利（サブ・ファンドについて通知を受ける権利、サブ・ファンドの集会に出席する権利またはサブ・ファンドの集会において投票する権利を含む。）を有さず、またはかかる権利を行使することができない。当該買戻通知が受け付けられた受益者は、買戻価格に関して、サブ・ファンドの債権者となる。倒産による清算において、買戻通知が受け付けられた受益者は、一般の債権者に対して劣後するが、受益者に対して優先する。

買戻価格

買戻しが行われる受益証券1口当たりの買戻価格（以下「受益証券1口当たり買戻価格」という。）は、関連する買戻日における受益証券の該当するクラスの受益証券1口当たり純資産価格とする。

決済

名義書換代理人は、通常、買戻代金（送金費用の控除後）を、関連する買戻日から8営業日以内に関連する受益証券の通貨により受益者の指図に応じて電信送金する。受託会社または管理会社のいずれも、かかる手続に従った結果として発生する損失につき責任を負わない。買戻代金は、関連する買戻日から実際の支払いまでの期間に関して利息を付されない。

買戻しの繰延べ

ある関連する買戻日における買戻請求の総額が発行済受益証券の10パーセントを上回った場合、管理会社は、当該買戻日に買い戻すことのできる受益証券の総口数を当該買戻日における発行済受益証券の10パーセントに制限することを選択することができる。同様に、マスター・ファンドが買戻しの一時停止を宣言するか、または類似の措置を講じ、サブ・ファンドがある買戻日に関して受領したすべての買戻通知をすべて充足するのに必要な十分な投資対象を買い戻すことができない場合、管理会社は、受託会社に対し、当該買戻日に買い戻すことのできる各クラスの受益証券の口数を管理会社が決定する口数に制限するよう要求することができる。いずれの場合も、買戻請求は按分して減じられ、残りの部分は、翌買戻日において、当該買戻日に受領された買戻請求に優先して買い戻される（かかる権限に従い当該買戻日の買戻しが制限された場合には、常に、さらなる繰延べが行われるものとする。）。

一時停止

受託会社は、管理会社と協議の上、「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、（1）資産の評価、（ロ）純資産価額の算定の一時的停止」の項に記載される一定の状況において、受益証券の発行および／または買戻しを停止することができる。いずれの受益証券も、かかる停止期間中に発行され、および／または買い戻されることはない（該当する方）。

強制買戻しおよび譲渡

受託会社は、いつでも影響を受ける受益者に対して事前の書面による通知を行うことにより、適用ある買戻価格（送金費用の控除後）により、関連する買戻日において、当該受益者によって保有されるすべてのまたはいずれかの受益証券を買い戻すことができる。かかる強制買戻しは、以下に掲げる状況において行われることができる。

- (a) 受益証券が、直接または実質的に以下の者によって所有されていると受託会社もしくは管理会社が認識し、またはそのように認識することについて理由がある場合。
- (i) いずれかの国、政府、司法または財務当局の法律、規制または法的拘束力を有する要件に違反する者
 - (ii) 関連するサブ・ファンドについて適格投資家でない者、または関連するサブ・ファンドに関する適格投資家でない者の利益のために受益証券を取得した者
 - (iii) 受託会社または管理会社の意見において関連するサブ・ファンドの信託財産、受託会社または管理会社が本来であれば負うはずのない納税責任を負い、または法律上、金銭上、規制上もしくは重大な運営上、結果的に不利益を被ることになると受託会社または管理会社が判断する状況下にある者
- (b) 受益証券が、受益者に対して、後記「第一部 ファンド情報、第4 外国投資信託受益証券事務の概要、(ハ) 受益者に対する特典、譲渡制限」の項に要約される信託証書の適用ある規定に違反して譲渡された場合。

(2) 日本における買戻し

「買戻日」とは、各営業日および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。

受益証券は、以下に定める手続に従って、各買戻日に、かかる買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格で買い戻すことができる。

受益者がいずれかの買戻日に買い戻すことのできる受益証券の最小口数は、1口以上1,000分の1口単位である。ただし、受益者が保有する受益証券の総計が1口に満たない場合、保有者はその全部を買戻しに供することができる。

日本の受益者は、関連する買戻日に関する申込日（買戻申込期限）の15時（東京時間）までに販売会社に通知を行うことにより、受益証券の買戻しを請求することができる。買戻請求は当該申込日の17時（東京時間）までに名義書換代理人に申込まなければならない。

販売会社が買戻しの注文を確認した日を日本における約定日といい、通常、買戻日の日本における翌営業日である。

日本の投資者に対する買戻代金の支払いは、通常、買戻日から8営業日以内の海外受渡日のさらに日本における2営業日後の日に行われる（日本における受渡日）。したがって、関連する買戻日から2週間余（9営業日後を目途）で受益者の口座へ入金される予定である。

買戻代金の支払いは、外国証券取引口座約款の定めるところに従って、関連する受益証券の通貨により行われるものとする。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

(イ) 純資産価額の算定

管理事務代行会社は、各営業日に、受益証券1口当たり純資産価格を算定し、これを公表する。

受益証券1口当たり純資産価格は、特定のクラスの受益証券に帰属する純資産価額（必要な通貨換算後）を当該クラスの発行済受益証券の口数で除すことにより算定される。受益証券1口当たり純資産価格は、小数第3位または管理会社が受託会社と協議の上決定するその他の位まで計算される。

純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格の算定において、管理事務代行会社は、以下の評価方針および手続に従う。

- (a) 下記(b)および(c)の規定に従い、証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場において上場され、相場付けされ、取引され、または取り扱われている投資対象の価額に基づくすべての計算は、管理事務代行会社により、当該計算が行われる日、または評価日が当該投資対象の主要な取引所の営業日でない場合は、評価日に先立つ当該取引所の直近の営業日の当該取引所の営業終了時点における、当該取引所におけるその現地の規則および慣行に基づく最終取引価格または公式終値を参照して行われる。特定の投資対象について証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場が存在しない場合、当該投資対象の価額は、当該投資対象のマーケット・メイクを行う者、会社または機関（およびかかるマーケット・メーカーが複数存在する場合には、管理会社が受託会社と協議の上指定する特定のマーケット・メーカー）により相場付けされた当該投資対象の最新の入手可能な価格を参照して計算される。ただし、常に、管理会社が受託会社と協議の上その裁量において、他の取引所における価格、またはブルームバーグ、インタラクティブ・データ・コーポレーションを含む独立したデータ提供業者により提供された価格の方が、あらゆる状況において、当該投資対象に関してより公正な評価基準を提供するものと判断した場合、管理会社は、当該価格の採用を指示することができる。
- (b) 上記(a)の規定に従い最終取引価格、公式終値およびその他の価格相場を入手することができない場合には、関連する投資対象の価額は、管理会社が（受託会社と協議の上）決定する方法で随時算定される。
- (c) 上記(a)または(b)に従い投資対象の上場価格、相場価格、取引価格または市場取引価格を確認する目的において、管理事務代行会社は、機械化および／または電子化された価格配信システムにより提供された価格データおよび／または情報を利用し、それらに依拠することができ、かかるシステムにより提供された価格は、上記(a)または(b)の目的上、最終取引価格、公式終値または最新の入手可能な価格とみなされる。
- (d) 短期金融市場の投資対象および銀行預金は、取得価額に経過利息を加えた額で評価される。
- (e) 基準通貨以外の通貨建ての投資対象の価額（有価証券の価額であるか現金の価額であるかを問わない。）は、管理事務代行会社が関係するプレミアムまたは割引および交換費用を考慮した上で当該状況において適切とみなすレート（公式のものであるかその他のものであるかにかかわらず。）で基準通貨に換算されるものとする。
- (f) スワップ取引およびその他の店頭デリバティブ取引／商品は、その予想キャッシュ・フローの正味現在価値に基づき評価される。かかるスワップ取引またはその他の店頭デリバティブ取引／商品の計算代理人が取引相手方も務める場合、かかる兼任に起因して生じる利益相反を回避するため、管理会社またはその受任者は、純資産価額の算定と同じかそれ以上の頻度で、かかる評価に関する許容度チェックを実施する義務を負う。
- (g) 上記にかかわらず、管理会社は（受託会社と協議の上）、他の評価方法の方が関連する投資対象の公正価値をより反映すると判断した場合、当該他の評価方法の利用を許可することができる。

受託会社または管理事務代行会社による純資産価額（受益証券1口当たり純資産価格を含む。）の算定は、すべて、悪意または明白な誤りがない限り、最終的、確定的かつ拘束力を有する。悪意および明白な誤りがなく、受託会社および管理事務代行会社は、第三者が提供した評価に依拠して行った純資産価額（受益証券1口当たり純資産価格を含む。）の算定における誤りについて何ら責任を負わない。受託会社お

よび管理事務代行会社は、認められた価格情報源、評価代理人またはその他の第三者が受託会社または管理事務代行会社（場合に応じる。）に提供した評価に依拠することができ、悪意または明白な誤りがない限り、かかる依拠について何ら責任を負わない。

（ロ）純資産価額の算定の一時停止

受託会社は（管理会社と協議の上）、以下に掲げる状況において、いずれかのサブ・ファンドの純資産価額または受益証券1口当たり純資産価格の決定、ならびに／またはいずれかのサブ・ファンドの受益証券の発行および／もしくは買戻しを停止することができる。

- （a）当該サブ・ファンドの信託財産中の投資対象の相当部分が当該時に相場付けされ、上場され、取引されもしくは取扱いされている主要な市場または取引所であるいずれかの市場または取引所が閉鎖している期間（通常の休日を除く。）または取引が相当程度に制限されもしくは停止している期間
- （b）緊急事態により受託会社によるまたは受託会社のための当該サブ・ファンドの信託財産内の投資対象の現実的な処分が妨げられている期間
- （c）当該サブ・ファンドについて指定されるいずれかのシリーズ会社の純資産価額の計算または当該シリーズ会社の投資対象を買い戻す権利もしくは買い戻させる権利が停止している期間
- （d）当該サブ・ファンドのいずれかの投資対象の価格またはいずれかの市場もしくは取引所の現行価格を算定するのに通常使用している通信手段が故障している期間
- （e）当該サブ・ファンドのいずれかの投資対象の換金または支払いに伴うまたはその可能性のある金銭の送金を行うことができない期間
- （f）管理会社に対して当該サブ・ファンドの信託財産を構成する資産の相当な割合を清算させまたは当該サブ・ファンドを終了させる事由の発生
- （g）管轄を有するいずれかの司法当局または監督当局により命令された場合

受託会社は、上記の停止が発生した場合、当該停止から7日以内に関係するサブ・ファンドの受益者全員が書面により通知を受けることを確保し、また停止が解除された場合、その旨を当該サブ・ファンドの受益者全員に通知するものとする。

以上に記載される状況において、純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格の決定ならびに／または受益証券の発行および／もしくは買戻しを一時停止（以下「一時停止」という。）する権限に加えて、受託会社は（管理会社と協議の上（ただし、下記(g)に記載される場合は除く。）、以下に掲げる場合において、ある期間の全部または一部に関して一時停止を宣言することができる。

- （a）サブ・ファンドが投資する市場および／またはサブ・ファンドが投資する投資対象の一部または全部が非常に激しく変動し、またはその流動性が著しく低下したため、合理的な期間にわたって、サブ・ファ

ンドの投資対象の大部分を処分することが合理的に実行可能ではないと管理会社はその単独の裁量において判断した場合

- (b) 純資産価額および／もしくは受益証券1口当たり純資産価格を決定するのに通常使用している通信システムおよび／もしくは通信手段が故障している場合、またはその他の理由により、純資産価額および／もしくは受益証券1口当たり純資産価格が迅速もしくは正確な方法で確認することができない場合
- (c) サブ・ファンドの投資対象の換金もしくは支払い、または受益証券の発行もしくは買戻しに伴うまたはその可能性のある資金の送金または本国送金が、遅延しているか、または管理会社の意見によれば、通常の為替レートで迅速に実行することが不可能である場合
- (d) 管理会社、受託会社、管理事務代行会社またはそれらの各受任者の業務が、疫病、戦争行為、テロ行為、反乱、革命、市民騒擾、暴動、ストライキもしくは天変地異の結果として、またはこれらに起因して、実質的に中断または終了した場合
- (e) 受益証券の発行、買戻しもしくは譲渡により適用ある法律に違反することとなるか、または管理会社の意見によれば、一時停止もしくは延長が適用ある法律もしくは適用ある法的手続により要求された場合
- (f) 管理会社の意見によれば、結果として、サブ・ファンドの投資対象の評価もしくは換金が合理的に実行可能ではないか、または受益者の利益を著しく害することなくかかる評価もしくは換金を行うことが不可能な状況が存在する場合
- (g) サブ・ファンドが保有するマスター・ファンドへの投資対象の一部または全部を換金することが合理的に実行可能ではないと受託会社はその単独の裁量により判断した場合

(2) 【保管】

海外において販売される受益証券については、受益証券の確認書が受益者の責任において保管される。

日本の投資者に販売される受益証券の確認書は、販売会社の名義で保管され、日本の投資者に対しては、販売会社から受益証券の取引残高報告書が定期的に交付される。

(3) 【信託期間】

「第一部 ファンド情報、第2 管理及び運営、3 資産管理等の概要、(5) その他、(イ) トラストまたはサブ・ファンドの終了」の項に定める規定に従い、または本書に記載されるその他の状況において、早期に終了する場合を除き、サブ・ファンドは償還日または受託会社および管理会社が決定するその他の日に終了する予定である。償還日とは、2157年10月21日または管理会社および受託会社が合意したこれよりも早い日という。

(4) 【計算期間】

サブ・ファンドの計算期間は、各年の6月30日に終了する。

(5) 【その他】

(イ) トラストまたはサブ・ファンドの終了

サブ・ファンドは、以下のいずれかの事項が最初に発生した場合に終了する。

- (a) 当該サブ・ファンドが違法となるか、または受託会社もしくは管理会社の意見において、当該サブ・ファンドを継続させることが実行不能であり、経済的ではなく、得策ではなくもしくは当該サブ・ファンドの受益者の利益に反する場合
- (b) 上記「(3) 信託期間」の項に規定される日付または条件に該当する場合
- (c) 任意または強制的買戻しのいずれかを問わず当該サブ・ファンドのすべての発行済受益証券が買い戻されている場合
- (d) 当該サブ・ファンドの受益者がサブ・ファンド決議により決定した場合
- (e) 信託証書の日付より開始しその149年後に満了する期間の最終日である場合

サブ・ファンドが終了した場合、受託会社は、当該サブ・ファンドの受益者全員に対して、速やかに当該終了の通知を行う。

(ロ) 信託証書の変更

信託証書に定める条項に従って、受託会社および管理会社は、関連するサブ・ファンドの受益者に対して書面による通知（かかる通知はサブ・ファンド決議によって免除されることができる。）をした上で、追補信託証書により、当該サブ・ファンドに関連する信託証書の規定を変更し、修正し、または追加することができる。

管理会社および受託会社が、(i) 受託会社がかかる修正、変更、削除、追加によっても関連するサブ・ファンドの既存の受益者の利益を重要な点において損うことがなく、また当該サブ・ファンドの受益者に対する管理会社または受託会社の責任は免除されないか、または(ii) かかる修正、変更、削除、追加が、会計上、法律上もしくは当局の要求（法律による強制を伴うものかどうかは問わない。）により必要であると判断することを書面で保証しない限り、かかる修正、変更、削除、追加を行うには当該サブ・ファンドのサブ・ファンド決議による修正、変更、削除、追加にかかる承認を得ることを要するものとする。上記(i) または(ii) の項に基づき行われる信託証書の変更は、変更が行われた後可能な限り速やかに関連する受益者に対して通知される。信託証書の修正、変更、削除、追加は、受益者に対して保有する受益証券に関して追加の支払義務を課すものであってはならない。

(ハ) 関係法人との契約の更改等に関する手続

管理事務代行契約

管理事務契約に定めるところにより、受託会社または管理事務代行会社のいずれも、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより、およびその他一定の状況において管理事務代行契約を終了させることができる。

管理事務代行契約は、香港の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

投資運用契約

投資運用契約に定めるところにより、投資運用契約の各当事者は、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより、およびその他一定の状況において投資運用契約を終了させることができる。

投資運用契約は、ケイマン諸島の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

保管契約

受託会社または保管会社のいずれも、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより保管契約を終了させることができる。

保管契約は、保管会社が所在し、保管契約に基づく義務を履行する国の国内法に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

名義書換代理契約

名義書換代理契約に定めるところにより、名義書換代理契約の各当事者は、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより、およびその他一定の状況において名義書換代理契約を終了させることができる。

名義書換代理契約は、香港の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

代行協会員契約

代行協会員契約は、一方当事者から他方当事者に対し、3か月以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

同契約は、日本国の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

受益証券販売・買戻契約

受益証券販売・買戻契約は、一方当事者から他方当事者に対し、3か月以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

同契約は、日本国の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

サービス契約

サービス契約は、一方当事者から他方当事者に対し、3か月以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

同契約は、日本国の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

4【受益者の権利等】

（1）【受益者の権利等】

受益者が管理会社または受託会社に対し受益権を直接行使するためには、受益証券の名義人として登録されていなければならない。

したがって、販売会社に受益証券の保管を委託している日本の受益者は、受益証券の登録名義人でないため、直接受益権を行使することはできない。これらの日本の受益者は、販売会社との間の外国証券取引口座約款に基づき販売会社をして受益権を自己に代わって行使させることができる。受益証券の保管を販売会社に委託しない日本の受益者は、本人の責任において権利行使を行う。

受益者の有する権利は次のとおりである。受益証券の買戻しおよびサブ・ファンドの終了に関する金額の分配および支払はそれまでにサブ・ファンドのすべての債務を払い終えることに劣後する。

（i）分配請求権

受益者は、管理会社の決定したサブ・ファンドの分配金を、受益証券の口数に応じて請求する権利を有する。

（ii）買戻請求権

受益者は、受益証券の買戻しを信託証書の規定および本書の記載に従って請求することができる。

（iii）残余財産分配請求権

サブ・ファンドが清算される場合、受益者は、保有する受益証券の持分に応じて残金財産の分配を請求する権利を有する。

（iv）受益者集会に関する権利

受託会社または管理会社は、以下に掲げる場合において、トラストまたは関連するサブ・ファンド（場合による。）の受益者集会を、当該集会の招集通知に定める時間および場所において招集する。

- (a) 信託証券の規定により要求される場合
- (b) 管理会社または受託会社の書面による請求がある場合
- (c) （全受益者集会の場合）当該時点において発行済受益証券の合計10分の1以上の保有が登録されている受益者の書面による請求がある場合
- (d) （いずれかのサブ・ファンドの受益者集会の場合）当該サブ・ファンドの当該時点において発行済受益証券の合計10分の1以上の保有が登録されている受益者の書面による請求がある場合

集会は、トラストまたは関連するサブ・ファンドの受益者に対して中10日以上前の事前の通知により招集されなければならない。通知は、集会の日時および場所ならびに当該集会で提案される決議の議題を明記しなくてはならない。受益者決議、議決または定足数に関する計算は、関連する基準日（ただし、当該基準日が評価日ではない場合、当該基準日の直前の評価日）の時点における純資産価額を参照して行われる。いずれかの集会に関する基準日は、管理会社により決定される日（集会の招集通知に明記される集会の日から中14日以上前）とする。事故によるいずれかの受益者に対する通知の不到達または受益者による通知の不受領は、集会の議事を無効にするものではない。受託会社または管理会社の授権された代理人は、集会に出席し発言する権利を有する。集会の定足数は、トラストまたはサブ・ファンド（場合による。）の当該時点における発行済受益証券の保有者の単純過半数である。集会の議決に付される決議は、書面で行われる投票により決定され、当該決議がサブ・ファンド決議または受益者決議（場合による。）の必要過半数により承認された場合、投票の結果は、集会の決議とみなされる。投票において、議決は本人または代理人により行使されることができる。

(2) 【為替管理上の取扱い】

受益証券の分配金、買戻代金等の送金に関して、ケイマン諸島における外国為替管理上の制限はない。

(3) 【本邦における代理人】

森・濱田松本法律事務所 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング

上記代理人は、管理会社から日本国内において、

- (i) 管理会社またはサブ・ファンドに対するケイマン諸島および日本の法律上の問題ならびに日本証券業協会の規則の問題についての一切の通信、請求、訴状、その他の訴訟関係書類を受領する権限、および
- (ii) 日本における受益証券の募集、販売および買戻しの取引に関する一切の紛争、争点および見解の相違に関連して一切の裁判上および裁判外の行為を行う権限を委任されている。また財務省関東財務局長に対する受益証券の募集に関する届出および継続開示に関する代理人および金融庁長官に関する届出代理人は、

辯護士 三 浦 健

東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング

森・濱田松本法律事務所

である。

（４）【裁判管轄等】

日本の投資者が取得した受益証券の取引に関連する訴訟の裁判管轄権は、下記の裁判所が有することを管理会社は承認している。

東京地方裁判所 東京都千代田区霞が関一丁目１番４号

確定した判決の執行手続は、関連する法域の適用法律に従って行われる。

第3【ファンドの経理状況】

1【財務諸表】

- a. ファンドの直近会計年度の日本語の財務書類は、香港における諸法令および一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第131条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. ファンドの原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるケーピーエムジー ケイマン諸島から監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c. ファンドの原文の財務書類は、米ドルで表示されている。日本語の財務書類には、主要な金額について2019年10月31日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝108.88円、1豪ドル＝75.28円および1ユーロ＝121.46円）で換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。円換算額は、四捨五入のため合計欄の数値が総額と一致しない場合がある。
- d. ファンドの年次財務書類は、原文（英語版）のみが監査され、監査報告書が参照しているのは原文（英語版）のみである。年次財務書類および監査報告書がその他の言語に翻訳される場合、ファンドの受託会社および管理会社が年次財務書類および監査報告書の訳文の正確性に責任を負う。

（１）【貸借対照表】

財政状態計算書

2019年６月30日現在

(表示：別段の記載がない限り米ドル)

		2019年		2018年	
	注	米ドル	千円	米ドル	千円
資産					
流動資産					
現金および現金同等物	3,11	388,599	42,311	145,622	15,855
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	4	14,578,197	1,587,274	15,368,643	1,673,338
資産合計		14,966,796	1,629,585	15,514,265	1,689,193
負債					
流動負債					
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	4	—	—	4,885	532
未払費用およびその他債務	11	59,907	6,523	64,077	6,977
ブローカーに対する債務	5	150,000	16,332	—	—
買戻しに係る未払金	6	24,364	2,653	129,141	14,061
負債合計(受益証券保有者に帰属する純資産を除く)		234,271	25,507	198,103	21,569
受益証券保有者に帰属する純資産	10	14,732,525	1,604,077	15,316,162	1,667,624
発行済受益証券数合計					
豪ドル建て(ヘッジあり)					
クラス	10(a)	419,677口		320,351口	
ユーロ建て(ヘッジあり)					
クラス	10(a)	81,189口		111,351口	
米ドル建てクラス	10(a)	1,037,243口		1,183,269口	
受益証券1口当たり純資産価格					
豪ドル建て(ヘッジあり)					
クラス		10.638豪ドル	801円	10.268豪ドル	773円
ユーロ建て(ヘッジあり)					
クラス		9.463ユーロ	1,149円	9.325ユーロ	1,133円
米ドル建てクラス		10.349米ドル	1,127円	9.886米ドル	1,076円

2019年12月6日に受託会社および管理会社によって発行を承認、認可された。

）
メイリン・フィリップス、ロニー・カスバート ） C I B C ・ バンク ・ アンド ・ トラスト ・ カンパニー
） (ケイマン)リミテッド(「受託会社」)
）を代表して
）
ソン・リ ） シティグループ・ファースト・インベストメント・
） マネジメント・リミテッド(「管理会社」)
）を代表して
）

12ページから47ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

（２）【損益計算書】

包括利益計算書

2019年６月30日に終了した会計年度

(表示：別段の記載がない限り米ドル)

	注	2019年		2018年	
		米ドル	千円	米ドル	千円
実効金利法を用いて計算された金利収益	7,11	750	82	815	89
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に係る純利得／(損失)	8	691,865	75,330	(313,328)	(34,115)
正味為替差益／(損)		(2,056)	(224)	(1,871)	(204)
利益(損失)合計		690,559	75,188	(314,384)	(34,230)
管理会社報酬	11	(23,358)	(2,543)	(29,678)	(3,231)
受託会社報酬	11	(10,250)	(1,116)	(10,750)	(1,170)
管理事務代行会社、名義書換代理人および保管会社報酬	11	(8,759)	(954)	(11,129)	(1,212)
販売会社報酬	11	(109,490)	(11,921)	(139,115)	(15,147)
代行協会員報酬	11	(1,460)	(159)	(1,855)	(202)
サービス・プロバイダー報酬	11	(11,679)	(1,272)	(14,839)	(1,616)
監査報酬		(30,841)	(3,358)	(30,392)	(3,309)
財務書類作成報酬	11	(8,043)	(876)	(7,979)	(869)
弁護士および専門家報酬		(2,488)	(271)	(74,341)	(8,094)
その他		(27,440)	(2,988)	(27,139)	(2,955)
営業費用合計		(233,808)	(25,457)	(347,217)	(37,805)
運用による受益証券保有者に帰属する純資産の変動および当期包括利益合計		456,751	49,731	(661,601)	(72,035)

12ページから47ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

受益証券保有者に帰属する純資産変動計算書

2019年6月30日に終了した会計年度

(表示：別段の記載がない限り米ドル)

	注	2019年		2018年	
		米ドル	千円	米ドル	千円
期首残高		15,316,162	1,667,624	21,479,624	2,338,701
受益証券保有者との取引					
受益証券の販売					
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	10(a)	1,015,865	110,607	152,305	16,583
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	10(a)	3,438	374	38,542	4,196
－米ドル建てクラス	10(a)	758,313	82,565	471,198	51,304
		1,777,616	193,547	662,045	72,083
受益証券の買戻し					
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	10(a)	(258,061)	(28,098)	(770,194)	(83,859)
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	10(a)	(327,562)	(35,665)	(331,241)	(36,066)
－米ドル建てクラス	10(a)	(2,232,381)	(243,062)	(5,062,471)	(551,202)
		(2,818,004)	(306,824)	(6,163,906)	(671,126)
受益証券保有者との取引合計		(1,040,388)	(113,277)	(5,501,861)	(599,043)
運用による受益証券保有者に帰属する純資産の変動および当期包括利益合計		456,751	49,731	(661,601)	(72,035)
期末残高		14,732,525	1,604,077	15,316,162	1,667,624

12ページから47ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

キャッシュ・フロー計算書

2019年6月30日に終了した会計年度

(表示：別段の記載がない限り米ドル)

	2019年		2018年	
	米ドル	千円	米ドル	千円
営業活動				
運用による受益証券保有者に帰属する純資産の変動および当期包括利益合計	456,751	49,731	(661,601)	(72,035)
調整：				
受取利息	(750)	(82)	(815)	(89)
未実現純(利益)/損失	(787,395)	(85,732)	682,905	74,355
運転資本変動前営業(損失)/利益	(331,394)	(36,082)	20,489	2,231
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債の純減少	1,572,956	171,263	5,447,171	593,088
未払費用およびその他債務の(減少)/増加	(4,170)	(454)	3,494	380
ブローカーに対する債務の増加	150,000	16,332	—	—
利息受取額	750	82	815	89
営業活動から生じた正味現金	1,388,142	151,141	5,471,969	595,788
財務活動				
受益証券の販売による収入	1,777,616	193,547	668,045	72,737
受益証券の買戻しに係る支払額	(2,922,781)	(318,232)	(6,345,013)	(690,845)
財務活動に使用した正味現金	(1,145,165)	(124,686)	(5,676,968)	(618,108)
現金および現金同等物の純増加/(減少)	242,977	26,455	(204,999)	(22,320)
期首現金および現金同等物	145,622	15,855	350,621	38,176
期末現金および現金同等物	388,599	42,311	145,622	15,855

12ページから47ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

財務書類に対する注記

(表示：別段の記載がない限り米ドル)

1 概要

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ(ケイマン)トラスト(以下「トラスト」という。)は、管理会社としてのシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド(以下「管理会社」という。)と受託会社としてのCIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド(以下「受託会社」という。)(以下あわせて「経営陣」という。))の間で2008年10月21日に締結され、2015年3月10日に修正および改訂された信託証書によりケイマン諸島の信託法に基づいて免除信託として設立されたアンブレラ型ユニット・トラストである。トラストは、2008年10月27日にケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法に基づいて登録された。テンブルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズ(以下「サブ・ファンド」という。)は2013年8月5日に設立された。サブ・ファンドの最初の取引日は2013年9月17日であった。

サブ・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を統合したトータル・リターンを最大化することである。サブ・ファンドは、テンブルトン・グローバル・ボンド・ファンド(以下「マスター・ファンド」という。)の米ドル建て投資証券クラスに主に投資することにより本投資目的の達成を目指す。

2019年および2018年6月30日現在、トラストおよびサブ・ファンドには従業員はいなかった。サブ・ファンドの投資活動は、管理会社によって管理されている。サブ・ファンドの管理事務代行および保管機能は、シティバンク・エヌ・エイの香港支店(以下「管理事務代行会社」および「保管会社」という。)に委託されている。株式会社SMBC信託銀行は、サブ・ファンドの販売会社(以下「販売会社」という。)である。

2 重要な会計方針

(a)法令遵守の表明

本財務書類は、該当するすべての香港財務報告基準(以下「HKFRS」という。)に準拠して作成されている。HKFRSとは、香港公認会計士協会(以下「HKICPA」という。)が公表したすべての適用可能な個別のHKFRS、香港会計基準(以下「HKAS」という。)および解釈指針、ならびに香港で一般に公正妥当と認められている会計原則を含む総称である。サブ・ファンドが適用した重要な会計方針の要約は、以下に記載されている。

HKICPAは、サブ・ファンドの当会計期間に初度適用される、または早期適用が認められる特定の新規および改訂されたHKFRSを公表している。注記2(d)は、本財務書類に反映されている当会計期間および前会計期間のサブ・ファンドに関連する範囲で、これらの修正の初度適用による会計方針の変更に関する情報を提供している。

(b)作成の基礎

サブ・ファンドの受益証券は米ドル建てで発行および買戻しが行われ、サブ・ファンドのパフォーマンスは米ドル建てで測定されるという事実を反映して、本財務書類の機能通貨および表示通貨は、ケイマン諸島の現地通貨ではなく、米ドルである（1米ドル単位に四捨五入される）。

本財務書類の作成に使用される測定基準は、取得原価主義である。ただし、一部の金融商品は、注記2(e)の会計方針において説明されているように、その公正価値で計上される。その他の金融資産および金融負債は、償却原価または買戻可能価額(買戻可能受益証券)で計上される。

HKFRSに準拠した財務書類の作成において、経営陣は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告金額に影響を与える判断、見積りおよび仮定を行うことが要求される。見積りおよび関連する仮定は、状況に応じて合理的であると考えられる過去の実績およびその他の様々な要因に基づいており、その結果は、他の根拠からでは算定が容易でない資産および負債の帳簿価額について判断を下す際の根拠となっている。実際の結果はこれらの見積りとは異なる可能性がある。

見積りおよび基礎となる仮定は、継続的に検証される。会計上の見積りの変更が特定の期間だけに影響を与える場合は、見積りの変更が行われる期間に認識され、変更が当期と将来の期間の両方に影響を与える場合は、変更が行われる期間および将来の期間に認識される。

本財務書類に重要な影響を及ぼすHKFRSの適用に際して経営陣が行った判断および見積りの不確実性の主な原因については、注記12に記載されている。

(c)外貨換算

期中の外貨建取引は、取引日における為替レートで米ドルに換算されている。外貨建の貨幣性資産および負債は、報告期間末現在の為替レートで米ドルに換算されている。

換算により生じる外貨換算差額は、正味為替差損益として純損益に認識される。ただし、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および負債から生じるものを除く。これは、純損益を通じて公正価値で測定する金融商品による純損益の構成要素として認識される。

(d)会計方針の変更

HK I C P Aは、サブ・ファンドの当会計期間に初度適用される、多くのHK F R Sの修正を公表した。このうち、サブ・ファンドの財政状態に関連する変更は以下のとおりである。

－ HK F R S第9号「金融商品」

サブ・ファンドは、HK F R S第9号と同時に適用されたHK F R S第9号の修正「負の補償を伴う期限前償還要素」を除き、当会計期間において未発効の新基準または解釈指針を適用していない(注記13参照)。

HK F R S第9号の経過措置で認められているとおり、本財務書類全体の比較情報は、本基準の要求事項を反映するために一般的には修正再表示されていない。

以下の変更を除き、サブ・ファンドは、注記2(e)に記載されている会計方針を本財務書類に表示されているすべての期間において首尾一貫して適用している。

HK F R S第9号「金融商品」

HK F R S第9号は、金融資産、金融負債および非金融項目を売買する一部の契約を認識し、測定するための要求事項を規定している。本基準は、HK A S第39号「金融商品：認識および測定」を置き換えるものである。

HK F R S第9号の適用により、サブ・ファンドは、それに伴うHK A S第1号「財務諸表の表示」の修正を適用し、以下が要求されることとなった。

- － 金融資産の減損は包括利益計算書上の独立の表示科目に表示される。HK A S第39号では、損失が発生した場合に減損が認識された。サブ・ファンドは従来、発生した損失を報告していなかった。
- － 実効金利法を用いて計算した償却原価またはその他の包括利益を通じて公正価値(以下「F V O C I」という。)で測定する金融資産から生じる金利収益を包括利益計算書に区分表示する。サブ・ファンドは従来、この金額を財務書類に対する注記において開示していた。

HK F R S第9号の適用は、サブ・ファンドの受益証券保有者に帰属する純資産に重要な影響を及ぼさなかった。

i.金融資産および金融負債の分類および測定

HK F R S第9号は、金融資産について、償却原価、F V O C I、純損益を通じた公正価値(以下「F V T P L」という。)で測定される3つの主要な測定区分を含んでいる。HK F R S第9号に基づく金融資産の分類は、金融資産が管理される事業モデルおよびその契約上のキャッシュ・フローの特性に基づいている。HK F R S第9号により、満期保有投資、貸付金および債権、売却可能というHK A S第39号の区分は廃止される。HK F R S第9号の下では、主契約が本基準の範囲に該当する金融資産である契約に組み込まれたデリバティブは、区分されない。代わりに、混合金融商品全体の分類が検討される。

HK F R S第9号は、金融負債の分類および測定に関するHK A S第39号の現行の要求事項の大部分を維持する。

HKFRS第9号の適用は、サブ・ファンドの金融負債に関する会計方針に重要な影響を及ぼさなかった。

サブ・ファンドがHKFRS第9号に基づいて金融商品进行分类および測定し、関連する利得および損失を会計処理する方法の説明については、注記2(e)を参照のこと。

以下の表および注記は、2018年7月1日現在のサブ・ファンドの金融資産および金融負債の各クラスについて、HKAS第39号における当初の測定区分およびHKFRS第9号における新たな測定区分を説明している。

	注	HKAS第39号に基づく 当初の分類	HKFRS第9号に基づく 新たな分類
金融資産			
現金および現金同等物		貸付金および債権	償却原価
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	(a)	FVTPL測定に指定	強制的にFVTPL で測定
金融負債			
未払費用およびその他債務		償却原価	償却原価
受益証券買戻未払金		償却原価	償却原価
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	(a)	FVTPL測定に指定	強制的にFVTPL で測定

(a) HKAS第39号では、これらの金融商品は、公正価値ベースで管理され、その業績が公正価値ベースで監視されているため、FVTPL測定に指定されている。当該資産は、HKFRS第9号に基づいて強制的にFVTPLで測定されるものとして分類されている。

2018年7月1日現在のすべての金融負債の帳簿価額は、HKFRS第9号の初度適用による影響を受けていない。

ii. 金融資産の減損

HKFRS第9号は、HKAS第39号の「発生損失」モデルを予想信用損失(以下「ECL」という。)モデルに置き換える。新たな減損モデルは、償却原価で測定する金融資産およびFVOCIで測定する負債性金融商品に適用されるが、資本性金融商品への投資には適用されない。HKFRS第9号では、信用損失はHKAS第39号に基づくよりも早い時点で認識される。

2018年7月1日現在の金融資産の帳簿価額に対するHKFRS第9号の適用による影響は、新たな減損要求事項のみに関連している。管理会社は、取引相手方が近い将来に契約上の義務を履行するための高い能力を有しているため、債務不履行の可能性はゼロに近いと考えている。2018年7月1日現在、HKFRS第9号の減損要求事項の適用開始時の現金および現金同等物に係る減損引当金は認識されていない。したがって、金融資産の帳簿価額は同じである。

iii. 移行

HKFRS第9号の適用による会計方針の変更は、以下に記載のものを除き、遡及的に適用される。

- 比較対象期間の修正再表示は一般的には行われず、HKFRS第9号の適用により生じる金融資産の帳簿価額の差異は、2018年7月1日現在の受益証券保有者に帰属する純資産に認識される。このため、2018年に公表された情報は、HKFRS第9号の要求事項ではなく、HKAS第39号の要求事項を反映している。
- サブ・ファンドは、比較対象期間の修正再表示を行うのではなく、HKFRS第9号からHKAS第1号への修正により、事後的に償却原価またはFVOCIで測定する金融資産からの利息収益を包括利益計算書の独立の表示科目として表示する要求事項が導入されたことを考慮して免除規定を適用した。比較対象期間および報告期間において、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産からの利息収益はない。
- 以下の評価は、適用開始日に存在していた事実および状況に基づいて行われた。
 - 金融資産を保有する事業モデルの決定
 - FVTPLで測定する特定の金融資産の従前の指定の取消し

(e) 金融商品

(i) 当初認識

サブ・ファンドは、下記(ii)に記載されるように、設立時にその金融商品を様々なカテゴリーに分類している。金融商品は当初、公正価値で測定されるが、これは通常、取引価格と同額である。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債に係る取引費用は、直ちに費用計上される。

サブ・ファンドは、金融資産および金融負債を、当該商品の契約上の規定の当事者になった日に認識する。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債の通常の売買は、取引日基準で認識される。当該取引日より、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産または金融負債の公正価値の変動により生じた利得および損失が発生時に計上される。

(ii) 区分

(A) 2018年7月1日から適用された方針

当初認識時に、サブ・ファンドは償却原価またはFVTPLで測定する金融資産を分類する。

金融資産は、以下の要件をともに満たし、かつ、FVTPLとして指定されていない場合、償却原価で測定される。

- － 契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルの中で保有されていること
- － その契約条件により、元本および利息の支払のみ(以下「SPPI」という。)であるキャッシュ・フローが特定の日に生じること

サブ・ファンドのその他のすべての金融資産は、FVTPLで測定される。

(B) 事業モデル評価

サブ・ファンドは、金融資産を保有する事業モデルの目的を評価する際に、以下を含む、事業の管理方法に関するすべての関連情報を考慮している。

- － 文書化された投資戦略と当該戦略の実施。これには、投資戦略が契約上の受取利息を獲得すること、特定の金利プロファイルを維持すること、金融資産のデュレーションに関連する負債のデュレーションまたは予想キャッシュ・アウトフローと対応させること、あるいは資産の売却によりキャッシュ・フローを実現することに焦点を当てているかどうかが含まれる。
- － ポートフォリオのパフォーマンスが、どのように評価され、サブ・ファンドの経営陣に報告されているか
- － 事業モデル(および当該事業モデルの中で保有されている金融資産)の業績に影響を与えるリスクと、当該リスクが管理されている方法
- － 経営陣にどのように報酬が与えられるのか(例えば、報酬の基礎となるのは管理している資産の公正価値なのか、回収した契約上のキャッシュ・フローなのか)
- － 過年度における金融資産の売却の頻度、量および時期、当該売却の売却の理由、ならびに将来の売却活動についての予想

認識の中止の要件を満たさない取引における金融資産の第三者への譲渡は、サブ・ファンドが資産を継続的に認識していることと整合しており、この目的のための売却とはみなされない。

サブ・ファンドは、2つの事業モデルがあると判断した。

- － 回収のために保有する事業モデル：これには、現金および現金同等物が含まれる。当該金融資産は、契約上のキャッシュ・フローを回収するために保有される。
- － その他の事業モデル：これには、デリバティブ金融商品が含まれる。当該金融商品は、管理とその業績評価が公正価値ベースで行われ、頻繁に売却が発生している。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかの評価

この評価の目的上、「元本」は、当初認識時における金融資産の公正価値と定義される。「金利」とは、貨幣の時間価値、特定の期間における元本残高に関する信用リスクならびに他の基本的な融資リスクおよびコスト(例えば、流動性リスクおよび管理コスト)への対価と利益マージンとして定義される。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかを評価する際に、サブ・ファンドは当該商品の契約条件を考慮する。これには、金融資産がこの条件を満たさないような契約上のキャッシュ・フローの時期または金額を変更させる可能性のある契約条件を含んでいるかどうかを評価することが含まれる。サブ・ファンドは、この評価を行うにあたり、以下の事項を考慮している。

- － キャッシュ・フローの金額またはタイミングを変更する偶発的事象
- － レバレッジ要素
- － 期限前償還要素と期限延長要素
- － サブ・ファンドの請求権を特定の資産からのキャッシュ・フロー(例えば、ノンリコース要素)に限定する条件
- － 貨幣の時間的価値の考慮(例えば、金利の定期的な再設定)を修正する要素

サブ・ファンドは、事業モデルと契約上のキャッシュ・フローの評価に基づいて投資を分類している。したがって、サブ・ファンドは、デリバティブ金融資産へのすべての投資を、FVTPLで測定する金融資産の区分に分類する。償却原価で測定する金融資産には、現金および現金同等物が含まれている。

分類変更

- － 金融資産は、サブ・ファンドが金融資産の管理に関する事業モデルを変更しない限り、当初認識後に再分類されない。この場合、影響を受けるすべての金融資産は、事業モデルの変更後の最初の報告期間の初日に分類変更される。

(C) 2018年7月1日より前に適用された方針

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債は、売却目的で保有する金融資産および金融負債、ならびに当初認識時に純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融資産および金融負債から構成される。

売買目的の金融商品は、主に短期の利益獲得目的で取得または負担する売買目的の金融資産および金融負債である。また、デリバティブは売買目的の金融商品として会計処理される。

金融商品は、以下の場合、当初認識時に純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定される。

- － 資産または負債が公正価値基準で管理、評価および内部報告される。
- － 公正価値での測定により、発生する可能性のある会計上のミスマッチが解消または大幅に軽減される。
- － 資産または負債が、契約に基づいて要求される可能性のあるキャッシュ・フローを大幅に修正する組込デリバティブを含んでいる。
- － 金融商品からの組込デリバティブの分離が禁止されていない。

この区分の金融資産および金融負債は公正価値で計上される。公正価値の変動は発生期間の純損益に含まれる。売却または買戻しの時点で、売却純収入または正味支払額と帳簿価額の差額は純損益を通じて公正価値で測定する金融商品に係る実現純利益または損失に含まれる。

サブ・ファンドは、認識の中止に際して純損益に認識される実現損益の決定に加重平均法を利用している。

貸付金および債権に分類される金融資産は、該当する場合には減損控除後の実効金利法を用いた償却原価で計上される。貸付金および債権に分類される金融資産には、現金および現金同等物が含まれている。

純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定されない金融負債は、実効金利法を用いた償却原価で測定され、未払費用およびその他債務、ブローカーに対する債務ならびに買戻しに係る未払金を含む。

(iii) 公正価値測定基準

公正価値とは、主要な市場、あるいは主要な市場がない場合には、測定日においてサブ・ファンドがアクセスを有する最も有利な市場での、測定日における市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格である。負債の公正価値は、不履行リスクを反映している。

入手可能な場合には、サブ・ファンドは、活発な市場における相場価格を用いて金融商品の公正価値を測定する。資産または負債の取引が、継続的に価格付けの情報を提供するのに十分な頻度と量で行われている場合に、市場が活発であるとみなされる。

公認証券取引所の取引相場価格や取引所で取引されない金融商品に関するブローカー／ディーラーによる価格がない場合、もしくは市場が活発でない場合、当該商品の公正価値は、実際の市場取引において入手し得る価格に関する確実な見積りを提供する評価技法を用いて見積られる。

当初認識時における金融商品の公正価値についての最善の証拠は通常、取引価格—すなわち、与えた、または受領した対価の公正価値である。サブ・ファンドが、当初認識時における公正価値が取引価格と異なっており、公正価値が、同一の資産または負債に関する活発な市場における相場価格によって証明されていない、もしくは観察可能な市場からのデータのみを使用した評価技法に基づいていないと判断する場合、金融商品は、当初認識時における公正価値と取引価格の間の差異を繰り延べるために調整された公正価値で当初測定される。その後、この差異は、当該商品の存続期間にわたって適切な基準により純損益に認識される。ただし、評価が観察可能な市場データにより全面的に支援されている期間、または取引が完了するまでの期間に限られている。

割引キャッシュ・フロー法が利用される場合、見積将来キャッシュ・フローは、経営陣の最善の見積りに基づいており、使用される割引率は条件が類似する商品に適用される報告年度末現在の市場レートである。他の価格決定モデルが利用される場合、インプットは報告年度末現在の市場データに基づいている。

サブ・ファンドは、振替が生じる報告年度末時点で公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替を認識する。

(iv)減損

(A) 2018年7月1日から適用された方針

サブ・ファンドは、償却原価で測定する金融資産について、ECLに対する損失評価引当金を認識している。

サブ・ファンドは、12ヶ月のECLで測定される以下の金融資産を除き、全期間のECLに等しい金額で損失評価引当金を測定する。

- 報告日において信用リスクが低いと判断される金融資産
- 信用リスク(すなわち、資産の予想存続期間にわたって債務不履行が発生するリスク)が当初認識以降に著しく増大していないその他の金融資産

サブ・ファンドは、金融資産の信用リスクが当初認識以降に著しく増大したかどうかを判断する際、またECLを見積もる際に、関連性があり、過大なコストや労力を掛けずに、入手可能である合理的で裏付け可能な情報について考慮する。これには、サブ・ファンドの過去の経験および情報に基づく信用評価による、また将来予測的な情報を含む、量的および定性的情報と分析の両方が含まれる。

サブ・ファンドは、期限経過が30日超である場合、金融資産の信用リスクが著しく増大したと仮定する。

サブ・ファンドは、以下の場合に、金融資産が債務不履行に陥っているとみなす。

- － サブ・ファンドが有価証券の現金化(保有されている場合)といった行動に遡及権を有していない場合で、借手がサブ・ファンドに対する信用義務を全額支払う可能性が低い場合
- － 金融資産の期限経過が90日超である場合

サブ・ファンドは、取引相手方の信用格付けが「投資適格」という世界的に理解されている定義と同等である場合、金融資産の信用リスクは低いとみなしている。サブ・ファンドは、これをムーディーズのBaa3以上またはスタンダード&プアーズのBBB-以上とみなしている。

全期間のECLとは、金融商品の予想存続期間にわたって生じ得るすべての債務不履行事象から生じるECLである。

12ヶ月間のECLは、報告日から12ヶ月以内(または、金融商品の予想存続期間が12ヶ月未満である場合には、それより短い期間)に生じ得る債務不履行事象から生じるECLの一部である。

ECLを見積もる際に考慮すべき最長の期間は、サブ・ファンドが信用リスクにさらされる最長の契約期間である。

ECLの測定

ECLは、信用損失の確率加重した見積りである。信用損失は、すべてのキャッシュ不足額(すなわち、企業が契約に従って受け取るべきキャッシュ・フローと、サブ・ファンドが受け取ると見込んでいるキャッシュ・フローとの差額)の現在価値として測定される。ECLは金融資産の実効金利で割り引かれる。

信用減損金融資産

サブ・ファンドは、各報告日において、償却原価で計上されている金融資産が信用減損しているかどうかを評価している。金融資産は、金融資産の見積将来キャッシュ・フローに不利な影響を及ぼす1つまたは複数の事象が生じている場合に、「信用減損」している。

金融資産が信用減損している証拠には、以下の観察可能なデータが含まれる。

- － 債務者または発行者の重大な財政的困難
- － 契約違反(債務不履行または90日超の期限経過事象など)
- － 借手が破産または他の財務上の再編を行う可能性が高くなったこと

財政状態計算書におけるECL引当金の表示

償却原価で測定する金融資産の損失評価引当金は、資産の総額での帳簿価額から控除される。

直接償却

サブ・ファンドがある金融資産全体または一部分の回収に合理的な予想を有していない場合には、金融資産の総額での帳簿価額は直接償却される。

(B) 2018年7月1日より前に適用された方針

取得原価または償却原価で計上される金融資産は、減損の客観的証拠があるかどうかを判断するために報告期間の期末時点で検討される。かかる兆候がある場合には、減損損失は、当該資産の帳簿価額と見積将来キャッシュ・フローを当該金融資産の当初の実効金利で割り引いた現在価値との差額として純損益において認識される。

以後の期間において、償却原価で計上される金融資産に対して認識される減損損失の額が減少し、その減少が評価減の後に発生した事象に客観的に関連付けることができる場合には、当該評価減は純損益を通じて戻し入れられる。過年度において減損損失が認識されなかったと仮定した場合に算定される、当該資産の帳簿価額を限度として減損損失の戻し入れが行われる。

(v) 認識の中止

金融資産は、当該金融資産からのキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利が消滅した場合、あるいは当該金融資産が所有に関する実質的にすべてのリスクおよび経済価値とともに譲渡された場合に、認識が中止される。

金融負債は、契約で特定された債務が免除、取消または消滅した場合に、認識が中止される。

(vi) 組成された企業

組成された企業とは、誰が当該企業を支配しているのかを決定する際に、議決権または類似の権利が決定的な要因とならないように設計された企業である（あらゆる議決権が管理業務のみに関係しており、実質的意義のある活動は契約上の取決めによって指図される場合など）。

組成された企業は、次の特徴または属性の一部または全部を有していることが多い。

- － 制限された活動
- － 限られた範囲の十分に明確化された目的(例えば、組成された企業の資産に関連するリスクとリターンを投資家に移転することによる投資家への投資機会の提供など)
- － 組成された企業が劣後的な財務的支援なしに活動資金を調達するには不十分な資本
- － 信用リスクまたはその他のリスクの集中を生み出す、投資家に対する契約上関連した複数の金融商品の形での資金調達(トランシェ)

経営陣は、サブ・ファンドのマスター・ファンドへの投資(注記9(a)参照)が非連結の組成された企業への投資であり、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産(注記4参照)として分類され则认为している。マスター・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を統合したトータル・リターンを最大化することである。マスター・ファンドは、資本関係のない資産管理者により管理されており、その投資目的を達成するために様々な投資戦略を適用している。

マスター・ファンドは、主に、世界各国の政府または政府関係機関が発行する固定および変動利付債券ならびに債務のポートフォリオに投資する。マスター・ファンドは、低水準ながら、あらゆる国の企業が発行する、あらゆるクオリティの債券および国際的な企業の債券に投資することができる。マスター・ファンドは、ヘッジおよび投資目的でデリバティブを利用することができる。デリバティブは、市場に対するエクスポージャーを伴う積極的な投資運用商品として利用される。マスター・ファンドは、ルクセンブルグの営業日に所有者の選択により売却可能な、償還可能持分を発行することにより、その運用に係る資金を調達し、所有者にマスター・ファンド純資産の比例持分に相当する権利を与える。サブ・ファンドは、マスター・ファンドの償還可能持分を保有するものの、マスター・ファンドに出資は行っていない。2019年6月30日現在、サブ・ファンドは、マスター・ファンドの純資産の0.10%(2018年：0.10%)を保有していた。

マスター・ファンドに対するサブ・ファンドの持分は、各募集要項の条件に従い、マスター・ファンドの将来価値の不確実性から生じる市場価格リスクの影響を受ける。経営陣は、マスター・ファンドの戦略およびマスター・ファンドの管理会社の全体的なクオリティの検討を含む、マスター・ファンドに関する広範囲にわたるデュー・ディリジェンスの後に投資判断を行う。

マスター・ファンドの公正価値の変動は、包括利益計算書の「純損益を通じて公正価値で測定する金融商品に係る純利得／(損失)」に含まれている。

(vii)相殺

金融資産および金融負債は、サブ・ファンドが該当金額を相殺する法的権利を有しており、純額で決済するか、資産の換金と負債の決済を同時に実行するかを意図を有している場合にのみ、相殺して財政状態計算書に純額で表示される。

(f)現金および現金同等物

現金および現金同等物は、銀行に対する預金を含む。現金同等物とは、容易に換金可能であり、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない、取得時点で満期まで3ヶ月以内である流動性の高い短期投資である。

(g)受取利息

受取利息は、取得日または発生日に算定される商品の当初の実効金利を用いて、発生時に純損益に認識される。受取利息には、割引またはプレミアムの償却費、取引費用あるいは利付商品の当初の帳簿価額と実効金利ベースで算定される満期時の金額とその他の差額が含まれている。

本国で課税された源泉徴収税の総額が計上され、かかる税金がある場合には、個別に純損益に認識される。

(h)純損益を通じて公正価値で測定する金融商品に係る純利得または損失

純損益を通じて公正価値で測定する金融商品に係る純利得または損失には、すべての実現および未実現の公正価値の変動と為替換算差額が含まれているが、受取利息は含まれていない。

(i)費用

サブ・ファンドの費用はすべて、発生基準で純損益に認識される。

(j)法人税**ケイマン諸島**

ケイマン諸島の現行の課税制度に基づいて、サブ・ファンドは、収益、利益またはキャピタル・ゲインに係る税金の支払いを免除されている。トラストは、ケイマン諸島の総督から、トラストの設立日から50年間、税金が免除となる保証を受けている。したがって、法人税等引当金は本財務書類において計上されていない。

香港

サブ・ファンドには、その投資活動のいずれに関しても香港の税金が課されないことが予想される。

(k) 受益証券保有者による受益証券の現金化

受益証券保有者は、香港、ルクセンブルグ、ニューヨークおよび東京の各地において商業銀行が営業している日、および／または管理会社により適宜書面で指定される他の日(以下「買戻日」という。)に、受益証券を現金化できる。受益証券は、関連する買戻日の受益証券1口当たり純資産価格で現金化される予定である。受益証券1口当たり純資産価格は、該当する買戻日現在のサブ・ファンドの純資産価額を参照して算定される。

(l) 発行済受益証券

サブ・ファンドは、金融商品の契約内容に応じて、発行済金融商品を金融負債または持分商品に分類している。

発行体が現金または別の金融資産で当該商品の買戻しまたは償還を行う契約債務を含んでいるプッタブル金融商品は、以下の条件をすべて満たす場合に資本として分類される。

- (i) サブ・ファンドの清算の場合に、保有者にサブ・ファンドの純資産の比例持分に応じた権利を与える。
- (ii) その他すべての商品クラスに劣後する商品のクラス内にある。
- (iii) その他すべての商品クラスに劣後する商品のクラス内にある金融商品がすべて同じ特性を有する。
- (iv) サブ・ファンドが現金または別の金融資産で当該商品の買戻しまたは償還を行う契約債務以外に、当該商品に負債としての分類が必要となる他の特性が含まれていない。
- (v) その契約期間にわたって当該商品に帰属する予想キャッシュ・フローの合計は、実質的に、当該商品の契約期間にわたるサブ・ファンドの純損益、認識される純資産の変動、または認識・未認識純資産の公正価値の変動に基づいている。

サブ・ファンドの買戻可能受益証券は金融負債として分類され、買戻価格の現在価値で測定される。

サブ・ファンドは買戻可能受益証券を3つのクラス(豪ドル建て(ヘッジあり)、ユーロ建て(ヘッジあり)および米ドル建てクラス)として発行している。豪ドル建て(ヘッジあり)、ユーロ建て(ヘッジあり)および米ドル建てクラスは、様々なクラスの受益証券が異った通貨(以下「参照通貨」という。)建てであることを除き、金融商品のうち最劣後のクラスであり、すべての重要な点で同順位であり、同一の条件が付されている。買戻可能受益証券は、買戻日またはサブ・ファンドの清算時に、サブ・ファンドの該当するクラスの受益証券の純資産に対する受益証券保有者の持分に比例する価額の現金で買戻しを請求する権利を受益証券保有者に提供している。

(m) 関連当事者

(a) 以下に該当する人物または当該人物の近親者は、サブ・ファンドに関連している。

- (i) サブ・ファンドに対して支配権または共同支配権を有している。
 - (ii) サブ・ファンドに重要な影響力を行使することができる。あるいは
 - (iii) サブ・ファンドまたはサブ・ファンドの親会社の経営幹部の一員である。
- (b) 以下の条件のいずれかが該当する事業体は、サブ・ファンドに関連している。
- (i) 当該事業体とサブ・ファンドが同じグループの一員である(すなわち、サブ・ファンドの親会社、子会社および兄弟会社が互いに関連している。)。
 - (ii) 一方の事業体が、もう一方の事業体の関連会社または合併事業(あるいはもう一方の事業体が属しているサブ・ファンドの別の事業体の関連会社または合併事業)である。
 - (iii) 両方の事業体がいずれも同じ第三者の合併事業である。
 - (iv) 一方の事業体が第三者の事業体の合併事業であり、もう一方の事業体はその第三者の事業体の関連会社である。
 - (v) 当該事業体がサブ・ファンドまたはサブ・ファンドに関連する事業体のいずれかの従業員給付のための退職後給付制度である。
 - (vi) 当該事業体が(a)で特定した人物の支配下または共同支配下にある。
 - (vii) (a)(i)で特定した人物が当該事業体に重要な影響力を行使することができる、あるいは当該事業体(または当該事業体の親会社)の経営幹部の一員である。
 - (viii) 当該事業体、あるいはその一部であるグループの一員が、サブ・ファンドまたはサブ・ファンドの親会社に経営幹部サービスを提供する。

ある人物の近親者とは、サブ・ファンドとの取引において、当該人物に影響を及ぼす、または影響を受けることが予想される親族のことである。

3 現金および現金同等物

	2019年 米ドル	2018年 米ドル
銀行に対する当座預金	388,599	145,622

サブ・ファンドが保有する現金は、シティバンク・エヌ・エイの香港支店に預けられている。

4 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債

	2019年 米ドル	2018年 米ドル
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
デリバティブ以外の金融商品：		
－非上場オープン・エンド型マスター・ ファンドであるテンブルトン世界債券 ファンドへの投資	14,539,053	15,364,395
デリバティブ金融商品：		
－先渡為替予約	39,144	4,248
	14,578,197	15,368,643
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
デリバティブ金融商品：		
－先渡為替予約	—	(4,855)

5 ブローカーに対する債務

当該残高は未決済の購入に関するブローカーに対する債務の金額を示しており、1ヶ月以内に決済される見込みである。

6 買戻しに係る未払金

当該残高は買戻された受益証券に関する受益証券保有者に対する債務の金額を示しており、1ヶ月以内に決済される見込みである。

7 実効金利法を用いて計算された金利収益

	2019年 米ドル	2018年 米ドル
銀行残高に係る受取利息	750	815

8 純損益を通じて公正価値で測定する金融商品に係る純利得／(損失)

	2019年 米ドル	2018年 米ドル
デリバティブ以外の金融商品：		
－非上場オープン・エンド型マスター・ファンドであるテンプルトン世界債券ファンドへの投資	934,657	(236,666)
デリバティブ金融商品：		
－先渡為替予約	(242,792)	(76,662)
	691,865	(313,328)
内：		
実現純(損失)／利益	(95,530)	369,577
未実現純利益／(損失)	787,395	(682,905)
	691,865	(313,328)

9 金融商品および関連リスク

サブ・ファンドは、投資戦略に従って、投資を行う金融商品および市場に関連する様々なタイプの金融リスクにさらされている。サブ・ファンドがさらされているリスクは、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクを含む、ファンド・オブ・ファンズ構造のリスク、原ファンドのリスクおよびサブ・ファンドのリスクである。市場リスクには、金利リスク、為替リスクおよび価格リスクが含まれる。

報告期間末現在で保有している金融商品の性質と範囲および関連する金融リスク、ならびにサブ・ファンドが採用しているリスク管理方針は、以下のとおりである。

(a)投資戦略

注記1に記載のとおり、サブ・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を統合したトータル・リターンを最大化することである。サブ・ファンドは、マスター・ファンドに主に投資することにより本投資目的の達成を目指す。

マスター・ファンドは、非上場オープン・エンド型ファンドである。マスター・ファンドは、株式会社および可変資本型投資会社としてルクセンブルグ大公国の法律に基づきルクセンブルグにおいて設立された会社であるフランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズのサブ・ファンドである。フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズは、譲渡可能証券の集団投資事業としての資格を有する。

マスター・ファンドは、マスター・ファンドの純資産の投資および再投資に関する日々の運用・管理を行っている、フランクリン・アドバイザーズ・インク(以下「マスター・ファンドの管理会社」という。)により運用されている。マスター・ファンドの管理会社は、マスター・ファンドのアンプレラ・ファンドであるフランクリン・テンプレート・インベストメント・ファンズから投資運用報酬を受け取る。

マスター・ファンドの投資目的は、インカム・ゲイン、キャピタル・ゲインおよび通貨の利益を統合したトータル・リターンを最大化することである。マスター・ファンドは、世界各国の政府または政府関係機関が発行する固定および変動利付債券(投資不適格債券を含む。)ならびに債務のポートフォリオに主に投資することにより目的の達成を目指す。

マスター・ファンドは、ヘッジおよび投資目的でデリバティブを利用する。デリバティブは、市場に対するエクスポージャーを伴う積極的な投資運用商品として利用される。

マスター・ファンドの機能通貨は米ドルである。またサブ・ファンドの管理会社は、満期までの期間が約1ヶ月の先渡為替予約を締結することにより、サブ・ファンドの豪ドル建て(ヘッジあり)受益証券およびユーロ建て(ヘッジあり)受益証券のサブ・ファンドの参照通貨(すなわち、豪ドル建て(ヘッジあり)受益証券については豪ドル、ユーロ建て(ヘッジあり)受益証券についてはユーロ。以下同様。)と機能通貨間の外国為替エクスポージャーを体系的にヘッジする(以下「為替ヘッジ取引」という。))。

サブ・ファンドの資産の一部は、サブ・ファンドの日々の現金の必要性が生じた際に備え、現金として留保される。

(b) ファンド・オブ・ファンズ構造のリスク

サブ・ファンドは、受益証券の発行による収入の実質的にすべてをマスター・ファンドに投資しており、ファンド・オブ・ファンズ構造で運用している。

ファンド・オブ・ファンズ構造により、複数の当事者がマスター・ファンドとサブ・ファンドに投資するという特有のリスクが生じる。その受益証券は同順位でない場合があり、投資収益の低下につながる可能性がある。仮に大口投資家がマスター・ファンドから撤退した場合、残りの投資家は、より高い営業費用を比例按分して負担することがある。さらに、投資家が短期間に元本の多額の換金を行う場合、マスター・ファンドに経済的に最も有利ではない時期および方法で有価証券のポジションを一度に清算する必要がある可能性があり、これによりマスター・ファンドの資産の価値に悪影響を与える可能性がある。

サブ・ファンドは、マスター・ファンドに対する投資を通じてその投資目的を達成する。投資目的が達成されるかどうかは、マスター・ファンドの金融商品のパフォーマンスとマスター・ファンドの継続的な利用可能性、ならびにマスター・ファンドの管理会社の事業の継続性に依存する。

サブ・ファンドはファンド・オブ・ファンズ構造に基づいており、トラッカー・ファンドとして設定されていない。サブ・ファンドのパフォーマンスは、マスター・ファンドのパフォーマンスとは異なることがある。

(c) マスター・ファンドのリスク

ファンド・オブ・ファンズ構造において、サブ・ファンドにはマスター・ファンドのリスクに対する間接的なエクスポージャーがあり、マスター・ファンドが被った損失はサブ・ファンドの財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。マスター・ファンドはサブ・ファンドの原ファンドであり、マスター・ファンドの管理会社により監視される以下の重要なリスクにさらされている。サブ・ファンドは、それらのリスクに間接的にさらされている。

(i) マスター・ファンドの信用リスク

マスター・ファンドの信用リスクは、マスター・ファンドが保有する債券の発行体が、期日に元本または利息を支払うことに関して債務不履行に陥るまたは支払を行わない場合に生じる。マスター・ファンドの管理会社には、信用リスクを特定、測定、監視および管理する手続がある。

有価証券取引は、承認された、信頼できるブローカーを通じて、引渡時に決済または支払が行われ、未決済残高は厳密に監視される。

マスター・ファンドが投資する債券の信用格付けは高く、その信用の質は発行体の性質と過去の貸倒実績率に基づいて評価される。

(ii) マスター・ファンドの為替リスク

為替リスクは、マスター・ファンドの機能通貨と金融商品の表示通貨間の為替レートの変動の影響により生じる。

(iii) マスター・ファンドの流動性リスク

流動性リスクは、マスター・ファンドの管理会社が支払時期に債務を決済するのに十分な現金を生成することができない場合に生じる。主要な流動性リスクとは、マスター・ファンドの受益証券の継続的な買戻しをいう。

(iv) マスター・ファンドの金利リスク

金利リスクは、マスター・ファンドの金融商品の公正価値および将来キャッシュ・フローが基礎としている実勢市場金利の変動の影響により生じる。マスター・ファンドの管理会社は、該当期間のエクスポージャーを定量化することによりリスクを監視している。

(v) マスター・ファンドのデリバティブ・リスク

デリバティブ・リスクは、マスター・ファンドがヘッジおよび投資目的で締結するデリバティブ契約から生じる。デリバティブ契約は高レバレッジの投資であり、評価額は原資産の変動により決定される。デリバティブ契約は、マスター・ファンドの流動性リスク、信用リスクおよび取引相手方リスクを増加させる。

マスター・ファンドへの投資に対するサブ・ファンドの最大エクスポージャーは、マスター・ファンドへの投資の公正価値である。

(d) サブ・ファンドの市場リスク

サブ・ファンド保有の投資はすべて、純損益を通じて公正価値で測定されるものであり、市況のあらゆる変動が損益に直接影響を及ぼす。市場リスクとは、金利、為替レートまたは価格の変動の結果、投資の価値が変動するリスクである。

(i) 金利リスク

金利リスクは、金利の変動が将来のキャッシュ・フローまたは金融商品の公正価値に影響を及ぼすことにより、サブ・ファンドに潜在的な損益がもたらされる可能性から生じる。サブ・ファンドの金利リスクは、管理会社により継続的に管理されている。銀行預金を除いて、サブ・ファンドのすべての金融資産および金融負債は無利息である。

(ii)為替リスク

サブ・ファンドは、金融商品に投資し、機能通貨以外の通貨建ての取引を行う場合がある。その結果、サブ・ファンドは、他の外貨に対する機能通貨の為替レートが、米ドル以外の通貨建てのサブ・ファンドの金融資産または負債の該当部分の価額に悪影響を及ぼしかねない変動を示すというリスクにさらされている。

資産または負債の表示通貨と機能通貨間の為替レートの変動により、当該資産または負債の公正価値が上昇または低下することがある。サブ・ファンドの参照通貨および機能通貨間の為替エクスポージャーは、豪ドル建て(ヘッジあり)クラスおよびユーロ建て(ヘッジあり)クラスについて表示される。ヘッジ比率に従って管理会社による為替ヘッジ取引が行われ、一定の残余リスクが生じる。また、為替ヘッジ取引の結果、機能通貨に対する参照通貨の上昇は、これに対応する(ヘッジあり)クラスの受益証券1口当たり純資産価格の増額をもたらさない。

通貨の感応度

2019年6月30日および2018年6月30日の時点で、他のすべての変動要因が不変であるという前提の下で、米ドルが各通貨に対して5%(2018年：5%)下落した場合、先渡為替予約の公正価値は、以下の金額分増加する。

	2019年6月30日の 想定元本 米ドル	米ドルが5%下落した 場合の先渡為替予約の 公正価値の変動 米ドル	2018年6月30日の 想定元本 米ドル	米ドルが5%下落した 場合の先渡為替予約の 公正価値の変動 米ドル
豪ドル	3,133,318	156,836	2,411,654	121,548
ユーロ	872,102	43,721	1,200,820	60,731
合計	4,005,420	200,557	3,612,474	182,279

他のすべての変動要因が不変であるという前提の下で、米ドルが上記の通貨に対して5%(2018年：5%)上昇した場合、上記の財務書類の金額に上記の金額と同額の減少をもたらす効果がある。

(iii)価格リスク

価格リスクとは、個別の投資銘柄または発行体に固有の要素によるか、あるいは市場で売買されるすべての金融商品に影響を及ぼす要素によるかにかかわらず、市場価格の変動の結果、金融商品の価値が変動するリスクである。

価格の感応度

サブ・ファンドの資産は、実質的にマスター・ファンドに投資されるため、マスター・ファンドの価格リスクにさらされる。マスター・ファンドの相場価格が5%(2018年：5%)減少したならば、受益証券保有者に帰属する純資産および当該会計年度の包括利益合計が726,953米ドル(2018年：768,220米ドル)減少し、逆に5%増加したならば、受益証券保有者に帰属する純資産が同額増加すると見積もられている。

(e)サブ・ファンドの信用リスク

信用リスクとは、金融商品取引の取引相手方が、サブ・ファンドと締結した義務または契約を遂行できないリスクである。サブ・ファンドの信用リスクに対するエクスポージャーは、管理会社により継続的に監視される。

EC Lから生じる金額

現金および現金同等物に係る減損は、12ヶ月の予想損失ベースで測定されており、エクスポージャーの短期の満期を反映している。サブ・ファンドが保有するすべての現金は、シティ・バンク・エヌ・エイの香港支店(管理事務代行会社および保管会社でもある。)に預けられている。管理会社は、当該エクスポージャーの信用リスクは低いと考えている。

HFRS第9号の適用開始日に、管理会社は、取引相手方が近い将来に契約上の義務を履行するための高い能力を有しているため、債務不履行の可能性はゼロに近いと考えている。現金および現金同等物に係る減損引当金は認識されていない。損失評価引当金の金額は、2019年度中に変更されなかった。

サブ・ファンドは、サブ・ファンドの現金および現金同等物残高を保管する保管銀行、および為替ヘッジ取引に基づいて先渡為替予約の取引相手方に対する信用リスクにさらされている。

サブ・ファンドが保有するすべての現金は、シティ・バンク・エヌ・エイの香港支店(管理事務代行会社および保管会社でもある。)に預けられている。管理会社は、当該銀行の信用リスクは低いと考えている。

為替ヘッジ取引により、豪ドル建て(ヘッジあり)およびユーロ建て(ヘッジあり)クラスの受益証券保有者は取引相手方リスクにさらされている。為替ヘッジ取引は、管理会社の関連会社であるシティグループ・グローバル・マーケット・ジャパン・インクと行われた。

2019年6月30日および2018年6月30日の時点で、サブ・ファンドの金融資産の大半は、マスター・ファンドに配分されていた。投資運用会社はフランクリン・アドバイザーズ・インクである。

サブ・ファンドは、マスター・ファンドに対する投資を通じて、信用リスクに間接的にさらされている。

スタンダード&プアーズ格付サービスにより提供されるマスター・ファンドの管理会社の持株会社の信用格付けは、以下のとおりである。

スタンダード&プアーズによる信用格付け

	2019年	2018年
フランクリン・リソーシズ・インク	A+	A+

(f)サブ・ファンドの流動性リスク

流動性リスクは、管理会社が、適時に、現金化のニーズを満たすように投資を換金することができない可能性があるリスクから生じる。サブ・ファンドは、買戻日に受益証券保有者による受益証券の買戻しにおいて流動性リスクにさらされている。

受益証券保有者はいずれの買戻日においても受益証券を現金化することができる。通常の市況であれば、管理会社は、買戻しの義務を果たすためにマスター・ファンドに対するサブ・ファンドの投資を清算する。受益証券の現金化に関して受益証券保有者に支払われる金額は、通常、関連する買戻日(注記2(k)に定義)後、ファンドの8営業日以内に支払われるものとする。

負債の期日までの残存期間別内訳

以下の表は、2019年6月30日および2018年6月30日現在のサブ・ファンドの負債の、契約上の期日までの残存期間の詳細を示している。

2019年					
	要求払い 米ドル	1ヶ月以内 米ドル	1ヶ月超 3ヶ月以内 米ドル	3ヶ月超 1年以内 米ドル	合計 米ドル
非トレーディング負債					
未払費用およびその他債務	—	49,872	10,035	—	59,907
ブローカーに対する債務	—	150,000	—	—	150,000
買戻しに係る未払金	—	24,364	—	—	24,364
受益証券保有者に帰属する純資産	14,732,525	—	—	—	14,732,525
合計	14,732,525	224,236	10,035	—	14,966,796
2018年					
	要求払い 米ドル	1ヶ月以内 米ドル	1ヶ月超 3ヶ月以内 米ドル	3ヶ月超 1年以内 米ドル	合計 米ドル
非トレーディング負債					
未払費用およびその他債務	—	59,042	5,035	—	64,077
買戻しに係る未払金	—	129,141	—	—	129,141
受益証券保有者に帰属する純資産	15,316,162	—	—	—	15,316,162
合計	15,316,162	188,183	5,035	—	15,509,380
トレーディング負債					
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	—	4,885	—	—	4,885

(g)公正価値

(i)公正価値で計上される金融商品

継続的に報告期間末現在で測定されるサブ・ファンドの金融商品の公正価値について、HKFRS第13号「公正価値測定」に定義された3つのレベルの公正価値ヒエラルキーの内訳は、以下の表のとおりである。公正価値測定が分類されるレベルは、評価技法に用いられるインプットの観察可能性および重要性を参照して決定されており、以下のとおりである。

- －レベル1の評価：レベル1のインプット、すなわち測定日現在の同一の金融資産または金融負債に関する活発な市場における無調整の相場価格のみを用いて測定される公正価値。
- －レベル2の評価：レベル2のインプット、すなわちレベル1の基準を満たさない観察可能なインプットを用いるが、重要で観察不能なインプットは用いずに測定される公正価値。観察不能なインプットとは、市場データを入手できないインプットである。
- －レベル3の評価：重要で観察不能なインプットを用いて測定される公正価値。

2019年				
	レベル1 米ドル	レベル2 米ドル	レベル3 米ドル	合計 米ドル
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ以外の金融商品：				
－非上場オープン・エンド型 マスター・ファンドであるテン ブルトン世界債券ファンドへの 投資	—	14,539,053	—	14,539,053
デリバティブ金融商品				
－先渡為替予約	—	39,144	—	39,144
	—	14,578,197	—	14,578,197

2018年				
	レベル1 米ドル	レベル2 米ドル	レベル3 米ドル	合計 米ドル
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ以外の金融商品：				
－非上場オープン・エンド型 マスター・ファンドであるテン ブルトン世界債券ファンドへの 投資	—	15,364,395	—	15,364,395
デリバティブ金融商品：				
－先渡為替予約	—	4,248	—	4,248
	—	15,368,643	—	15,368,643
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融商品：				
－先渡為替予約	—	(4,885)	—	(4,885)

2019年6月30日および2018年6月30日に終了した会計年度において、レベル1、レベル2およびレベル3の金融商品の間で振替はなかった。

(ii) 公正価値以外で計上される金融商品

純損益を通じて公正価値で測定されない金融商品は、帳簿価額が公正価値に近似する短期金融商品である。

以下の表は、公正価値で測定されない金融商品の公正価値を示しており、公正価値測定が区分される公正価値ヒエラルキーのレベルにより分析している。

2019年				
	レベル1 米ドル	レベル2 米ドル	レベル3 米ドル	合計 米ドル
金融資産				
現金および現金同等物	—	388,599	—	388,599
金融負債				
未払費用およびその他債務	—	(59,907)	—	(59,907)
ブローカーに対する債務	—	(150,000)	—	(150,000)
買戻しに係る未払金	—	(24,364)	—	(24,364)
受益証券保有者に帰属する純資産	—	(14,732,525)	—	(14,732,525)
	—	(14,966,796)	—	(14,966,796)
2018年				
	レベル1 米ドル	レベル2 米ドル	レベル3 米ドル	合計 米ドル
金融資産				
現金および現金同等物	—	145,622	—	145,622
金融負債				
未払費用およびその他債務	—	(64,077)	—	(64,077)
買戻しに係る未払金	—	(129,141)	—	(129,141)
受益証券保有者に帰属する純資産	—	(15,316,162)	—	(15,316,162)
	—	(15,509,380)	—	(15,509,380)

(iii)先渡為替予約

先渡為替予約残高は、以下のとおりであった。

2019年

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産

通貨 買い	通貨 買い金額	通貨 売り	通貨 売り金額	決済日	公正価値 米ドル
豪ドル	4,477,128	米ドル	3,101,034	2019年7月31日	35,696
ユーロ	766,953	米ドル	870,965	2019年7月31日	3,448

2018年

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産

通貨 買い	通貨 買い金額	通貨 売り	通貨 売り金額	決済日	公正価値 米ドル
ユーロ	1,037,147	米ドル	1,210,376	2018年7月31日	4,248

純損益を通じて公正価値で測定する金融負債

通貨 買い	通貨 買い金額	通貨 売り	通貨 売り金額	決済日	公正価値 米ドル
豪ドル	3,282,830	米ドル	2,435,853	2018年7月31日	(4,885)

先渡為替予約とは、将来の特定日に特定価格にて、指定された通貨を売買する契約であり、現金で決済される。先渡為替予約は店頭取引である。当該先渡為替予約は、サブ・ファンドの外国為替エクスポージャーをヘッジするために締結された。

先渡為替予約は、契約額に関連した市場価格の変動に基づく市場リスクにさらされることになる。市場リスクは、為替レートの変動の可能性により生じる。また、通常、想定上の契約規模に関連して要求される預入証拠金は低いため、高いレバレッジが先渡取引口座の特徴となる。その結果、先渡為替予約の基礎的数値における比較的少額の価格変動により、サブ・ファンドに多額の損失が生じる場合がある。

想定元本とは、サブ・ファンドにより取引される先渡為替予約の公正価値の基礎となる外貨の基礎参照金額である。想定元本は現在の公正価値を示しておらず、必ずしもサブ・ファンドの先渡為替予約の将来キャッシュ・フローを示すものではないが、想定元本により特定される変数に関連する基礎価格の変動は、当該デリバティブ金融商品の公正価値に影響を及ぼす。

豪ドル建て(ヘッジあり)クラス受益証券およびユーロ建て(ヘッジあり)クラス受益証券の保有者のため、先渡為替予約におけるサブ・ファンドの取引は実行され、それは原則として、米ドルを売り、参照通貨を買うことにより行われる。為替ヘッジ取引の結果、米ドルに対する豪ドル高またはユーロ高(場合に応じ

て)は、これに対応する豪ドル建て(ヘッジあり)クラス受益証券またはユーロ建て(ヘッジあり)クラス受益証券の受益証券1口当たり純資産価格の増額をもたらさない。当該取引により生じる損益はすべて、それぞれ豪ドル建て(ヘッジあり)クラス受益証券およびユーロ建て(ヘッジあり)クラス受益証券に負担される。

先渡為替予約の取引相手は信用のある金融機関である、管理会社の兄弟会社であるため、債務不履行リスクは低いと考えられる。

10 受益証券保有者に帰属する純資産

(a)発行済および買戻受益証券

	受益証券口数 2019年		
	豪ドル建て (ヘッジあり)クラス	ユーロ建て (ヘッジあり)クラス	米ドル建て クラス
2018年7月1日現在	320,351	111,351	1,183,269
受益証券の期中販売	133,470	315	72,941
受益証券の期中買戻し	(34,144)	(30,477)	(218,967)
2019年6月30日現在	419,677	81,189	1,037,243

	受益証券口数 2018年		
	豪ドル建て (ヘッジあり)クラス	ユーロ建て (ヘッジあり)クラス	米ドル建て クラス
2017年7月1日現在	394,116	136,265	1,634,183
受益証券の期中販売	18,401	3,367	46,248
受益証券の期中買戻し	(92,166)	(28,281)	(497,162)
2018年6月30日現在	320,351	111,351	1,183,269

2019年6月30日および2018年6月30日現在、サブ・ファンドが発行したすべての受益証券は金融負債に分類されていた。サブ・ファンドの唯一の受益証券保有者は、株式会社SMB C信託銀行である。受益証券保有者は、販売会社である。

3つのクラスの受益証券すべての当初申込は、1口当たりそれぞれの参照通貨10単位の価格で行われた。受益証券は、買戻日またはサブ・ファンドの清算時に、買戻費用なしで、該当するクラスの受益証券1口当たり純資産価格で買い戻される。

議案決議についての受益証券保有者の総会において、受益証券保有者は、本人出席、委任状出席または代理出席により、本人が保有する受益証券1口につき1議決権を有している。

トラストおよびサブ・ファンドは外部から資本要件を課されていない。2019年6月30日現在、サブ・ファンドの受益証券保有者に帰属する純資産は14,732,525米ドル(2018年：15,316,162米ドル)であった。サブ・ファ

ンドは、受益証券保有者が受益証券の買戻しを請求する場合の資金需要を満たす十分な流動性を維持すると同時に、サブ・ファンドの投資目的に沿った投資に受益証券の発行から受領した資金を投資するよう努めている。

サブ・ファンドの受益証券保有者は、保有受益証券をトラストの他のサブ・ファンドの受益証券と交換できない。

サブ・ファンドには、2019年6月30日および2018年6月30日に終了した会計年度において配当金またはその他分配金を支払う意思がない。

(b)純資産の調整

サブ・ファンドの英文目論見書に従い、サブ・ファンドの純資産は、すべての取引についてあらかじめ定められた締切時間に基づいて計算されている。英文目論見書に基づいた締切時間後の取引は、翌日に計上される。HKFRSの要求の下では、当該取引は、金融商品の認識および認識中止基準に従うように同日に計上される。このアプローチにより、HKFRSの純資産と発行済受益証券および英文目論見書の純資産と発行済受益証券の間に期間差異が生じる。設立費用は、英文目論見書に従って、設立日から5年を超過しない期間にわたって償却される。しかし、HKFRSに基づく財務報告目的上、すべての費用は発生時に純損益に認識されなければならない。

評価目的で算定された額とHKFRSに従い算定された額との間の純資産に関する調整は以下のとおりである。

2019年				
	豪ドル建て (ヘッジあり) クラス 米ドル	ユーロ建て (ヘッジあり) クラス 米ドル	米ドル建て クラス 米ドル	合計 米ドル
評価目的上の受益証券保有者に帰属する純資産	3,123,877	873,445	10,731,974	14,729,296
期間差異の調整	685	191	2,353	3,229
設立費用の調整	—	—	—	—
財務書類において報告された受益証券保有者に帰属する純資産	3,124,562	873,636	10,734,327	14,732,525

2018年				
	豪ドル建て (ヘッジあり) クラス 米ドル	ユーロ建て (ヘッジあり) クラス 米ドル	米ドル建て クラス 米ドル	合計 米ドル
評価目的上の受益証券保有者に帰属する純資産	2,422,102	1,205,047	11,725,170	15,352,319
期間差異の調整	(5,713)	(2,843)	(27,658)	(36,214)
設立費用の調整	9	4	44	57
財務書類において報告された受益証券保有者に帰属する純資産	2,416,398	1,202,208	11,697,556	15,316,162

評価目的上の受益証券数とHKFRSに従い計上された受益証券数との間の受益証券数に関する調整は以下のとおりである。

2019年			
	豪ドル建て (ヘッジあり)クラス	ユーロ建て (ヘッジあり)クラス	米ドル建て クラス
評価目的上の発行済受益証券	419,677	81,189	1,037,243
期間差異の調整	—	—	—
財務書類において報告された発行済受益証券	419,677	81,189	1,037,243

2018年

	豪ドル建て (ヘッジあり)クラス	ユーロ建て (ヘッジあり)クラス	米ドル建て クラス
評価目的上の発行済受益証券	320,351	111,351	1,183,269
期間差異の調整	—	—	—
財務書類において報告された発行済 受益証券	320,351	111,351	1,183,269

11 関連当事者

サブ・ファンドに提供されたサービスに関して関連当事者から生じる報酬および費用は以下のとおりである。

管理会社報酬：	管理会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.16%の管理報酬を受け取る権利を有している。この報酬は日々発生し毎月後払いされる。
受託会社報酬：	受託会社は年間10,000米ドルの報酬を請求する。この報酬は日々発生し毎四半期後払いされる。
管理事務代行会社、 名義書換代理人および 保管会社報酬：	管理事務代行会社は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.08%を上限とする合算報酬を受け取る権利を有している。この報酬は日々発生し毎月後払いされる。
販売会社報酬：	販売会社は、販売会社が登録保有者である各受益証券について、サブ・ファンドの受益証券1口当たり純資産価格の年率0.75%を上限とする報酬を請求する。この報酬は日々発生し毎月後払いされる。
代行協会員報酬：	代行協会員は、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.01%を上限とする報酬を請求する。この報酬は日々発生し毎月後払いで支払われる。
サービス・プロバイダー 報酬：	サービス・プロバイダーは、販売会社としての資格における株式会社SMB C信託銀行あるいは管理会社によって随時選任されることがある日本における販売会社が登録保有者であるサブ・ファンドの各受益証券1口当たり純資産価格の年率0.08%を上限とする報酬を受領する権利を有する。この報酬は、日々計算され、発生し、毎月後払いで支払われる。
財務書類作成費用：	管理事務代行会社は、財務書類作成毎に年間8,000米ドルの報酬を受け取る権利を有している。当会計年度に計上された財務書類作成費用は、8,043米ドル(2018年：7,979米ドル)であった。

サブ・ファンドの重要な関連当事者取引は以下のとおり要約される。

	2019年		2018年	
	費用計上額 米ドル	未払金 米ドル	費用計上額 米ドル	未払金 米ドル
管理会社報酬	23,358	4,138	29,678	4,486
受託会社報酬	10,250	10,035	10,750	5,035
管理事務代行会社、名義書換代理人および保管会社報酬	8,759	6,131	11,129	6,236
販売会社報酬	109,490	8,923	139,115	9,603
代行協会会員報酬	1,460	119	1,855	128
サービス・プロバイダー報酬	11,679	952	14,839	1,024
財務書類作成費用	8,043	793	7,979	8,749

サブ・ファンドは、銀行業および有価証券保管業に関する通常の営業過程において管理事務代行会社の銀行サービスを利用している。現金および現金同等物ならびに投資残高に関する情報はそれぞれ注記3および4において開示されている。2019年6月30日に終了した会計年度において、管理事務代行会社により保全されていた銀行残高に係る受取利息は750米ドル(2018年：815米ドル)であった。

先渡為替予約の取引相手方は、管理会社の兄弟会社である。先渡為替予約に関する情報は注記9(g)(iii)において開示されている。

12 見積りの不確実性に関する主要な情報

公正価値の見積り

純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正価値は、注記2(e)(iii)に記載のとおり、現在の市場パラメータを用いる評価モデルから得られる。公正価値の見積りは、市況および金融商品に関する情報に基づき、指定された時点で実施される。これらの見積りは主観的な性質を有し、不確実性および重要な判断事項を含むため、正確に算定することができない。それでも、公正価値は合理的な見積りの範囲内で信頼性をもって算定可能である。

13 2019年6月30日に終了した会計年度において公表されているが未発効の修正、新基準および解釈指針の潜在的影響

本財務書類の公表日までに、HK I C P Aは、2019年6月30日に終了した会計年度において未発効で本財務書類に適用されていない、多くの改訂および新基準を公表した。これらにはサブ・ファンドに関連する可能性のある以下のものが含まれている。

以下の日以降に開始する 会計期間に適用

HK (I F R I C) 第23号「法人所得税務処理に関する不確実性」

2019年1月1日

HK F R S 基準の年次改善2015-2017年サイクル

2019年1月1日

サブ・ファンドは、これらの修正、新基準および解釈指針が初度適用の期間に及ぼす影響について評価中である。サブ・ファンドは、これまでのところ、これらの適用がサブ・ファンドの経営成績および財政状態に重要な影響を及ぼす可能性は低いと結論づけている。

補足情報(未監査)

パフォーマンス表

(表示：米ドル)

	2019年 米ドル	2018年 米ドル
純資産価額合計(英文目論見書に準拠して計算されている)	14,729,296	15,352,319
受益証券1口当たり純資産価格(英文目論見書に準拠して計算されている)		
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	10.636豪ドル	10.292豪ドル
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	9.461ユーロ	9.347ユーロ
－米ドル建てクラス	10.347米ドル	9.909米ドル
計上金額(英文目論見書に準拠して計算されている)		
－当会計年度の受益証券1口当たり純資産価格最高額		
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	10.618豪ドル	10.818豪ドル
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	9.589ユーロ	10.059ユーロ
－米ドル建てクラス	10.470米ドル	10.389米ドル
－当会計年度の受益証券1口当たり純資産価格最低額		
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	10.098豪ドル	10.235豪ドル
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	9.375ユーロ	9.308ユーロ
－米ドル建てクラス	9.679米ドル	9.844米ドル
当会計年度の投資純利益		
－豪ドル建て(ヘッジあり)クラス	3.34%	-3.35%
－ユーロ建て(ヘッジあり)クラス	1.22%	-5.65%
－米ドル建てクラス	4.42%	-3.10%

2019年および2018年の投資純利益は、百分率による利益を入手するために、期末日と期首日のサブ・ファンドの受益証券1口当たり純資産価格(英文目論見書に準拠して計算されている。)の差額を期首日の価格で除した金額を参照して算定された。

[次へ](#)

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Statement of financial position as at 30 June 2019

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

	Note	2019	2018
Assets			
Current assets			
Cash and cash equivalents	3, 11	\$ 388,599	\$ 145,622
Financial assets at fair value through profit or loss	4	14,578,197	15,368,643
Total assets		<u>\$ 14,966,796</u>	<u>\$ 15,514,265</u>
Liabilities			
Current liabilities			
Financial liabilities at fair value through profit or loss	4	\$ -	\$ 4,885
Accruals and other payables	11	59,907	64,077
Amounts due to brokers	5	150,000	-
Redemption payable	6	24,364	129,141
Total liabilities (excluding net assets attributable to the unitholder)		<u>\$ 234,271</u>	<u>\$ 198,103</u>
Net assets attributable to the unitholder	10	<u>\$ 14,732,525</u>	<u>\$ 15,316,162</u>
Total number of units in issue			
AUD Hedged class	10(a)	419,677	320,351
EUR Hedged class	10(a)	81,189	111,351
USD class	10(a)	1,037,243	1,183,269

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Statement of financial position as at 30 June 2019

(continued)

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

	Note	2019	2018
Net asset value per unit in local currency			
AUD Hedged class	AUD	10.638	AUD 10.268
EUR Hedged class	EUR	9.463	EUR 9.325
USD class	USD	10.349	USD 9.886

Approved and authorised for issue by the Trustee and the Manager on 6 December 2019


 LYNN PHILLIPS
 Authorised Signatory


 RONNIE CUTHBERT
 Authorised Signatory

For and on behalf of CIBC Bank and Trust
 Company (Cayman) Limited ("Trustee")


 For and on behalf of Citigroup First Investment
 Management Limited ("Manager")

The notes on pages 12 to 47 form part of these financial statements.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Statement of comprehensive income for the year ended 30 June 2019

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

	Note	2019	2018
Interest income calculated using the effective interest method	7, 11	\$ 750	\$ 815
Net gain/(loss) on financial instruments at fair value through profit or loss	8	691,865	(313,328)
Net foreign exchange loss		(2,056)	(1,871)
Total gain/(loss)		\$ 690,559	\$ (314,384)
Management fee	11	\$ (23,358)	\$ (29,678)
Trustee fee	11	(10,250)	(10,750)
Administrator, transfer agent and custodian fees	11	(8,759)	(11,129)
Distributor fee	11	(109,490)	(139,115)
Agent company fee	11	(1,460)	(1,855)
Service provider fee	11	(11,679)	(14,839)
Audit fee		(30,841)	(30,392)
Financial statements preparation fee	11	(8,043)	(7,979)
Legal and professional fee		(2,488)	(74,341)
Others		(27,440)	(27,139)
Total operating expenses		\$ (233,808)	\$ (347,217)
Change in net assets attributable to the unitholder from operations and total comprehensive income for the year		\$ 456,751	\$ (661,601)

The notes on pages 12 to 47 form part of these financial statements.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Statement of changes in net assets attributable to the unitholder for the year ended 30 June 2019

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

	Note	2019	2018
Balance at the beginning of the year		\$ 15,316,162	\$ 21,479,624
Transactions with the unitholder			
Subscription of units			
- AUD Hedged class	10(a)	\$ 1,015,865	\$ 152,305
- EUR Hedged class	10(a)	3,438	38,542
- USD class	10(a)	758,313	471,198
		<u>\$ 1,777,616</u>	<u>\$ 662,045</u>
Redemption of units			
- AUD Hedged class	10(a)	\$ (258,061)	\$ (770,194)
- EUR Hedged class	10(a)	(327,562)	(331,241)
- USD class	10(a)	(2,232,381)	(5,062,471)
		<u>\$ (2,818,004)</u>	<u>\$ (6,163,906)</u>
Total transactions with the unitholder		\$ (1,040,388)	\$ (5,501,861)
Change in net assets attributable to the unitholder from operations and total comprehensive income for the year		456,751	(661,601)
Balance at the end of the year		\$ 14,732,525	\$ 15,316,162

The notes on pages 12 to 47 form part of these financial statements.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Statement of cash flows for the year ended 30 June 2019

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

	2019	2018
Operating activities		
Change in net assets attributable to the unitholder from operations and total comprehensive income for the year	\$ 456,751	\$ (661,601)
Adjustments for:		
Interest income	(750)	(815)
Net unrealised (gain)/loss	(787,395)	682,905
Operating (loss)/gain before changes in working capital	\$ (331,394)	\$ 20,489
Net decrease in financial assets and liabilities at fair value through profit or loss	1,572,956	5,447,171
(Decrease)/increase in accruals and other payables	(4,170)	3,494
Increase in amounts due to brokers	150,000	-
Interest received	750	815
Net cash generated from operating activities	\$ 1,388,142	\$ 5,471,969
Financing activities		
Proceeds from unit subscriptions	\$ 1,777,616	\$ 668,045
Payments on unit redemptions	(2,922,781)	(6,345,013)
Net cash used in financing activities	\$ (1,145,165)	\$ (5,676,968)
Net increase/(decrease) in cash and cash equivalents	\$ 242,977	\$ (204,999)
Cash and cash equivalents at the beginning of the year	145,622	350,621
Cash and cash equivalents at the end of the year	\$ 388,599	\$ 145,622

The notes on pages 12 to 47 form part of these financial statements.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

Notes to the financial statements

(Expressed in United States dollars unless otherwise indicated)

1 General

Red Arc Global Investments (Cayman) Trust (the "Trust") is an umbrella unit trust established as an exempted trust under the Trust Laws of the Cayman Islands by a Trust Deed dated 21 October 2008, as amended and restated on 10 March 2015, between Citigroup First Investment Management Limited as manager (the "Manager") and CIBC Bank and Trust Company (Cayman) Limited as trustee (the "Trustee") (jointly "Management"). The Trust was registered under the Mutual Funds Law of the Cayman Islands on 27 October 2008. Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series (the "Series Trust") was established on 5 August 2013. The Series Trust's first dealing day was 17 September 2013.

The investment objective of the Series Trust is to maximise total investment return consisting of a combination of interest income, capital appreciation and currency gains. The Series Trust seeks to achieve this investment objective through investment mainly in a United States dollars ("USD") denominated share class of the Templeton Global Bond Fund (the "Investment Fund").

As at 30 June 2019 and 2018, the Trust and the Series Trust had no employees. The investment activities of the Series Trust are managed by the Manager. The administration and custodian functions of the Series Trust are delegated to Citibank N.A. Hong Kong Branch (the "Administrator" and the "Custodian"). SMBC Trust Bank Ltd. is the distributor (the "Distributor") of the Series Trust.

2 Significant accounting policies

(a) Statement of compliance

These financial statements have been prepared in accordance with all applicable Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs"), which collective term includes all applicable individual HKFRSs, Hong Kong Accounting Standards ("HKASs") and Interpretations issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA") and accounting principles generally accepted in Hong Kong. A summary of the significant accounting policies adopted by the Series Trust is set out below.

The HKICPA has issued certain new and revised HKFRSs that are first effective or available for early adoption for the current accounting period of the Series Trust. Note 2(d) provides information on any changes in accounting policies resulting from initial application of these developments to the extent that they are relevant to the Series Trust for the current and prior accounting periods reflected in these financial statements.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

(b) Basis of preparation

The functional and presentation currency of the financial statements is the USD (rounded to the nearest USD) and not the local currency of the Cayman Islands reflecting the fact that the units of the Series Trust are issued and redeemed in USD and the Series Trust's performance is measured in USD terms.

The measurement basis used in the preparation of the financial statements is the historical cost basis except that certain financial instruments are stated at their fair value as explained in the accounting policies, note 2(e). Other financial assets and liabilities are stated at amortised cost or redemption amount (redeemable units).

The preparation of financial statements in conformity with HKFRSs requires Management to make judgements, estimates and assumptions that affect the application of policies and the reported amounts of assets, liabilities, income and expenses. The estimates and associated assumptions are based on historical experience and various other factors that are believed to be reasonable under the circumstances, the results of which form the basis of making judgements about carrying values of assets and liabilities that are not readily apparent from other sources. Actual results may differ from these estimates.

The estimates and underlying assumptions are reviewed on an ongoing basis. Revisions to accounting estimates are recognised in the period in which the estimate is revised if the revision affects only that period, or in the period of the revision and future periods if the revision affects both current and future periods.

Judgements made by Management in the application of HKFRSs that have significant effect on the financial statements and major sources of estimation uncertainty are discussed in note 12.

(c) Foreign currency translation

Foreign currency transactions during the year are translated into USD at the foreign exchange rates at the transaction dates. Monetary assets and liabilities denominated in foreign currencies are translated into USD at the foreign exchange rate ruling at the end of the reporting period.

Foreign currency differences arising on translation are recognised in profit or loss as net foreign exchange gain or loss, except for those arising from financial assets and liabilities at fair value through profit or loss, which are recognised as a component of the net gain or loss on financial instruments at fair value through profit or loss.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

(d) Changes in accounting policies

The HKICPA has issued a number of amendments to HKFRSs that are first effective for the current accounting period of the Series Trust. Of these, the following developments are relevant to the Series Trust's financial statements.

- HKFRS 9, *Financial instruments*

The Series Trust has not applied any new standard or interpretation that is not yet effective for the current accounting period (see note 13), except for the amendments to HKFRS 9, *Prepayment features with negative compensation* which have been adopted at the same time as HKFRS 9.

As permitted by the transition provisions of HKFRS 9, comparative information throughout these financial statements has not generally been restated to reflect the requirements of the standard.

Except for the changes below, the Series Trust has consistently applied the accounting policies as set out in note 2(e) to all periods presented in these financial statements.

HKFRS 9, *Financial Instruments*

HKFRS 9 sets out requirements for recognising and measuring financial assets, financial liabilities and some contracts to buy or sell non-financial items. This standard replaces HKAS 39 *Financial Instruments: Recognition and Measurement*.

As a result of the adoption of HKFRS 9, the Series Trust has adopted consequential amendments to HKAS 1 *Presentation of Financial Statements*, which require:

- impairment of financial assets to be presented in a separate line item in the statement of comprehensive income. Under HKAS 39, impairment was recognised when losses were incurred. The Series Trust did not previously report any incurred losses; and
- separate presentation in the statement of comprehensive income of interest revenue from financial assets measured at amortised cost or fair value through other comprehensive income ("FVOCI") calculated using the effective interest method. Previously, the Series Trust disclosed this amount in the notes to the financial statements.

The adoption of HKFRS 9 had no material impact on the net assets attributable to unitholders of the Series Trust.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

i. Classification and measurement of financial assets and financial liabilities

HKFRS 9 contains three principal classification categories for financial assets: measured at amortised cost, FVOCI and fair value through profit or loss ("FVTPL"). The classification of financial assets under HKFRS 9 is generally based on the business model in which a financial asset is managed and its contractual cash flow characteristics. HKFRS 9 eliminates the previous HKAS 39 categories of held to maturity, loans and receivables and available for sale. Under HKFRS 9, derivatives embedded in contracts where the host is a financial asset in the scope of the standard are never separated. Instead, the hybrid financial instrument as a whole is assessed for classification.

HKFRS 9 largely retains the existing requirements in HKAS 39 for the classification and measurement of financial liabilities.

The adoption of HKFRS 9 has not had a significant effect on the Series Trust's accounting policies related to financial liabilities.

For an explanation of how the Series Trust classifies and measures financial instruments and accounts for related gains and losses under HKFRS 9, see note 2(e).

The following table and the accompanying notes below explain the original measurement categories under HKAS 39 and the new measurement categories under HKFRS 9 for each class of the Series Trust's financial assets and financial liabilities as at 1 July 2018.

	Note	Original classification under HKAS 39	New classification under HKFRS 9
Financial assets			
Cash and cash equivalents		Loans and receivables	Amortised cost
Financial assets at fair value through profit or loss	(a)	Designated as at FVTPL	Mandatorily at FVTPL
Financial liabilities			
Accruals and other payables		Amortised cost	Amortised cost
Redemption payable		Amortised cost	Amortised cost
Financial liabilities at fair value through profit or loss	(a)	Designated as at FVTPL	Mandatorily at FVTPL

(a) Under HKAS 39, these financial instruments were designated as at FVTPL because they were managed on a fair value basis and their performance was monitored on this basis. These assets have been classified as mandatorily measured at FVTPL under HKFRS 9.

The carrying amounts for all financial liabilities at 1 July 2018 have not been impacted by the initial application of HKFRS 9.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

ii. Impairment of financial assets

HKFRS 9 replaces the "incurred loss" model in HKAS 39 with an expected credit loss ("ECL") model. The new impairment model applies to financial assets measured at amortised cost and debt instruments at FVOCI, but not to investments in equity instruments. Under HKFRS 9, credit losses are recognised earlier than under HKAS 39.

The effect of adopting HKFRS 9 on the carrying amounts of financial assets at 1 July 2018 relates solely to the new impairment requirements. The Manager considers the probability of default to be close to zero as the counterparties have a strong capacity to meet their contractual obligations in the near term. There is no impairment allowance recognised on cash and cash equivalents on the initial application of HKFRS 9's impairment requirements as at 1 July 2018. Therefore, the carrying amounts of the financial assets remain the same.

iii. Transition

Changes in accounting policies resulting from the adoption of HKFRS 9 have been applied retrospectively, except as described below.

- Comparative periods have not generally been restated. Differences in the carrying amounts of financial assets resulting from the adoption of HKFRS 9 are recognised in net assets attributable to unitholders as at 1 July 2018. Accordingly, the information presented for 2018 does not reflect the requirements of HKFRS 9, but rather those of HKAS 39.
- The Series Trust has used the exemption not to restate comparative periods but considering that the amendments made by HKFRS 9 to HKAS 1 introduced the requirement to present interest income from financial assets that are subsequently measured at amortised cost or FVOCI as a separate line item in the statement of comprehensive income. There is no interest income from financial assets at fair value through profit or loss in comparative periods and the reporting period.
- The following assessments have been made on the basis of the facts and circumstances that existed at the date of initial application.
 - The determination of the business model within which a financial asset is held.
 - The revocation of previous designations of certain financial assets as measured at FVTPL.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series –
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

2 Significant accounting policies (continued)

(e) Financial instruments

(i) Initial recognition

The Series Trust classifies its financial instruments into different categories at inception as mentioned in (ii) below. Financial instruments are measured initially at fair value, which normally will be equal to the transaction price. Transaction costs on financial assets and financial liabilities at fair value through profit or loss are expensed immediately.

The Series Trust recognises financial assets and financial liabilities on the date it becomes a party to the contractual provisions of the instrument. A regular way purchase or sale of financial assets and financial liabilities at fair value through profit or loss is recognised using trade date accounting. From these dates, any gains and losses arising from changes in fair value of the financial assets or financial liabilities at fair value through profit or loss are recorded as they occur.

(ii) Categorisation

(A) Policy applicable from 1 July 2018

On initial recognition, the Series Trust classifies financial assets as measured at amortised cost or FVTPL.

A financial asset is measured at amortised cost if it meets both of the following conditions and is not designated as at FVTPL:

- it is held within a business model whose objective is to hold assets to collect contractual cash flows; and
- its contractual terms give rise on specified dates to cash flows that are solely payments of principal and interest ("SPPI").

All other financial assets of the Series Trust are measured at FVTPL.

(B) Business model assessment

In making an assessment of the objective of the business model in which a financial asset is held, the Series Trust considers all of the relevant information about how the business is managed, including:

- the documented investment strategy and the execution of this strategy in practice. This includes whether the investment strategy focuses on earning contractual interest income, maintaining a particular interest rate profile, matching the duration of the financial assets to the duration of any related liabilities or expected cash outflows or realising cash flows through the sale of the assets;
- how the performance of the portfolio is evaluated and reported to the Series Trust's management;
- the risks that affect the performance of the business model (and the financial assets held within that business model) and how those risks are managed;

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

- how management is compensated: e.g. whether compensation is based on the fair value of the assets managed or the contractual cash flows collected; and
- the frequency, volume and timing of sales of financial assets in prior periods, the reasons for such sales and expectations about future sales activity.

Transfers of financial assets to third parties in transactions that do not qualify for derecognition are not considered sales for this purpose, consistent with the Series Trust's continuing recognition of the assets.

The Series Trust has determined that it has two business models.

- Held-to-collect business model: this includes cash and cash equivalents. These financial assets are held to collect contractual cash flow.
- Other business model: this includes derivative financial instruments. These financial instruments are managed and their performance is evaluated, on a fair value basis, with frequent sales taking place.

Assessment whether contractual cash flows are SPPI

For the purposes of this assessment, 'principal' is defined as the fair value of the financial asset on initial recognition. 'Interest' is defined as consideration for the time value of money and for the credit risk associated with the principal amount outstanding during a particular period of time and for other basic lending risks and costs (e.g. liquidity risk and administrative costs), as well as a profit margin.

In assessing whether the contractual cash flows are SPPI, the Series Trust considers the contractual terms of the instrument. This includes assessing whether the financial asset contains a contractual term that could change the timing or amount of contractual cash flows such that it would not meet this condition. In making this assessment, the Series Trust considers:

- contingent events that would change the amount or timing of cash flows;
- leverage features;
- prepayment and extension features;
- terms that limit the Series Trust's claim to cash flows from specified assets (e.g. non-recourse features); and
- features that modify consideration for of the time value of money (e.g. periodical reset of interest rates).

The Series Trust classifies its investments based on the business model and contractual cash flows assessment. Accordingly, the Series Trust classifies all its investments derivative financial assets into financial assets at FVTPL category. Financial assets measured at amortised cost include cash and cash equivalents.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

Reclassifications

- Financial assets are not reclassified subsequent to their initial recognition unless the Series Trust were to change its business model for managing financial assets, in which case all affected financial assets would be reclassified on the first day of the first reporting period following the change in the business model.

(C) Policy applicable prior to 1 July 2018

Financial assets and liabilities at fair value through profit or loss comprise financial assets and liabilities held for trading purpose, and those designated at fair value through profit or loss upon initial recognition.

Trading financial instruments are those financial assets and liabilities which are acquired or incurred principally for the purpose of short-term profit taking. In addition, derivatives are accounted for as trading instruments.

Financial instruments are designated at fair value through profit or loss upon initial recognition when:

- the assets or liabilities are managed, evaluated and reported internally on a fair value basis;
- the designation eliminates or significantly reduces an accounting mismatch which would otherwise arise;
- the asset or liability contains an embedded derivative that significantly modifies the cash flows that would otherwise be required under the contract; or
- the separation of the embedded derivative(s) from the financial instrument is not prohibited.

Financial assets and financial liabilities under this category are carried at fair value. Changes in the fair value are included in profit or loss in the period in which they arise. Upon disposal or repurchase, the difference between the net sale proceeds or the net payment and the carrying value is included in the net realised gain or loss on financial instruments at fair value through profit or loss.

The Series Trust uses the weighted average method to determine realised gains and losses to be recognised in profit or loss on derecognition.

Financial assets classified as loans and receivables are carried at amortised cost using the effective interest method, less impairment, if any. Financial assets that are classified as loans and receivables include cash and cash equivalents.

Financial liabilities that are not designated at fair value through profit or loss are measured at amortised cost using effective interest method and include accruals and other payables, amounts due to brokers and redemption payable.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

2 Significant accounting policies (continued)

(iii) Fair value measurement principles

Fair value is the price that would be received to sell an asset or paid to transfer a liability in an orderly transaction between market participants at the measurement date in the principal or, in its absence, the most advantageous market to which the Series Trust has access at that date. The fair value of a liability reflects its non-performance risk.

When available, the Series Trust measures the fair value of a financial instrument using the quoted price in an active market for that instrument. A market is regarded as active if transactions for the asset or liability take place with sufficient frequency and volume to provide pricing information on an ongoing basis.

If there is no quoted market price on a recognised stock exchange or a price from a broker/dealer for non-exchange-traded financial instruments, or if the market for it is not active, the fair value of the instrument is estimated using valuation techniques that provide a reliable estimate of prices which could be obtained in actual market transactions.

The best evidence of the fair value of a financial instrument at initial recognition is normally the transaction price - i.e. the fair value of the consideration given or received. If the Series Trust determines that the fair value at initial recognition differs from the transaction price and the fair value is evidenced neither by a quoted price in an active market for an identical asset or liability nor based on a valuation technique that used only data from observable markets, the financial instrument is initially measured at fair value, adjusted to defer the difference between the fair value at initial recognition and the transaction price. Subsequently, that difference is recognised in profit or loss on an appropriate basis over the life of the instrument but no later than when the valuation is supported wholly by observable market data or the transaction is closed out.

Where discounted cash flow techniques are used, estimated future cash flows are based on the management's best estimates and the discount rate used is a market rate at the end of the reporting year applicable for an instrument with similar terms and conditions. Where other pricing models are used, inputs are based on market data at the end of the reporting year.

The Series Trust recognises transfers between levels of the fair value hierarchy as at the end of the reporting year in which the change has occurred.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

2 Significant accounting policies (continued)

(iv) Impairment

(A) Policy applicable from 1 July 2018

The Series Trust recognises loss allowances for ECLs on financial assets measured at amortised cost.

The Series Trust measures loss allowances at an amount equal to lifetime ECLs, except for the following, which are measured at 12-month ECLs:

- financial assets that are determined to have low credit risk at the reporting date; and
- other financial assets for which credit risk (i.e. the risk of default occurring over the expected life of the asset) has not increased significantly since initial recognition.

When determining whether the credit risk of a financial asset has increased significantly since initial recognition and when estimating ECLs, the Series Trust considers reasonable and supportable information that is relevant and available without undue cost or effort. This includes both quantitative and qualitative information and analysis, based on the Series Trust's historical experience and informed credit assessment and including forward-looking information.

The Series Trust assumes that the credit risk on a financial asset has increased significantly if it is more than 30 days past due.

The Series Trust considers a financial asset to be in default when:

- the borrower is unlikely to pay its credit obligations to the Series Trust in full, without recourse by the Series Trust to actions such as realising security (if any is held); or
- the financial asset is more than 90 days past due.

The Series Trust considers a financial asset to have low credit risk when the credit rating of the counterparty is equivalent to the globally understood definition of 'investment grade'. The Series Trust considers this to be Baa3 or higher per Moody's or BBB- or higher per Standard & Poor's.

Lifetime ECLs are the ECLs that result from all possible default events over the expected life of a financial instrument.

12-month ECLs are the portion of ECLs that result from default events that are possible within the 12 months after the reporting date (or a shorter period if the expected life of the instrument is less than 12 months).

The maximum period considered when estimating ECLs is the maximum contractual period over which the Series Trust is exposed to credit risk.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series –
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

Measurement of ECLs

ECLs are a probability-weighted estimate of credit losses. Credit losses are measured as the present value of all cash shortfalls (i.e. the difference between the cash flows due to the entity in accordance with the contract and the cash flows that the Series Trust expects to receive). ECLs are discounted at the effective interest rate of the financial asset.

Credit-impaired financial assets

At each reporting date, the Series Trust assesses whether financial assets carried at amortised cost are credit-impaired. A financial asset is 'credit-impaired' when one or more events that have a detrimental impact on the estimated future cash flows of the financial asset have occurred.

Evidence that a financial asset is credit-impaired includes the following observable data:

- significant financial difficulty of the borrower or issuer;
- a breach of contract such as a default or being more than 90 days past due; or
- it is probable that the borrower will enter bankruptcy or other financial reorganisation.

Presentation of allowance for ECLs in the statement of financial position

Loss allowances for financial assets measured at amortised cost are deducted from the gross carrying amount of the assets.

Write-off

The gross carrying amount of a financial asset is written off when the Series Trust has no reasonable expectations of recovering a financial asset in its entirety or a portion thereof.

(B) Policy applicable prior to 1 July 2018

Financial assets that are stated at cost or amortised cost are reviewed at the end of the reporting period to determine whether there is objective evidence of impairment. If any such indication exists, an impairment loss is recognised in profit or loss as the difference between the asset's carrying amount and the present value of estimated future cash flows discounted at the financial asset's original effective interest rate.

If in a subsequent period the amount of an impairment loss recognised on a financial asset carried at amortised cost decreases and the decrease can be linked objectively to an event occurring after the write-down, the write-down is reversed through profit or loss. A reversal of an impairment loss shall not result in the asset's carrying amount exceeding that which would have been determined had no impairment loss been recognised in prior years.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

(v) Derecognition

A financial asset is derecognised when the contractual rights to receive the cash flows from the financial asset expire, or where the financial asset together with substantially all the risks and rewards of ownership have been transferred.

A financial liability is derecognised when the obligation specified in the contract is discharged, cancelled or expired.

(vi) Structured entities

A structured entity is an entity that has been designed so that voting or similar rights are not the dominant factor in deciding who controls the entity, such as when any voting rights relate to administrative tasks only and the relevant activities are directed by means of contractual arrangements.

A structured entity often has some or all of the following features or attributes:

- Restricted activities;
- A narrow and well-defined objective, such as to provide investment opportunities for investors by passing on risks and rewards associated with the assets of the structured entity to investors;
- Insufficient equity to permit the structured entity to finance its activities without subordinated financial support; and
- Financing in the form of multiple contractually linked instruments to investors that create concentrations of credit or other risks (tranches).

Management has determined that the Series Trust's investment in the Investment Fund (see note 9(a)) is an investment in an unconsolidated structured entity and is classified as financial assets at fair value through profit or loss (see note 4). The Investment Fund's investment objective is to maximise total investment return consisting of a combination of interest income, capital appreciation and currency gains. The Investment Fund is managed by an unrelated asset manager and applies various investment strategies to accomplish its investment objectives.

The Investment Fund invests principally in a portfolio of fixed or floating debt securities and debt obligations issued by government or government-related issuers worldwide. The Investment Fund can invest to a lesser extent in debt securities of any quality issued by corporations located in any country and debt securities of supranational entities. The Investment Fund can use derivatives for hedging and investment purposes which are used as an active investment management instrument to gain exposure to markets. The Investment Fund finances its operations by issuing redeemable shares which are puttable at holder's option on any Luxembourg business day, and entitles the holder to a proportional stake in the Investment Fund's net assets. The Series Trust holds redeemable shares in the Investment Fund and is not sponsoring the Investment Fund. As at 30 June 2019, the Series Trust held 0.10% (2018: 0.10%) of the net assets of the Investment Fund.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series –
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

The Series Trust's holdings in the Investment Fund are subject to the terms and condition of the respective offering documentation and are susceptible to market price risk arising from uncertainties about future values of the Investment Fund. The Manager makes investment decision after extensive due diligence of the Investment Fund including consideration of its strategy and the overall quality of the Investment Fund's manager.

The change in fair value of the Investment Fund is included in the statement of comprehensive income under "Net gain/(loss) on financial instruments at fair value through profit or loss".

(vii) Offsetting

Financial assets and financial liabilities are offset and the net amount presented in the statement of financial position when, and only when, the Series Trust has a legal right to offset the amounts and it intends to either settle on a net basis or to realise the asset and settle the liability simultaneously.

(f) Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents comprise deposits with banks. Cash equivalents are short-term, highly liquid investments that are readily convertible into known amounts of cash and which are subject to an insignificant risk of changes in value, having been within three months of maturity at acquisition.

(g) Interest income

Interest income is recognised in profit or loss as it accrues, using the original effective interest rate of the instruments calculated at the acquisition or origination date. Interest income includes the amortisation of any discount or premium, transaction costs or other differences between the initial carrying amount of an interest-bearing instrument and its amount at maturity calculated on an effective interest rate basis.

It is recorded gross of withholding tax imposed in the country of origin and such tax is separately recognised in profit or loss, if any.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

2 Significant accounting policies (continued)

(h) *Net gain or loss on financial instruments at fair value through profit or loss*

Net gain or loss on financial instruments at fair value through profit or loss includes all realised and unrealised fair value changes and foreign exchange differences, but excludes interest income.

(i) *Expenses*

All expenses of the Series Trust are recognised in profit or loss on an accrual basis.

(j) *Income tax*

Cayman Islands

Under the current taxation regime in the Cayman Islands, the Series Trust is exempt from paying taxes on income, profits or capital gains. The Trust has received an undertaking from the Governor in Cabinet of the Cayman Islands exempting it from tax for a period of 50 years from the date of the creation of the Trust. Accordingly, no provision for income taxes is included in these financial statements.

Hong Kong

The Series Trust is not expected to be subject to Hong Kong tax in respect of any of its investment activities.

(k) *Realisation of units by the unitholder*

The unitholder may realise units on any day on which commercial banks are open for business in each of Hong Kong, Luxembourg, New York and Tokyo, and/or any other day or days designated in writing by the Manager from time to time (the "Repurchase Day"). Units will be realised at the net asset value per unit on the relevant Repurchase Day, a price which is calculated by reference to the net asset value of the Series Trust as at the applicable Repurchase Day.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

2 Significant accounting policies (continued)

(l) Units in issue

The Series Trust classifies financial instruments issued as financial liabilities or equity instruments in accordance with the substance of the contractual terms of the instruments.

A puttable financial instrument that includes a contractual obligation for the issuer to repurchase or redeem that instrument for cash or another financial asset is classified as equity if it meets all of the following conditions:

- (i) it entitles the holder to a pro rata share of the Series Trust's net assets in the event of the Series Trust's liquidation;
- (ii) it is in the class of instruments that is subordinate to all other classes of instruments;
- (iii) all financial instruments in the class of instruments that is subordinate to all other classes of instruments have identical features;
- (iv) apart from the contractual obligation for the Series Trust to repurchase or redeem the instrument for cash or another financial asset, the instrument does not include any other features that would require classification as a liability; and
- (v) the total expected cash flows attributable to the instrument over its life are based substantially on the profit or loss, the change in the recognised net assets or the change in the fair value of the recognised and unrecognised net assets of the Series Trust over the life of the instrument.

The redeemable units of the Series Trust are classified as financial liabilities and are measured at the present value of the redemption amounts.

The Series Trust has three classes of redeemable units in issue: AUD Hedged, EUR Hedged and USD classes that are the most subordinate classes of financial instruments and rank *pari passu* in all material respects and have the same terms and conditions other than that the different classes of units are denominated in different currencies (the "Reference Currencies"). The redeemable units provide the unitholder with the right to require redemption for cash at a value proportionate to the unitholder's share in the net assets of the applicable class of units of the Series Trust at the redemption date, and also in the event of the Series Trust's liquidation.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

2 Significant accounting policies (continued)

(m) Related parties

- (a) A person, or a close member of that person's family, is related to the Series Trust if that person:
- (i) has control or joint control over the Series Trust;
 - (ii) has significant influence over the Series Trust; or
 - (iii) is a member of the key management personnel of the Series Trust or the Series Trust's parent.
- (b) An entity is related to the Series Trust if any of the following conditions applies:
- (i) The entity and the Series Trust are members of the same group (which means that each parent, subsidiary and fellow subsidiary is related to the others).
 - (ii) One entity is an associate or joint venture of the other entity (or an associate or joint venture of a member of a Series Trust of which the other entity is a member).
 - (iii) Both entities are joint ventures of the same third party.
 - (iv) One entity is a joint venture of a third entity and the other entity is an associate of the third entity.
 - (v) The entity is a post-employment benefit plan for the benefit of employees of either the Series Trust or an entity related to the Series Trust.
 - (vi) The entity is controlled or jointly controlled by a person identified in (a).
 - (vii) A person identified in (a)(i) has significant influence over the entity or is a member of the key management personnel of the entity (or of a parent of the entity).
 - (viii) The entity, or any member of a group of which it is a party, provides key management personnel services to the Series Trust or to the Series Trust's parent.

Close members of the family of a person are those family members who may be expected to influence, or be influenced by, that person in their dealings with the Series Trust.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

3 Cash and cash equivalents

	2019	2018
Current deposits with a bank	\$ 388,599	\$ 145,622

Cash held by the Series Trust is deposited with Citibank N.A. Hong Kong Branch.

4 Financial assets and liabilities at fair value through profit or loss

	2019	2018
Financial assets at fair value through profit or loss		
Non-derivative financial instruments:		
- Unlisted open-ended investment in Templeton Global Bond Fund	\$ 14,539,053	\$ 15,364,395
Derivative financial instruments:		
- Foreign currency forward contracts	39,144	4,248
	<u>\$ 14,578,197</u>	<u>\$ 15,368,643</u>
Financial liabilities at fair value through profit or loss		
Derivative financial instruments:		
- Foreign currency forward contracts	\$ -	\$ (4,885)

5 Amounts due to brokers

The balance represents the amounts payable to the brokers for unsettled purchases and is expected to be settled within one month.

6 Redemption payable

The balance represents the amounts payable to the unitholder for redeemed units and is expected to be settled within one month.

7 Interest income calculated using the effective interest method

	2019	2018
Interest income on bank balances	\$ 750	\$ 815

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

8 Net gain/(loss) on financial instruments at fair value through profit or loss

	2019	2018
Non-derivative financial instruments:		
- Unlisted open-ended investment in Templeton Global Bond Fund	\$ 934,657	\$ (236,666)
Derivative financial instruments:		
- Foreign currency forward contracts	(242,792)	(76,662)
	<u>\$ 691,865</u>	<u>\$ (313,328)</u>
Representing:		
Net realised (loss)/gain	\$ (95,530)	\$ 369,577
Net unrealised gain/(loss)	787,395	(682,905)
	<u>\$ 691,865</u>	<u>\$ (313,328)</u>

9 Financial instruments and associated risks

The Series Trust's investing activities expose it to various types of financial risks that are associated with the financial instruments and markets in which it invests according to the investment strategy. The risks that the Series Trust is exposed to are risks of the fund-of-fund structure, risks of the underlying fund and risks of the Series Trust which include market risk, credit risk and liquidity risk. Market risk includes interest rate risk, currency risk and price risk.

The nature and extent of the financial instruments outstanding at the end of the reporting period and their associated financial risks, as well as the risk management policies employed by the Series Trust are discussed below.

(a) Investment strategy

As mentioned in note 1, the investment objective of the Series Trust is to maximise total investment return consisting of a combination of interest income, capital appreciation and currency gains. The Series Trust seeks to achieve this investment objective through mainly investing in the Investment Fund.

The Investment Fund is an unlisted open-ended fund. It is a sub-fund of Franklin Templeton Investment Funds, a company incorporated in Luxembourg under the laws of the Grand Duchy of Luxembourg as a société anonyme and qualifying as a société d'investissement à capital variable. Franklin Templeton Investment Funds qualifies as an Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities.

The Investment Fund is managed by Franklin Advisers, Inc. (the "Investment Fund Manager"), who provides day-to-day management in respect of the investment and re-investment of the net assets of the Investment Fund. The Investment Fund Manager receives investment management fee from Franklin Templeton Investment Funds, the umbrella fund of the Investment Fund.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

9 Financial instruments and associated risks (continued)

The Investment Fund's investment objective is to maximise total investment return consisting of a combination of interest income, capital appreciation and currency gains. It seeks to achieve its objective by investing principally in a portfolio of fixed and floating rate debt securities (including non-investment grade securities) and debt obligations issued by government or government-related issuers worldwide.

The Investment Fund uses derivatives for hedging and investment purposes which are used as an active investment management instrument to gain exposure to markets.

The Investment Fund's functional currency is USD. The Manager of the Series Trust also systematically hedges the foreign currency exposure of the AUD Hedged units and EUR Hedged units of the Series Trust between their Reference Currencies (i.e., AUD for AUD Hedged units and EUR for EUR Hedged units, hereinafter the same) and the functional currency of the Series Trust by entering into foreign currency forward contracts of maturities of around one month (the "Currency Hedging Transactions").

A certain portion of the Series Trust's assets is retained as cash, taking into consideration the day-to-day cash needs of the Series Trust as they arise.

(b) *Risks of the fund-of-fund structure*

The Series Trust invests substantially all of its proceeds from the issuance of units into the Investment Fund and operates in a fund-of-fund structure.

The fund-of-fund structure gives rise to a unique risk that multiple parties invest in the Investment Fund alongside the Series Trust, whose units may not rank *pari passu*, lowering the investment returns. Should a major investor withdraw from the Investment Fund, the investors that remain may take up a greater proportion of the operating expenses. Furthermore, a substantial withdrawal of capital by the investors within a short time period could necessitate the liquidation of security positions at a time and in a manner which does not provide the most economic advantage to the Investment Fund, and which can adversely affect the value of the Investment Fund's assets.

The Series Trust achieves its investment objective through its investment in the Investment Fund. Whether the investment objective can be achieved depends on the performance of the Investment Fund's financial instruments and the continuing availability of the Investment Fund, as well as the business continuity of the Investment Fund Manager.

The Series Trust is under a fund-of-fund structure and has not been established as a tracker fund. The performance of the Series Trust can differ from that of the Investment Fund.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(c) *Risks of the Investment Fund*

Under the fund-of-fund structure, the Series Trust has an indirect exposure to the risks of the Investment Fund and loss incurred by the Investment Fund can adversely affect the Series Trust's financial position. The Investment Fund is the underlying fund of the Series Trust and is exposed to the following key risks which are monitored by the Investment Fund Manager. The Series Trust is indirectly exposed to them.

(i) Credit risk of the Investment Fund

Credit risk of the Investment Fund arises when an issuer of the bond securities held by the Investment Fund defaults and fails to make principal or interest payments on due date. The Investment Fund Manager has procedures in place to identify, measure, monitor and control credit risk.

The transactions in securities are settled or paid for upon delivery through approved and reputable brokers and outstanding balances are closely monitored.

The bond securities invested by the Investment Fund are of sound credit ratings and their credit qualities are assessed based on the nature of the issuers and historical default rates.

(ii) Currency risk of the Investment Fund

Currency risk arises from the effects of exchange rate fluctuations between the Investment Fund's functional currency and currency in which its financial instruments are denominated.

(iii) Liquidity risk of the Investment Fund

Liquidity risk arises when the Investment Fund Manager is not able to generate sufficient cash to settle its obligations as they fall due. A major liquidity risk is the ongoing redemption of the Investment Fund's units.

(iv) Interest rate risk of the Investment Fund

Interest rate risk arises from the effects of fluctuations in prevailing market interest rates on which the fair value of Investment Fund's financial instruments and future cash flows are based. The Investment Fund Manager monitors the risk by quantifying its exposure in duration terms.

(v) Derivative risk of the Investment Fund

Derivative risk arises from derivative contracts undertaken by the Investment Fund for hedging and investment purposes. Derivative contracts are high leverage investments and their value is determined by fluctuation in the underlying assets. Derivative contracts add to the liquidity, credit and counterparty risk of the Investment Fund.

The Series Trust's maximum exposure to its investment in the Investment Fund is the fair value of its investment in the Investment Fund.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(d) Market risk of the Series Trust

All investments held by the Series Trust are measured at fair value through profit or loss, and all changes in market conditions directly affect profit or loss. Market risk is the risk that the value of the investments will fluctuate as a result of changes in interest rates, exchange rates or prices.

(i) Interest rate risk

Interest rate risk arises from the possibility that changes in interest rates will affect the future cash flows or the fair value of financial instruments and therefore result in a potential gain or loss to the Series Trust. The Series Trust's interest rate risk is managed on an on-going basis by the Manager. Except for bank deposits, all the financial assets and liabilities of the Series Trust are non-interest bearing.

(ii) Currency risk

The Series Trust may invest in financial instruments and enter into transactions denominated in currencies other than its functional currency. Consequently, the Series Trust is exposed to risks that the exchange rate of its functional currency relative to other foreign currencies may change in a manner that has an adverse effect on the value of that portion of the Series Trust's financial assets or liabilities denominated in currencies other than the USD.

The fluctuations in the rate of exchange between the currency in which the asset or liability is denominated and functional currency could result in an appreciation or depreciation in the fair value of that asset or liability. Currency exposures between the Reference Currencies and the functional currency of the Series Trust are present for the AUD Hedged and EUR Hedged classes. Currency Hedging Transactions are entered into by the Manager according to a hedge ratio with certain residual risks. Furthermore, as a result of the Currency Hedging Transactions, an appreciation in a Reference Currency against the functional currency does not lead to a corresponding increase in the net asset value per unit of the hedged classes.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

Currency sensitivity

As at 30 June 2019 and 30 June 2018, had the USD weakened by 5% (2018: 5%) in relation to the respective currencies, with all other variables held constant, the fair value of the foreign currency forward contract would have increased by the amounts shown below.

(Expressed in USD)	Notional amount at 30 June 2019	Changes in fair value of the foreign currency forward contract if USD weakened by 5%		Changes in fair value of the foreign currency forward contract if USD weakened by 5%	
			Notional amount at 30 June 2018		
Australian Dollar	\$ 3,133,318	\$ 156,836	\$ 2,411,654	\$ 121,548	
Euro	872,102	43,721	1,200,820	60,731	
Total	\$ 4,005,420	\$ 200,557	\$ 3,612,474	\$ 182,279	

A 5% (2018: 5%) strengthening of the USD against the above currencies would have resulted in an equal but opposite effect on the financial statement amounts shown above, on the basis that all other variables remain constant.

(iii) Price risk

Price risk is the risk that the value of a financial instrument will fluctuate as a result of changes in market prices, whether caused by factors specific to an individual investment, its issuer or all factors affecting all instruments traded in the market.

Price sensitivity

The assets of the Series Trust are substantially invested in the Investment Fund and therefore are exposed to the price risk of the Investment Fund. It is estimated that a 5% (2018: 5%) decrease in the quoted price of the Investment Fund would result in a decrease in the net assets attributable to the unitholder and the total comprehensive income for the year by \$726,953 (2018: \$768,220); an equal change in the opposite direction would result in an increase in the net assets attributable to unitholder by an equal amount.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(e) Credit risk of the Series Trust

Credit risk is the risk that a counterparty to a financial instrument will fail to discharge an obligation or a commitment that it has entered into with the Series Trust. The Series Trust's exposure to credit risk is monitored by the Manager on an ongoing basis.

Amounts arising from ECL

Impairment on cash and cash equivalents has been measured on a 12-month expected loss basis and reflects the short maturities of the exposures. All the cash held by the Series Trust is deposited with Citibank N.A. Hong Kong Branch which is also the Administrator and the Custodian. The Manager considers that these exposures have low credit risk.

On the date of initial application of HKFRS 9, the Manager considers the probability of default to be close to zero as the counterparties have a strong capacity to meet their contractual obligations in the near term. There is no impairment allowance recognised on cash and cash equivalents. The amount of the loss allowance did not change during 2019.

The Series Trust is exposed to credit risk with respect to the Custodian taking custody of the Series Trust's cash and cash equivalents balances and to the counterparty of the foreign currency forward contracts under the Currency Hedging Transactions.

All the cash held by the Series Trust is deposited with Citibank N.A. Hong Kong Branch which is also the Administrator and the Custodian. The Manager considers the credit risk of the bank to be low.

The Currency Hedging Transactions expose the unitholder of the AUD and EUR Hedged classes to counterparty risks. The Currency Hedging Transactions were entered into with Citigroup Global Markets Japan Inc., an affiliate of the Manager.

As at 30 June 2019 and 30 June 2018, most of the Series Trust's financial assets were allocated to the Investment Fund and the investment manager is Franklin Advisers, Inc.

The Series Trust is indirectly exposed to credit risk through its investment in the Investment Fund.

The table below sets out credit ratings provided by Standard & Poor's rating services for the holding company of the Investment Fund Manager:

	2019 Credit rating by Standard & Poor's	2018 Credit rating by Standard & Poor's
Franklin Resources, Inc.	A+	A+

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(f) Liquidity risk of the Series Trust

Liquidity risk arises from the risk that the Manager may not be able to convert investments into cash to meet liquidity needs in a timely manner. The Series Trust is exposed to liquidity risk on redemption of units by the unitholder on the redemption date.

The unitholder may realise units on any Repurchase Day. Under normal market condition, the Manager will liquidate the Series Trust's investments in the Investment Fund to meet the redemption obligation. Any amount payable to the unitholder in respect of the realisation of units shall normally be paid within eight fund business days following the relevant Repurchase Day as defined in note 2(k).

Analysis of liability by remaining maturity

The following table details the remaining contractual maturities of the Series Trust's liabilities as at 30 June 2019 and 30 June 2018:

	2019				
	Repayable on demand	Within 1 month	Over 1 month to 3 months	Over 3 months to 1 year	Total
Non-trading liabilities					
Accruals and other payables	\$ -	\$ 49,872	\$ 10,035	\$ -	\$ 59,907
Amounts due to brokers	-	150,000	-	-	150,000
Redemption payable	-	24,364	-	-	24,364
Net assets attributable to the unitholder	14,732,525	-	-	-	14,732,525
Total	\$14,732,525	\$ 224,236	\$ 10,035	\$ -	\$14,966,796
	2018				
	Repayable on demand	Within 1 month	Over 1 month to 3 months	Over 3 months to 1 year	Total
Non-trading liabilities					
Accruals and other payables	\$ -	\$ 59,042	\$ 5,035	\$ -	\$ 64,077
Redemption payable	-	129,141	-	-	129,141
Net assets attributable to the unitholder	15,316,162	-	-	-	15,316,162
Total	\$15,316,162	\$ 188,183	\$ 5,035	\$ -	\$15,509,380
Trading liabilities					
Financial liabilities at fair value through profit or loss	\$ -	\$ 4,885	\$ -	\$ -	\$ 4,885

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(g) Fair values

(i) Financial instruments carried at fair value

The following table presents the fair value of the Series Trust's financial instruments measured at the end of the reporting period on a recurring basis, categorised into the three-level fair value hierarchy as defined in HKFRS 13, *Fair Value Measurement*. The level into which a fair value measurement is classified is determined with reference to the observability and significance of the inputs used in the valuation technique as follows:

- Level 1 valuations: Fair value measured using only Level 1 inputs i.e. unadjusted quoted prices in active markets for identical assets or liabilities at the measurement date
- Level 2 valuations: Fair value measured using Level 2 inputs i.e. observable inputs which fail to meet Level 1, and not using significant unobservable inputs. Unobservable inputs are inputs for which market data are not available
- Level 3 valuations: Fair value measured using significant unobservable inputs

	2019			Total
	Level 1	Level 2	Level 3	
Financial assets at fair value through profit or loss				
Non-derivative financial instruments:				
- Unlisted open-ended investment in Templeton Global Bond Fund	\$ -	\$ 14,539,053	\$ -	\$ 14,539,053
Derivative financial instruments:				
- Foreign currency forward contracts	-	39,144	-	39,144
	<u>\$ -</u>	<u>\$ 14,578,197</u>	<u>\$ -</u>	<u>\$ 14,578,197</u>

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

9 Financial instruments and associated risks (continued)

	2018			Total
	Level 1	Level 2	Level 3	
Financial assets at fair value through profit or loss				
Non-derivative financial instruments:				
- Unlisted open-ended investment in Templeton Global Bond Fund	\$ -	\$ 15,364,395	\$ -	\$ 15,364,395
Derivative financial instruments:				
- Foreign currency forward contracts	-	4,248	-	4,248
	<u>\$ -</u>	<u>\$ 15,368,643</u>	<u>\$ -</u>	<u>\$ 15,368,643</u>
Financial liabilities at fair value through profit or loss				
Derivative financial instruments:				
- Foreign currency forward contracts	\$ -	\$ (4,885)	\$ -	\$ (4,885)

During the year ended 30 June 2019 and 30 June 2018, there were no transfers among instruments in Level 1, Level 2 and Level 3.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(ii) Financial instruments carried at other than fair value

The financial instruments not measured at fair value through profit or loss are short-term financial instruments whose carrying amounts approximate fair value.

The following table sets out the fair value of financial instruments not measured at fair value and analyses it by the level in the fair value hierarchy into which that fair value measurement is categorised.

	2019			
	Level 1	Level 2	Level 3	Total
Financial assets				
Cash and cash equivalents	\$ -	\$ 388,599	\$ -	\$ 388,599
Financial liabilities				
Accruals and other payables	\$ -	\$ (59,907)	\$ -	\$ (59,907)
Amounts due to brokers	-	(150,000)	-	(150,000)
Redemption payable	-	(24,364)	-	(24,364)
Net assets attributable to the unitholder	-	(14,732,525)	-	(14,732,525)
	\$ -	\$ (14,966,796)	\$ -	\$ (14,966,796)

	2018			
	Level 1	Level 2	Level 3	Total
Financial assets				
Cash and cash equivalents	\$ -	\$ 145,622	\$ -	\$ 145,622
Financial liabilities				
Accruals and other payables	\$ -	\$ (64,077)	\$ -	\$ (64,077)
Redemption payable	-	(129,141)	-	(129,141)
Net assets attributable to the unitholder	-	(15,316,162)	-	(15,316,162)
	\$ -	\$ (15,509,380)	\$ -	\$ (15,509,380)

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

9 Financial instruments and associated risks (continued)

(iii) Foreign currency forward contracts

The foreign currency forward contracts were outstanding as follows:

2019

Financial assets at fair value through profit or loss

Currency bought	Currency amount bought	Currency sold	Currency amount sold	Settlement date	Fair value
AUD	4,477,128	USD	3,101,034	31 July 2019	\$ 35,696
EUR	766,953	USD	870,965	31 July 2019	<u>3,448</u>

2018

Financial assets at fair value through profit or loss

Currency bought	Currency amount bought	Currency sold	Currency amount sold	Settlement date	Fair value
EUR	1,037,147	USD	1,210,376	31 July 2018	\$ <u>4,248</u>

Financial liabilities at fair value through profit or loss

Currency bought	Currency amount bought	Currency sold	Currency amount sold	Settlement date	Fair value
AUD	3,282,830	USD	2,435,853	31 July 2018	\$ <u>(4,885)</u>

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

9 Financial instruments and associated risks (continued)

Foreign currency forward contracts are commitments either to purchase or sell a designated currency at a specified future date for a specified price and settled in cash. The contracts are customised over-the-counter. These contracts were entered into to hedge foreign currency exposure of the Series Trust.

Foreign currency forward contracts result in exposure to market risk based on changes in market prices relative to contracted amounts. Market risks arise due to the possible movement in foreign currency exchange rates. In addition, because of the low margin deposits normally required in relation to notional contract sizes, a high degree of leverage may be typical of a forward trading account. As a result, a relatively small price movement in an underlying of a forward contract may result in substantial losses to the Series Trust.

Notional amounts are the underlying reference amounts to foreign currencies upon which the fair value of the forward contracts traded by the Series Trust are based. While notional amounts do not represent the current fair value and are not necessarily indicative of the future cash flows of the Series Trust's foreign currency forward contracts, the underlying price changes in relation to the variables specified by the notional amounts affect the fair value of these derivative financial instruments.

The Series Trust transacts in foreign currency forward contracts for the account of holders of the AUD Hedged and EUR Hedged classes of units, in principle, by selling USD and purchasing the Reference Currencies. As a result of the Currency Hedging Transactions, an appreciation in AUD or EUR against the USD as applicable will not lead to a corresponding increase in the net asset value per unit of the AUD Hedged or EUR Hedged classes of units. All gains and losses arising from these transactions are to the account of the respective AUD Hedged and EUR Hedged classes of units.

The counterparty of these contracts is a fellow subsidiary of the Manager, which is a reputable financial institution, hence the risk of default is considered low.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

10 Net assets attributable to the unitholder

(a) Units issued and redeemed

	<i>Number of units</i>		
	<i>2019</i>		
	<i>AUD</i>	<i>EUR</i>	<i>USD</i>
	<i>Hedged class</i>	<i>Hedged class</i>	<i>class</i>
At 1 July 2018	320,351	111,351	1,183,269
Subscription of units during the year	133,470	315	72,941
Redemption of units during the year	(34,144)	(30,477)	(218,967)
At 30 June 2019	<u>419,677</u>	<u>81,189</u>	<u>1,037,243</u>

	<i>Number of units</i>		
	<i>2018</i>		
	<i>AUD</i>	<i>EUR</i>	<i>USD</i>
	<i>Hedged class</i>	<i>Hedged class</i>	<i>class</i>
At 1 July 2017	394,116	136,265	1,634,183
Subscription of units during the year	18,401	3,367	46,248
Redemption of units during the year	(92,166)	(28,281)	(497,162)
At 30 June 2018	<u>320,351</u>	<u>111,351</u>	<u>1,183,269</u>

As at 30 June 2019 and 30 June 2018, all units issued by the Series Trust were classified as financial liabilities. The only unitholder of the Series Trust is SMBC Trust Bank Ltd. The unitholder is the Distributor.

The initial offering of all three classes of units were priced at a unit price of 10 currency unit of their respective Reference Currency. Units may be redeemed on the redemption date and also in the event of the Series Trust's liquidation at the net asset value per unit of the applicable class of units on the relevant redemption date with no redemption charge.

In meetings of unitholders for any resolution to be proposed, individual unitholder present in person, by proxy or by representative, has one vote for every unit of which he is the holder.

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

10 Net assets attributable to the unitholder (continued)

The Trust and the Series Trust do not have any externally imposed capital requirements. As at 30 June 2019, the Series Trust had net assets attributable to the unitholder of \$14,732,525 (2018: \$15,316,162). The Series Trust strives to invest the funds received from the issue of units in investments that meet the Series Trust's investment objective while maintaining sufficient liquidity to meet the funding needs when the unitholder redeems its units.

The unitholder of the Series Trust cannot switch its units into units of any other series trust of the Trust.

The Series Trust does not intend to pay dividends or other distributions for the year ended 30 June 2019 and 30 June 2018.

(b) Reconciliation of net assets

In accordance with the Series Trust's offering memorandum, the net assets of the Series Trust are computed using the pre-determined cut-off time for all transactions. Transactions after the offering memorandum based cut-off time are recorded the next day. Under the HKFRSs requirements, these transactions are recorded on the same day to comply with recognition and derecognition criteria for the financial instruments. This approach creates a timing difference between the HKFRSs net assets and units issued and the offering memorandum net assets and units issued. Preliminary expenses are amortised over a period of not more than 5 years from date of closing in accordance with the offering memorandum. However, for financial reporting purposes under HKFRSs, all expenses should be recognised in profit or loss when they are incurred.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series –
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

10 Net assets attributable to the unitholder (continued)

A reconciliation of the net assets between the amounts computed for valuation purposes and the amounts computed in accordance with HKFRSs as reported is as follows:

	2019			
	AUD Hedged Class	EUR Hedged class	USD class	Total
Net assets attributable to the unitholder for valuation purposes	\$ 3,123,877	\$ 873,445	\$10,731,974	\$14,729,296
Adjustment for timing difference	685	191	2,353	3,229
Adjustment for preliminary expenses	-	-	-	-
Net assets attributable to the unitholder as reported in the financial statements	<u>\$ 3,124,562</u>	<u>\$ 873,636</u>	<u>\$10,734,327</u>	<u>\$14,732,525</u>
	2018			
	AUD Hedged Class	EUR Hedged class	USD class	Total
Net assets attributable to the unitholder for valuation purposes	\$ 2,422,102	\$ 1,205,047	\$11,725,170	\$15,352,319
Adjustment for timing difference	(5,713)	(2,843)	(27,658)	(36,214)
Adjustment for preliminary expenses	9	4	44	57
Net assets attributable to the unitholder as reported in the financial statements	<u>\$ 2,416,398</u>	<u>\$ 1,202,208</u>	<u>\$11,697,556</u>	<u>\$15,316,162</u>

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

10 Net assets attributable to the unitholder (continued)

A reconciliation of the number of units between the numbers used for valuation purposes and the numbers recorded in accordance with HKFRSs as reported is as follows:

	2019		
	AUD Hedged class	EUR Hedged class	USD class
Units issued for valuation purpose	419,677	81,189	1,037,243
Adjustment for timing difference	-	-	-
Units issued as reported in the financial statements	419,677	81,189	1,037,243

	2018		
	AUD Hedged class	EUR Hedged class	USD class
Units issued for valuation purpose	320,351	111,351	1,183,269
Adjustment for timing difference	-	-	-
Units issued as reported in the financial statements	320,351	111,351	1,183,269

*Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019*

11 Related parties

Charges and expenses from related parties in respect of services provided to the Series Trust are as follows:

Management fee:	The Manager is entitled to a management fee of 0.16% per annum of the net asset value of the Series Trust. The fee is accrued daily and payable monthly in arrears.
Trustee fee:	The Trustee charges a fee of USD10,000 per annum. The fee is accrued daily and payable quarterly in arrears.
Administrator, transfer agent and custodian fees:	The Administrator is entitled to a combined fee of up to 0.08% per annum of the net asset value of the Series Trust. The fee is accrued daily and payable monthly in arrears.
Distributor fee:	The Distributor charges a fee up to 0.75% per annum of the net asset value of the Series Trust per unit for each unit that the Distributor is the registered holder. The fee is accrued daily and payable monthly in arrears.
Agent company fee:	The agent company charges a fee up to 0.01% per annum of the net asset value of the Series Trust. The fee is accrued daily and payable monthly in arrears.
Service provider fee:	The service provider is entitled to receive a fee of up to 0.08% per annum of the per unit net asset value of the Series Trust for each unit that SMBC Trust Bank Limited is the registered holder in its capacity as a distributor, or distributors in Japan as may be appointed by the Manager from time to time. The fee is calculated and accrued daily and payable monthly in arrears.
Financial statements preparation fee:	The Administrator is entitled to a financial statements preparation fee of USD8,000 per annum. The financial statements preparation fee charged for the year amounted to USD8,043 (2018: USD7,979).

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

11 Related parties (continued)

The following summarises the significant related party transactions of the Series Trust:

	2019		2018	
	Expenses	Payables	Expenses	Payables
Management fee	\$ 23,358	\$ 4,138	\$ 29,678	\$ 4,486
Trustee fee	10,250	10,035	10,750	5,035
Administrator, transfer agent and custodian fees	8,759	6,131	11,129	6,236
Distributor fee	109,490	8,923	139,115	9,603
Agent company fee	1,460	119	1,855	128
Service provider fee	11,679	952	14,839	1,024
Financial statements preparation fee	8,043	793	7,979	8,749

The Series Trust utilises the banking services of the Administrator in the ordinary course of their banking and securities custodian business. Information relating to the cash and cash equivalents, and investment balance is disclosed in notes 3 and 4 respectively. During the year ended 30 June 2019, the interest income earned from the bank balances maintained with the Administrator amounted to USD750 (2018: USD815).

The counterparty to the foreign currency forward contracts is a fellow subsidiary of the Manager. Information relating to the foreign currency forward contracts is disclosed in note 9(g)(iii).

12 Key sources of estimation uncertainty

Estimation of fair values

The fair values of financial instruments designated at fair value through profit or loss are derived by valuation models using current market parameters as described in note 2(e)(iii). Fair value estimates are made at a specified point in time, based on market conditions and information about the financial instruments. These estimates are subjective in nature and involve uncertainties and matters of significant judgement and therefore cannot be determined with precision. Nevertheless, fair values can be reliably determined within a reasonable range of estimates.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Financial statements for the year ended 30 June 2019

13 Possible impact of amendments, new standards and interpretations issued but not yet effective for the year ended 30 June 2019

Up to the date of issue of these financial statements, the HKICPA has issued a number of amendments and new standards which are not yet effective for the year ended 30 June 2019 and which have not been adopted in these financial statements. These include the following which may be relevant to the Series Trust:

	<i>Effective for accounting periods beginning on or after</i>
HK(IFRIC) 23, <i>Uncertainty over income tax treatments</i>	1 January 2019
<i>Annual Improvements to HKFRSs 2015-2017 Cycle</i>	1 January 2019

The Series Trust is in the process of making an assessment of what the impact of these amendments, new standard and interpretations is expected to be in the period of initial application. So far the Series Trust has concluded that the adoption of them is unlikely to have a significant impact on the Series Trust's results of operations and financial position.

Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series -
a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust
Year ended 30 June 2019

Supplementary information (unaudited)

Performance table

(Expressed in United States dollars)

	2019	2018
Total net asset value (calculated in accordance with the Offering Memorandum)	<u>\$ 14,729,296</u>	<u>\$ 15,352,319</u>
Net asset value per unit (calculated in accordance with Offering Memorandum)		
- AUD Hedged class	AUD 10.636	AUD 10.292
- EUR Hedged class	EUR 9.461	EUR 9.347
- USD class	<u>USD 10.347</u>	<u>USD 9.909</u>
Price record (calculated in accordance with Offering Memorandum)		
- Highest unit net asset value during the year		
- AUD Hedged class	AUD 10.618	AUD 10.818
- EUR Hedged class	EUR 9.589	EUR 10.059
- USD class	<u>USD 10.470</u>	<u>USD 10.389</u>
- Lowest unit net asset value during the year		
- AUD Hedged class	AUD 10.098	AUD 10.235
- EUR Hedged class	EUR 9.375	EUR 9.308
- USD class	<u>USD 9.679</u>	<u>USD 9.844</u>
Net investment return during the year		
- AUD Hedged class	3.34%	-3.35%
- EUR Hedged class	1.22%	-5.65%
- USD class	4.42%	-3.10%

The net investment returns for 2019 and 2018 was calculated by reference to the difference between the net asset value per unit (calculated in accordance with the Offering Memorandum) of the Series Trust at year end date and year beginning date price, divided by the year beginning date price to obtain the return in percentage.

（３）【投資有価証券明細表等】

「（１）貸借対照表」の財政状態計算書および注記４の項目を参照のこと。

２【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2019年10月末日現在)

		米ドル (IVおよびVを除く)	円 (IVを除く)
Ⅰ．資産総額		12,903,316.18	1,404,913,066
Ⅱ．負債総額		97,999.99	10,670,239
Ⅲ．純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）		12,805,316.19	1,394,242,827
Ⅳ．発行済口数	米ドル建て受益証券	921,162.193口	
	豪ドル建て（ヘッジあり） 受益証券	403,050.180口	
	ユーロ建て（ヘッジあり） 受益証券	79,187.229口	
Ⅴ．１口当たり 純資産価格	米ドル建て受益証券	9.976米ドル	1,086
	豪ドル建て（ヘッジあり） 受益証券	10.186豪ドル	767
	ユーロ建て（ヘッジあり） 受益証券	9.019ユーロ	1,095

第4【外国投資信託受益証券事務の概要】

（イ）受益証券の名義書換

サブ・ファンドの記名式受益証券の名義書換機関は次のとおりである。

取扱機関 シティコープ・フィナンシャル・サービスズ・リミテッド

取扱場所 香港、カオルーン、クントン、ホイ・ブン・ロード83、
ワン・ベイ・イースト、シティ・タワー

日本の受益者については、受益証券の保管を販売会社に委託している場合、その販売会社の責任で必要な名義書換手続がとられ、それ以外のものについては本人の責任で行う。

名義書換の費用は受益者から徴収されない。

（ロ）受益者集会

受託会社または管理会社は、以下に掲げる場合において、トラストまたは関連するサブ・ファンド（場合による。）の受益者集会を、当該集会の招集通知に定める時間および場所において招集する。

（a）信託証書の規定により要求される場合

（b）管理会社または受託会社の書面による請求がある場合

（c）（全受益者集会の場合）当該時点において発行済受益証券の合計10分の1以上の保有が登録されている受益者の書面による請求がある場合

（d）（いずれかのサブ・ファンドの受益者集会の場合）当該サブ・ファンドの当該時点において発行済受益証券の合計10分の1以上の保有が登録されている受益者の書面による請求がある場合

集会は、トラストまたは関連するサブ・ファンドの受益者に対して中10日以上前の事前の通知により招集されなければならない。通知は、集会の日時および場所ならびに当該集会で提案される決議の議題を明記しなくてはならない。受益者決議、議決または定足数に関する計算は、関連する基準日（ただし、当該基準日が評価日ではない場合、当該基準日の直前の評価日）の時点における純資産価額を参照して行われる。いずれかの集会に関する基準日は、管理会社により決定される日（集会の招集通知に明記される集会の日から中14日以上前）とする。事故によるいずれかの受益者に対する通知の不到達または受益者による通知の不受領は、集会の議事を無効にするものではない。受託会社または管理会社の授權された代理人は、集会に出席し発言する権利を有する。集会の定足数は、時点におけるトラストまたはサブ・ファンド（場合による。）の当該時点における発行済受益証券の保有者の単純過半数である。集会の議決に付される決議は、書面で行われる投票により決定され、当該決議がサブ・ファンド決議または受益者決議（場合による。）の必要過半数により承認された場合、投票の結果は、集会の決議とみなされる。投票において、議決は本人または代理人により行使されることができる。

（ハ）受益者に対する特典、譲渡制限

いかなる特典も、受益者に対して、付与されない。

受益証券の譲渡

以下に記載される規定および管理会社が決定するその他の条件に基づき、受益者は、管理会社および受託会社の承諾を得た上、自らが保有する受益証券を管理会社が随時承認するいかなる書式の書面証書によっても譲渡することができる。すべての譲渡証書は、譲渡人またはその代理人および譲受人またはその代理人の署名が付されなければならない。

いずれかの譲渡に関して、管理会社または受託会社は、それぞれの絶対的な裁量により、譲受人に対して、管理会社または受託会社が必要もしくは望ましいと判断するいかなる様式によるいかなる情報（関連する法域または適用ある法域における制定法の規定、政府その他の要件もしくは規則または当該時に有効な管理会社もしくは受託会社の方針の遵守を容易にするために管理会社または受託会社が要求する情報または文書を含む。）も提供することを要求することができる。

受託会社および管理会社は、信託証書の規定に反するいかなる譲渡の確認、合意、名義書換または名義書換の取次ぎも行わず、また受託会社または管理会社が譲受人の氏名を受益者名簿に記入するか、または受益者名簿への記入を取次ぐまでは、譲渡の対象である受益証券に対するあらゆる権利に関して引き続き譲渡人を受益者として扱う。

受託会社または管理会社のいずれも、関連する譲渡契約または申込契約における表明に依拠してその承諾を行うことにつき責任を有することはなく、またそれぞれ完全に保護される。

上記の規定に違反して譲渡されるいずれの受益証券も、以下の「強制買戻しおよび譲渡」の項に記載される方法による強制的な買戻しまたは譲渡の対象となる。

強制買戻しおよび譲渡

受託会社は、いつでも影響を受ける受益者に対して事前の書面による通知を行うことにより、適用ある買戻価格（送金費用の控除後）により、関連する買戻日において、当該受益者によって保有されるすべてのまたはいずれかの受益証券を買い戻すことができる。かかる強制買戻しは、以下に掲げる状況において行われることができる。

- (a) 受益証券が、直接または実質的に以下の者によって所有されていると受託会社もしくは管理会社が認識し、またはそのように認識することについて理由がある場合。
 - (i) いずれかの国、政府、司法または財務当局の法律、規制または法的拘束力を有する要件に違反する者
 - (ii) 関連するサブ・ファンドについて適格投資家でない者、または関連するサブ・ファンドに関する適格投資家でない者の利益のために受益証券を取得した者
 - (iii) 受託会社または管理会社の意見において関連するサブ・ファンドの信託財産、受託会社または管理会社が本来であれば負うはずのない納税責任を負い、または法律上、金銭上、規制上もしくは重大な運営上、結果的に不利益を被ることになると受託会社または管理会社が判断する状況下にある者
- (b) 受益証券が、受益者に対して、前記「第一部 ファンド情報、第4 外国投資信託受益証券事務の概要、(ハ) 受益者に対する特典、譲渡制限」の項に要約される信託証書の適用ある規定に違反して譲渡された場合。

第二部【特別情報】

第1【管理会社の概況】

1【管理会社の概況】

（1）資本の額

管理会社の資本金は、200万200香港ドル（約2,778万円）で、2019年10月末日現在全額払込済であり、記名式株式2万2株を発行済である。

また、管理会社の純資産の額は、2019年10月末日現在262,972,579香港ドル（約36億5,269万円）であった。

過去5年間、管理会社の資本金の増減はない。

（2）会社の機構

管理会社が総会で異なる決定を下さない限り、取締役の人数は一名以上とし、最大人数はないものとする。

取締役の資格として管理会社の株式を保有する必要はない。管理会社の株主でない取締役は総会またはいずれかの種類株式の保有者総会に出席して、発言する権利を有するものとする。

管理会社の事業は取締役会が管理するものとする。取締役会は管理会社の設立および登録に関するすべての費用を支払うものとする。取締役会は香港会社（解散および雑則）法（第32章）および香港会社法（第622章）ならびにこれと一体をなすその他一切の法令（以下「香港会社法」という。）または通常定款に従って管理会社によって総会で行使されるべき管理会社のすべての権限を、通常定款に定める規則、香港会社法に定める規定および管理会社が総会で定めた上記の規則および規定と矛盾しない規則に従って、行使することができる。ただし、管理会社が総会で定めた規則は、かかる規則が定められていなければ有効な以前の実行取締役会の行為を無効化しないものとする。

香港会社法に定める関係規定に従って、取締役会は香港等において管理会社の業務を管理する委員会、地方委員会または機関を設置し、事業を行うために適当と判断する規則を定め、変更し、いずれかの者を上記の委員会、地方委員会または機関の構成員に選任し、報酬を定めるほか、取締役会に帰属する権限または裁量権を、上記の委員会、地方委員会または機関に委託し、上記の委員会、地方委員会または機関の構成員に欠員を補充し、または欠員を補充することなく職務を務めることを認めることができる。上記の選任または委託は取締役会が適当と判断する条件に基づくものとする。また取締役会は上記の要領で選任された者を解任し、または委託を撤回し、もしくは変更することができるが、誠実で取引を行い、かつかかる撤回または変更を通知されていない者は上記の規定による影響を受けないものとする。

取締役会は随時管理会社の社印を押した委任状により、いずれかの者を、取締役会が適当と考える期間、取締役会が適当と考える条件に基づき、取締役会が適当と考える目的のために、取締役会が適当と考える権限および裁量権（再委託の権限を含む。）を授与した上で、管理会社の代理人または委託先に選任することができる。上記の選任は、（取締役会が適当と判断する場合）取締役または上記の委員会もしくは地方委員会の構成員またはいずれかの企業もしくは会社の取締役、名義人もしくは経営者または取締役会が直接もしくは間接的に指名した人もしくは団体を受益者とし、また上記の委任状には上記の代理人と取引を行う者を保護し、かつ便宜を図るために取締役会が適当と考える規定を織り込むことができる。

取締役会は、随時取締役会が適当と考える期間、取締役会が適当と考える条件に基づき、取締役会が適当と考える報酬により、一名以上の取締役を管理会社の業務執行取締役または共同業務執行取締役に選任し、または管理会社の事業の管理、運営に携わる役職に就任させることができる。また取締役会は、随時（取締役と管理会社との間で合意した契約に定める規定に従い）上記の実行取締役を解任し、他の取締役を後任に選任することができる。

業務執行取締役または共同業務執行取締役に（業務執行取締役または共同業務執行取締役と管理会社との間で合意した契約に定める規定に従い）管理会社のその他の取締役の辞任および解任に関する規定と同じ規定が適用されるものとし、取締役ではなくなった場合、直ちに業務執行取締役または共同業務執行取締役ではなくなるものとする。

取締役会は業務執行取締役、共同業務執行取締役または管理会社の事業の管理、運営に携わるその他の役職を務める取締役に、取締役会が適当と考える条件および制限に従い、定款に基づき行使され得る取締役会が適当と考える権限を、取締役会自身の権限と併存し、または取締役会自身の権限を排除して授与し、委託するとともに、随時かかる権限の一部または全部を撤回し、取消し、または変更することができる。

- （i）取締役会は、随時管理会社の支配人を選任して、報酬、手数料を支払い、または管理会社の利益への参加権を授与し、またはそれらの混合による報酬を定め、管理会社の事業により支配人が雇用した支配人の職員の費用を支払うことができる。
- （ii）支配人の選任は取締役会が決定した期間として、取締役会は適当と考える権限の一部または全部を支配人に授与することができる。
- （iii）（i）号および（ii）号に関連して、取締役会は、その独自の裁量により、適当と判断する条件（管理会社の事業を行うために副支配人またはその他の従業員を選任する支配人の権限を含む。）に基づき支配人と契約を締結することができる。

2【事業の内容及び営業の概況】

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、トラストの管理会社である。

管理会社は、管理会社が受託会社に対して当該委託が生ずる前または当該委託が生じた後合理的な期間内に当該委託について書面により通知することを条件に、受託会社の事前の承認を得ることなく、管理会社が決定する1以上の個人、団体または法人に対して、その権利、特典、権能、義務および裁量の全部または一部ならびに信託証書に基づくそのいずれかの職務の履行を（関連するサブ・ファンドの費用で）委託する権能および権限を有する。ただし、以下に掲げる事項をその条件とする。

- （a）管理会社は、各委託先が信託証書の規定（適用ある範囲において）を遵守することを確保するために、あらゆる合理的な努力をする。
- （b）適用ある法律によって要求される限りにおいて、管理会社は、当該委託先の作為または不作為についてかかる作為または不作為が管理会社自身のものであるかのように責任を負うが、その他当該委託先またはその再委託先の行為を監督することを義務付けられず、かつ、かかる損失が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行の結果として発生した場合を除き、委託先または再委託先の作為または不作為を理由としてトラスト（いずれかのサブ・ファンドを含む。）が被った損失について一切責任を負わない。
- （c）当該者との書面による合意は、個別的に受託会社に対してではなく、関連するサブ・ファンドの信託財産のみに対して当該合意に基づく求償を制限する条項を含む。

管理会社は、いかなる場合または理由においても、信託財産またはそのいずれか一部が被ったまたはその収益について生じた損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。

管理会社は、トラストに関する潜在的債権者との取引においても、当該債権者に対して支払義務を負うもしくは将来その可能性がある債務、義務または負債を満足させるために、当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産に対してのみ求償権を有することを確保する。

管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負担しまたは当事者となった訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産より補償される。上記にかかわらず、

- （a）管理会社は、あるサブ・ファンドの信託財産から、他のサブ・ファンドに関して被った債務に対して補償を受ける権利を有さない。
- （b）管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の

詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。

管理会社は、受託会社に対して90日前（または受託会社が合意するより短い期間）の書面による通知を行うことにより退任することができる。管理会社が退任の意思を示した通知を行ってから60日以内に承継管理者が任命されていない場合、すべてのサブ・ファンドが終了する。

管理会社は、受託会社が信託証書に基づくその義務の重大な違反を行い、かつ（当該違反が治癒可能である場合に）当該違反の治癒を要求する管理会社による通知の受領から30日以内にこれを是正しない場合、受託会社に対して書面による通知を行うことにより、いつでも信託証書に基づくその任務から退く権利を有する。

管理会社が退任するかまたは解任された場合であって、かつかかる退任または解任の後受託会社が決定する期間内にあらゆる点において管理会社に代わる者として相応しい者であると受託会社が決定する後任の管理会社を受託会社が特定することができない場合、受託会社は、直ちに全受益者による集会を招集する。当該受益者集会において、受益者は、受益者決議をもって管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名することができ、受益者は、受託会社に対して、その旨を書面により通知するものとする。当該通知後直ちに、受託会社は、追補信託証書および／または適切な場合、投資運用契約の条項により、望ましい後任の管理会社を管理会社として選任する。受益者が管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名しなかった場合、受託会社は、トラストを終了させることができる。

受託会社は、投資運用契約に定める条件でトラストおよび各サブ・ファンドの投資運用者として行為するよう管理会社を任命している。投資運用契約の条件に基づき、管理会社は、各サブ・ファンドの資産の投資および再投資ならびに投資運用サービスの履行につき責任を負う。

投資運用契約に基づき、管理会社は、いかなる場合または理由においても、受託会社、信託財産またはいずれかのサブ・ファンドが負担または被った損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。管理会社は、間接的、特別または派生的な損失につき責任を負わない。管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負い、負担または被る可能性のある訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産から補償を受ける権利を有する。ただし、管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。投資運用契約は、管理会社が受託会社に対して90日以上前に書面による通知を行うことにより（その逆の場合も同様とする。）、または投資運用契約に定めるその他の状況において終了する。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、香港で設立された会社であり、シティグループ・インクの間接完全子会社であるシティグループ・グローバル・マーケッツ・ホンコン・ホールディングス・リミテッドの完全子会社である。SF0第116条に従って、管理会社は、SF0の別紙5に定義されるタイプ4および9の規制対象活動に関して認可を受けている。かかる規制対象活動は、証券および資産運用に関する助言を含む。

管理会社の取締役は以下のとおりである。

シリル・トルブレウィッチ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの取締役兼アジア・パシフィック・マルチ・アセット・グループの長である。マルチ・アセット・グループは、資産家、個人、企業および機関顧客に対する投資商品および投資ソリューションの販売の考案、組成および手配を行う地域的投資ソリューションの基盤となる組織である。トルブレウィッチ氏は、グループ長の職務に就くまで、アジアの機関顧客および販売パートナーに対する新商品戦略の指揮をとり、受賞歴のある幅広いソリューション開発を監督していた。トルブレウィッチ氏は、2003年にロンドンのシティグループ・グローバル・

マーケット・リミテッドにマルチ・アセット・デリバティブ・ストラクチャラーとして入社し、2007年にアジアに異動した。

ソン・リ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの長であり、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの地域の投資ファンド事業の運営および開発に責任を負う。シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックは、アジア・パシフィックの機関投資家、富裕投資家および一般投資家のために投資ファンドおよびファンド・ソリューションを作り出す。リ氏は、ウォール・ストリートおよびアジアにおいて25年以上の投資経験を有する。シティグループに入社する前は、ニューヨークおよびその後香港のアライアンス・バーンスタイン・アセット・マネジメントにおいて、少数の主力商品で1,600億米ドルにのぼる運用資産額を監督するブレンド・ソリューション・チームでシニア・ポートフォリオ・マネジャーを務めた。アライアンス・バーンスタインに勤務する前は、ニューヨークのドイチェ・アセット・マネジメントおよびシティグループ・アセット・マネジメントでポートフォリオ管理およびリサーチに関する様々な職務に携わっていた。

管理会社は、2019年10月末日現在、43本のファンドを運用している。

管理会社が運用している43本のファンドは、以下のとおり、分類される。

分類		内訳	
A分類	通貨建別運用金額	米ドル建	879,491,161米ドル
		円建	291,315,203,033円
		ユーロ建	2,847,765ユーロ
		英ポンド建	42,962英ポンド
B分類	ファンドの種類 (基本的性格)	ケイマン籍／契約型／オープン・エンド型	19本
		ケイマン籍／会社型／オープン・エンド型	1本
		アイルランド籍／会社型／オープン・エンド型	2本
		日本籍／証券投資信託／オープン・エンド型 (委託会社に対する副運用会社として)	21本

3【管理会社の経理状況】

- a. 管理会社の直近事業年度の日本語の財務書類は、香港における諸法令および一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第131条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. 管理会社の原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるケーピーエムジーから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c. 管理会社の原文の財務書類は、香港ドルで表示されている。日本語の財務書類には、主要な金額について2019年10月31日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1香港ドル＝13.89円）で換算された円換算額が併記されている。なお、1円未満の金額は四捨五入されている。円換算額は、四捨五入のため合計欄の数値が総額と一致しない場合がある。
- d. 管理会社の年次財務書類は、原文（英語版）のみが監査され、監査報告書が参照しているのは原文（英語版）のみである。年次財務書類および監査報告書がその他の言語に翻訳される場合、管理会社が年次財務書類および監査報告書の訳文の正確性に責任を負う。

(1) 【貸借対照表】

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2018年12月31日に終了した事業年度の財務書類

純損益およびその他の包括利益計算書
2018年12月31日に終了した事業年度
(表示：香港ドル)

	注記	2018年 香港ドル	2018年 円	2017年 (注) 香港ドル	2017年 (注) 円
売上高	2	57,356,942	796,687,924	57,031,983	792,174,244
その他の利益純額	3	1,322,752	18,373,025	326,657	4,537,266
その他の営業費用		(38,636,726)	(536,664,124)	(40,856,730)	(567,499,980)
税引前利益	4	20,042,968	278,396,826	16,501,910	229,211,530
法人税	5 (a)	(2,814,830)	(39,097,989)	(2,664,746)	(37,013,322)
当期利益		17,228,138	239,298,837	13,837,164	192,198,208
当期その他の包括利益		—	—	—	—
当期包括利益合計		17,228,138	239,298,837	13,837,164	192,198,208

注：当社は、2018年1月1日にHKFRS第9号およびHKFRS第15号の適用を開始した。選択された移行方法の下では、比較情報は修正されていない。注記1(c)を参照のこと。

11ページから37ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2018年12月31日に終了した事業年度の財務書類

財政状態計算書

2018年12月31日現在

(表示：香港ドル)

	注記	2018年 香港ドル	2018年 円	2017年 (注) 香港ドル	2017年 (注) 円
非流動資産					
繰延税金資産	5 (c)	22,749	315,984	26,278	365,001
流動資産					
現金および現金同等物	7	253,284,299	3,518,118,913	221,656,523	3,078,809,104
兄弟会社に対する債権	8	132,034	1,833,952	243,742	3,385,576
売掛金およびその他の資産	9	7,366,339	102,318,449	12,156,238	168,850,146
		260,782,672	3,622,271,314	234,056,503	3,251,044,827
流動負債					
買掛金および未払費用	10	4,060,446	56,399,595	4,436,670	61,625,346
兄弟会社に対する債務	8	19,665,036	273,147,350	9,848,223	136,791,817
未払税金	5 (c)	881,075	12,238,132	826,688	11,482,696
		24,606,557	341,785,077	15,111,581	209,899,860
純流動資産		236,176,115	3,280,486,237	218,944,922	3,041,144,967
純資産		236,198,864	3,280,802,221	218,971,200	3,041,509,968
資本および剰余金					
株式資本	11(a)	2,000,200	27,782,778	2,000,200	27,782,778
剰余金		234,198,664	3,253,019,443	216,971,000	3,013,727,190
資本合計		236,198,864	3,280,802,221	218,971,200	3,041,509,968

2019年4月29日に取締役会によって発行を承認、認可された。

)

[署名])

) 取締役

[署名])

)

注：当社は、2018年1月1日にHKFRS第9号およびHKFRS第15号の適用を開始した。選択された移行方法の下では、比較情報は修正されていない。注記1(c)を参照のこと。

11ページから37ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2018年12月31日に終了した事業年度の財務書類

資本変動計算書

2018年12月31日に終了した事業年度

(表示：香港ドル)

	株式資本 香港ドル	剰余金 香港ドル	合計 香港ドル
2017年1月1日現在残高	2,000,200	203,133,836	205,134,036
当期包括利益合計	—	13,837,164	13,837,164
2017年12月31日現在残高(注)	2,000,200	216,971,000	218,971,200
HKFRS第9号の初度適用による影響	—	(474)	(474)
2018年1月1日現在の調整後残高	2,000,200	216,970,526	218,970,726
当期包括利益合計	—	17,228,138	17,228,138
2018年12月31日現在残高	2,000,200	234,198,664	236,198,864
	株式資本 円	剰余金 円	合計 円
2017年1月1日現在残高	27,782,778	2,821,528,982	2,849,311,760
当期包括利益合計	—	192,198,208	192,198,208
2017年12月31日現在残高(注)	27,782,778	3,013,727,190	3,041,509,968
HKFRS第9号の初度適用による影響	—	(6,584)	(6,584)
2018年1月1日現在の調整後残高	27,782,778	3,013,720,606	3,041,503,384
当期包括利益合計	—	239,298,837	239,298,837
2018年12月31日現在残高	27,782,778	3,253,019,443	3,280,802,221

注：当社は、2018年1月1日にHKFRS第9号およびHKFRS第15号の適用を開始した。選択された移行方法の下では、比較情報は修正されていない。注記1(c)を参照のこと。

11ページから37ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2018年12月31日に終了した事業年度の財務書類

キャッシュ・フロー計算書

2018年12月31日に終了した事業年度

(表示：香港ドル)

	注記	2018年 香港ドル	2018年 円	2017年 (注) 香港ドル	2017年 (注) 円
営業活動					
税引前利益		20,042,968	278,396,826	16,501,910	229,211,530
調整：					
受取利息	3	(1,477,579)	(20,523,572)	(19,417)	(269,702)
運転資本変動前営業活動による キャッシュ・フロー		18,565,389	257,873,253	16,482,493	228,941,828
兄弟会社に対する債権の減少		111,708	1,551,624	1,938,468	26,925,321
売掛金およびその他の資産の減少／(増加)		4,789,899	66,531,697	(2,504,384)	(34,785,894)
買掛金および未払費用の減少		(376,224)	(5,225,751)	(2,199,565)	(30,551,958)
兄弟会社に対する債務の増加／(減少)		9,816,813	136,355,533	(210,671)	(2,926,220)
営業から生じた正味現金		32,907,585	457,086,356	13,506,341	187,603,076
香港利得税支払額		(2,756,914)	(38,293,535)	(1,314,085)	(18,252,641)
営業活動から生じた正味現金		30,150,671	418,792,820	12,192,256	169,350,436
投資活動					
利息受取額		1,477,579	20,523,572	19,417	269,702
投資活動から生じた正味現金		1,477,579	20,523,572	19,417	269,702
現金および現金同等物の純増加		31,628,250	439,316,393	12,211,673	169,620,138
1月1日現在の現金および現金同等物		221,656,049	3,078,802,521	209,444,850	2,909,188,967
12月31日現在の現金および現金同等物	7	253,284,299	3,518,118,913	221,656,523	3,078,809,104

注：当社は、2018年1月1日にHKFRS第9号およびHKFRS第15号の適用を開始した。選択された移行方法の下では、比較情報は修正されていない。注記1(c)を参照のこと。

11ページから37ページ(訳注：原文のページ)の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド

2018年12月31日に終了した事業年度の財務書類

財務書類に対する注記

(表示：香港ドル)

1 重要な会計方針

(a) 法令遵守の表明

本財務書類は、該当するすべての香港財務報告基準(以下「HKFRS」という。)に準拠して作成されている。HKFRSとは、香港公認会計士協会(以下「HKICPA」という。)が公表した該当するすべての個々の香港財務報告基準、香港会計基準(以下「HKAS」という。)および解釈指針、香港で一般に公正妥当と認められる会計原則ならびに香港会社法の適用要件を含む総称である。当社が適用した重要な会計方針は、以下に開示されている。

HKICPAは、当社の当会計期間に初度適用される、または早期適用が可能である、特定の新規および改訂されたHKFRSを公表している。注記1(c)には、これらの変更の初度適用による会計方針の変更にに関する情報が、本財務書類に反映される当会計期間および過年度の会計期間において当社に関連する範囲で記載されている。

(b) 財務書類作成の基礎

本財務書類の作成に用いている測定基準は、取得原価主義である。

当社は、当社に関連する原資産および状況の経済的実質を反映する機能通貨として香港ドルを選択している。別段の指示がない限り、すべての価額について香港ドル未満の位は四捨五入されている。

HKFRSに準拠した財務書類の作成において、経営陣は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告金額に影響を与える判断、見積りおよび仮定を行うことが要求される。見積りおよび関連する仮定は、状況に応じて合理的であると考えられる過去の実績およびその他の様々な要因に基づいており、その結果は、他の根拠からでは算定が容易でない資産および負債の帳簿価額について判断を下す際の根拠となっている。実際の結果はこれらの見積りとは異なる可能性がある。

見積りおよび基礎となる仮定は、継続的に検証される。会計上の見積りの変更が特定の期間だけに影響を与える場合は、見積りの変更が行われる期間に認識され、変更が当期間および将来の期間に影響を与える場合は、変更が行われる期間および将来の期間に認識される。

(c)会計方針の変更

HK I C P Aは、当社の当会計期間に初度適用される、多くの新しいHK F R SおよびHK F R Sの修正を公表した。このうち、当社の財務書類に関連する変更は以下の通りである。

(i) HK F R S第9号「金融商品」

(ii) HK F R S第15号「顧客との契約から生じる収益」

(iii) HK (I F R I C)第22号「外貨建取引と前渡・前受対価」

当社は、HK F R S第9号と同時に適用されたHK F R S第9号の修正「負の補償を伴う期限前償還要素」を除き、当会計期間において未発効の新しい基準または解釈指針を適用していない。

(i) HK F R S第9号の修正「負の補償を伴う期限前償還要素」を含むHK F R S第9号「金融商品」

HK F R S第9号は、HK A S第39号「金融商品：認識および測定」を置き換えるものである。HK F R S第9号は、金融資産、金融負債および非金融項目を売買する一部の契約を認識し、測定するための要求事項を規定している。

当社は、HK F R S第9号を、経過措置に従い、2018年1月1日時点で存在していた項目に遡及適用している。当社は、初度適用による累積的影響額を、2018年1月1日現在の期首現在の資本の修正として認識している。したがって、HK A S第39号の下では、引き続き比較情報が報告される。

従来の会計方針の変更および移行アプローチの性質および影響に関する詳細は、以下のとおりである。

A. 金融資産および金融負債の分類

HK F R S第9号は、金融資産を、償却原価、その他の包括利益を通じて公正価値(以下「F V O C I」という。)、純損益を通じて公正価値(以下「F V T P L」という。)で測定される3つの主要な測定区分に分類する。当該区分により、満期保有投資、貸付金および債権、売却可能金融資産およびF V T P Lで測定する金融資産というHK A S第39号の区分は廃止される。HK F R S第9号における金融資産の分類は、金融資産が管理される事業モデルおよびその契約上のキャッシュ・フローの特性に基づいている。HK F R S第9号の下では、主契約が本基準の範囲に該当する金融資産である契約に組み込まれたデリバティブは、主契約から区分されない。代わりに、混合金融商品全体の分類が検討される。

金融負債の会計処理は、F V T P Lに指定した金融負債に関連する企業自身の信用リスクから生じる利得または損失の処理を除き、HK A S第39号の要求事項とほぼ同じである。このような変動は、純損益における会計上のミスマッチが生じる場合を除き、その他の包括利益(以下「O C I」という。)に表示され、損益計算書の事後的な純損益への振替は行わない。

以下の表および注記は、2018年1月1日現在の当社の金融資産および金融負債の各クラスについて、HK A S第39号における当初の測定区分およびHK F R S第9号における新たな測定区分を説明している。

2018年1月1日現在の金融資産の帳簿価額に対するHK F R S第9号の適用による影響は、新たな減損要求事項のみに関連している。

	<i>HKAS</i> 第39号に基づく当 初の分類	<i>HKFRS</i> 第9号に基づく新 たな分類	<i>HKAS</i> 第39号に基づく 当初の帳簿価額 香港ドル	<i>HKFRS</i> 第9号に基づく新 たな帳簿価額 香港ドル
金融資産				
兄弟会社に対する債権	貸付金および 債権	償却原価	243,742	243,742
売掛金およびその他の資産	貸付金および 債権	償却原価	12,156,238	12,156,238
現金および現金同等物	貸付金および 債権	償却原価	221,656,523	221,656,049
金融資産合計			234,056,503	234,056,029

注：当社がHKFRS第9号に基づき金融資産を分類および測定し、関連する利得および損失を認識する方法に関する説明については、それぞれの会計方針の注記1(k)を参照のこと。

すべての金融負債の測定区分に変更はない。2018年1月1日現在のすべての金融負債の帳簿価額は、HKFRS第9号の初度適用による影響を受けていない。

B.信用損失

HKFRS第9号は、HKAS第39号の「発生損失」モデルを「予想信用損失(以下「ECL」という。)」モデルに置き換える。ECLモデルは、金融資産に関連する信用リスクの継続的な測定を要求しているため、HKAS第39号の「発生損失」会計モデルの場合よりも早期にECLを認識する。

HKFRS第9号では、FVTPLに分類または指定された金融資産およびFVOCIに指定された資本性金融商品を除き、すべての金融資産について同じ減損モデルが適用されており、これは減損評価の対象とはなっていない。HKFRS第9号の予想信用損失減損モデルの範囲には、償却原価で測定する金融資産、FVOCIに分類される負債性金融商品、オフバランスのローン・コミットメントおよび金融保証契約が含まれており、これらは従来、HKAS第37号「引当金、偶発負債および偶発資産」において規定されていた。

当社は、新しいECLモデルを以下の項目に適用している。

- 償却原価で測定する金融資産(現金および現金同等物、売掛金およびその他の資産を含む)

当社の信用損失の会計処理に係る会計方針の詳細については、それぞれの会計方針の注記1(k)を参照のこと。

HKFRS第9号の適用による当社の貸倒引当金に対する影響は、当社にとって重要性がないと考えられる。

C.移行

HKFRS第9号の適用による会計方針の変更は、以下に記載のものを除き、遡及的に適用される。

- － 比較対象期間に関する情報は修正再表示されていない。HKFRS第9号の適用により生じる金融資産の帳簿価額の差異は、2018年1月1日現在の利益剰余金およびその他の剰余金に認識される。このため、2017年に公表された情報は、引き続きHKAS第39号に基づいて報告されており、当期と比較可能ではない可能性がある。
- － 金融資産を保有する事業モデルの決定は、2018年1月1日(当社によるHKFRS第9号の適用開始日)に存在していた事実および状況に基づいて行われた。
- － 適用開始日において、当初認識以降に信用リスクが著しく増大したかどうかの評価が過大なコストや労力を伴う場合、当該金融商品について全期間のECLが認識される。

(ii) HKFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」

HKFRS第15号は、顧客との契約から生じる収益および一部の費用を認識するための包括的な枠組みを規定する。HKFRS第15号は、物品の販売およびサービスの提供から生じる収益をカバーするHKAS第18号「収益」、および工事契約の会計処理を規定するHKAS第11号「工事契約」を置き換えるものである。

またHKFRS第15号は、財務諸表利用者が顧客との契約から生じる収益とキャッシュ・フローの性質、金額、時期および不確実性を理解できるようにすることを目的とした追加の定性的および定量的開示要求を導入している。

当社は、累積的影響が生じる移行方法の使用を選択し、当初適用の累積的影響を2018年1月1日現在の資本の期首残高の調整額として認識している。したがって、比較情報は修正再表示されておらず、引き続きHKAS第18号に基づいて報告されている。HKFRS第15号で認められているように、当社は、2018年1月1日より前に完了していなかった契約にのみ新しい要件を適用している。2018年1月1日にHKFRS第15号を適用した結果として報告される金額への影響の見積りは、2018年12月31日に終了した事業年度に関して重要性はないと考えられる。

従来 of 会計方針に対するこの変更の性質および影響に関する詳細は、以下に記載されている。

A. 収益認識時期

従来、物品の販売による収益は通常、物品の所有に伴うリスクと経済価値が顧客に移転した時点で認識されていたが、工事契約およびサービスの提供から生じる収益は、一定の期間にわたって認識されていた。

HKFRS第15号では、顧客が契約において約束した財またはサービスの支配を獲得したときに収益が認識される。これは、一時点の場合もあれば、一定期間にわたる場合もある。HKFRS第15号は、約束した財またはサービスの支配が一定の期間にわたって移転されるとみなされる以下の3つの状況を特定する。

- － 顧客が、企業の履行によって提供される便益を、企業が履行するにつれて同時に受け取って消費する場合
- － 企業の履行が資産(例えば、仕掛品)を創出または増価させ、顧客が当該資産の創出または増価につれてそれを支配する場合
- － 企業の履行が、企業が他に転用できる資産を創出せず、かつ、企業が現在までに完了した履行に対して支払を受ける強制可能な権利を有している場合

契約条件および企業の活動がこれらの3つの状況のいずれにも該当しない場合、HKFRS第15号の下で、企業は支配が移転した時点である一時点において、物品販売またはサービスに係る収益を認識する。所有に伴うリスクと経済価値の移転は、支配の移転がいつ行われるかを決定する際に考慮される指標の1つにすぎない。

HKFRS第15号の適用による当社の収益認識への重要な影響はない。

B. 重大な金融要素

HKFRS第15号では、顧客からの支払が収益認識のかなり前に受領されたか、大幅に繰り延べられたかにかかわらず、契約に重大な金融要素がある場合、企業は貨幣の時間価値について取引価格を調整することが求められている。

従来、当社は、支払が大幅に延期された場合にのみ、かかる方針を適用していたが、これは当社の顧客との契約においては一般的ではなかった。当社は支払を前もって受け取る場合はこの方針を適用していない。

当社が顧客との契約において、収益認識のかなり前に支払を受け取ることは一般的ではない。

支払スキームが重大な金融要素を含んでいる場合、取引価格は、この要素を個別に会計処理するように調整される。前払の場合には、支払日から法定譲渡完了日までの期間に当社が顧客から得た金融上の便益の影響を反映するために、当該調整により当社が利息費用を計上する。

この変更による2018年1月1日現在の利益剰余金への影響はない。

(iii) HK(IFRIC)第22号「外貨建取引と前渡・前受対価」

本解釈指針は、企業が外貨建の契約について対価の前渡または前受を行う取引から生じる、関連する資産、費用または収益(またはその一部)の当初認識に用いる外国為替レートを決定する目的で、「取引日」を決定する際の指針を提供するものである。

本解釈指針は、「取引日」が、前払対価の支払または受領から発生する非貨幣性の資産または負債の当初認識日であることを明確にしている。関連する項目を認識する前に複数回の支払または受領が発生する場合、各支払または受領について上記のように取引日を決定しなければならない。HK(IFRIC)第22号の適用による当社の財政状態および業績への重要な影響はない。

(d) 現金および現金同等物

現金および現金同等物は、当座預金、手元現金、銀行およびその他の金融機関に対する要求払預金、ならびに取得時点から満期までの期間が3か月以内であり、確定金額に容易に換金が可能で、かつ価格の変動リスクが小さい、短期で流動性の高い投資から構成される。

(e) 収益およびその他の収益

収益は、当社の通常の事業の過程において、物品販売、サービスの提供またはリースに基づく当社の資産の他社による利用から生じる収益として当社によって分類される。

収益は、物品またはサービスに対する支配が顧客に移転される場合、または借手が、第三者のために回収された金額を除き、当社が権利を有すると予想される約束された対価の金額で当該資産を使用する権利を有する場合に認識される。

契約に12ヶ月を超える期間にわたり顧客に重大な金融の便益を提供する金融要素がある場合、収益は、債権額の現在価値で測定され、顧客との個別の金融取引に反映される割引率を用いて割り引かれ、受取利息は実効金利法に基づき個別に計上される。契約が当社に重大な金融の便益を提供する金融要素を含んでいる場合、当該契約に基づいて認識される収益には、実効金利法に基づいて契約負債に計上される利息費用が含まれる。当社は、HKFRS第15号の第63項の実務上の便法を利用しており、資金調達期間が12ヶ月以内である場合には、重大な金融要素の影響に対する対価を調整することはない。

当社の収益およびその他の収益の認識基準の詳細は以下のとおりである。

- － 受取報酬は、該当するサービスが提供された時点で認識される。
- － 受取利息は、実効金利法を用いて発生した時点で認識される。

(f) 引当金および偶発債務

引当金は、当社に過去の事象の結果として発生した法的債務または推定債務があり、当該債務を決済するために経済的便益の流出が必要となる可能性が高く、かつ信頼性の高い見積りが可能な場合に認識される。貨幣の時間的価値が重要な場合、引当金は当該債務を決済するために予想される費用の現在価値で計上される。

経済的便益の流出が必要となる可能性が低い、または信頼性をもって金額を見積ることができない場合、当該債務は偶発債務として開示される。ただし、経済的便益の流出の可能性が僅少の場合を除く。発生可能性のある債務で、その存在が将来の1つまたは複数の事象が発生する、あるいは発生しないことによつてのみ確認される場合もまた、偶発債務として開示される。ただし、経済的便益の流出の可能性が僅少の場合を除く。

(g) 売掛金およびその他の債権

売掛金およびその他の債権は公正価値で当初認識され、その後、予想損失引当金(注記1(k)(v)参照)控除後の実効金利法を用いた償却原価で計上される。ただし、債権が定められた返済条件のない関連当事者に対する無金利融資である場合、または割引の影響に重要性がない場合には、債権は不良債権の減損引当金控除後の取得原価で計上される。

不良債権に関する減損損失は、減損の客観的な証拠が存在する場合に認識され、当該金融資産の帳簿価額と、割引の影響が重要である場合は当該資産の当初の実効金利で割り引いた見積将来キャッシュ・フローとの差額として測定される。

減損の客観的な証拠には、借手の著しい財政的困難といった資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を及ぼす事象について、当社が認識する観察可能なデータが含まれている。

(h) 外貨換算

期中の外貨建取引は、取引日現在の外国為替レートで香港ドルに換算される。外貨建の貨幣性資産および負債は、報告期間の期末時点の為替レートで香港ドルに換算される。為替差損益は純損益およびその他の包括利益計算書に認識される。

(i) 法人税

当期法人税は、当期税金費用および繰延税金資産と繰延税金負債の変動で構成される。当期税金費用および繰延税金資産の変動は純損益およびその他の包括利益計算書に認識される。ただし、その他の包括利益に認識される、または資本に直接認識される項目に関連する場合には、法人税のうちの該当する金額がそれぞれ、その他の包括利益に認識される、または資本に直接認識される。

当期税金費用は、報告期間の期末時点の実効税率または実質的な実効税率を使用した、当期の課税所得に係る予想未払税額および過年度の未払税金に対する調整額である。

繰延税金資産は、資産および負債の財務報告上の帳簿価額と課税基準の差額である、減算一時差異から発生する。繰延税金資産は、未使用の税務上の欠損金および未使用の税額控除からも発生する。資産および負債の当初認識時から発生する差額を除き、すべての繰延税金資産は、当該資産が利用できる将来の課税所得の実現可能性が高い場合に限り、認識される。

繰延税金の認識額は、当該資産および負債の帳簿価額の実現または決済において予想される方法に基づき、報告期間の期末時点の実効税率または実質的な実効税率を使用して測定される。繰延税金資産および負債は割り引かれない。

当期税金残高および繰延税金残高ならびにその変動は、それぞれ個別に表示され、相殺されない。当社が当期税金資産を当期税金負債と相殺する法的強制力のある権利を有する場合に限り、当期税金資産は当期税金負債と相殺され、繰延税金資産は繰延税金負債と相殺される。相殺の原則は通常、同一の税務当局が同一の課税企業に課す法人税に対して適用される。

(j) 関連当事者

(a) 個人または当該個人の近親者は、当該個人が次のいずれかに該当する場合には、当社と関連がある。

- (i) 当社に対する支配または共同支配を有している。
- (ii) 当社に対する重要な影響力を有している。あるいは
- (iii) 当社または当社の親会社の経営幹部の一員である。

(b) 企業は、次のいずれかの条件に該当する場合には、当社と関連がある。

- (i) 当該企業および当社が同一のグループの一員である(これは、親会社、子会社および兄弟会社は互いに関連があることを意味している)。
- (ii) 一方の企業が、他方の企業の関連会社または共同支配企業(あるいは他方の企業が一員となっているグループの一員の関連会社または共同支配企業)である。
- (iii) 双方の企業が同一の第三者の共同支配企業である。
- (iv) 一方の企業が第三者の共同支配企業であり、他方の企業が当該第三者の関連会社である。

- (v) 当該企業が当社または当社と関連がある企業のいずれかの従業員の給付のための退職後給付制度である。
- (vi) 当該企業が(a)に示した個人に支配または共同支配されている。
- (vii) (a)(i)に示した個人が当該企業に重要な影響力を有しているか、あるいは当該企業(または当該企業の親会社)の経営幹部の一員である。
- (viii) 当該事業体、あるいはその一部であるグループの一員が、当社または当社の親会社に経営幹部サービスを提供する。

個人の近親者とは、企業との取引において当該個人に影響を与えるか、または影響されると予想される親族の一員のことである。

(k) 金融商品

(i) 当初認識

金融商品は当初、公正価値で測定されるが、これは通常、取引価格と同額である。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産または金融負債以外の金融資産または金融負債の場合、当該金融資産または金融負債の取得または発行に直接帰属する取引費用が公正価値に加えられる。

当社は、金融資産および金融負債を、当該商品の契約上の規定の当事者になった日に認識する。金融資産の通常の売買は、取引日基準を用いて認識される。当該取引日から、金融資産または金融負債の公正価値の変動から発生する損益が計上される。

(ii) 分類と事後測定

(A) 金融資産の分類－2018年1月1日から適用された方針

当初認識時に、当社は償却原価またはFVTPLで測定する金融資産を分類する。

金融資産は、以下の要件をともに満たし、かつ、FVTPLとして指定されていない場合、償却原価で測定される。

- － 契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルの中で保有されていること
- － その契約条件により、元本および利息の支払のみ(以下「SPPI」という。)であるキャッシュ・フローが特定の日を生じること

当社のその他のすべての金融資産は、FVTPLで測定される。

事業モデル評価

当社は、金融資産を保有する事業モデルの目的を評価する際に、以下を含む、事業の管理方法に関するすべての関連情報を考慮している。

- － 文書化された投資戦略と当該戦略の実施。これには、投資戦略が契約上の受取利息を獲得すること、特定の金利プロファイルを維持すること、金融資産のデュレーションに関連する負債のデュレーションまたは予想キャッシュ・アウトフローと対応させること、あるいは資産の売却によりキャッシュ・フローを実現することに焦点を当てているかどうかが含まれる。
- － ポートフォリオのパフォーマンスが、どのように評価され、当社の経営陣に報告されているか

- － 事業モデル(および当該事業モデルの中で保有されている金融資産)の業績に影響を与えるリスクと、当該リスクが管理されている方法
- － 当該事業の管理者にどのように報酬が与えられるのか(例えば、報酬の基礎となるのは管理している資産の公正価値なのか、回収した契約上のキャッシュ・フローなのか)
- － 過年度における金融資産の売却の頻度、量および時期、当該売却の売却の理由、ならびに将来の売却活動についての予想

売買目的で保有されている金融資産または公正価値に基づいて管理と業績評価が行われている金融資産は、契約上のキャッシュ・フローを回収するために保有されているのではなく、契約上のキャッシュ・フローの回収と金融資産の売却の両方のために保有されているのでもないため、FVTPLで測定される。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかの評価

この評価の目的上、「元本」は、当初認識時における金融資産の公正価値と定義される。「金利」とは、貨幣の時間価値、特定の期間における元本残高に関する信用リスクならびに他の基本的な融資リスクおよびコスト(例えば、流動性リスクおよび管理コスト)への対価と利益マージンとして定義される。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかを評価する際に、当社は当該商品の契約条件を考慮する。これには、金融資産がこの条件を満たさないような契約上のキャッシュ・フローの時期または金額を変更させる可能性のある契約条件を含んでいるかどうかを評価することが含まれる。当社は、この評価を行うにあたり、以下の事項を考慮している。

- － キャッシュ・フローの金額またはタイミングを変更する偶発的事象
- － レバレッジ要素
- － 期限前償還要素と期限延長要素
- － 当社の請求権を特定の資産からのキャッシュ・フロー(例えば、ノンリコース要素)に限定する条件
- － 貨幣の時間的価値の考慮(例えば、金利の定期的な再設定)を修正する要素

分類変更

金融資産は、当社が金融資産の管理に関する事業モデルを変更した後の期間を除き、当初認識後に再分類されない。

(B)金融資産の分類－2018年1月1日より前に適用された方針

貸付金および債権

貸付金および債権には、兄弟会社に対する債権、売掛金およびその他の資産ならびに現金および現金同等物が含まれている。これらの資産は実効金利法による償却原価で測定される。

その他の金融負債

金融負債には、兄弟会社に対する債務、買掛金および未払費用が含まれている。これらの負債は実効金利法による償却原価で測定される。

(iii)認識の中止

金融資産は、当該金融資産からのキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利が消滅した場合、あるいは当該金融資産とともに所有に関する実質的にすべてのリスクおよび経済価値が譲渡された場合に、認識が中止される。

金融負債は、契約で特定された債務が免除、解消あるいは消滅した場合に、認識が中止される。

当社は、認識の中止に際して純損益およびその他の包括利益計算書に認識される実現損益の決定に加重平均法を利用している。

(iv)相殺

認識額を相殺する法的強制力のある権利があり、純額ベースでの決済、または資産の実現と負債の決済を同時に行う意図がある場合、金融資産と金融負債は相殺され、その純額が財政状態計算書に計上される。

(v)減損

(A)2018年1月1日から適用された方針

当社は、償却原価で測定する金融資産について、ECLに対する損失評価引当金を認識している。

当社は、12ヶ月のECLで測定される以下の金融資産を除き、全期間のECLに等しい金額で損失評価引当金を測定する。

- 報告日において信用リスクが低いと判断される金融資産
- 信用リスク(すなわち、資産の予想存続期間にわたって債務不履行が発生するリスク)が当初認識以降に著しく増大していないその他の金融資産

当社は、期限経過が30日超である場合、金融資産の信用リスクが著しく増大したと仮定する。

当社は、信用リスク格付が「投資適格」という世界的に理解されている定義と同等である場合、金融商品の信用リスクは低いとみなしている。

全期間のECLとは、金融商品の予想存続期間にわたって生じ得るすべての債務不履行事象から生じるECLである。

12ヶ月間のECLは、報告日から12ヶ月以内(または、金融商品の予想存続期間が12ヶ月未満である場合には、それより短い期間)に生じ得る債務不履行事象から生じるECLの一部である。

ECLを見積もる際に考慮すべき最長の期間は、当社が信用リスクにさらされる最長の契約期間である。

ECLの測定

ECLは、信用損失の確率加重した見積りである。信用損失は、すべてのキャッシュ不足額(すなわち、当社が契約に従って受け取るべきキャッシュ・フローと、当社が受け取ると見込んでいるキャッシュ・フローとの差額)の現在価値として測定される。

ECLは金融資産の実効金利で割り引かれる。

信用減損金融資産

当社は、各報告日において、償却原価で計上されている金融資産が信用減損しているかどうかを評価している。金融資産は、金融資産の見積将来キャッシュ・フローに不利な影響を及ぼす1つまたは複数の事象が生じている場合に、「信用減損」している。

金融資産が信用減損している証拠には、以下の観察可能なデータが含まれる。

- 発行者または債務者の重大な財政的困難
- 契約違反(債務不履行または90日超の期限経過事象など)

－ 借手が破産または他の財務上の再編を行う可能性が高くなったこと

財政状態計算書における *ECL* 引当金の表示

償却原価で測定する金融資産の損失評価引当金は、資産の総額での帳簿価額から控除される。

直接償却

当社がある金融資産全体または一部分の回収に合理的な予想を有していない場合には、金融資産の総額での帳簿価額は直接償却される。

(B) 2018年1月1日より前に適用された方針

FVTPLに分類されていない金融資産は、報告日ごとに、減損している客観的証拠があるかどうかを判断するために評価された。金融資産または金融資産グループが「減損」するのは、当該資産の当初認識後に発生した1つまたは複数の事象の結果としての減損の客観的証拠があり、かつその損失事象が、当該金融資産または金融資産グループの見積将来キャッシュ・フローに対して、信頼性をもって見積ることのできる影響を有している場合であった。

金融資産が減損しているという客観的証拠には、債務者または発行体の重大な財政的困難、債務者による債務不履行または期限経過事象、そうでなければ当社が考慮しないであろう契約上の支払金額の再編、借手または発行体が破産に陥る兆候、有価証券の活発な市場の消滅、または借手の支払状況の不利な変化が含まれている。

償却原価で測定する金融資産の減損損失は、帳簿価額と当該資産の当初実効金利で割り引かれた見積将来キャッシュ・フローの現在価値との差額として計算された。損失は純損益で認識され、債権に対する引当金勘定に反映された。減損資産に対する利息は、引き続き認識された。減損を認識した後に発生した事象により、減損損失の額が減少した場合には、減損損失の減少は純損益を通じて戻入れられた。

2 売上高

当社の主たる事業は、投資運用サービスの提供である。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
受取投資運用報酬	57,356,942	57,031,983
	57,356,942	57,031,983

上記の受取報酬の性質については、注記13に開示されている。

3 その他の利益純額

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
兄弟会社の銀行における預金からの受取利息	1,477,579	19,417
為替差益(差損)	(154,827)	307,240
	1,322,752	326,657

4 税引前利益

税引前利益は、以下の借方計上後の金額で計上されている。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
支払管理報酬	19,628,027	22,258,411
支払トレーラー報酬	—	3,318,662
支払サブ・マネージャー報酬	6,636,458	5,593,203
弁護士および専門家報酬	10,790,292	6,654,747
監査報酬	468,148	460,648

上記の関連当事者への支払報酬の一部の性質については、注記13に開示されている。

5 法人税

(a) 純損益およびその他の包括利益計算書に係る法人税は以下の通りである。

純損益およびその他の包括利益計算書に係る課税は以下の通りである。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
当期税金費用－香港利得税		
過年度に係る超過引当金	(274,006)	—
当期の香港利得税に対する引当金	3,085,307	2,140,773
繰延税金		
一時差異の発生および解消	3,529	523,973
	<u>2,814,830</u>	<u>2,664,746</u>

当期の香港利得税に対する引当金は、当期の見積課税所得の16.5%(2017年：16.5%)で計算されている。

(b) 法人税と適用税率で算定された会計上の利益の調整：

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
税引前利益	<u>20,042,968</u>	<u>16,501,910</u>
税率16.5%(2017年：16.5%)での税引前利益に係る想定税額	3,307,090	2,722,815
非課税所得および損金不算入損失の税効果	(218,254)	(53,898)
過年度に係る超過引当金	(274,006)	—
その他	—	(4,171)
実際の税金費用	<u>2,814,830</u>	<u>2,664,746</u>

(c) 財政状態計算書に係る法人税は以下の通りである。

財政状態計算書に係る当期の課税は以下の通りである。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
当期の繰越税金	826,688	—
仮払利得税	(2,756,914)	(1,314,085)
過年度に係る利得税に対する引当金残高	(274,006)	—
当期の香港利得税に対する引当金	3,085,307	2,140,773
	881,075	826,688

繰延税金資産認識額：

財政状態計算書において認識される繰延税金資産の内訳および当事業年度における変動は、以下の通りである。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
2018年1月1日現在	26,278	550,251
純損益およびその他の包括利益計算書への借方計上額	(3,529)	(523,973)
2018年12月31日現在	22,749	26,278

2018年12月31日現在、認識されていない、または引当計上されていない重要な繰延税金資産または負債はなかった(2017年：ゼロ)。

6 取締役の報酬

香港会社法の第383条(1)および社内規定のパート2(取締役の給付に関する情報の開示)に準拠して開示される取締役の報酬は以下の通りである。

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
取締役の報酬	—	—
給与、手当および現物給付	8,664,708	8,678,496
変動賞与	14,381,096	7,426,755
株式報酬	1,830,923	1,613,482
退職制度への拠出額	758,100	740,100
	25,634,827	18,458,833

7 現金および現金同等物

2018年12月31日および2017年12月31日現在、現金および現金同等物は、兄弟会社の銀行に保有されている預金を表している。

8 兄弟会社に対する債権債務

兄弟会社に対する債権債務は、無担保、無金利であり、要求に応じて返済される。

9 売掛金およびその他の資産

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
未収投資運用報酬	7,283,614	11,133,466
未収弁護士および専門家報酬	82,725	1,022,772
	7,366,339	12,156,238

未収税金を除いた上記の未収報酬はすべて、当社が運用するファンドから支払われる。すべての未収報酬は、無金利、無担保であり、3か月以内に決済される見込みである。

10 買掛金および未払費用

	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
未払サブ・マネージャー報酬	2,615,365	868,890
未払トレーラー報酬	—	407,817
未払弁護士および専門家報酬	984,433	2,597,917
その他	460,648	562,046
	4,060,446	4,436,670

未払サブ・マネージャー報酬には、兄弟会社に対する債務が2,350,065香港ドル(2017年：868,890香港ドル)含まれていた。すべての買掛金および未払費用は、無金利、無担保であり、3か月以内に決済される見込みである。

11 株式資本

(a) 発行済株式資本

	2018年		2017年	
	株数	金額 香港ドル	株数	金額 香港ドル
発行済、全額払込済普通株式：				
1月1日および12月31日現在	20,002	2,000,200	20,002	2,000,200

香港会社法の第135条に準拠して、当社の普通株式は無額面株式である。

普通株式の株主には、折々に宣言される配当を受け取る権利があり、当社の株主総会において1株につき1議決権を有する。すべての普通株式は、当社の残存資産に関して同等に位置づけられている。

(b) 資本管理

資本管理における当社の主たる目的は、継続企業として存続する当社の能力を保護することである。当社はある大規模なグループの一部であるため、当社の追加資本の源泉および余剰資金の分配に関する方針は、当該グループの資本管理目的の影響も受けることがある。

当社は、資本のすべての構成要素を含めて「資本」として定義している。この基準において、2018年12月31日現在の資本金額は235,924,858香港ドル(2017年：218,971,200香港ドル)であった。

当社の資本構造は、当社が所属するグループの資本管理の方策に配慮して定期的に見直され、管理されている。当社の資本構造の調整は、当社またはグループに影響を及ぼす経済環境の変化を考慮し、当社に対する取締役会の忠実義務または香港会社法の要件と矛盾しない範囲で行われる。取締役会による当社の資本構造の見直しの結果は、配当が宣言される場合に、配当水準を決定するための基準として使用される。

香港証券先物法に基づき登録された認可企業として、当社は香港証券先物(金融資源)規則(以下「FRR」という。)の資本規制の対象にもなっている。流動資本の最低必要額は、100,000香港ドルとFRRで定められた必要流動資本のいずれか高い方である。当社は、FRRの要件を遵守していることを日次ベースでモニターしている。当事業年度中、当社は常にFRRの要件を遵守していた。

12 金融商品

信用リスク、流動性リスクおよび金利リスクならびに為替リスクに対するエクスポージャーは、当社の通常の営業過程において生じる。これらのリスクは、下記の当社の財務管理方針および施策によって管理されている。

(a) 信用リスク

当社の信用リスクは、主に兄弟会社の銀行に保有されている現金および現金同等物、当社の投資運用活動により生じる未収報酬に起因する。経営陣は、信用方針を整備しており、信用リスクのエクスポージャーを継続的にモニターしている。

未収運用報酬は定期的に見直され、定期的なスケジュールで決済される。兄弟会社に対する債権については、経営陣は、グループ会社に預け入れている金融資産の不履行リスクは僅少であると考えている。

信用リスクの最大エクスポージャーは、報告期間の期末時点の当該金融資産の帳簿価額に相当する。

(b) 流動性リスク

当社の方針により、短期および長期の流動性要件を満たすための十分な現金の維持を確保する目的で、現在の流動性要件と予想される流動性要件を定期的にモニターしている。

2018年12月31日および2017年12月31日現在、すべての金融負債は1年以内に満期が到来するか、または、要求に応じて返済される。金融負債の最も早い契約上の決済日の詳細は、注記8および10に開示されている。

(c) 金利リスク

当社は、当社が現金および現金同等物に係る銀行利息を得る範囲でのみ、金利リスクにさらされている。

感応度分析

以下の表は、報告期間の期末時点で、他のすべてのリスク変数を一定と仮定した場合の金利の変動の見積りに対応する当社の税引前利益の変動の見積りを表している。

	2018年		2017年	
	税引前利益の 増加／(減少) 香港ドル		税引前利益の 増加／(減少) 香港ドル	
金利の変動				
－増加	0.28%	689,064	0.75%	1,620,956
－減少	—	—	—	—

上記の感応度分析は、報告期間の期末時点で金利の変動が生じており、かつ、報告期間の期末時点で金利リスクのある当社保有の金融商品の再測定に当該金利を適用したと仮定した場合に生じると考えられる、当社の税引前利益に対する通年計算による影響額を表している。感応度分析は、2017年と同じ基準で実施されている。

(d) 為替リスク

為替リスクは、為替レートの変動が金融商品の価値に影響を与える可能性によって生じる。

為替リスクのエクスポージャーを最小化するため、経営陣は、相殺が必要な外貨を直物レートで売買することにより正味エクスポージャーが許容水準に保たれることを確認している。

(i) 為替リスクに対するエクスポージャー

当社の機能通貨以外の通貨建である資産および負債の認識額から生じた為替リスクに対する、当社の報告期間の期末時点のエクスポージャーの詳細は以下の表の通りである。

	2018年				2017年			
	豪ドル建 香港ドル相当	ユーロ建 香港ドル相当	日本円建 香港ドル相当	米ドル建 香港ドル相当	豪ドル建 香港ドル相当	ユーロ建 香港ドル相当	日本円建 香港ドル相当	米ドル建 香港ドル相当
現金および現金同等物	711,629	—	2,857,720	8,149,638	777,226	—	4,933,923	5,532,086
兄弟会社に対する債権	—	—	—	132,034	—	—	—	208,146
売掛金およびその他の資産	—	—	7,047,878	293,661	1,151	—	4,817,498	7,331,260
買掛金および未払費用	—	—	(4,028,308)	428,510	—	(2,699,314)	—	(1,276,708)
兄弟会社に対する債務	(11,820)	—	(3,434,604)	(13,077,290)	—	—	(1,881,922)	(7,966,301)
正味エクスポージャー	699,809	—	2,442,686	(4,073,447)	778,377	(2,699,314)	7,869,499	3,828,483

香港ドルは米ドルに対するペッグ制が施行されているため、当社は米ドルと香港ドルの為替レート変動のリスクは重要ではないと考えている。

(ii) 感応度分析

以下の表は、他のすべてのリスク変数を一定と仮定した場合に、報告期間の期末時点で当社が多額のエクスポージャーを有している為替レートが同日に変更された場合に生じると考えられる当社の税引前利益の瞬時的な変動を表している。

	2018年		2017年	
	為替レートの上昇／(下落)	税引前利益の増加／(減少) 香港ドル	為替レートの上昇／(下落)	税引前利益の増加／(減少) 香港ドル
豪ドル	2.04%	14,280	5.36%	41,739
	(1.05)%	(7,327)	—	—
ユーロ	N/A	N/A	7.28%	(196,495)
	N/A	N/A	—	—
日本円	0.26%	6,415	4.53%	356,379
	—	—	—	—

感応度分析では、為替レートの変動が、報告期間の期末時点で為替リスクのある当社保有の金融商品の再測定に適用されたと仮定し、機能通貨以外の通貨建である内部取引による債権債務を含めている。感応度分析は、2017年と同じ基準で実施されている。

(e) 金融資産および負債の公正価値

金融資産および負債の公正価値は、2018年12月31日および2017年12月31日現在の財政状態計算書の帳簿価額と大きな相違はないと考えられる。

13 重要な関連当事者取引

本財務書類において別途開示されている取引の他、当社は、通常の営業過程において関連当事者と以下の取引を行った。

(a) 受取報酬および支払報酬

	注記	2018年 香港ドル	2017年 香港ドル
受取報酬			
受取投資運用報酬	(ii)	57,356,942	57,031,983
支払報酬			
支払トレーラー報酬	(iii)	—	3,318,662
支払サブ・マネージャー報酬	(iv)	3,290,514	3,514,503

(i) 当社は当事業年度において以下のファンドのファンド・マネージャーである。

- 米ドル建元本確保型ダウ・ジョーンズ工業株価平均連動ファンド(2008—12)早期償還条項なし(以下「ファンド・シリーズ1」という。)(2019年2月6日に償還)
- 豪ドル建元本確保型日経225連動ファンド(2009—01)早期償還条項なし(以下「ファンド・シリーズ4」という。)(2019年3月13日に償還)
- 円建／日経225連動ファンド2009—02(最安値参照/ノックイン型)早期償還条項なし(以下「ファンド・シリーズ6」という。)(2019年4月18日に償還)
- カントリー・セクター 外貨建てシリーズ(米ドル建)(以下「ファンド・シリーズ12」という。)(2019年1月31日に償還)
- ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド(円建)(以下「ファンド・シリーズ14」という。)
- ワールド・CB・ファンド(円建)(以下「ファンド・シリーズ15」という。)
- アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(以下「ファンド・シリーズ18」という。)
- メキシコ・ボンド・ファンド(以下「ファンド・シリーズ19」という。)
- テンプルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズ(以下「ファンド・シリーズ20」という。)
- 米ドル95日・リクイディティ・ファンド(以下「ファンド・シリーズ24」という。)(2018年3月6日に償還)
- グローバル・バランス・プラス・ファンド(以下「ファンド・シリーズ25」という。)
- ノース・アメリカン・エクイティ・インカム・カバード・コール・ストラテジー・ファンド(以下「ファンド・シリーズ26」という。)
- 米国成長株集中投資ファンド 外貨建てシリーズ(以下「ファンド・シリーズ27」という。)
- トレジャリー・プレミアム・プラス・ファンド(以下「ファンド・シリーズ28」という。)
- フィクスト・インカム・ファンド(以下「ファンド・シリーズ30」という。)
- トレジャリー・プレミアム・プラスIIファンド(以下「ファンド・シリーズ31」という。)
- 米ドル建て償還時目標設定型ファンド1703(以下「ファンド・シリーズ32」という。)
- 高配当日本株リスクコントロール型(以下「ファンド・シリーズ33」という。)
- 米ドル建て償還時目標設定型ファンド1710(以下「ファンド・シリーズ34」という。)

- － トレジャリー・プレミアム・プラスⅢファンド(以下「ファンド・シリーズ35」という。)(2018年10月12日に償還)
- － JGBアセット・スワップ・ファンド(以下「ファンド・シリーズ36」という。)
- － 日経225連動イントラデイ・ファンド(以下「ファンド・シリーズ37」という。)
- － 償還時目標設定型ファンド1802(以下「ファンド・シリーズ38」という。)
- － 償還時目標設定型ファンド1809(以下「ファンド・シリーズ40」という。)
- － CGMYLインデックス・ターゲット・ボラティリティ・ファンド2012(S P)(以下「CGMYL」という。)
- － あおぞら・USトリプルプラス・ファンド(以下「あおぞら」という。)(2018年に償還)
- － あおぞら・US政府債ファンド<為替アクティブヘッジ付>(以下「あおぞら政府債」という。)
- － カナダドル政府債ファンド7-10<為替アクティブヘッジ/私募>(以下「CGB」という。)
- － ダイワ高格付カナダドル債オープン・為替アクティブヘッジ(毎月決算型)(以下「ダイワ」という。)
- － トルコ債券オープン(毎月決算型)為替アクティブヘッジ(以下「KAM」という。)
- － 三菱UFJ メキシコ債券オープン<為替アクティブヘッジ>(毎月分配型)(以下「MUAM メキシコ債券」という。)
- － 三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>(以下「MUAM 米国配当」という。)
- － ニュージーランド債券オープン<アクティブヘッジ>(毎月分配型)(以下「ノムラ・マンスリー」という。)
- － ニュージーランド債券オープン<アクティブヘッジ>(年2回決算型)(以下「ノムラ・セミアニュアリー」という。)
- － インベスコ・英ポンド債券ファンド<為替アクティブヘッジ/毎月分配型>(以下「インベスコ」という。)
- － 16-06 JGBリパック・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 16-06」という。)
- － 16-11 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 16-11」という。)
- － 16-12 USトレジャリー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 16-12」という。)
- － 17-01 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-01」という。)
- － 17-02 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-02」という。)
- － 17-03 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-03」という。)
- － 17-04 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-04」という。)
- － 17-05 USトレジャリー・運用切替条項付<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-05」という。)
- － 17-06 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-06」という。)
- － 17-07 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-07」という。)
- － 17-08 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-08」という。)
- － 17-11 USトレジャリー・7-10年物ラダー・ファンド<日本円アクティブヘッジ>私募(以下「岡三 17-11」という。)

当社は当事業年度において以下のファンドのファンド・アドバイザーである。

- ー 日本厳選プレミアム株式オープン(以下「KAM日本厳選」という。)

- (ii) 当社は、当社の管理下にある以下のファンドから、報酬を受け取る権利を有している。

受取投資運用/助言報酬

ファンド・シリーズ12、14、15、18、19、20、24、25、26、27、28、30、31、32、33、34、35、36、37、38、40、CGMYL、あおぞら、あおぞら政府債、CGB、ダイワ、KAM、MUAMメキシコ債券、MUAM 米国配当、ノムラ・マンスリー、ノムラ・セミアニュアルリー、インベスコ、岡三 16-06、岡三 16-11、岡三 16-12、岡三 17-01、岡三 17-02、岡三 17-03、岡三 17-04、岡三 17-05、岡三 17-06、岡三 17-07、岡三 17-08、岡三 17-11およびKAM日本厳選の受取投資運用報酬は、ファンドの純資産価額の年率0.01%から1.8%で計算される。

シリーズ1、4および6の受取投資運用報酬は、発行済受益証券の想定元本の年率0.3%で計算される。

- (iii) 当社と販売会社との間で締結された販売契約に従い、CSRF、CSFおよびCBFについては、トレーラー報酬が、当社の兄弟会社であるシティバンク(香港)リミテッドおよびシティバンク・シンガポール・リミテッドを含む、様々な販売会社に支払われる。トレーラー報酬は、当社と販売会社との間で合意された金額に基づいて請求される。2018年12月31日に終了した報告期間においてシティバンク(香港)リミテッドおよびシティバンク・シンガポール・リミテッドに支払われた支払トレーラー報酬総額は、ゼロ香港ドル(2017年：870,405香港ドル)であった。
- (iv) 当社とシリーズ19のサブ・マネージャーとの間で締結されたサブ・マネジメント契約に従い、支払サブ・マネージャー報酬が、受取管理報酬総額の50%で算定され、サブ・マネージャーに支払われる。2018年12月31日現在においてシリーズ19のサブ・マネージャーに支払われた支払サブ・マネージャー報酬総額は、933,218香港ドルであった。

当社と当社の兄弟会社であるシティグループ・グローバル・マーケット・リミテッド(以下「CGML」という。)との間で締結された書面による契約に従い、KAM日本厳選については、CGMLへの支払データ・サービス報酬は、ファンドの日次の純資産価額に年率0.18%を適用して計算される。2018年12月31日現在においてCGMLに支払われた支払データ・サービス報酬総額は、2,357,296香港ドル(2017年：3,514,503香港ドル)であった。

(b) 支払管理報酬

当社は、当社に付帯的な販売サポート・サービスを提供している兄弟会社に管理報酬を支払った。2018年12月31日に終了した報告期間における支払管理報酬は、19,628,027香港ドル(2017年：22,258,411香港ドル)であった。

(c) 経営幹部の報酬

注記6に開示されている取締役の報酬以外に、他の経営幹部の報酬はない。

特定の経営幹部に対して合計25,634,827香港ドル(2017年：18,458,833香港ドル)の報酬を含む開示金額が、当社のグループ会社によって支払われた。当社は、経営幹部の役務の提供についてグループ会社を直接補償しなかった。

14 直接の親会社および最終的な支配会社

2018年12月31日現在、取締役会は、当社の直接の親会社は、香港で設立されたシティグループ・グローバル・マーケッツ・ホンコン・ホールディングス・リミテッドであるとみなしている。同社は財務書類を作成しているが、公衆の閲覧に供されていない。2018年12月31日現在の当社の最終的な支配会社は、米国で設立されたシティグループ・インクであるとみなされる。シティグループ・インクは米国で一般に認められる会計原則に基づき連結財務書類を作成しており、公衆の閲覧に供されている。

15 公表されているが2018年12月31日に終了した事業年度において未発効の修正、新基準および解釈指針の潜在的影響

本財務書類の公表日までに、HK I C P Aは2018年12月31日に終了した事業年度において未発効で、本財務書類に適用されていない、多くの改訂、新基準および解釈指針を公表した。本財務書類には、当社に関連する可能性がある以下が含まれている。

以下の日付以降に開始する

会計期間より適用

HK (I F R I C) 第23号 「法人所得税の税務処理に関する不確実性」

2019年1月1日

HK F R S 基準の年次改善2015-2017年

2019年1月1日

当社は、これらの修正、新基準および解釈指針が初度適用の期間に及ぼす影響について評価中である。これまでのところ、これらの修正の適用が本財務書類に重要な影響を及ぼす可能性は低いと考えている。

[次へ](#)

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

Statement of profit or loss and other comprehensive income for the year ended 31 December 2018

(Expressed in Hong Kong dollars)

	Note	2018 \$	2017 (Note) \$
Turnover	2	57,356,942	57,031,983
Other net gain	3	1,322,752	326,657
Other operating expenses		<u>(38,636,726)</u>	<u>(40,856,730)</u>
Profit before taxation	4	20,042,968	16,501,910
Income tax	5(a)	<u>(2,814,830)</u>	<u>(2,664,746)</u>
Profit for the year		17,228,138	13,837,164
Other comprehensive income for the year		<u>-</u>	<u>-</u>
Total comprehensive income for the year		<u>17,228,138</u>	<u>13,837,164</u>

Note: The Company has initially applied HKFRS 9 and HKFRS 15 at 1 January 2018.
Under the transition methods chosen, comparative information is not restated. See
note 1(c).

The notes on pages 11 to 37 form part of these financial statements.

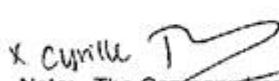
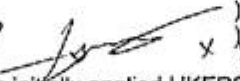
Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

Statement of financial position as at 31 December 2018

(Expressed in Hong Kong dollars)

	Note	2018 \$	2017 (Note) \$
Non-current asset			
Deferred tax assets	5(c)	<u>22,749</u>	<u>26,278</u>
Current assets			
Cash and cash equivalents	7	253,284,299	221,656,523
Amounts due from fellow subsidiaries	8	132,034	243,742
Accounts receivable and other assets	9	<u>7,366,339</u>	<u>12,156,238</u>
		<u>260,782,672</u>	<u>234,056,503</u>
Current liabilities			
Accounts payable and accrued expenses	10	4,060,446	4,436,670
Amounts due to fellow subsidiaries	8	19,665,036	9,848,223
Tax payables	5(c)	<u>881,075</u>	<u>826,688</u>
		<u>24,606,557</u>	<u>15,111,581</u>
Net current assets		<u>236,176,115</u>	<u>218,944,922</u>
NET ASSETS		<u>236,198,864</u>	<u>218,971,200</u>
CAPITAL AND RESERVES			
Share capital	11(a)	2,000,200	2,000,200
Retained earnings		<u>234,198,664</u>	<u>216,971,000</u>
TOTAL EQUITY		<u>236,198,864</u>	<u>218,971,200</u>

Approved and authorised for issue by the board of directors on **29 APR 2019**

 X Cynille X Sang

Directors

Note: The Company has initially applied HKFRS 9 and HKFRS 15 at 1 January 2018. Under the transition methods chosen, comparative information is not restated. See note 1(c).

The notes on pages 11 to 37 form part of these financial statements.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

Statement of changes in equity for the year ended 31 December 2018

(Expressed in Hong Kong dollars)

	<i>Share capital \$</i>	<i>Retained earnings \$</i>	<i>Total \$</i>
Balance at 1 January 2017	2,000,200	203,133,836	205,134,036
Total comprehensive income for the year	-	13,837,164	13,837,164
Balance at 31 December 2017 (Note)	2,000,200	216,971,000	218,971,200
Impact on initial application of HKFRS 9	-	(474)	(474)
Adjusted balance at 1 January 2018	2,000,200	216,970,526	218,970,726
Total comprehensive income for the year	-	17,228,138	17,228,138
Balance at 31 December 2018	2,000,200	234,198,664	236,198,864

Note: The Company has initially applied HKFRS 9 and HKFRS 15 at 1 January 2018. Under the transition methods chosen, comparative information is not restated. See note 1(c).

The notes on pages 11 to 37 form part of these financial statements.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

Statement of cash flows
for the year ended 31 December 2018
(Expressed in Hong Kong dollars)

	Note	2018 \$	2017 (Note) \$
Operating activities			
Profit before taxation		20,042,968	16,501,910
Adjustment for:			
Interest income	3	(1,477,579)	(19,417)
Operating cashflow before changes in working capital		18,565,389	16,482,493
Decrease in amounts due from fellow subsidiaries		111,708	1,938,468
Decrease/(increase) in accounts receivable and other assets		4,789,899	(2,504,384)
Decrease in accounts payable and accrued expenses		(376,224)	(2,199,565)
Increase/(decrease) in amounts due to fellow subsidiaries		9,816,813	(210,671)
Net cash generated from operations		32,907,585	13,506,341
Hong Kong profits tax paid		(2,756,914)	(1,314,085)
Net cash generated from operating activities		30,150,671	12,192,256
Investing activity			
Interest received		1,477,579	19,417
Net cash generated from investing activity		1,477,579	19,417
Net increase in cash and cash equivalents		31,628,250	12,211,673
Cash and cash equivalents at 1 January		221,656,049	209,444,850
Cash and cash equivalents at 31 December	7	253,284,299	221,656,523

Note: The Company has initially applied HKFRS 9 and HKFRS 15 at 1 January 2018. Under the transition methods chosen, comparative information is not restated. See note 1(c).

The notes on pages 11 to 37 form part of these financial statements.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

Notes to the financial statements

(Expressed in Hong Kong dollars)

1 Significant accounting policies

(a) Statement of compliance

These financial statements have been prepared in accordance with all applicable Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs"), which collective term includes all applicable individual Hong Kong Financial Reporting Standards, Hong Kong Accounting Standards ("HKASs") and Interpretations issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA"), accounting principles generally accepted in Hong Kong and the requirements of the Hong Kong Companies Ordinance. Significant accounting policies adopted by the Company are disclosed below.

The HKICPA has issued certain new and revised HKFRSs that are first effective or available for early adoption for the current accounting period of the Company. Note 1(c) provides information on any changes in accounting policies resulting from initial application of these developments to the extent that they are relevant to the Company for the current and prior accounting periods reflected in these financial statements.

(b) Basis of preparation of the financial statements

The measurement basis used in the preparation of the financial statements is the historical cost basis.

The Company has chosen Hong Kong dollars as its functional currency which reflects the economic substance of the underlying assets and circumstances relevant to the Company. All values are rounded to the nearest Hong Kong dollar, unless otherwise indicated.

The preparation of financial statements in conformity with HKFRSs requires management to make judgements, estimates and assumptions that affect the application of policies and reported amounts of assets, liabilities, income and expenses. The estimates and associated assumptions are based on historical experience and various other factors that are believed to be reasonable under the circumstances, the results of which form the basis of making the judgements about carrying values of assets and liabilities that are not readily apparent from other sources. Actual results may differ from these estimates.

The estimates and underlying assumptions are reviewed on an ongoing basis. Revisions to accounting estimates are recognised in the period in which the estimate is revised if the revision affects only that period, or in the period of the revision and future periods if the revision affects both current and future periods.

1 Significant accounting policies (continued)**(c) Changes in accounting policies**

The HKICPA has issued a number of new HKFRSs and amendments to HKFRSs that are first effective for the current accounting period of the Company. Of these, the following developments are relevant to the Company's financial statements:

- (i) HKFRS 9, *Financial instruments*
- (ii) HKFRS 15, *Revenue from contracts with customers*
- (iii) HK(IFRIC) 22, *Foreign currency transactions and advance consideration*

The Company has not applied any new standard or interpretation that is not yet effective for the current accounting period, except for the amendments to HKFRS 9, *Prepayment features with negative compensation* which have been adopted at the same time as HKFRS 9.

- (i) HKFRS 9, *Financial instruments*, including the amendments to HKFRS 9, *Prepayment features with negative compensation*

HKFRS 9 replaces HKAS 39, *Financial instruments: recognition and measurement*. It sets out the requirements for recognising and measuring financial assets, financial liabilities and some contracts to buy or sell non-financial items.

The company has applied HKFRS 9 retrospectively to items that existed at 1 January 2018 in accordance with the transition requirements. The Company has recognised the cumulative effect of initial application as an adjustment to the opening equity at 1 January 2018. Therefore, comparative information continues to be reported under HKAS 39.

Further details of the nature and effect of the changes to previous accounting policies and the transition approach are set out below:

A Classification of financial assets and financial liabilities

HKFRS 9 categorises financial assets into three principal classification categories: measured at amortised cost, at fair value through other comprehensive income ("FVOCI") and at fair value through profit or loss ("FVTPL"). These supersede HKAS 39's categories of held-to-maturity investments, loans and receivables, available-for-sale financial assets and financial assets measured at FVTPL. The classification of financial assets under HKFRS 9 is based on the business model under which the financial asset is managed and its contractual cash flow characteristics. Under HKFRS 9, derivatives embedded in contracts where the host is a financial asset in the scope of the standard are not separated from the host. Instead, the hybrid instrument as a whole is assessed for classification.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

1 Significant accounting policies (continued)

The accounting for financial liabilities is largely be the same as the requirements of HKAS 39 except for the treatment of gains or losses arising from an entity's own credit risk relating to liabilities designated at FVTPL. Such movements is presented in other comprehensive income ("OCI") with no subsequent reclassification to the income statement, unless an accounting mismatch in profit or loss would arise.

The following table and the accompanying notes below explain the original measurement categories under HKAS 39 and the new measurement categories under HKFRS 9 for each class of the Company's financial assets and financial liabilities as at 1 January 2018.

The effect of adopting HKFRS 9 on the carrying amounts of financial assets at 1 January 2018 relates solely to the new impairment requirements.

<i>In HKD</i>	<i>Original classification under HKAS 39</i>	<i>New classification under HKFRS 9</i>	<i>Original carrying amount under HKAS 39</i>	<i>New carrying amount under HKFRS 9</i>
Financial assets				
Amounts due from fellow subsidiaries	Loans and receivables	Amortised cost	243,742	243,742
Accounts receivable and other assets	Loans and receivables	Amortised cost	12,158,238	12,156,238
Cash and cash equivalents	Loans and receivables	Amortised cost	221,656,523	221,656,049
Total financial assets			234,058,503	234,058,029

Note: For an explanation of how the Company classifies and measures financial assets and recognises related gains and losses under HKFRS 9, see respective accounting policy note 1(k).

The measurement categories for all financial liabilities remain the same. The carrying amounts for all financial liabilities at 1 January 2018 have not been impacted by the initial application of HKFRS 9.

1 Significant accounting policies (continued)**B. Credit losses**

HKFRS 9 replaces the "incurred loss" model in HKAS 39 with the "expected credit loss" (ECL) model. The ECL model requires an ongoing measurement of credit risk associated with a financial asset and therefore recognises ECLs earlier than under the "incurred loss" accounting model in HKAS 39.

Under HKFRS 9, the same impairment model is applied to all financial assets, except for financial assets classified or designated as at FVTPL and equity securities designated as at FVOCI, which are not subject to impairment assessment. The scope of the HKRS 9 expected credit loss impairment model includes amortised cost financial assets, debt securities classified as FVOCI, and off balance sheet loan commitments and financial guarantees which were previously provided for under HKAS 37 *Provisions, Contingent Liabilities and Contingent Assets*.

The Company applies the new ECL model to the following items:

- Financial assets measured at amortised cost (including cash and cash equivalents and accounts receivable and other assets)

For further details on the Company's accounting policy for accounting for credit losses, see respective accounting policy note 1(k).

The impact to the Company's allowances for credit losses, due to the adoption of HKFRS 9, is considered to be immaterial to the Company.

C. Transition

Changes in accounting policies resulting from the adoption of HKFRS 9 have been applied retrospectively, except as described below:

- Information relating to comparative periods has not been restated. Differences in the carrying amounts of financial assets resulting from the adoption of HKFRS 9 are recognised in retained earnings and reserves as at 1 January 2018. Accordingly, the information presented for 2017 continues to be reported under HKAS 39 and thus may not be comparable with the current period.
- The determination of the business model within which a financial asset is held has been made on the basis of the facts and circumstances that existed at 1 January 2018 (the date of initial application of HKFRS 9 by the Company).
- If, at the date of initial application, the assessment of whether there has been a significant increase in credit risk since initial recognition would have involved undue cost or effort, a lifetime ECL has been recognised for that financial instrument.

1 Significant accounting policies (continued)**(ii) HKFRS 15, Revenue from contracts with customers**

HKFRS 15 establishes a comprehensive framework for recognising revenue and some costs from contracts with customers. HKFRS 15 replaces HKAS 18, *Revenue*, which covered revenue arising from sale of goods and rendering of services, and HKAS 11, *Construction contracts*, which specified the accounting for construction contracts.

HKFRS 15 also introduces additional qualitative and quantitative disclosure requirements which aim to enable users of the financial statements to understand the nature, amount, timing and uncertainty of revenue and cash flows arising from contracts with customers.

The Company has elected to use the cumulative effect transition method and has recognised the cumulative effect of initial application as an adjustment to the opening balance of equity at 1 January 2018. Therefore, comparative information has not been restated and continues to be reported under HKAS 18. As allowed by HKFRS 15, the Company has applied the new requirements only to contracts that were not completed before 1 January 2018. The estimated impact on the amounts reported as a result of the adoption of HKFRS 15 on 1 January 2018 is considered to be immaterial in respect of the year ended 31 December 2018.

Further details of the nature and effect of the changes on previous accounting policies are set out below:

A. Timing of revenue recognition

Previously, revenue arising from construction contracts and provision of services was recognized over time, whereas revenue from sale of goods was generally recognized at a point in time when the risks and rewards of ownership of the goods had passed to the customers.

Under HKFRS 15, revenue is recognized when the customer obtains control of the promised good or service in the contract. This may be at a single point in time or over time. HKFRS 15 identifies the following three situations in which control of the promised goods or service is regarded as being transferred over time:

- When the customer simultaneously receives and consumes the benefits provided by the entity's performance, as the entity performs;
- When the entity's performance creates or enhances an asset (for example work in progress) that the customer controls as the asset is created or enhanced;
- When the entity's performance does not create an asset with an alternative use to the entity and the entity has an enforceable right to payment for performance completed to date.

If the contract terms and the entity's activities do not fall into any of these 3 situations, then under HKFRS 15 the entity recognises revenue for the sale of that good or service at a single point in time, being when control has passed. Transfer of risks and rewards of ownership is only one of the indicators that is considered in determining when the transfer of control occurs.

1 Significant accounting policies (continued)

The adoption of HKFRS 15 does not have a significant impact on the Company's recognition of revenue.

B. Significant financing component

HKFRS 15 requires an entity to adjust the transaction price for the time value of money when a contract contains a significant financing component, regardless of whether the payments from customers are received significantly in advance of revenue recognition or significantly deferred.

Previously, the Company only applied such a policy when payments were significantly deferred, which was not common in the Company's arrangements with its customers. The Company did not apply such a policy when payments were received in advance.

It is not common for the Company to receive payments significantly in advance of revenue recognition in the Company's arrangements with its customers.

Where payment schemes include a significant financing component, the transaction price is adjusted to separately account for this component. In the case of payments in advance, such adjustment results in interest expense being accrued by the Company to reflect the effect of the financing benefit obtained by the Company from the customers during the period between the payment date and the completion date of legal assignment.

This change in policy has had no effect on retained earnings as at 1 January 2018.

(iii) HK (IFRIC) 22, *Foreign currency transactions and advance consideration*

This Interpretation provides guidance on determining "the date of the transaction" for the purpose of determining the exchange rate to use on initial recognition of the related asset, expense or income (or part of it) arising from a transaction in which an entity receives or pays advance consideration in a foreign currency.

The Interpretation clarifies that "the date of the transaction" is the date on initial recognition of the non-monetary asset or liability arising from the payment or receipt of advance consideration. If there are multiple payments or receipts in advance of recognising the related item, the date of the transaction for each payment or receipt should be determined in this way. The adoption of HK(IFRIC) 22 does not have any material impact on the financial position and the financial result of the Company.

(d) *Cash and cash equivalents*

Cash and cash equivalents comprise cash at bank and on hand, demand deposits with banks and other financial institutions, and short-term, highly liquid investments that are readily convertible into known amounts of cash and which are subject to an insignificant risk of changes in value, having been within three months of maturity at acquisition.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

1 Significant accounting policies (continued)

(e) Revenue and other income

Income is classified by the Company as revenue when it arises from the sale of goods, the provision of services or the use by others of the Company's assets under leases in the ordinary course of the Company's business.

Revenue is recognised when control over a product or service is transferred to the customer, or the lessee has the right to use the asset, at the amount of promised consideration to which the Company is expected to be entitled, excluding those amounts collected on behalf of third parties.

Where the contract contains a financing component which provides a significant financing benefit to the customer for more than 12 months, revenue is measured at the present value of the amount receivable, discounted using the discount rate that would be reflected in a separate financing transaction with the customer, and interest income is accrued separately under the effective interest method. Where the contract contains a financing component which provides a significant financing benefit to the Company, revenue recognised under that contract includes the interest expense accreted on the contract liability under the effective interest method. The Company takes advantage of the practical expedient in paragraph 63 of HKFRS 15 and does not adjust the consideration for any effects of a significant financing component if the period of financing is 12 months or less.

Further details of the Company's revenue and other income recognition policies are as follows:

- Fee income is recognised when the relevant services have been rendered.
- Interest income is recognised as it accrues using the effective interest method.

(f) Provisions and contingent liabilities

Provisions are recognised when the Company has a legal or constructive obligation arising as a result of a past event, it is probable that an outflow of economic benefits will be required to settle the obligation and a reliable estimate can be made. Where the time value of money is material, provisions are stated at the present value of the expenditure expected to settle the obligation.

Where it is not probable that an outflow of economic benefits will be required, or the amount cannot be estimated reliably, the obligation is disclosed as a contingent liability, unless the probability of outflow of economic benefits is remote. Possible obligations, whose existence will only be confirmed by the occurrence or non-occurrence of one or more future events, are also disclosed as contingent liabilities unless the probability of outflow of economic benefits is remote.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

1 Significant accounting policies (continued)

(g) *Accounts and other receivables*

Accounts and other receivables are initially recognised at fair value and thereafter stated at amortised cost using the effective interest method, less allowance for credit losses (see note 1(k)(v)), except where the receivables are interest-free loans made to related parties without any fixed repayment terms or the effect of discounting would be immaterial. In such cases, the receivables are stated at cost less allowance for impairment of doubtful debts.

Impairment losses for bad and doubtful debts are recognised when there is objective evidence of impairment and are measured as the difference between the carrying amount of the financial asset and the estimated future cash flows, discounted at the asset's original effective interest rate where the effect of discounting is material.

Objective evidence of impairment includes observable data that comes to the attention of the Company about events that have an impact on the asset's estimated future cash flows such as significant financial difficulty of the debtor.

(h) *Translation of foreign currencies*

Foreign currency transactions during the year are translated into Hong Kong dollars at the foreign exchange rates ruling at the transaction dates. Monetary assets and liabilities denominated in foreign currencies are translated into Hong Kong dollars at the exchange rates ruling at the end of reporting period. Exchange gains and losses are recognised in statement of profit or loss and other comprehensive income.

(i) *Income tax*

Income tax for the year comprises current tax and movements in deferred tax assets and liabilities. Current tax and movements in deferred tax assets are recognised in the statement of profit or loss except to the extent that they relate to items recognised in other comprehensive income or directly in equity, in which case the relevant amounts of tax are recognised in other comprehensive income or directly in equity, respectively.

Current tax is the expected tax payable on the taxable income for the year, using tax rates enacted or substantively enacted at the end of the reporting period, and any adjustment to tax payable in respect of previous years.

Deferred tax assets arise from deductible temporary differences, being the differences between the carrying amounts of assets and liabilities for financial reporting purposes and the tax bases. Deferred tax assets also arise from unused tax losses and unused tax credits. Apart from differences which arise on initial recognition of assets and liabilities, all deferred tax assets to the extent that it is probable that future taxable profits will be available against which the asset can be utilised, are recognised.

The amount of deferred tax recognised is measured based on the expected manner of realisation or settlement of the carrying amount of the assets and liabilities, using tax rates enacted or substantively enacted at the end of reporting period. Deferred tax assets and liabilities are not discounted.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

1 Significant accounting policies (continued)

Current tax balances and deferred tax balances, and movements therein, are presented separately from each other and are not offset. Current tax assets are offset against current tax liabilities, and deferred tax assets against deferred tax liabilities if, and only if, the Company has the legally enforceable right to set off current tax assets against current tax liabilities. The principle of offsetting usually applies to income tax levied by the same tax authority on the same taxable entity.

(j) Related parties

- (a) A person, or a close member of that person's family, is related to the Company if that person:
- (i) has control or joint control over the Company;
 - (ii) has significant influence over the Company; or
 - (iii) is a member of the key management personnel of the Company or the Company's parent.
- (b) An entity is related to the Company if any of the following conditions applies:
- (i) The entity and the Company are members of the same group (which means that each parent, subsidiary and fellow subsidiary is related to the others).
 - (ii) One entity is an associate or joint venture of the other entity (or an associate or joint venture of a member of a group of which the other entity is a member).
 - (iii) Both entities are joint ventures of the same third party.
 - (iv) One entity is a joint venture of a third entity and the other entity is an associate of the third entity.
 - (v) The entity is a post-employment benefit plan for the benefit of employees of either the Company or an entity related to the Company.
 - (vi) The entity is controlled or jointly controlled by a person identified in (a).
 - (vii) A person identified in (a)(i) has significant influence over the entity or is a member of the key management personnel of the entity (or of a parent of the entity).
 - (viii) The entity, or any member of a group of which it is a part, provides key management personnel services to the Company or to the Company's parent.

Close members of the family of a person are those family members who may be expected to influence, or be influenced by, that person in their dealings with the entity.

1 Significant accounting policies (continued)**(k) Financial instruments****(i) Initial recognition**

Financial instruments are measured initially at fair value, which normally will be equal to the transaction price, plus, in case of a financial asset or financial liability not held at fair value through profit or loss, transaction costs that are directly attributable to the acquisition or issue of the financial asset or financial liability.

The Company recognises financial assets and financial liabilities on the date it becomes a party to the contractual provisions of the instrument. A regular way purchase or sale of financial assets is recognised using trade date accounting. From this date, any gains and losses arising from changes in fair value of the financial assets or financial liabilities are recorded.

(ii) Classification and subsequent measurement**(A) Classification of financial assets - Policy applicable from 1 January 2018**

On initial recognition, the Company classifies financial assets as measured at amortised cost or FVTPL.

A financial asset is measured at amortised cost if it meets both of the following conditions and is not designated as at FVTPL.

- it is held within a business model whose objective is to hold assets to collect contractual cash flows; and
- its contractual terms give rise on specified dates to cash flows that are solely payments of principal and interest ("SPPI")

All other financial assets of the Company are measured at FVTPL.

Business model assessment

In making an assessment of the objective of the business model in which a financial asset is held, the Company considers all of the relevant information about how the business is managed, including:

- the documented investment strategy and the execution of this strategy in practice. This includes whether the investment strategy focuses on earning contractual interest income, maintaining a particular interest rate profile, matching the duration of the financial assets to the duration of any related liabilities or expected cash outflows or realising cash flows through the sale of the assets;
- how the performance of the portfolio is evaluated and reported to the Company's management;
- the risks that affect the performance of the business model (and the financial assets held within that business model) and how those risks are managed;

1 Significant accounting policies (continued)

- how the managers of the business are compensated: e.g. whether compensation is based on the fair value of the assets managed or the contractual cash flows collected; and
- the frequency, volume and timing of sales of financial assets in prior periods, the reasons for such sales and expectations about future sales activity

Financial assets that are held for trading or managed and whose performance is evaluated on a fair value basis are measured at FVTPL because they are neither held to collect contractual cash flows nor held both to collect contractual cash flows and to sell financial assets.

Assessment whether contractual cash flows are SPPI

For the purposes of this assessment, 'principal' is defined as the fair value of the financial asset on initial recognition. 'Interest' is defined as consideration for the time value of money and for the credit risk associated with the principal amount outstanding during a particular period of time and for other basic lending risks and costs (e.g. liquidity risk and administrative costs), as well as a profit margin.

In assessing whether the contractual cash flows are SPPI, the Company considers the contractual terms of the instrument. This includes assessing whether the financial asset contains a contractual term that could change the timing or amount of contractual cash flows such that it would not meet this condition. In making this assessment, the Company considers:

- contingent events that would change the amount or timing of cash flows;
- leverage features;
- prepayment and extension features;
- terms that limit the Company's claim to cash flows from specified assets (e.g. non-recourse features); and
- features that modify consideration of the time value of money (e.g. periodical reset of interest rates)

Reclassifications

Financial assets are not reclassified subsequent to their initial recognition, except in the period after the Company changes its business model for managing financial assets.

1 Significant accounting policies (continued)**(B) Classification of financial assets - Policy applicable before 1 January 2018***Loans and receivables*

Loans and receivables include amounts due from fellow subsidiaries, accounts receivable and other assets and cash and cash equivalents. These assets are measured at amortised cost using the effective interest method.

Other financial liabilities

Financial liabilities includes amount due to fellow subsidiaries and accounts payable and accrued expenses. These liabilities are measured at amortised cost using the effective interest method.

(iii) Derecognition

A financial asset is derecognised when the contractual rights to receive the cash flows from the financial asset expire, or where the financial asset together with substantially all the risks and rewards of ownership, have been transferred.

A financial liability is derecognised when the obligation specified in the contract is discharged, cancelled or expires.

The Company uses the weighted average method to determine realised gains and losses to be recognised in the statement of profit or loss and other comprehensive income on derecognition.

(iv) Offsetting

Financial assets and financial liabilities are offset and the net amount is reported in the statement of financial position where there is a legally enforceable right to offset the recognised amounts and there is an intention to settle on a net basis, or realise the asset and settle the liability simultaneously.

(v) Impairment**(A) Policy applicable from 1 January 2018**

The Company recognises loss allowances for ECLs on financial assets measured at amortised cost.

The Company measures loss allowances at an amount equal to lifetime ECLs, except for the following, which are measured at 12-month ECLs:

- financial assets that are determined to have low credit risk at the reporting date; and
- other financial assets for which credit risk (i.e. the risk of default occurring over the expected life of the asset) has not increased significantly since initial recognition

The Company assumes that the credit risk on a financial asset has increased significantly if it is more than 30 days past due.

1 Significant accounting policies (continued)

The Company considers a financial instrument to have low credit risk when its credit risk rating is equivalent to the globally understood definition of 'investment grade'.

Lifetime ECLs are the ECLs that result from all possible default events over the expected life of a financial instrument.

12-month ECLs are the portion of ECLs that result from default events that are possible within the 12 months after the reporting date (or a shorter period if the expected life of the instrument is less than 12 months).

The maximum period considered when estimating ECLs is the maximum contractual period over which the Company is exposed to credit risk.

Measurement of ECLs

ECLs are the probability-weighted estimate of credit losses. Credit losses are measured as the present value of all cash shortfalls (i.e. the difference between the cash flows due to the entity in accordance with the contract and the cash flows that the Company expects to receive).

ECLs are discounted at the effective interest rate of the financial asset.

Credit-impaired financial assets

At each reporting date, the Company assesses whether financial assets carried at amortised cost are credit-impaired. A financial asset is 'credit-impaired' when one or more events that have a detrimental impact on the estimated future cash flows of the financial asset have occurred.

Evidence that a financial asset is credit-impaired includes the following observable data:

- significant financial difficulty of the borrower or issuer;
- a breach of contract such as a default or being more than 90 days past due; or
- it is probable that the borrower will enter bankruptcy or other financial reorganisation

Presentation of allowance for ECLs in the statement of financial position

Loss allowances for financial assets measured at amortised cost are deducted from the gross carrying amount of the assets.

Write-off

The gross carrying amount of a financial asset is written off when the Company has no reasonable expectations of recovering a financial asset in its entirety or a portion thereof.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

1 Significant accounting policies (continued)

(B) Policy applicable before 1 January 2018

Financial assets not classified at FVTPL were assessed at each reporting date to determine whether there was objective evidence of impairment. A financial asset or a group of financial assets was 'impaired' if there was objective evidence of impairment as a result of one or more events that occurred after the initial recognition of the asset(s) and that loss event(s) had an impact on the estimated future cash flows of that asset(s) that could be estimated reliably.

Objective evidence that financial assets were impaired included significant financial difficulty of the borrower or issuer, default or delinquency by a borrower, restructuring of the amount due on terms that the Company would not otherwise consider, indications that a borrower or issuer would enter bankruptcy, disappearance of an active market for a security or adverse changes in the payment status of the borrower.

An impairment loss in respect of a financial asset measured at amortised cost was calculated as the difference between its carrying amount and the present value of the estimated future cash flows discounted at the asset's original effective interest rate. Losses were recognised in profit or loss and reflected in an allowance account against receivables. Interest on the impaired asset continued to be recognised. If an event occurring after the impairment was recognised caused the amount of impairment loss to decrease, then the decrease in impairment loss was reversed through profit or loss.

2 Turnover

The principal activity of the Company is the provision of investment management services.

	2018 \$	2017 \$
Investment management fee income	57,356,942	57,031,983
	<u>57,356,942</u>	<u>57,031,983</u>

The nature of the above fee income is disclosed in note 13.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

3 Other net gain

	2018 \$	2017 \$
Interest income from bank deposits with a fellow subsidiary bank	1,477,579	19,417
Foreign exchange (loss)/gain	(154,827)	307,240
	<u>1,322,752</u>	<u>326,657</u>

4 Profit before taxation

Profit before taxation is arrived at after charging:

	2018 \$	2017 \$
Management fee expenses	19,628,027	22,258,411
Trailer fee expenses	-	3,318,662
Sub-manager fee expenses	6,636,458	5,593,203
Legal and professional fee	10,790,292	6,654,747
Auditors' remuneration	468,148	460,648
	<u>468,148</u>	<u>460,648</u>

The nature of certain of the above related party fee expenses is disclosed in note 13.

5 Income tax

(a) *Income tax in the statement of profit or loss and other comprehensive income represents:*

Taxation in the statement of profit or loss and other comprehensive income represents:

	2018 \$	2017 \$
Current tax – Hong Kong Profits Tax		
Over-provision in respect of the prior year	(274,006)	-
Provision for Hong Kong Profits Tax for the year	3,085,307	2,140,773
Deferred tax		
Origination and reversal of temporary differences	3,529	523,973
	<u>2,814,830</u>	<u>2,664,746</u>

The provision for Hong Kong Profits Tax for the year is calculated at 16.5% (2017: 16.5%) of the estimated assessable profits for the year.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

5 Income tax (continued)

(b) Reconciliation between income tax and accounting profit at applicable tax rates:

	2018	2017
Profit before taxation	<u>20,042,968</u>	<u>16,501,910</u>
Notional tax on profit before taxation at 16.5% (2017: 16.5%)	3,307,090	2,722,815
Tax effect of non-taxable income and non-deductible loss	(218,254)	(53,898)
Over-provision in respect of prior year	(274,006)	-
Others	<u>-</u>	<u>(4,171)</u>
Actual tax expense	<u>2,814,830</u>	<u>2,664,746</u>

(c) Income tax in the statement of financial position represents:

Current taxation in the statement of financial position represents:

	2018 \$	2017 \$
Current taxation bought forward	826,688	-
Provisional Profits Tax Paid	(2,756,914)	(1,314,085)
Balance of Profits Tax provision relating to prior years	(274,006)	-
Provision for Hong Kong Profits Tax for the year	<u>3,085,307</u>	<u>2,140,773</u>
	<u>881,075</u>	<u>826,688</u>

Deferred tax assets recognised:

The components of deferred tax assets recognised in the statement of financial position and the movements during the year are as follows:

	2018 \$	2017 \$
At 1 January 2018	26,278	550,251
Charged to statement of profit or loss and other comprehensive income	<u>(3,529)</u>	<u>(523,973)</u>
At 31 December 2018	<u>22,749</u>	<u>26,278</u>

As at 31 December 2018, there is no significant deferred tax asset or liability not recognised or provided for (2017: \$Nil).

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

6 Directors' emoluments

Directors' emoluments disclosed pursuant to section 383(1) of the Hong Kong Companies Ordinance and Part 2 of the Companies (Disclosure of Information about Benefits of Directors) Regulations are as follows:

	2018 \$	2017 \$
Directors' fees	-	-
Salaries, allowances and benefits in kind	8,664,708	8,678,496
Discretionary bonuses	14,381,096	7,426,755
Share based payments	1,830,923	1,613,482
Retirement scheme contributions	758,100	740,100
	<u>25,634,827</u>	<u>18,458,833</u>

7 Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents represent deposits held at a fellow subsidiary bank as at 31 December 2018 and 31 December 2017.

8 Amounts due from/to fellow subsidiaries

The amounts due from/to fellow subsidiaries are unsecured, interest free and repayable on demand.

9 Accounts receivable and other assets

	2018 \$	2017 \$
Investment management fee receivable	7,283,614	11,133,466
Legal and professional fee receivable	82,725	1,022,772
	<u>7,366,339</u>	<u>12,156,238</u>

All of the above fee receivables except tax receivables are due from funds managed by the Company. All the fee receivables are interest free, unsecured and expected to be settled within three months.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

10 Accounts payable and accrued expenses

	2018 \$	2017 \$
Sub-manager fee payable	2,615,365	868,890
Trailer fee payable	-	407,817
Legal and professional fee payable	984,433	2,597,917
Others	460,648	562,046
	<u>4,060,446</u>	<u>4,436,670</u>

Included in sub-manager fee payable is an amount due to a fellow subsidiary of \$2,350,065 (2017: \$868,890). All accounts payable and accrued charges are interest free, unsecured and expected to be settled within three months.

11 Share capital

(a) Issued share capital

	2018 No. of shares	Amount \$	2017 No. of shares	Amount \$
Ordinary shares, issued and fully paid:				
At 1 January and 31 December	<u>20,002</u>	<u>2,000,200</u>	<u>20,002</u>	<u>2,000,200</u>

In accordance with section 135 of the Hong Kong Companies Ordinance, the ordinary shares of the Company do not have a par value.

The holders of ordinary shares are entitled to receive dividends as declared from time to time and are entitled to one vote per share at meetings of the Company. All ordinary shares rank equally with regard to the Company's residual assets.

(b) Capital management

The Company's primary objective when managing capital is to safeguard the Company's ability to continue as a going concern. As the Company is part of a larger group, the Company's sources of additional capital and policies for distribution of excess capital may also be affected by the group's capital management objectives.

The Company defines "capital" as including all components of equity. On this basis the amount of capital employed at 31 December 2018 was \$235,924,858 (2017: \$218,971,200).

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

11 Share capital (continued)

The Company's capital structure is regularly reviewed and managed with due regard to the capital management practices of the group to which the Company belongs. Adjustments are made to the capital structure in light of changes in economic conditions affecting the Company or the group, to the extent that these do not conflict with the directors' fiduciary duties towards the Company or the requirements of the Hong Kong Companies Ordinance. The results of the directors' review of the Company's capital structure are used as a basis for the determination of the level of dividends, if any, that are declared.

As a licensed corporation registered under the Hong Kong Securities and Futures Ordinance, the Company is also subject to the capital requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Financial Resources) Rules ("FRR"). The minimum liquid capital requirement is the higher of \$100,000 and the variable required liquid capital as defined in the FRR. The Company monitors its compliance with the requirements of the FRR on a daily basis. The Company complied with the requirements of the FRR at all times during the year.

12 Financial instruments

Exposure to credit, liquidity and interest rate risks and foreign currency risk arise in the normal course of the Company's business. These risks are managed by the Company's financial management policies and practices described below.

(a) Credit risk

The Company's credit risk is primarily attributable to cash and cash equivalents held at a fellow subsidiary bank and outstanding fees receivable arising from the Company's investment management activities. Management has a credit policy in place and exposure to credit risks is monitored on an ongoing basis.

Management fee receivables are regularly reviewed and settled on a regular schedule. For the balance due from fellow subsidiaries, management considers the default risk of the financial assets placed with the group companies to be remote.

The maximum exposure to credit risk is equal to the carrying amount of these financial assets as of the end of the reporting period.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

12 Financial instruments (continued)

(b) Liquidity risk

The Company's policy is to regularly monitor its current and expected liquidity requirements to ensure that it maintains sufficient reserves of cash to meet its liquidity requirements in the short and longer term.

At 31 December 2018 and 31 December 2017, all financial liabilities mature within one year or are repayable on demand. Details of the earliest contractual settlement dates of the financial liabilities are disclosed in notes 8 and 10.

(c) Interest rate risk

The Company is exposed to interest rate risk only to the extent that it earns bank interest on cash and cash equivalents.

Sensitivity analysis

The following table indicates the estimated changes in the Company's profit before tax in response to estimated changes in interest rate with all other variables held constant at the end of the reporting period.

	2018		2017	
		<i>Profit before tax increase/ (decrease)</i>		<i>Profit before tax increase/ (decrease)</i>
	%	\$	%	\$
Changes in interest rate				
- Increase	0.28	689,064	0.75	1,620,956
- Decrease	-	-	-	-

The sensitivity analysis above indicates the annualised impact on the Company's profit before tax that would arise assuming that the change in interest rates had occurred at the end of the reporting period and had been applied to re-measure those financial instruments held by the Company which expose the Company to interest rate risk at the end of reporting period. The analysis is performed on the same basis for 2017.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

12 Financial instruments (continued)

(d) Currency risk

Currency risk arises from the possibility that changes in foreign exchange rate will impact the value of financial instruments.

To minimise the exposures to foreign currency risk, management ensures that the net exposure is kept at an acceptable level by buying or selling foreign currencies at spot rates where necessary to cover the foreign currencies.

(i) Exposure to currency risk

The following table details the Company's exposure at the end of the reporting period to currency risk arising from recognised assets or liabilities denominated in currencies other than the functional currency of the Company to which they relate.

	2018				2017			
	Australian Dollars HKD equivalent	Euro HKD equivalent	Japanese Yen HKD equivalent	US Dollars HKD equivalent	Australian Dollars HKD equivalent	Euro HKD equivalent	Japanese Yen HKD equivalent	US Dollars HKD equivalent
Cash and cash equivalents	711,029	-	2,057,720	8,149,639	777,225	-	4,933,923	5,532,086
Amounts due from fellow subsidiaries	-	-	-	132,034	-	-	-	208,146
Accounts receivable and other assets	-	-	7,047,878	293,601	1,151	-	4,817,498	7,331,280
Accounts payable and accrued expenses	-	-	(4,026,308)	426,610	-	(2,869,314)	-	(1,275,706)
Amounts due to fellow subsidiaries	(11,820)	-	(3,434,604)	(13,077,290)	-	-	(1,881,922)	(7,968,301)
Overall net exposure	699,609	-	2,442,586	(4,073,447)	778,377	(2,869,314)	7,859,499	3,628,483

Hong Kong dollar ("HKD") is pegged to the United States dollar ("USD"), the Company therefore consider the risk of movements in exchange rates between the USD and the HKD to be insignificant.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

12 Financial instruments (continued)

(ii) Sensitivity analysis

The following table indicates the instantaneous change on the Company's profit before tax that would arise if foreign exchange rate to which the Company has significant exposure at the end of reporting period had changed at that date, assuming all other risk variables remained constant.

	2018		2017	
	Increase/ (decrease) in foreign exchange rates %	Increase/ (decrease) on profit before tax \$	Increase/ (decrease) in foreign exchange rates %	Increase/ (decrease) on profit before tax \$
Australian dollars	2.04 (1.05)	14,280 (7,327)	5.36 -	41,739 -
Euro	N/A N/A	N/A N/A	7.28 -	(196,495) -
Japanese Yen	0.26 -	6,415 -	4.53 -	356,379 -

The sensitivity analysis assumes that the change in foreign exchange rates had been applied to re-measure those financial instruments held by the Company which expose the Company to foreign currency risk at the end of the reporting period, including intercompany payables and receivables that are denominated in currencies other than the functional currency. The analysis is performed on the same basis for 2017.

(e) Fair values of financial assets and liabilities

The fair values of financial assets and liabilities are considered not to be materially different from the carrying values in the statement of financial position as at 31 December 2018 and 31 December 2017.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

13 Material related party transactions

In addition to those disclosed elsewhere in the financial statements, the Company had transactions in the normal course of business with related parties as follows:

(a) **Fee income and expenses**

	Note	2018 \$	2017 \$
Fee income			
Investment management fee income	(ii)	57,356,942	57,031,983
Fee expenses			
Trailer fee expenses	(iii)	-	3,318,662
Sub-manager fee expenses	(iv)	3,290,514	3,514,503

(i) The Company is the fund manager of the following funds during the year:

- Principal Protected Dow Jones Industrial Average Linked Fund without Target Auto Redemption (USD) (2008-12) ("Fund Series 1 ") (Terminated on 6 February 2019)
- Principal Protected Nikkei 225 Linked Fund without Target Auto Redemption (AUD) (2009-01) ("Fund Series 4") (Terminated on 13 March 2019)
- Knock-in Type/Lowest Price Reference Nikkei 225 Linked Fund without Target Auto Redemption (JPY) (2009-02) ("Fund Series 6") (Will terminate on 18 April 2019)
- Country Selector Foreign Currency Series (USD) ("Fund Series 12") (Terminated on 31 January 2019)
- Hybrid Tri-Asset Fund (JPY) ("Fund Series 14")
- World CB Fund (JPY) ("Fund Series 15")
- Asia High Yield Bond Fund ("Fund Series 18")
- Mexico Bond Fund ("Fund Series 19")
- Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series ("Fund Series 20")
- USD 95 Day Liquidity Fund ("Fund Series 24") (Terminated on 6 March 2018)
- Global Balance Plus Fund ("Fund Series 25")
- North American Equity Income Covered Call Strategy Fund ("Fund Series 26")

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

13 Material related party transactions (continued)

- US Focused Growth Equity Foreign Currency Series ("Fund Series 27")
- Treasury Premium Plus Fund ("Fund Series 28")
- Fixed Income Fund ("Fund Series 30")
- Treasury Premium Plus II Fund ("Fund Series 31")
- USD Denominated Target Setting at Maturity Fund 1703 ("Fund Series 32")
- JPN High Dividend Equity with Short Index Allocation ("Fund Series 33")
- USD Denominated Target Setting at Maturity Fund 1710 ("Fund Series 34")
- Treasury Premium Plus III Fund ("Fund Series 35") (Terminated on 12 October 2018)
- JGB Asset Swap Fund ("Fund Series 36")
- Nikkei 225 Intraday Fund ("Fund Series 37")
- Target Setting at Maturity Fund 1802 ("Fund Series 38")
- Target Setting at Maturity Fund 1809 ("Fund Series 40")
- CGMYL Index Target Volatility Fund 2012 (SP) ("CGMYL")
- Aozora US Triple Plus Fund ("Aozora") (Terminated in 2018)
- Aozora US Government Bond Fund (with Active Currency Hedge) ("Aozora Government Bond")
- Canadian Government Bond Fund 7-10 (Currency Active Hedge/Private Placement) ("CGB")
- Daiwa High Grade Canadian Bond Open Currency Active Hedge (Monthly Settlement Type) ("Daiwa")
- Kokusai Turkish Bond Open (1M) Active Currency Hedge ("KAM")
- Mitsubishi UFJ Mexican Bond Open (Currency Actively Hedged) (Monthly Dividend) ("MUAM Mexican Bond")
- Mitsubishi UFJ US Dividend Growth Stock Fund (Currency Actively Hedged) ("MUAM US Dividend")
- New Zealand Bond Open (Actively Hedged) Monthly Distribution Type ("Nomura Monthly")

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

13 Material related party transactions (continued)

- New Zealand Bond Open (Actively Hedged) Semiannually Settlement Type ("Nomura Semiannually")
- Invesco Sterling Bond Fund (Active Hedged/Monthly Distribution) ("Invesco")
- 16-06 JGB Repack Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 16-06")
- 16-11 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 16-11")
- 16-12 US Treasury Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 16-12")
- 17-01 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-01")
- 17-02 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-02")
- 17-03 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-03")
- 17-04 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-04")
- 17-05 US Treasury Fund with Objectives Switching Clause (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-05")
- 17-06 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-06")
- 17-07 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-07")
- 17-08 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-08")
- 17-11 US Treasury 7 to 10 year Ladder Fund (JPY Active Hedged) Private Placement ("Okasan 17-11")

The Company is the fund advisor of the following fund during the year:

- Japan Prime Selection Premium Equity Open Mother Fund ("KAM Japan Prime Selection")

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

13 Material related party transactions (continued)

- (ii) The Company is entitled to fee income from the following funds under its management:

Investment management/advisory fee income

For Fund Series 12, 14, 15, 18, 19, 20, 24, 25, 26, 27, 28, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 40, CGMYL, Aozora, Aozora Government Bond, CGB, Daiwa, KAM, MUAM Mexican Bond, MUAM US Dividend, Nomura Monthly, Nomura Semiannually, Invesco, Okasan 16-06, Okasan 16-11, Okasan 16-12, Okasan 17-01, Okasan 17-02, Okasan 17-03, Okasan 17-04, Okasan 17-05, Okasan 17-06, Okasan 17-07, Okasan 17-08, Okasan 17-11 and Japan Prime Selection, fees are calculated at 0.01% to 1.8% per annum of the net asset value of the funds.

For Series 1, 4 and 6, fees are calculated at 0.3% per annum of the notional amount of units in issue.

- (iii) Pursuant to the distribution agreements signed between the Company and the distributors, trailer fee expenses are payable to various distributors, including Citibank (Hong Kong) Limited and Citibank Singapore Limited, which are fellow subsidiaries of the Company, in respect of CSRF, CSF and CBF. Fees are charged based on amounts agreed between the Company and the distributors. The total trailer fee expenses paid to Citibank (Hong Kong) Limited and Citibank Singapore Limited for the reporting period as at 31 December 2018 amounted to \$Nil (2017: \$870,405).

- (iv) Pursuant to the sub-management agreement signed between the Company and the sub-managers for Series 19, the sub-managers' fee expenses are payable to the sub-managers calculated at 50% of the gross management fee income received. The total sub-managers' fee expenses paid to the sub-managers for Series 19 as at 31 December 2018 amounted to \$933,218.

Pursuant to the letter agreement signed between the Company and Citigroup Global Markets Limited ("CGML"), a fellow subsidiary of the Company, for KAM Japan Prime Selection, the data service fee expense payable to CGML are calculated at 0.18% per annum applied to the daily net asset value of the fund. The total data service fee expenses paid to CGML as at 31 December 2018 amounted to \$2,357,296 (2017: \$3,514,503).

(b) Management fee expenses

The Company paid management fee expenses to fellow subsidiaries, which provided ancillary sale support services to the Company. The management fee expense for the reporting period as at 31 December 2018 amounted to \$19,628,027 (2017: \$22,258,411).

(c) Key management personnel emoluments

Besides the directors' emoluments disclosed in note 6, there were no other key management personnel emoluments.

Amounts disclosed include emoluments totalling \$25,634,827 (2017: \$18,458,833) to certain key management personnel were paid by group companies of the Company. The Company did not directly reimburse the group companies for the service provided.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2018

14 Immediate parent and ultimate controlling party

At 31 December 2018, the directors consider the Company's immediate parent to be Citigroup Global Markets Hong Kong Holdings Limited, which was incorporated in Hong Kong. This entity produces financial statements but not available for public use. Its ultimate controlling party at 31 December 2018 is considered to be Citigroup Inc., which was incorporated in the United States of America. Citigroup Inc. produces consolidated financial statements under generally accepted accounting principles in the United States of America, which are available for public use.

15 Possible impact of amendments, new standards and interpretations issued but not yet effective for the year ended 31 December 2018

Up to the date of issue of these financial statements, the HKICPA has issued a number of amendments, new standards and interpretations which are not yet effective for the year ended 31 December 2018 and which have not been adopted in these financial statements. These include the following which may be relevant to the Company.

*Effective for
accounting periods
beginning on or after*

HK(IFRIC) 23, <i>Uncertainty over income tax treatments</i>	1 January 2019
Annual Improvements to HKFRSs 2015-2017 Cycle	1 January 2019

The Company is in the process of making an assessment of what the impact of these amendments, new standards and interpretations is expected to be in the period of initial application. So far it has concluded that the adoption of them is unlikely to have a significant impact on the financial statements.

（２）【損益計算書】

管理会社の損益計算書については、「（１）貸借対照表」の項目に記載した管理会社の純損益およびその他の包括利益計算書を御参照ください。

4【利害関係人との取引制限】

利益相反

受託会社および管理会社の業務は、トラストに対するものに限られず、受託会社および管理会社は、その他の者に対して、受託会社および管理会社が決める条件により類似のまたはその他のサービスを自由に提供し、またこれにより支払われる報酬またはその他の金銭を、自らの利用および利益のために保持することができる。管理会社は、管理会社がその他の者に類似のサービスを提供する過程において、またはその他の資格におけるもしくは信託証書に基づくその義務を履行する過程におけるもの以外の何らかの方法によるその業務の過程において、管理会社またはその従業員もしくは代理人の知るところとなった事実または事項に関する通知により影響を受け、または受託会社に対しかかる情報を開示する義務を負うことになるとはみなされない。

適用ある法律および規制に定めるところに従い、信託証書のいかなる記載も、管理会社（または管理会社が運用するファンドもしくは管理会社の関係者）が以下に掲げることを行うことを妨げるものではない。

- (a) 受益証券の保有者となり、また管理会社が信託証書の当事者でなかった場合に有するものと同一の権利をもって受益証券の保有、処分またはその他取引を行うこと。
- (b) 自らの計算において信託財産を構成するいずれかの投資対象と同一または類似の投資対象を買付け、保有しおよび取引すること。ただし、受託会社が、管理会社（または管理会社が運用するファンドもしくは管理会社の関係者）から資産を買付けまたは管理会社（または管理会社が運用するファンドもしくは管理会社の関係者）に対して信託財産を構成する資産を売付ける場合、関連するサブ・ファンドは、公開市場で、同一の規模および同一の性質の取引が信頼性のある相手方との間に行われる際に関連する市場において利用可能な最良の条件をもって取引を実行した場合より劣位の条件には置かれないものとする。
- (c) （前項（b）項に定めるところに従い）受託会社との間に金融取引、銀行取引もしくはその他の取引またはいずれかの受益者または信託財産を構成する証券を有するいずれかの者との間に当該取引を契約しもしくは締結すること、またはかかる契約もしくは取引に関与すること。管理会社（または管理会社が運用するファンドもしくは管理会社の関係者）は、いかなる場合も受益者および受託会社に対する管理会社の義務に基づき、関連する当事者間の関係のみを理由としてかかる契約または取引に関して説明することを要求されないものとする。
- (d) 管理会社のいずれかの取締役もしくはパートナーまたは当該取締役の関係者のいずれかの取締役もしくはパートナーが利害関係を有すると管理会社が認識する信託財産に関して、受託会社との間に、または受託会社のために取引を行うこと。ただし、当該利害関係の性質が最初に受託会社に対して開示されることを条件とする。

5【その他】

（1）定款の変更

総会の特別決議により、管理会社の通常定款は変更することができる。

（2）事業譲渡または事業譲受

該当なし。

（3）出資の状況

該当なし。

（4）訴訟事件その他の重要事項

有価証券報告書提出前1年以内において、訴訟事件その他管理会社に重要な影響を与えた事実、または与えることが予想される事実はない。

管理会社の会計年度は、12月末日に終了する1年である。

管理会社の存続期間は無期限である。ただし、株主総会の決議によりいつでも解散することができる。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（1）CIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド（「受託会社」）

（イ）資本金の額

2019年10月末日現在、2,592万米ドル（約28億2,217万円）

（ロ）事業の内容

CIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッドは、ケイマン諸島の法律に基づき設立され、また存続する会社である。受託会社は、世界有数の規模の銀行の一つであるカナダ帝国商業銀行が91.67%の株式を保有している子会社であるCIBCファースト・カリビアン・インターナショナル銀行の間接完全子会社である。1965年に設立された受託会社は、ケイマン諸島における有数の完全に統合された銀行および信託会社の一つであり、銀行業、信託業および投資業のすべての分野の業務を提供している。受託会社は、適時に設立され、有効に存続しており、ケイマン諸島の銀行および信託会社法（2018年改正）の規定に基づく業務を引受けることについて認可を得ている。同社は、ミューチュアル・ファンド法の規定に基づくミューチュアル・ファンド管理者の免許も受けている。受託会社はCIMAにより規制される。

（2）香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイ（「保管会社」、「管理事務代行会社」）

（イ）資本金の額

2018年12月末日現在、普通株式750,691,060米ドル（約817億円）および優先株式1米ドル（約109円）

（ロ）事業の内容

シティバンク・エヌ・エイおよびその子会社（以下、総称して「シティバンク・エヌ・エイ」という。）は、1814年にアメリカ合衆国において設立されて以来、国内外の顧客に対する保管および決済業務の提供者である。1962年から1990年にかけて、シティバンク・エヌ・エイは、シティバンクの支店、子会社およびコルレス銀行によって組織される国際的な保管ネットワークを設立した。今日、シティバンク・エヌ・エイの国際的な保管ネットワークは、すべての先進市場および新興市場を網羅している。

シティバンク・エヌ・エイは、香港において1970年代のころから証券業務の提供を開始し、1980年代のころには完全に運営される保管業務を開始した。今日、香港におけるシティバンク・エヌ・エイの証券業務は、一流の銀行、ファンド・マネージャー、証券業者、保険会社および政府団体による国際的な顧客基盤を有している。

（3）シティコープ・フィナンシャル・サービシズ・リミテッド（「名義書換代理人」）

（イ）資本金の額

2019年10月末日現在、915,026,450香港ドル（約127億円）

（ロ）事業の内容

名義書換代理人は、香港において設立された非公開有限責任会社であり、登記上の所在地を香港、カオルーン、クントン、ホイ・ブン・ロード83、ワン・ベイ・イースト、シティ・タワーに置き、シティグループ・インクの完全子会社である。名義書換代理人は主に、取引書類の処理および支払い業務、顧客に対する関連する電子的な通信および情報サービスの提供を行っている。

（4）シティグループ証券株式会社（「代行協会員」）

（イ）資本金の額

2019年10月末日現在、963億7百万円

（ロ）事業の内容

金融商品取引法に基づく登録を受け、日本において金融商品取引業を行っている。同社の主たる業務は、投資銀行業務、セールス・アンド・トレーディング業務、リサーチ業務である。同社はまた、外国投資信託の日本における販売の取扱いを行っている。

（5）株式会社SMB C信託銀行（「販売会社」）

（イ）資本金の額

2019年10月末日現在、875億5,000万円

(ロ) 事業の内容

株式会社SMB C信託銀行は、銀行法に基づき、銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務及び併營業務を営んでいる。

(6) フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社（「サービス・プロバイダー」）

(イ) 資本金の額

2019年10月末日現在、4億9,000万円

(ロ) 事業の内容

フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社は、投資信託及び投資法人に関する法律（昭和26年法律第198号、改正済）（以下「投信法」という。）に定める投資信託委託会社として、投信法に定める証券投資信託の設定を行うとともに、金融商品取引法に定める投資運用業を行う金融商品取引業者として投資運用業およびこれに付随する業務等を行っている。また、金融商品取引法に定める投資助言業を含む上記に関連する業務を行っている。

2【関係業務の概要】

(1) CIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド

CIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッドは、トラストの受託会社である。

受託会社は、以下に掲げる事項を条件として、法律または信託証書に基づき付与された権利、特典、機能、職務、信託および裁量の全部または一部をいずれかの人、機関、団体または法人（管理会社を含むがこれに限られない。）に対して委託する機能を有する。

- (a) 受託会社は、管理会社に対して、当該委託が生ずる前または当該委託の発生後合理的期間内に当該委託について通知するものとする。
- (b) 受託会社は、各当該委託先が（適用ある限り）信託証書の規定を遵守することを確保するためその合理的な努力のすべてを用いるものとする。
- (c) かかる者との間の書面による契約においては、同契約に基づく求償権が関連するサブ・ファンドの信託財産のみに制限され受託会社の自己勘定の資産に及ばないように制限する旨の条項が含まれているものとする。

受託会社は、いずれの委託先または再委託先の行動を監督することを義務付けられておらず、また、当該損失が受託会社の現実の詐欺または故意の不履行の結果発生した場合を除き、いずれかの委託先または再委託先の作為または不作為を理由として発生したトラスト（いずれかのサブ・ファンドを含む。）の損失について一切責任を負うことはない。

受託会社は、いかなる時においても、いかなる原因によるものであっても、あるサブ・ファンドの信託財産もしくはその一部もしくはその収益について発生し、またはこれらが被った損失、損害、請求、経費または費用に関して責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が受託会社自身の現実の詐欺または故意の不履行によって生じた場合はこの限りではない。

受託会社は、トラストに関する潜在的な債権者との間のいかなる取引においても、支払義務が生じ、かつ当該債権者に対して支払われるべき負債、債務または責任を履行するために当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産のみに対して求償権を有することを確保する。

受託会社は、受託会社に対して、当該サブ・ファンドの受託会社として提示され、発生しまたは被ったいかなる訴訟、手続、責任、経費、請求、損害、費用（一切の訴訟費用、専門家費用およびその他類似の費用を含

む。)のすべてまたはこれらのいずれかに対して、関連するサブ・ファンドの信託財産から補償を受ける。上記にかかわらず、

(a) 受託会社は、あるサブ・ファンドの信託財産から、その他のサブ・ファンドに関連して発生した責任について補償を受ける権利を有さない。

(b) ケイマン諸島の裁判所によって受託会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員または従業員の現実の詐欺または故意の不履行の結果生じたものであると認定された受託会社が被った訴訟、手続、責任、経費、請求、損害、費用または要求に関しては、受託会社が補償を受けることはできない。

受託会社は、管理会社および全受益者に90日以上前の事前の通知を行うことにより退任することができる。かかる退任は、後任の受託会社の選任後にのみ効力を生ずる。受益者は、受益者決議による承認を得た上で、いつでも受託会社を解任し、後任の受託会社を指定することができる。

(2) 香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイ

受託会社は、香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイをサブ・ファンドの管理事務代行会社として選任した。管理事務代行契約の条項に基づき、管理事務代行会社は、サブ・ファンドの一切の財務および会計の記録ならびに財務書類を備置することならびに純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格を集計および計算すること、管理会社とともにサブ・ファンドの財務および会計の記録を調整することならびに監査手続を補助することを含む(ただし、これらに限られない。)サブ・ファンドの運営に必要とされる管理事務業務を提供する。提供される管理事務業務の詳細は、管理事務代行契約に規定される。

管理事務代行契約に定めるところにより、受託会社または管理事務代行会社のいずれも、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより、およびその他一定の状況において管理事務代行契約を終了させることができる。

受託会社は、管理事務代行契約に基づく管理事務代行会社の義務の履行によって直接または間接的に発生した一切の要求、請求、訴因、査定、損失、損害、経費、債務、費用および租税(合理的な弁護士費用および立替費用を含むが、これらに限られない。)に関して、管理事務代行会社に対してサブ・ファンドの資産から補償し、かつ管理事務代行会社を無害に保つことを約している。ただし、管理事務代行会社は、管理事務代行会社またはその代理人の過失、故意の不履行、故意の非行行為または詐欺によって発生した債務に関しては、補償を受け、または無害に保たれないものとする。

受託会社は、香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイをサブ・ファンドの資産の保管会社として行為するよう選任した。

保管会社は、保管契約の条項に基づき、サブ・ファンドの投資対象の安全な保管業務を提供することを約している。

受託会社または保管会社のいずれも、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより保管契約を終了させることができる。

受託会社は、保管契約に関して保管会社が被った一切の損失、経費、損害および費用(合理的な弁護士費用を含む。)ならびにいずれかの請求、要求または訴訟に関する債務(以下、そのそれぞれを「損失」という。)に関して、保管会社をサブ・ファンドの資産のみから補償し、かつ保管会社を無害に保つことを約している。ただし、保管会社、その名義人、支店または子会社の過失、故意の非行行為または詐欺の結果による損失を除く。当該過失または故意の非行行為の場合、損失または損害に関連する保管会社の債務は、(i) 受託会社が当該過失または故意の非行行為を合理的に認識すべきであった時点における当該損失または損害に関連する有価証券の代替に要する費用またはそれらの有価証券の市場価格のうち少ない方および(ii)「キャッシュ」(保管契約に定義される。)の代替に要する費用に加えて、(iii) 当該時点までの現金勘定の基準通貨に適用されるレートによって計算される当該時点までの補償利息の合計を超えない。保管会社は、いかなる状況においても、間接的な損失または損害について、当該損失または損害の可能性を知らされていた場合においても、受託会社に責任を負わない。

（３）シティコープ・フィナンシャル・サービス・リミテッド

受託会社および管理会社は、シティコープ・フィナンシャル・サービス・リミテッドをサブ・ファンドの登録名義書換代理人として選任した。

名義書換代理人は、名義書換代理契約の条項に基づき、取得および買戻しの申込みの収集および処理（適用あるマネー・ロンダリング防止規制の遵守を確保するため申込者および受益者の確認を行うことを含む。）、申込みの支払いの徴収および買戻しの支払いの払い出しならびに受益者名簿の備置またはかかる備置の監督を含む（ただし、これらに限られない。）受益証券の発行、譲渡および買戻しに関する登録名義書換事務を提供することを約している。

名義書換代理人は、名義書換代理人のいずれかの義務を履行するため、第三者の業務を手配する権限を有する。名義書換代理人は、名義書換代理契約に基づくその職務のいずれかを当該第三者に対して委託することができる。名義書換代理人は、当該第三者の選定および選任に際して、合理的な技能を駆使し、注意を払いおよび精査を行う必要があるが、当該第三者の選定における過失に関してのみ責任を負うものとし、かつ名義書換代理契約に基づき委託された義務のいずれかの当該第三者による履行に関しては、一切責任を負わないものとする。ただし、（i）受益証券の申込みの処理を含む受益証券の割当て、発行、譲渡、転換、買戻しおよび／または買取りの手配、（ii）受益者からの受益証券の申込みおよび買戻しに関連する金銭の受領および支払い、（iii）サブ・ファンドの受益者名簿の維持および備置、（iv）申込者に対する取引報告書の発行および（v）サブ・ファンドの買戻し、報酬、手数料および費用のサブ・ファンドからの支払いなどその他の管理事務業務を含む登録および名義書換代理業務を引き受ける第三者による業務の履行に関しては、名義書換代理人は、引き続き責任を負うものとする。

名義書換代理契約に定めるところにより、名義書換代理契約の各当事者は、他方当事者に対して90日前の事前の書面による通知を行うことにより、およびその他一定の状況において名義書換代理契約を終了させることができる。

受託会社および管理会社は、連帯して名義書換代理契約に基づく名義書換代理人の義務の履行によって直接または間接的に発生した一切の要求、請求、訴因、査定、損失、損害、経費、債務、費用および租税（合理的な弁護士費用および立替費用を含むが、これらに限られない。）に関して、名義書換代理人に対してサブ・ファンドの資産から補償し、かつ名義書換代理人を無害に保つことを約している。ただし、名義書換代理人は、名義書換代理人またはその代理人の過失、故意の不履行、故意の非行行為または詐欺によって発生した債務に関しては、補償を受け、または無害に保たれないものとする。

上記にかかわらず、受託会社および管理会社は、受託会社および管理会社に対する名義書換代理人の何らかの原因による行為の形態または法理論を問わないすべての損失、請求、訴訟、論争、違反または損害に対する累積的な責任は、損害賠償請求の原因が発生した日直前の12か月間の名義書換代理人の報酬を超えないことに合意している。

（４）シティグループ証券株式会社

日本における代行協会員業務を行う。

（５）株式会社ＳＭＢＣ信託銀行

日本における受益証券の募集に関し、サブ・ファンドの受益証券の日本における販売・買戻業務を行う。

（６）フランクリン・テンブルトン・インベストメンツ株式会社

フランクリン・テンブルトン・インベストメンツ株式会社は、サブ・ファンドに係るサービス・プロバイダーとして選任されている。サービス・プロバイダーは、マスター・ファンドに関連する特定の情報の提供および入手を含む、とりわけ日本におけるサブ・ファンドに係る販売の援助の提供において、管理会社を補助する。

3【資本関係】

管理会社、管理事務代行会社兼保管会社、名義書換代理人および代行協会員は、シティグループ・インクの子会社である。

第3【投資信託制度の概要】

1. ケイマン諸島における投資信託制度の概要

- 1.1 ミューチュアル・ファンド法が制定された1993年までは、ケイマン諸島には投資信託を規制する単独法は存在しなかった。それ以前は、投資信託は特別な規制には服していなかったが、ケイマン諸島内においてまたはケイマン諸島から運営している投資信託の受託者は銀行および信託会社法（2018年改訂）（以下「銀行および信託会社法」という。）の下で規制されており、ケイマン諸島内においてまたはケイマン諸島から運営している投資運用会社、投資顧問会社およびその他の業務提供者は、銀行および信託会社法、会社管理法（2018年改訂）または地域会社（管理）法（2019年改訂）の下で規制されていた。
- 1.2 ケイマン諸島は連合王国の海外領であり、当時は為替管理上は「ポンド圏」に属していたため、多くのユニット・トラストおよびオープン・エンド型の投資信託が1960年代の終わり頃から設立され、概して連合王国に籍を有する投資運用会社または投資顧問会社をスポンサー（以下「設立計画推進者」という。）として設立されていた。その後、米国、ヨーロッパ、極東およびラテンアメリカの投資顧問会社が設立計画推進者となって、かなりの数のユニット・トラスト、会社ファンド、およびリミテッド・パートナーシップを設定した。
- 1.3 2018年12月現在、活動中の規制を受けている投資信託の数は10,992（2,946のマスター・ファンドを含む。）であった。またそれに加え、適用可能な免除規定に従った相当数の未登録投資信託が存在している。
- 1.4 ケイマン諸島は、カリブ金融活動作業部会（マネー・ロンダリング）およびオフショア・バンキング監督者グループ（銀行規制）のメンバーである。

2. 投資信託規制

- 2.1 1993年に最初に制定されたミューチュアル・ファンド法（2019年改訂）（以下「ミューチュアル・ファンド法」という。）は、オープンエンド型の投資信託に対する規則および投資信託管理者に対する規則を制定している。クローズドエンド型ファンドは、ミューチュアル・ファンド法のもとにおける規制の対象ではない。銀行、信託会社、保険会社および会社の管理者をも監督しており金融庁法（2018年改訂）（以下「金融庁法」という。）により設置された法定政府機関であるケイマン諸島金融庁（以下「CIMA」という。）が、ミューチュアル・ファンド法のもとでの規制の責任を課せられている。ミューチュアル・ファンド法は、同法の規定に関する違反行為に対して厳しい刑事罰を課している。
- 2.2 投資信託とは、ケイマン諸島において設立された会社、ユニット・トラストもしくはパートナーシップ、またはケイマン諸島外で設立されたものでケイマン諸島から運用が行われており、投資者の選択により買い戻しができる受益権を発行し、投資者の資金をプールして投資リスクを分散し、かつ投資を通じて投資者が収益もしくは売買益を享受できるようにする目的もしくは効果を有するものと定義されている。
- 2.3 ミューチュアル・ファンド法第4(4)条のもとで規制を免除されている投資信託は、その受益権に関する投資者が15名以内であり、その過半数によって投資信託の取締役、受託会社もしくはジェネラル・パートナーを選任または解任することができる投資信託およびケイマン諸島外で設立され、ケイマン諸島において公衆に対して勧誘を行う一定の投資信託である。

3. 規制を受ける投資信託の三つの型

3.1 免許投資信託

この場合、投資信託によってCIMAに対して、投資信託および投資信託に対する業務提供者の詳細を記述した法定の様式（MF 3）による目論見書がその概要とともに提出され、登録時および毎年4,268米ドルの手数料が納入されなければならない。設立計画推進者が健全な評判を有し、投資信託を管理するのに十分な専門性を有した健全な評判の者が存在しており、かつファンドの業務および受益権を募ることが適切な方法で行われると考えられるものとCIMAが判断した場合には、免許が与えられる。それぞれの場合に応じて、投資信託の取締役、受託会社およびジェネラル・パートナーに関する詳細な情報が要求される。この投資信託は、著名な評判を有する機関が設立計画推進者であって、投資信託管理者としてケイマン諸島の免許を受けた者が選任されない投資信託に適している（第3.2項参照）。

3.2 管理投資信託

この場合、投資信託は、そのケイマン諸島における主たる事務所として免許投資信託管理者の事務所を指定する。同管理者および投資信託により作成された目論見書が、投資信託および投資信託に対する業務提供者の詳細を要約した法定様式（MF 2およびMF 2 A）とともにCIMAに対して提出されなければならない。投資信託管理者は、設立計画推進者が健全な評判の者であること、投資信託の管理が投資信託管理の十分な専門性を有する健全な評判の者により管理されること、投資信託業務および受益権を募る方法が適切に行われること、および投資信託がケイマン諸島において設立または設定されていない場合には、CIMAにより承認された国または領土において設立または設定されていることを満たしていることが要求される。当初手数料および年間手数料は4,268米ドルである。投資信託管理者は主たる事務所を提供している投資信託（もしくはいずれかの設立計画推進者、その取締役、受託会社、もしくはジェネラル・パートナー）がミューチュアル・ファンド法に違反しており、支払不能となっており、またはその他債権者もしくは投資者に対して害を与える方法で行動しているものと信じる理由があるときは、CIMAに対して報告しなければならない。

3.3 登録投資信託（第4(3)条投資信託）

- (a) 規制投資信託の第三の類型はさらに三つの類型に分けられる。
 - (i) 一投資者当たりの最低投資額が100,000米ドルであるもの
 - (ii) 受益権が公認の証券取引所に上場されているもの
 - (iii) 投資信託が（ミューチュアル・ファンド法で定義される）マスター・ファンドであり、下記のいずれかに該当するもの
 - (A) 一投資者当たりの最低投資額が100,000米ドルであるもの、または
 - (B) 受益権が公認の証券取引所に上場されているもの
- (b) 上記の(i)および(ii)に分類される投資信託は、投資信託と業務提供者の一定の詳細内容をCIMAに対して届け出なければならず、かつ4,268米ドルの当初手数料および年間手数料を支払わなければならない。上記の(iii)に分類される投資信託で、販売用書類が存在しない場合、投資信託は、マスター・ファンドの一定の詳細内容をCIMAに対して届け出なければならず（MF 4様式）、かつ3,049米ドルの当初手数料および年間手数料を支払わなければならない。

4. 投資信託の継続的要件

- 4.1 いずれの規制投資信託も、受益権についてすべての重要な事項を記述し、投資希望者が投資するか否かの判断を十分情報を得た上でなし得るようにするために必要なその他の情報を記載した目論見書を発行しなければならない。さらに、偽りの記述に対する既存の法的義務およびすべての重要事項の適切な開示に関する一般的なコモンロー上の義務が適用される。継続的に募集している場合には、重要な変更、例えば、取締役、受託会社、ジェネラル・パートナー、投資信託管理者、監査人等の変更の場合には改訂目論見書を提出する義務を負っている。

4.2 すべての規制投資信託は、CIMAが承認した監査人を選任しなければならない。決算終了から6か月以内に監査済み会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程で投資信託が以下のいずれかに該当するという情報を入手したときまたは該当すると疑う理由があるときはCIMAに対し報告する法的義務を負っている。

- (a) 投資信託がその義務を履行期が到来したときに履行できない、またはそのおそれがある場合
- (b) 投資信託の投資者または債権者を害するような方法で、自ら事業を行いもしくは行っている事業を解散し、またはそうしようと意図している場合
- (c) 会計が適切に監査できるような十分な会計記録を作成せずに事業を行いまたはそのように意図している場合
- (d) 欺罔的または犯罪的な方法で事業を行いまたはそのように意図している場合
- (e) ミューチュアル・ファンド法、ミューチュアル・ファンド法に基づく規則、金融庁法、マネー・ロンダリング防止規則（2018年改訂）（以下「マネー・ロンダリング防止規則」という。）または免許の条件を遵守せずに事業を行いまたはそのように意図している場合

4.3 すべての規制投資信託は、登記上の事務所もしくは主たる事務所または受託会社の変更があったときはこれをCIMAに通知しなければならない。

4.4 当初2006年12月27日に効力を生じた投資信託（年次申告書）規則（2018年改訂）に従って、すべての規制投資信託は、投資信託の各会計年度について、会計年度終了後6か月以内に、規則に記載された項目を含んだ正確で完全な申告書を作成し、CIMAに提出しなければならない。CIMAは当該期間の延長を許可することができる。申告書は、投資信託に関する一般的情報、営業情報および会計情報を含み、CIMAにより承認された監査人を通じてCIMAに提出されなければならない。規制投資信託の運営者は、投資信託にこの規則を遵守させることに責任を負う。監査人は、規制投資信託の運営者から受領した各申告書をCIMAに適切な時期に提出することにのみ責任を負い、提出された申告書の正確性または完全性については法的義務を負わない。

5. 投資信託管理者

5.1 免許には、「投資信託管理者」の免許および「制限的投資信託管理者」の免許の二つの類型がある。ケイマン諸島においてまたはケイマン諸島から投資信託の管理を行う場合は、そのいずれかの免許が要求される。管理とは、投資信託の資産のすべてまたは実質上資産のすべてを支配し投資信託の管理をし、または投資信託に対して主たる事務所を提供し、もしくは受託会社または投資信託の取締役を提供することを含むものとし、管理と定義される。

5.2 いずれの類型の免許を受ける者も、規制投資信託を管理するのに十分な専門性を有し、かつ、投資信託管理者としての業務は、それぞれの地位において取締役、管理者または役員として適格かつ適正な者により行われる、という法定のテスト基準を満たさなければならない。免許を受ける者は、上記の事柄を示しかつそのオーナーのすべてと財務構造およびその取締役と役員を明らかにして詳細な申請書をCIMAに対し提出しなければならない。かかる者は少なくとも2名の取締役を有しなければならない。投資信託管理者の純資産は、最低約48万米ドルなければならない。制限的投資信託管理者には、最低純資産額の要件は課されない。投資信託管理者は、ケイマン諸島に2名の個人を擁する本店をみずから有しているか、ケイマン諸島の居住者であるかケイマン諸島で設立された法人を代行会社として有さねばならず、制限なく複数の投資信託のために行うことができる。

5.3 投資信託管理者の責任は、まず受諾できる投資信託にのみ主たる事務所を提供し、第3.2項に定めた状況においてCIMAに対して知らせる法的義務を遵守することである。

5.4 制限的投資信託管理者は、CIMAが承認する数の免許投資信託に関し管理者として行為することができるが、ケイマン諸島に登記上の事務所を有していることが必要である。この類型は、ケイマンに投資信託の運用会社を創設した投資信託設立推進者が投資信託に関連した一連の投資信託を管理することを認める。CIMAの承認を条件として関連性のないファンドを運用することができる。現在の方針では、制限的投資信託管理者は、投資信託に対して主たる事務所を提供することが許されていない。しか

し、制限的投資信託管理者が投資信託管理業務を提供する各規制投資信託は、ミューチュアル・ファンド法第4(3)条（第3.3項参照）に基づき規制されていない場合またはミューチュアル・ファンド法第4(4)条（第2.3項参照）に基づく例外にあたる場合は、別個に免許を受けなければならない。

5.5 投資信託管理者は、CIMAの承認を受けた監査人を選任しなければならない、決算期末から6か月以内にCIMAに対し監査済みの会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程で投資信託管理者が以下のいずれかに該当するという情報を入手したときまたは該当すると疑う理由があるときはCIMAに対し報告する法的義務を負っている。

(a) 投資信託管理者がその義務を履行期が到来したときに履行できない、またはそのおそれがある場合

(b) 投資信託管理者が管理している投資信託の投資者または投資信託管理者の債権者または投資信託の債権者を害するような方法で、事業を行いもしくは行っている事業を自発的に解散し、またはそうしようとして意図している場合

(c) 会計が適切に監査できるような十分な会計記録を作成せずに事業を行いまたはそのように意図している場合

(d) 欺罔的または犯罪的な方法で事業を行いまたはそのように意図している場合

(e) ミューチュアル・ファンド法、ミューチュアル・ファンド法に基づく規則、金融庁法、マネー・ロンダリング防止規則または免許の条件を遵守せずに事業を行いまたはそのように意図している場合

5.6 CIMAは投資信託管理者に対して純資産を増加し、または保証や満足できる財務サポートを提供することを要求することもできる。

5.7 投資信託管理者の株主、取締役、上級役員、またはジェネラル・パートナーの変更についてはCIMAの承認が必要である。

5.8 非制限的免許を有する投資信託管理者の支払う当初手数料は、24,390米ドルまたは30,488米ドルであり（管理する投資信託の数による。）、また、制限的投資信託管理者の支払う当初手数料は8,536米ドルである。一方、非制限的免許を有する投資信託管理者の支払う年間手数料は、36,585米ドルまたは42,682米ドルであり（管理する投資信託の数による。）、また、制限的投資信託管理者の支払う年間手数料は8,536米ドルである。

6. ケイマン諸島における投資信託の構造の概要

ケイマン諸島の投資信託について一般的に用いられている法的類型は以下のとおりである。

6.1 免除会社

(a) 最も一般的な投資信託の手段は、会社法（2018年改訂）（以下「会社法」という。）に従って通常額面株式を発行する（無額面株式の発行も認められる）伝統的有限責任会社である。時には、保証による有限責任会社も用いられる。免除会社は、投資信託にしばしば用いられており、以下の特性を有する。

(b) 設立手続には、会社の基本憲章の制定（会社の目的、登記上の事務所、授權資本、株式買戻規定、および内部統制条項を記載した基本定款および定款）、基本定款の記名者による署名を行い、これをその記名者の簡略な法的宣誓文書とともに、授權資本に応じて異なる手数料とともに会社登記官に提出することを含む。

(c) 存続期限のある／存続期間限定会社－存続期間が限定される会社型のファンドで外国の税法上（例えば米国）非課税の扱いを受けるかパートナーシップとして扱われるものを設立することは可能である。

(d) 投資信託がいったん登録された場合、会社法の下での主な必要要件は、以下のとおり要約される。

(i) 各会社は、ケイマン諸島に登記上の事務所を有さなければならない。

(ii) 取締役、代理取締役および役員の名簿は、登記上の事務所に維持されなければならない、その写しを会社登記官に提出しなければならない。

- (iii) 会社の財産についての担保その他の負担の記録は、登記上の事務所に維持されなければならない。
- (iv) 株主名簿は、登記上の事務所においてまたは希望すればその他の管轄地において維持することができる。
- (v) 会社の手続の議事録は、利便性のある場所において維持する。
- (vi) 会社は、会社の業務状況に関する真正かつ公正な所見を提供するもので、かつ会社の取引を説明するために必要な帳簿、記録を維持しなければならない。
- (e) 会社は、株主により管理されていない限り、取締役会を持たなければならない。取締役は、コン・ロー上の忠実義務に服すものとし、注意を払って、かつ会社の最善の利益のために行わなければならない。
- (f) 会社は、様々な通貨により株主資本を指定することができる。
- (g) 額面株式または無額面株式の発行が認められる（ただし、会社は額面株式および無額面株式の両方を発行することはできない。）。
- (h) いずれのクラスについても償還株式の発行が認められる。
- (i) 株式の買戻しも認められる。
- (j) 収益または払込剰余金からの株式の償還または買戻しの支払に加えて、会社は資本金から株式の償還または買戻しをすることができる。ただし、会社は、資本金からの支払後においても、通常の事業の過程で支払時期が到来する債務を支払うことができる（すなわち、支払能力を維持する）ことを条件とする。
- (k) 会社の払込剰余金勘定からも利益からも分配金を支払うことができる。会社の払込剰余金勘定から分配金を支払う場合は取締役はその支払後、ファンドが通常の事業の過程で支払時期の到来する債務を支払うことができる、すなわち会社が支払能力を有することを確認しなければならない。
- (l) 免除会社は、今後30年間税金が賦課されない旨の約定を取得することができる。実際には、ケイマン諸島の財務長官が与える本約定の期間は20年間である。
- (m) 会社は、名称、取締役および役員、株式資本および定款の変更ならびに自発的解散を行う場合は、所定の期間内に会社登記官に報告しなければならない。
- (n) 免除会社は、毎年会社登記官に対して年次の法定の宣誓書を提出し、年間登録手数料を支払わなければならない。

6.2 免除ユニット・トラスト

- (a) ユニット・トラストは、ユニット・トラストへの参加が会社の株式への参加よりもより受け入れられやすく魅力的な地域の投資者によってしばしば用いられてきた。
- (b) ユニット・トラストは、信託証書に基づき受益者の利益のために信託財産に対する信託を宣言する受託者またはこれを設立する管理者および受託者により形成される。
- (c) ユニット・トラストの受託者は、ケイマン諸島内に、銀行および信託会社法に基づき信託会社として免許を受け、かつミューチュアル・ファンド法に基づき投資信託管理者として免許を受けた法人受託者である場合がある。このように、受託者は、両法に基づいてCIMAによる規制・監督を受ける。
- (d) ケイマン諸島の信託法は、基本的には英国の信託法に従っており、この問題に関する英国の信託法の相当程度の部分を採用している。さらに、ケイマン諸島の信託法（2018年改訂）は、英国の1925年受託者法を実質的に基礎としている。投資者は、受託者に対して資金を払い込み、（受益者である）投資者の利益のために投資運用会社が運用する間、受託者は、一般的に保管者としてこれを保持する。各受益者は、信託資産の持分比率に応じて権利を有する。
- (e) 受託者は、通常の忠実義務に服し、かつ受益者に対して説明の義務がある。その機能、義務および責任の詳細は、ユニット・トラストの信託証書に記載される。
- (f) 大部分のユニット・トラストは、「免除信託」として登録申請される。その場合、信託証書およびケイマン諸島の居住者またはケイマン諸島を本拠地とする者を（限られた一定の場合を除き）受益者とし、ない旨宣言した受託者の法定の宣誓書が登録料と共に信託登記官に提出される。

- (g) 免除信託の受託者は、受託者、受益者、および信託財産が50年間課税に服さないとの約定を取得することができる。
- (h) ケイマン諸島の信託は、150年まで存続することができ、一定の場合は無期限に存続できる。
- (i) 免除信託は、信託登記官に対して、当初手数料および年次手数料を支払わなければならない。

6.3 免除リミテッド・パートナーシップ

- (a) 免除リミテッド・パートナーシップは、少人数の投資者のベンチャーキャピタルまたはプライベート・エクイティ・ファンドにおいて一般的に用いられる。
- (b) リミテッド・パートナーシップの概念は、基本的に米国において採用されている概念に類似している。それは法によって創設されたものであり、その法とは、英国の1907年リミテッド・パートナーシップ法に基礎を置き、今日では他の法域（特に米国）のリミテッド・パートナーシップ法の諸側面を組み込んでいるケイマン諸島の免除リミテッド・パートナーシップ法（2018年改訂）（以下「免除リミテッド・パートナーシップ法」という。）である。
- (c) 免除リミテッド・パートナーシップは、リミテッド・パートナーシップ契約を締結するジェネラル・パートナー（個人、企業またはパートナーシップである場合は、ケイマン諸島の居住者であるか、同島において登録されているかまたは同島で設立されたものでなければならない。）およびリミテッド・パートナーにより形成され、免除リミテッド・パートナーシップ法により登録されることによって形成される。登録はジェネラル・パートナーが、リミテッド・パートナーシップ登記官に対し法定の宣誓書を提出し、手数料を支払うことによって有効となる。
- (d) ジェネラル・パートナーは、リミテッド・パートナーを除外して免除リミテッド・パートナーシップの業務の運営を行い、リミテッド・パートナーは、例外的事態（例えば、リミテッド・パートナーが業務の運営に積極的に参加する場合）がない限り、有限責任たる地位を享受する。ジェネラル・パートナーの機能、義務および責任の詳細は、リミテッド・パートナーシップ契約に記載される。
- (e) ジェネラル・パートナーは、誠意をもって、かつパートナーシップ契約において別途明示的な規定により異なる定めをしない限り、パートナーシップの利益のために行為する法的義務を負っている。また、たとえばコモンローの下での、またはパートナーシップ法（2013年改訂）の下での、ジェネラル・パートナーシップの法理が適用される。
- (f) 免除リミテッド・パートナーシップは、以下の規定を順守しなければならない。
 - (i) ケイマン諸島に登録事務所を維持する。
 - (ii) 商号および所在地、リミテッド・パートナーに就任した日ならびにリミテッド・パートナーを退任した日の詳細を含むリミテッド・パートナーの登録簿を（ジェネラル・パートナーが決定する国または領域に）維持する。
 - (iii) リミテッド・パートナーの登録簿が維持される所在地に関する記録を登録事務所に維持する。
 - (iv) リミテッド・パートナーの登録簿が登録事務所以外の場所で保管される場合は、税務情報庁法（2017年改訂）に従い税務情報庁による指示または通知に基づき、リミテッド・パートナーの登録簿を電子的形態またはその他の媒体により登録事務所において入手可能にする。
 - (v) リミテッド・パートナーの出資額および出資日ならびに当該出資額の引出額および引出日を（ジェネラル・パートナーが決定する国または領域に）維持する。
 - (vi) 有効な通知が送達した場合、リミテッド・パートナーが許可したリミテッド・パートナーシップの権利に関する担保権の詳細を示す担保権記録簿を登録事務所に維持する。
- (g) リミテッド・パートナーシップ契約に従い、リミテッド・パートナーシップの権利はパートナーシップを解散せずに買い戻すことができる。
- (h) リミテッド・パートナーシップ契約に従い、各リミテッド・パートナーは、パートナーシップの業務と財務状況について完全な情報を求める権利を有する。
- (i) 免除リミテッド・パートナーシップは、50年間の期間について将来の税金の賦課をしないとの約定を得ることができる。
- (j) 免除リミテッド・パートナーシップは、登録内容の変更およびその解散についてリミテッド・パートナーシップ登記官に対して通知しなければならない。

- (k) 免除リミテッド・パートナーシップは、リミテッド・パートナーシップ登記官に対して、年次法定申告書を提出し、かつ年間手数料を支払わなければならない。

7. ミューチュアル・ファンド法のもとにおける規制投資信託に対するケイマン諸島金融庁（CIMA）による規制と監督

- 7.1 CIMAは、いつでも、規制投資信託に対して会計が監査されるように指示し、かつCIMAが特定する時までCIMAにそれを提出するように指示できる。
- 7.2 規制投資信託の運営者（すなわち、場合に応じて、取締役、受託会社またはジェネラル・パートナー）は、第1項に従い投資信託に対してなされた指示が、所定の期間内に遵守されていることを確保し、本規定に違反する者は、罪に問われ、かつ1万ケイマン諸島ドルの罰金および所定の時期以後も規制投資信託が指示に従わない場合はその日より一日につき500ケイマン諸島ドルの罰金刑に処せられる。
- 7.3 ある者がケイマン諸島においてまたはケイマン諸島からミューチュアル・ファンド法に違反して事業を行なっているか行なおうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合、CIMAは、その者に対して、CIMAが法律による義務を実行するようにするために合理的に要求できる情報または説明をCIMAに対して提供するように指示できる。
- 7.4 何人でも、第7.3項に従い与えられた指示を遵守しない者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 7.5 第7.3項に従って情報または説明を提供する者は、みずからそれが虚偽であるか誤解を招くものであることを知りながら、または知るべきであるにもかかわらず、これをCIMAに提供してはならない。この規程に違反した者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 7.6 投資信託がケイマン諸島においてまたはケイマン諸島からミューチュアル・ファンド法に違反して事業を営んでいるか行おうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合は、CIMAは、（高等裁判所の管轄下にある）グランドコート（以下「グランドコート」という。）に投資信託の投資者の資産を確保するために適切と考える命令を求めて申請することができ、グランドコートは係る命令を認める権限を有している。
- 7.7 CIMAは、規制投資信託が以下の事由のいずれか一つに該当する場合、第7.9項に定めたいずれかの行為またはすべての行為を行うことができる。
- (a) 規制投資信託がその義務を履行期が到来したときに履行できないか、そのおそれがある場合
 - (b) 規制投資信託がその投資者もしくは債権者に有害な方法で業務を行っているかもしくは行おうとしている場合、または自発的にその事業を解散する場合
 - (c) 免許投資信託の場合、免許投資信託がその投資信託免許の条件を遵守せずに業務を行っているか、行おうとしている場合
 - (d) 規制投資信託の指導および運営が適正かつ正当な方法で行われていない場合
 - (e) 規制投資信託の取締役、管理者または役員としての地位にある者が、各々の地位を占めるに適正かつ正当な者ではない場合
- 7.8 第7.7項に言及した事由が発生したか、または発生しそうか否かについてCIMAを警戒させるために、CIMAは、規制投資信託の以下の事項の不履行の理由について直ちに質問をなし、不履行の理由を確認するものとする。
- (a) CIMAが投資信託に対して発した指示に従ってその名称を変更すること
 - (b) 会計監査を受け、監査済会計書類をCIMAに提出すること
 - (c) 所定の年間許可料または年間登録料を支払うこと
 - (d) CIMAに指示されたときに、会計監査を受けるか、または監査済会計書類をCIMAに対して提出すること
- 7.9 第7.7項の目的のため、規制投資信託に関しCIMAがとる行為は以下のとおりとする。
- (a) 第4(1)(b)条（管理投資信託）または第4(3)条（第4(3)条投資信託）に基づき投資信託について有効な投資信託の許可または登録を取り消すこと

- (b) 投資信託が保有するいずれかの投資信託ライセンスに対して条件を付し、または条件を追加し、それらの条件を改定し、撤廃すること
 - (c) 投資信託の推進者または運営者の入替えを求めること
 - (d) 事柄を適切に行うようにファンドに助言する者を選任すること
 - (e) 投資信託の事務を支配する者を選任すること
- 7.10 CIMAが第7.9項の行為を行った場合、CIMAは、投資信託の投資者および債権者の利益を保護するために必要と考える措置を行いおよびその後同項に定めたその他の行為をするように命じる命令を求めて、グランドコートに対して、申請することができる。
- 7.11 CIMAは、そうすることが必要または適切であると考え、そうすることが实际的である場合は、CIMAは投資信託に関しみずから行っている措置または行おうとしている措置を、投資信託の投資者に対して知らせるものとする。
- 7.12 第7.9(d)項または第7.9(e)項により選任された者は、当該投資信託の費用負担において選任されるものとする。その選任によりCIMAに発生した費用は、投資信託がCIMAに支払う。
- 7.13 第7.9(e)項により選任された者は、投資信託の投資者および債権者の最善の利益のために運営者を排除して投資信託の事務を行うに必要な一切の権限を有する。
- 7.14 第7.13項で与えられた権限は、投資信託の事務を終了する権限をも含む。
- 7.15 第7.9(d)項または第7.9(e)項により投資信託に関し選任された者は、以下の行為を行うものとする。
- (a) CIMAから求められたときは、CIMAの特定する投資信託に関する情報をCIMAに対して提供する。
 - (b) 選任後3か月以内またはCIMAが特定する期間内に、選任された者が投資信託に関し行っている事柄についての報告書を作成してCIMAに対して提出し、かつそれが適切な場合は投資信託に関する勧告をCIMAに対して行う。
 - (c) 第7.15(b)項の報告書を提出後選任が終了しない場合、その後CIMAが特定する情報、報告書、勧告をCIMAに対して提供する。
- 7.16 第7.9(d)項または第7.9(e)項により投資信託に関し選任された者が第7.15項の義務を遵守しない場合、またはCIMAの意見によれば当該投資信託に関するその義務を満足に実行していない場合、CIMAは、選任を取り消して他の者をもってこれに替えることができる。
- 7.17 投資信託に関する第7.15項の情報または報告を受領したときは、CIMAは以下の措置を執ることができる。
- (a) CIMAが特定した方法で投資信託に関する事柄を再編するように要求すること
 - (b) 投資信託が会社の場合、会社法の第94(4)条によりグランドコートに対して同会社が法律の規定に従い解散されるように申し立てること
 - (c) 投資信託がケイマン諸島の法律に準拠したユニット・トラストの場合、ファンドを解散させるため受託会社に対して指示する命令を求めてグランドコートに申し立てること
 - (d) 投資信託がケイマン諸島の法律に準拠したパートナーシップの場合、パートナーシップの解散命令を求めてグランドコートに申し立てること
 - (e) また、CIMAは、第7.9(d)項または第7.9(e)項により選任される者の選任または再任に関して適切と考える行為をとることができる。
- 7.18 CIMAが第7.17項の措置をとった場合、投資信託の投資者および債権者の利益を守るために必要と考えるその他の措置および同項または第7.9項に定めたその他の措置をとるよう命じる命令を求めてグランドコートに申し立てることができる。
- 7.19 規制投資信託がケイマン諸島の法律の下で組織されたパートナーシップの場合でCIMAが第7.9(a)項に従い投資信託の免許を取り消した場合、パートナーシップは、解散されたものとみなす。
- 7.20 グランドコートが第7.17(c)項に従ってなされた申立てに対して命令を発する場合、裁判所は受託会社に対して投資信託資産から裁判所が適切と認める補償の支払を認めることができる。
- 7.21 CIMAのその他の権限に影響を与えることなく、CIMAは、ファンドが投資信託として事業を行うこともしくは行おうとすることを終了しまたは清算もしくは解散に付されるものと了解したときは、

第4(1)(b)条（管理投資信託）または第4(3)条（第4(3)条投資信託）に基づき投資信託について有効な投資信託の許可または登録をいつでも取り消すことができる。

8. 投資信託管理に対するCIMAの規制および監督

- 8.1 CIMAは、いつでも免許投資信託管理者に対して会計監査を行い、CIMAが特定する合理的期間内にCIMAに対し提出するように指示することができる。
- 8.2 免許投資信託管理者は、第8.1項により受けた指示に従うものとし、この規定に違反する者は、罪に問われ、かつ1万ケイマン諸島ドルの罰金を課され、かつ所定の時期以後も免許投資信託管理者が指示に従わない場合はその日より一日につき500ケイマン諸島ドルの罰金刑に処せられる。
- 8.3 ある者がミューチュアル・ファンド法に違反して投資信託管理業を行なっているか行おうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合は、CIMAは、その者に対して、CIMAがミューチュアル・ファンド法による義務を実行するために合理的に要求できる情報または説明をCIMAに対して提供するように指示できる。
- 8.4 何人でも、第8.3項に従い与えられた指示を遵守しない者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 8.5 第8.3項の目的のために情報または説明を提供する者は、みずからそれが虚偽であるか誤解を招くものであることを知りながら、または知るべきであるのかかわらず、これをCIMAに提供してはならない。この規定に違反した者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 8.6 CIMAが以下に該当すると判断する場合には、CIMAは、当該者によって管理されている投資信託の投資者の資産を維持するために適切と見られる命令を求めてグランドコートに申立てをすることができ、グランドコートはかかる命令を認める権限を有する。
- (a) ある者が投資信託管理者として行為し、またはその業務を行っており、かつ
 - (b) 同人がミューチュアル・ファンド法に違反してこれを行っている場合。
- 8.7 CIMAは、投資信託管理者が事業を行うこともしくは行おうとすることを終了または清算もしくは解散に付されるものと了解したときは、いつでも投資信託管理者免許を取り消すことができる。
- 8.8 CIMAは、免許投資信託管理者が以下のいずれかの事由に該当する場合は、第8.10項所定の措置をとることができる。
- (a) 免許投資信託管理者がその義務を履行するべきときに履行できないか、そのおそれがある場合
 - (b) 免許投資信託管理者が管理している投資信託の投資者または投資信託管理者の債権者または投資信託の債権者を害するような方法で、みずから事業を行いもしくは行っている事業を解散し、またはそうしようと意図している場合
 - (c) 免許投資信託管理者が投資信託管理の業務をその投資信託管理免許の条件を遵守しないで行いまたはそのように意図している場合
 - (d) 免許投資信託管理業務の指示および管理が、適正かつ正当な方法で実行されていない場合。
 - (e) 免許投資信託管理業務について取締役、管理者または役員の地位にある者が、各々の地位に就くには適正かつ正当な者ではない場合
 - (f) 上場されている免許投資信託管理業務を支配または所有する者が、当該支配または所有を行うには適正かつ正当な者ではない場合
- 8.9 CIMAは、第8.8項に言及した事由が発生したか、または発生しそうか否かについて注意を払うために、規制投資信託の以下の事項についてその理由について直ちに質問をなし、かつ確認するものとする。
- (a) 免許投資信託管理者の以下の不履行
 - (i) CIMAに対して規制投資信託の主要事務所の提供を開始したことを通知すること、規制投資信託に関し所定の年間手数料を支払うこと
 - (ii) CIMAの命令に従い、保証または財政上の援助をし、純資産額を増加すること
 - (iii) 投資信託、またはファンドの設立計画推進者または運営者に関し、条件が満たされていること

- (iv) 規制投資信託の事柄に関し書面による通知をCIMAに対して行うこと
 - (v) CIMAの命令に従い、名称を変更すること
 - (vi) 会計監査を受け、CIMAに対して監査済会計書類を送ること
 - (vii) 少なくとも2人の取締役をおくこと
 - (viii) CIMAから指示されたときに会計監査を受け、かつ監査済会計書類をCIMAに対し提出すること
 - (b) CIMAの承認を得ることなく管理者が株式を発行すること
 - (c) CIMAの書面による承認なく管理者の取締役、主要な上級役員、ジェネラル・パートナーを選任すること
 - (d) CIMAの承認なく、管理者の株式が処分されまたは取り引きされること
- 8.10 第8.8項の目的のために免許投資信託管理者についてCIMAがとりうる行為は以下の通りである。
- (a) 投資信託管理者が保有する投資信託管理者免許を撤回すること
 - (b) その投資信託管理者免許に関し条件および追加条件を付し、またかかる条件を変更しまたは取り消すこと
 - (c) 管理者の取締役、類似の上級役員またはジェネラル・パートナーの交代を請求すること
 - (d) 管理者に対し、その投資信託管理の適正な遂行について助言を行う者を選任すること
 - (e) 投資信託管理に関し管理者の業務の監督を引き受ける者を選任すること
- 8.11 CIMAが第8.10項による措置を執った場合、CIMAは、グランドコートに対して、CIMAが当該管理者によって管理されているすべてのファンドの投資者とそのいずれのファンドの債権者の利益を保護するために必要とみなすその他の措置を執るよう命令を求めて申立てを行うことができる。
- 8.12 第8.10(d)項または第8.10(e)項により選任される者は、当該管理者の費用負担において選任されるものとする。その選任によりCIMAに発生した費用は、管理者がCIMAに支払うべき金額となる。
- 8.13 第8.10(e)項により選任された者は、管理者によって管理される投資信託の投資者および管理者の債権者およびかかるファンドの債権者の最善の利益のために（管財人、清算人を除く）他の者を排除して投資信託に関する管理者の事務を行うに必要な一切の権限を有する。
- 8.14 第8.13項で与えられた権限は、投資信託の管理に関連する限り管理者の事務を終了させる権限をも含む。
- 8.15 第8.10(d)項または第8.10(e)項により許可を受けた投資信託管理者に関し選任された者は、以下の行為を行うものとする。
- (a) CIMAから求められたときは、CIMAの特定する投資信託の管理者の管理に関する情報をCIMAに対して提供する。
 - (b) 選任後3か月以内またはCIMAが特定する期間内に、選任された者が投資信託の管理者の管理について実行する事柄についての報告書を作成してCIMAに対して提出し、かつそれが適切な場合は管理に関する推奨をCIMAに対して行う。
 - (c) 第8.15(b)項の報告書を提出後選任が終了しない場合、その後CIMAが特定する情報、報告書、推奨をCIMAに対して提供する。
- 8.16 第8.10(d)項または第8.10(e)項により選任された者が、
- (a) 第8.15項の義務に従わない場合、または
 - (b) 満足できる形で投資信託管理に関する義務を実行していないとCIMAが判断する場合、CIMAは、選任を取り消しこれに替えて他の者を選任することができる。
- 8.17 免許投資信託管理者に関する第8.15項の情報または報告を受領したときは、CIMAは以下の措置を執ることができる。
- (a) CIMAが特定した方法で投資信託管理者に関する事柄を再編するように要求すること
 - (b) 投資信託管理者が会社の場合、会社法の第94(4)条によりグランドコートに対して同会社が法律の規定に従い解散されるように申し立てること
 - (c) CIMAは、第8.10(d)項または第8.10(e)項により選任される者の選任に関して適切と考える行為をとることができる。

- 8.18 CIMAが第8.16項の措置をとった場合、CIMAは、管理者が管理する投資信託の投資者、管理者の債権者およびかかるファンドの債権者の利益を守るために必要と考えるその他の措置をとるように命じる命令を求めてグランドコートに申し立てることができる。
- 8.19 CIMAのその他の権限に影響を与えることなく、CIMAは、以下の場合、いつでも投資信託管理者の免許を取り消すことができる。
- (a) CIMAは、免許保有者が投資信託管理者としての事業を行うことまたは行おうとすることをやめてしまっているという要件を満たした場合
 - (b) 免許の保有者が、解散、または清算に付された場合
- 8.20 免許投資信託管理者がケイマン諸島の法律によって組織されたパートナーシップの場合で、CIMAが第8.10項に従い、その投資信託管理者の免許を取り消した場合、パートナーシップは解散されたものとみなされる。
- 8.21 投資信託管理者が免許信託会社の場合、たとえば、投資信託の受託者である場合、銀行および信託会社法によりCIMAによっても規制され監督される。かかる規制と監督の程度はミューチュアル・ファンド法の下でのそれにおよそ近いものである。

9. ミューチュアル・ファンド法のもとでの一般的法の執行

- 9.1 下記の解散の申請がCIMA以外の者によりなされた場合、CIMAは、申請者より申請の写しの送達を受け、申請の聴聞会に出廷することができる。
- (a) 規制投資信託
 - (b) 免許投資信託管理者
 - (c) 規制投資信託であった人物、または
 - (d) 免許投資信託管理者であった人物
- 9.2 解散のための申請に関する書類および第9.1(a)項から第9.1(d)項に規定された人物またはそれぞれの債権者に送付が要求される書類はCIMAにも送付される。
- 9.3 CIMAにより当該目的のために任命された人物は、以下を行うことができる。
- (a) 第9.1(a)項から第9.1(d)項に規定された人物の債権者会議に出席すること
 - (b) 仲裁または取り決めに審議するために設置された委員会に出席すること
 - (c) 当該会議におけるあらゆる決済事項に関して代理すること
- 9.4 執行官が、CIMAまたはインスペクターと同じレベル以上の警察官が、ミューチュアル・ファンド法の下での犯罪行為がある一定の場所で行われたか、行われつつあるかもしくは行われようとしていると疑う合理的な根拠があるとしてなした申請に納得できた場合、執行官はCIMAまたは警察官およびその者が支援を受けるため合理的に必要とするその他の者に以下のことを授權する令状を発行することができる。
- (a) 必要な場合は強権を用いてそれらの場所に立ち入ること
 - (b) それらの場所またはその場所にいる者を搜索すること
 - (c) 必要な場合は、記録が保存されているか、隠されている場所において、強制的に開扉して搜索をすること
 - (d) ミューチュアル・ファンド法のもとでの犯罪行為が行われたか、行われつつあるか、または行われようとしていることを示すと思われる記録の占有を確保し安全に保持すること
 - (e) ミューチュアル・ファンド法のもとでの犯罪行為が行われたか、行われつつあるか、または行われようとしていることを示すと思われる場所において記録の点検をし写しをとること。もし、それが実際的でない場合は、かかる記録を持ち去ってCIMAに対して引き渡すこと
- 9.5 CIMAが記録を持ち去ったとき、またはCIMAに記録が引き渡されたときCIMAはこれを点検し、写しや抜粋を取得するために必要な期間これを保持することができるが、その後は、それが持ち去られた場所に返還すべきものとする。

- 9.6 何人もCIMAがミューチュアル・ファンド法の下での権限を行使することを妨げてはならない。この規定に違反する者は罪に問われ、かつ20万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。

10. CIMAによるミューチュアル・ファンド法上またはその他の法律上の開示

- 10.1 ミューチュアル・ファンド法または金融庁法により、CIMAは、下記のいずれかに関係する情報を開示することができる。

- (a) ミューチュアル・ファンド法のもとでの免許を受けるためにCIMAに対してなされた申請。
- (b) 投資信託に関する事柄
- (c) 投資信託管理者に関する事柄

ただし、これらの情報は、CIMAがミューチュアル・ファンド法により職務を行い、その任務を実行する過程で取得したもので次のいずれかの場合に限られる。

- (a) CIMAがミューチュアル・ファンド法により付与された職務を行うことを援助する目的の場合
- (b) 例えば2016年秘密情報公開法、犯罪収益に関する法律（2019年改訂）または薬物濫用法（2017年改訂）等にもとづき、ケイマン諸島内の裁判所によりこれを行うことが合法的に要求されまたは許可された場合
- (c) 開示される情報が投資者の身元を開示することなく（当該開示が許される場合を除く）、要約または統計的なものである場合
- (d) ケイマン諸島外の金融監督当局に対し、CIMAにより免許に関し遂行される任務に対応する任務を当該当局が遂行するために必要な情報を開示する場合。ただし、CIMAは情報の受領が予定されている当局が更なる開示に関し十分な法的規制を受けていることについて満足していることを条件とする。
- (e) 投資信託、投資信託管理者または投資信託の受託者の解散、清算または免許所有者の管財人の任命もしくは職務に関連する法的手続を目的とする場合

11. ケイマン諸島投資信託の受益権の募集／販売に関する一般的な民法上の債務

11.1 過失による誤った事実表明

販売書類における不実表示に対しては民事上の債務が発生しうる。販売書類の条件では、販売書類の内容を信頼して受益権を申込み者のために、販売書類の内容について責任のある者、例えば（場合に応じ）ファンド、取締役、運用者、ジェネラル・パートナー等に注意義務を課している。この義務の違反は、販売文書の中のかかる者によって明示的または黙示的に責任を負うことが受け入れられている者に対する不実表示による損失の請求を可能にするであろう。

11.2 欺罔的な不実表明

事実の欺罔的な不実表明（約束、予想、または意見の表明でなくとも）に関しては、不法行為の民事責任も生じうる。ここにいう「欺罔的」とは、表明が虚偽であることを知りながらまたは表明が真実であるか虚偽であるかについて注意を払わずに行ったことを意味すると一般的に解される。

11.3 契約法（1996年改訂）

- (a) 契約法の第14(1)条では、当該表明が欺罔的に行われていれば責任が生じたであろう場合には、契約前の不実の表明による損害の回復ができるであろう。ただし、かかる表明をした者が、事実が真実であるものと信じ、かつ契約の時まで信じていた合理的理由があったということを証明した場合はこの限りでない。一般的には、本条は、過失による不実の表明に関する損害に対しても法定の権利を与えるものである。同法の第14(2)条は、不実の表明が行われた場合に、取消に代えて損害賠償を容認することを裁判所に対して認めている。
- (b) 一般的に、関連契約はファンド自身（または受託会社）とのものであるため、ファンド（または受託会社）は、次にその運用者、ジェネラル・パートナー、取締役、設立計画推進者または助言者に対し請求することが可能であるとしても、申込人の請求の対象となる者はファンドとなる。

11.4 欺罔に対する訴訟提起

- (a) 損害を受けた投資者は、欺罔行為について訴えを提起し（契約上でなく不法行為上の民事請求権）、以下を証明することにより、欺罔による損害賠償を得ることができる。
- (i) 重要な不実の表明が欺罔的になされたこと。
- (ii) そのような不実の表明の結果、受益証券を申し込むように誘引されたこと。
- (b) 「欺罔的」とは、表明が虚偽であることを知りながらまたは表明が真実であるか虚偽であるかについて注意を払わずに行ったことを意味すると一般的に解される。だます意図があったことまたは欺罔的な不実表明が投資者を受益権購入に誘引した唯一の原因であったことを証明する必要はない。
- (c) 情報の欠落は、事実についての何らかの積極的な不実の表明があったとき、または欠落情報を入れなかったために表明事項が虚偽となるか誤解を招くものとなるような部分的もしくは断片的な事実の表明があったときは、不実の表明となりうる。
- (d) 表明がなされたときは真実であっても、受益証券の申込の受諾が無条件となる前に表明が真実でなくなったときは、当該変更を明確に指摘せずに受益権の申込を許したことは欺罔にあたるであろうから、欺罔による請求権を発生せしめうる。
- (e) 事実の表明とは違い、意見または期待の表明は、本項の責任を生じることはないであろうが、表現によっては誤っていれば不実表示を構成する事実の表明となることもありうる。

11.5 契約上の債務

- (a) 販売書類もファンド（または受託会社）と持分の成約申込者との間の契約の基礎を形成する。もしそれが不正確か誤解を招くものであれば、申込者は契約を解除または損害賠償を求めて管理会社、設立計画推進者、ジェネラル・パートナーまたは取締役に対し訴えを提起することができる。
- (b) 一般的事柄としては、当該契約はファンド（または受託会社）そのものと締結するので、ファンドは取締役、運用者、ジェネラル・パートナー、設立計画推進者、または助言者に求償することはあっても、申込者が請求する相手方当事者は、ファンド（または受託会社）である。

11.6 隠された利益および利益相反

ファンドの受託会社、ジェネラル・パートナー、取締役、役員、代行会社は、ファンドと第三者との間の取引から利益を得てはならない。ただし、ファンドによって特定の授権されているときはこの限りでない。そのように授権を受けずに得られた利益は、ファンドに帰属する。

12. ケイマン諸島投資信託の受益権の募集／販売に関する一般刑事法

12.1 刑法（2019年改訂）第257条

会社の役員（もしくはかかる者として行為しようとする者）が株主または債権者を会社の事項について欺罔する意図のもとに、「重要な事項」について誤解を招くか、虚偽であるか、欺罔的であるような声明、計算書を書面にて発行しまたは発行に同調する場合、彼は罪に問われるとともに7年間の拘禁刑に処せられる。

12.2 刑法（2019年改訂）第247条、第248条

- (a) 欺罔により、不正にみずから金銭的利益を得、または他の者をして金銭的利益を得させる者は、罪に問われるとともに、5年間の拘禁刑に処せられる。
- (b) 他の者に属する財産をその者から永久に奪う意図のもとに不正に取得する者は、罪に問われると共に10年の拘禁刑に処せられる。この目的上、彼が所有権、占有または支配を取得した場合は財産を取得したものとみなし、「取得」には、第三者のための取得または第三者をして取得もしくは確保を可能にすることを含む。
- (c) 両条の目的上、「欺罔」とは、事実についてであれ法についてであれ、言葉であれ、行為であれ、欺罔を用いる者もしくはその他の者の現在の意図についての欺罔を含む。

13. 清算

13.1 会社

会社の清算(解散)は、会社法、2008年会社清算規則および会社の定款に準拠する。清算は、自発的なもの(すなわち、株主の議決に従うもの)、または債権者、出資者(すなわち、株主)または会社自体の申立に従い裁判所による強制的なものがある。自発的な解散は、後に裁判所の監督の下になされることになることもある。CIMAも、投資信託または投資信託管理会社が解散されるべきことを裁判所に申立てる権限を有する(参照:第7.17(b)項および第8.17(b)項)。剰余資産は、もしあれば、定款の規定に従い、株主に分配される。

13.2 ユニット・トラスト

ユニット・トラストの清算は、信託証書の規定に準拠する。CIMAは、受託会社が投資信託を解散すべきであるという命令を裁判所に申請する権限をもっている。(参照:第7.17(c)項) 剰余資産は、もしあれば、信託証書の規定に従って分配される。

13.3 リミテッド・パートナーシップ

免除リミテッド・パートナーシップの解散は、免除リミテッド・パートナーシップ法およびパートナーシップ契約に準拠する。CIMAは、パートナーシップを解散させるべしとの命令(参照:第7.17(d)項)を求めて裁判所に申立をする権限を有している。剰余資産は、もしあれば、パートナーシップ契約の規定に従って分配される。

ジェネラル・パートナーまたはパートナーシップ契約に基づき清算人に任命された他の者は、パートナーシップを解散する責任を負っている。パートナーシップが一度解散されれば、ジェネラル・パートナーまたはパートナーシップ契約に基づき清算人に任命された他の者は、免除リミテッド・パートナーシップの登記官に解散通知を提出しなければならない。

13.4 税金

ケイマン諸島においては直接税、源泉課税または為替管理はない。ケイマン諸島は、ケイマン諸島の投資信託に対してまたはよって行われるあらゆる支払に適用されるいかなる国との間でも二重課税防止条約を締結していない。免除会社、受託会社、およびリミテッド・パートナーシップは、将来の課税に対して誓約書を取得することができる(第6.1(l)項、第6.2(g)項および第6.3(i)項参照)。

14. 一般投資家向け投資信託(日本)規則(2018年改正)

14.1 一般投資家向け投資信託(日本)規則(2018年改正)(以下「本規則」という。)は、日本で公衆に向けて販売される一般投資家向け投資信託に関する法的枠組みを定めたものである。本規則の解釈上、「一般投資家向け投資信託」とは、ミューチュアル・ファンド法第4(1)(a)条に基づく免許を受け、その証券が日本の公衆に対して既に販売され、または販売されることが予定されている信託、会社またはパートナーシップである投資信託をいう。日本国内で既に証券を販売し、2003年11月17日現在存在している投資信託、または同日現在存在し、同日後にサブ・トラストを設定した投資信託は、本規則に基づく「一般投資家向け投資信託」の定義に含まれない。上記のいずれかの適用除外に該当する一般投資家向け投資信託は、本規則の適用を受けることをCIMAに書面で届け出ることによって、かかる選択(当該選択は撤回不能である)をすることができる。

14.2 CIMAが一般投資家向け投資信託に交付する投資信託免許にはCIMAが適当とみなす条件の適用がある。かかる条件のひとつとして一般投資家向け投資信託は本規則に従って事業を行わねばならない。

14.3 本規則は一般投資家向け投資信託の設立文書に特定の条項を入れることを義務づけている。具体的には証券に付随する権利および制限、資産と負債の評価に関する条件、各証券の純資産価額および証券の募集価格および償還価格または買戻価格の計算方法、証券の発行条件、証券の譲渡または転換の条件、証券の買戻しおよびかかる買戻しの中止の条件、監査人の任命などが含まれる。

14.4 一般投資家向け投資信託の証券の発行価格および償還価格または買戻価格は請求に応じて管理事務代行会社の事務所で無料で入手することができなければならない。

14.5 一般投資家向け投資信託は会計年度が終了してから6か月以内、または目論見書に定めるそれ以前の日、に、年次報告書を作成し、投資家に配付するか、またはこれらを指示しなければならない。年次報告書には本規則に従って作成された当該投資信託の監査済財務諸表を盛り込まなければならない。

14.6 また一般投資家向け投資信託の運営者は各会計年度末の6か月後から20日以内に、一般投資家向け投資信託の事業の詳細を記載した報告書をCIMAに提出する義務を負う。さらに一般投資家向け投資信託の運営者は、運営者が知る限り、当該投資信託の投資方針、投資制限および設立文書を遵守していること、ならびに当該投資信託は投資家の利益を損なうような運営をしていないことを確認した宣誓書を、年に一度、CIMAに提出しなければならない。本規則の解釈上、「運営者」とは、ユニット・トラストの場合は信託の受託者、パートナーシップの場合はパートナーシップのジェネラル・パートナー、また会社の場合は会社の取締役をいう。

14.7 管理事務代行会社

- (a) 本規則第13.1条は一般投資家向け投資信託の管理事務代行会社が履行すべき様々な職務を定めている。かかる職務には下記の事項が含まれる。
 - (i) 一般投資家向け投資信託の設立文書、目論見書、申込契約およびその他の関係法に従って証券の発行、譲渡、転換および償還または買戻しが確実に実行されるようにすること
 - (ii) 一般投資家向け投資信託の設立文書、目論見書、申込契約および投資家または潜在的投資家に公表されるものに従って確実に証券の純資産価額、発行価格、転換価格および償還価格または買戻価格が計算されるようにすること
 - (iii) 管理事務代行会社が職務を履行するために必要なすべての事務所設備、機器および人員を確保すること
 - (iv) 本規則、会社法およびミューチュアル・ファンド法に従って、一般投資家向け投資信託の運営者が同意した形式で投資家向けの定期報告書が確実に作成されるようにすること
 - (v) 一般投資家向け投資信託の会計帳簿が適切に記帳されるように確保すること
 - (vi) 管理事務代行会社が投資家名簿を保管している場合を除き、名義書換代理人の手續および投資家名簿の管理に関して名義書換代理人に与えた指示が実効的に監視されるように確保すること
 - (vii) 別途名義書換代理人が任命されている場合を除き、一般投資家向け投資信託の設立文書で義務づけられた投資家名簿が確実に管理されるようにすること
 - (viii) 一般投資家向け投資信託の証券に関して適宜宣言されたすべての分配金またはその他の配分が当該投資信託から確実に投資家に支払われるようにすること
- (b) 本規則は、一般投資家向け投資信託の資産の一部または全部が目論見書に定める投資目的および投資制限に従って投資されていないことに管理事務代行会社が気付いた場合、または一般投資家向け投資信託の運営者または投資顧問会社が設立文書または目論見書に定める規定に従って当該投資信託の業務または投資活動を実施していない場合、できる限り速やかにCIMAに連絡し、当該投資信託の運営者に書面で報告することを管理事務代行会社に対して義務づけている。
- (c) 管理事務代行会社は、一般投資家向け投資信託の募集または償還もしくは買戻しを中止する場合、および一般投資家向け投資信託を清算する意向である場合、実務上できる限り速やかにその旨をCIMAに通知しなければならない。
- (d) 管理事務代行会社はケイマン諸島または同等の法域で設立され、または適法に事業を営んでいる者にその職務または任務を委託することができる。ただし、管理事務代行会社は委託した職務または任務の履行に関し引き続き責任を負わなければならない。管理事務代行会社は職務を委託する前にCIMAに届け出るとともに、委託後直ちに運営者、サービス提供者および投資家に通知するものとする。「同等の法域」とは、犯罪収益に関する法律の下でケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止対策グループにより承認された法域をいう。

14.8 保管会社

- (a) 一般投資家向け投資信託はケイマン諸島、同等の法域またはCIMAが承認したその他の法域で規制を受けている保管会社を任命し、維持しなければならない。保管会社を変更する場合、一般投資家向け投資信託は変更の1か月前までにその旨を書面でCIMA、当該投資信託の投資家およびサービス提供者に通知しなければならない。
- (b) 本規則は任命された保管会社の職務として、保管会社は投資対象に関する証券および権原に関する書類を保管し、当該投資信託の設立文書、目論見書、申込契約または関係法令と矛盾しない限り、契

約により規定される一般投資家向け投資信託の投資に関する管理事務代行会社、投資顧問会社および運営者の指示を実行することを定めている。

- (c) 保管会社は、管理事務代行会社または一般投資家向け投資信託に対して、証券の申込代金の受取りおよび充当、当該投資信託の証券の発行、転換および買戻し、投資対象の売却に際して受取った純収益の送金、当該投資信託の資本および収益の充当ならびに当該投資信託の純資産価額の計算に関する写しおよび情報を請求する権利を有する。
- (d) 保管会社は副保管会社を任命することができ、保管会社は適切な副保管会社の選任に際して合理的な技量、注意および努力を払うものとする。保管会社はその業務を副保管会社に委託することを、1か月前までに書面でその他のサービス提供者に通知しなければならない。保管会社は保管サービスを提供する副保管会社の適格性を継続的に確認する責任を負う。保管会社は各副保管会社を適切なレベルで監督し、各副保管会社が引き続きその任務を十分に履行していることを確認するために定期的に調査しなければならない。

14.9 投資顧問会社

- (a) 一般投資家向け投資信託はケイマン諸島、同等の法域またはCIMAが承認したその他の法域で設立され、または適法に事業を営んでいる投資顧問会社を任命し、維持しなければならない。本規則の解釈上、「投資顧問会社」とは、一般投資家向け投資信託の投資活動に関する投資運用業務を提供する目的で、一般投資家向け投資信託により、または一般投資家向け投資信託のために任命された事業体をいう。かかる事業体により任命された副投資顧問会社はこれに含まれない。本規則の解釈上、「投資運用業務」には、ケイマン諸島の証券投資業法（2019年改正）の別表2第3項に規定される活動が含まれる。
- (b) 投資顧問会社を変更する場合には、変更の1か月前までにCIMA、投資家およびその他の業務提供者に当該変更について通知しなければならない。更に、投資顧問会社の取締役を変更する場合には、運用する各一般投資家向け投資信託の運営者（すなわち、場合に応じて、取締役、受託会社またはジェネラル・パートナー）の事前の承認を要する。運営者は、かかる変更について、変更の1か月前までに書面でCIMAに通知することが要求される。
- (c) 本規則第21条は、ミューチュアル・ファンド法に基づいて投資信託免許を取得する条件のひとつとして投資顧問会社を任命する契約に一定の職務が記載されていることを要求している。かかる職務には下記の事項が含まれる。
 - (i) 一般投資家向け投資信託が受取った申込代金が当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に従って確実に充当されるようにすること
 - (ii) 一般投資家向け投資信託の資産の売却に際してその純収益が合理的な期限内に確実に保管会社へ送金されるようにすること
 - (iii) 一般投資家向け投資信託の収益が当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に従って確実に充当されるようにすること
 - (iv) 一般投資家向け投資信託の資産が、当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に記載される当該投資信託の投資目的および投資制限に従って確実に投資されるようにすること
 - (v) 保管会社または副保管会社が一般投資家向け投資信託に関する契約上の義務を履行するために必要な情報および指示を合理的な時に提供すること
- (d) 本規則は、現在、一般投資家向け投資信託の投資顧問会社がユニット・トラストに対して投資顧問業務を行っているか、または会社に対して行っているかを区別しており、それに応じて、異なる投資制限が適用されている。
- (e) 投資信託がユニット・トラストである場合、本規則第21条(4)項は投資顧問会社がかかるユニット・トラストのために引受けてはならない業務を以下の通り定めている。
 - (i) 結果的に当該一般投資家向け投資信託のために空売りされるすべての有価証券の総額がかかる空売りの直後に当該一般投資家向け投資信託の純資産を超過することになる場合、かかる有価証券の空売りを行ってはならない。
 - (ii) 結果的に当該投資信託のために行われる借入れの残高の総額がかかる借入れ直後に当該投資信託の純資産の10%を超えることになる場合、かかる借入れを行ってはならない。ただし、

- (A) 特殊事情(一般投資家向け投資信託と別の投資信託、投資ファンドまたはそれ以外の種類の集団投資スキームとの合併を含むがそれらに限られない。)において、12か月を超えない期間に限り、本(ii)項において言及される借入制限を超えてもよいものとし、
- (B) 1 当該一般投資家向け投資信託が、有価証券の発行手取金のすべてまたは実質的にすべてを不動産の権利を含む不動産に投資するとの方針を有し、
- 2 投資顧問会社が、当該一般投資家向け投資信託の資産の健全な運営または当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益保護のために、かかる制限を超える借入れが必要であると判断する場合、
- 本(ii)項において言及される借入制限を超えてもよいものとする。
- (iii) 株式取得の結果、投資顧問会社が運用するすべての投資信託が保有する一会社(投資会社を除く。)の株式総数が、当該会社の発行済議決権付株式総数の50%を超えることになる場合、当該会社の議決権付株式を取得してはならない。
- (iv) 取引所に上場されていないか、または容易に換金できない投資対象を取得する結果として、取得直後に一般投資家向け投資信託が保有するかかる投資対象の総価値が当該投資信託の純資産価額の15%を超えることになる場合、当該投資対象を取得してはならないが、投資顧問会社は、当該投資対象の評価方法が当該一般投資家向け投資信託の目論見書において明確に開示されている場合、当該投資対象の取得を制限されないものとする。
- (v) 当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益を損なうか、または当該一般投資家向け投資信託の資産の適切な運用に違反する取引(投資信託の受益者ではなく投資顧問会社もしくは第三者の利益を図る取引を含むが、これらに限られない。)を行ってはならない。
- (vi) 本人として自社またはその取締役と取引を行ってはならない。
- (f) 一般投資家向け投資信託が会社である場合、本規則第21条(5)項は、投資顧問会社が当該会社のために引受けてはならない業務を以下の通り定めている。
- (i) 株式取得の結果、当該一般投資家向け投資信託が保有する一会社(投資会社を除く。)の株式総数が、当該会社の発行済議決権付株式総数の50%を超えることになる場合、当該会社の議決権付株式を取得してはならない。
- (ii) 当該一般投資家向け投資信託が発行するいかなる証券も取得してはならない。
- (iii) 当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益を損なうか、または当該一般投資家向け投資信託の資産の適切な運用に違反する取引(当該一般投資家向け投資信託の受益者ではなく投資顧問会社もしくは第三者の利益を図る取引を含むが、これらに限られない。)を行ってはならない。
- (g) 上記にかかわらず、本規則第21条(6)項は、本規則第21条(4)項または第21条(5)項によって、投資顧問会社が、一般投資家向け投資信託のために、以下に該当する会社、ユニット・トラスト、パートナーシップまたはその他の者のすべてのまたはいずれかの株式、証券、持分またはその他の投資対象を取得することを妨げないことを明記している。
- (i) 投資信託、投資ファンド、ファンド・オブ・ファンズまたはその他の種類の集団投資スキームである場合
- (ii) マスター・ファンド、フィード・ファンド、その他の類似の組織もしくは会社または事業体のグループの一部を構成している場合
- (iii) 一般投資家向け投資信託の投資目的または投資戦略を、全般的にまたは部分的に、直接促進する特別目的事業体である場合
- (h) 投資顧問会社は副投資顧問会社を任命することができ、副投資顧問会社を任命する場合は事前にその他の業務提供者、運営者およびCIMAに通知しなければならない。投資顧問会社は副投資顧問会社が履行する業務に関して責任を負う。

14.10 財務報告

- (a) 本規則パートVIは一般投資家向け投資信託の財務報告に充てられている。一般投資家向け投資信託は、各会計年度が終了してから6か月以内に、監査済財務諸表を織り込んだ財務報告書を作成し、ミューチュアル・ファンド法に従って投資家およびCIMAに配付しなければならない。また中間財

務諸表については当該投資信託の設立文書および目論見書の中で投資家に説明した要領で作成し、配付すれば足りる。

- (b) 投資家に配付するすべての関連財務情報および純資産価額を算定するために使用する財務情報は、目論見書に定める一般に認められた会計原則に従って準備されなければならない。
- (c) 本規則第26条では一般投資家向け投資信託の監査済財務諸表に入れるべき最低限の情報を定めている。

14.11 監査

- (a) 一般投資家向け投資信託は監査人を任命し、維持しなければならない。監査人を変更する場合は1か月前までに書面でCIMA、投資家およびサービス提供者に通知しなければならない。また監査人を変更する場合は事前にCIMAの承認を得なければならない。
- (b) 一般投資家向け投資信託は最初に監査人の書面による承認を得ることなく、当該投資信託の監査報告書を公表または配付してはならない。
- (c) 監査人はケイマン諸島以外の法域で一般に認められた監査基準を使用することができ、その際、監査報告書の中でかかる事実および法域の名称を開示しなければならない。
- (d) 監査人は一般投資家向け投資信託の運営者およびその他のサービス提供者から独立していなければならない。

14.12 目論見書

- (a) 本規則パートVIIIは、ミューチュアル・ファンド法第4(1)条および第4(6)条に従ってCIMAに届け出られる一般投資家向け投資信託の目論見書に関する最低限の開示要件を定めている。目論見書に重大な変更があった場合もCIMAに届け出なければならない。一般投資家向け投資信託の目論見書は当該投資信託の登記上の事務所またはケイマン諸島に所在するいずれかのサービス提供者の事務所において無料で入手することができなければならない。
- (b) ミューチュアル・ファンド法に定める要件に追加して、本規則第37条は一般投資家向け投資信託の目論見書に関する最低限の開示要件を定めており、以下の詳細が含まれていなければならない。
 - (i) 一般投資家向け投資信託の名称、また会社もしくはパートナーシップの場合はケイマン諸島の登記上の住所
 - (ii) 一般投資家向け投資信託の設立日または設定日（存続期間に関する制限の有無を表示する）
 - (iii) 設立文書および年次報告書または定期報告書の写しを閲覧し、入手できる場所の記述
 - (iv) 一般投資家向け投資信託の会計年度の終了日
 - (v) 監査人の氏名および住所
 - (vi) 下記の(xxii)、(xxiii)および(xxiv)に定める者とは別に、一般投資家向け投資信託の業務に重大な関係を有す取締役、役員、名義書換代理人、法律顧問およびその他の者の氏名および営業用住所
 - (vii) 投資信託会社である一般投資家向け投資信託の授權株式および発行済株式資本の詳細（該当する場合は現存する当初株式、設立者株式または経営株式を含む）
 - (viii) 証券に付与されている主な権利および制限の詳細（通貨、議決権、清算または解散の状況、券面、名簿への記録等に関する詳細を含む）
 - (ix) 該当する場合、証券を上場し、または上場を予定する証券取引所または市場の記述
 - (x) 証券の発行および売却に関する手続および条件
 - (xi) 証券の償還または買戻しに関する手続および条件ならびに償還または買戻しを中止する状況
 - (xii) 一般投資家向け投資信託の証券に関する配当または分配金の宣言に関する意向の説明
 - (xiii) 一般投資家向け投資信託の投資目的、投資方針および投資方針に関する制限の説明、一般投資家向け投資信託の重大なリスクの説明、および使用する投資手法、投資商品または借入の権限に関する記述
 - (xiv) 一般投資家向け投資信託の資産の評価に適用される規則の説明
 - (xv) 一般投資家向け投資信託の発行価格、償還価格または買戻価格の決定（取引の頻度を含む）に適用される規則および価格に関する情報を入手することのできる場所の説明

- (xvi) 一般投資家向け投資信託から運営者、管理事務代行会社、投資顧問会社、保管会社およびその他のサービス提供者が受取るまたは受取る可能性の高い報酬の支払方法、金額および報酬の計算に関する情報
- (xvii) 一般投資家向け投資信託とその運営者およびサービス提供者との間の潜在的利益相反に関する説明
- (xviii) 一般投資家向け投資信託がケイマン諸島以外の法域またはケイマン諸島以外の監督機関もしくは規制機関で登録し、もしくは免許を取得している場合（または登録し、もしくは免許を取得する予定である場合）、その旨の記述
- (xix) 投資家に配付する財務報告書の性格および頻度に関する詳細
- (xx) 一般投資家向け投資信託の財務報告書を作成する際に採用した一般に認められた会計原則
- (xx i) 以下の記述
 - 「ケイマン諸島金融庁が交付した投資信託免許は、一般投資家向け投資信託のパフォーマンスまたは信用力に関する金融庁の投資家に対する義務を構成しない。またかかる免許の交付にあたり、金融庁は一般投資家向け投資信託の損失もしくは不履行または目論見書に記載された意見もしくは記述の正確性に関して責任を負わないものとする。」
- (xx ii) 管理事務代行会社（管理事務代行会社の名称、管理事務代行会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所を含む）
- (xxiii) 保管会社および副保管会社（下記事項を含む）
 - (A) 保管会社および副保管会社（該当する場合）の名称、保管会社および副保管会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所
 - (B) 保管会社および副保管会社の主たる事業活動
- (xxiv) 投資顧問会社（下記事項を含む）
 - (A) 投資顧問会社の取締役の氏名および経歴の詳細ならびに投資顧問会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所
 - (B) 投資顧問会社のサービスに関する契約の重要な規定
 - (C) ファンドに対する投資家の持分に関するケイマン諸島の法令に定める重要な規定

第4【参考情報】

当該会計年度中、サブ・ファンドについては、以下の書類が関東財務局長に提出されている。

2018年12月28日	有価証券届出書 有価証券報告書（第5期）
2019年3月29日	半期報告書（第6期中） 有価証券届出書の訂正届出書

第5【その他】

該当事項なし。

[次へ](#)

《別紙A 定義》

文脈上別異に解すべき場合を除き、本書において、以下の用語は、それぞれ以下に定める意義を有する。

管理事務代行契約	受託会社および管理事務代行会社の間の2013年8月13日に締結された管理事務代行契約をいう。
管理事務代行会社	香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイまたはサブ・ファンドの管理事務代行会社として受託会社によって選任されたその他の者をいう。
代行協会員	管理会社の日本における代行協会員としてのシティグループ証券株式会社をいう。
代行協会員契約	管理会社と代行協会員との間の2013年8月12日に締結された契約をいう。
申込日	いずれかの取得日または買戻日に関連して、かかる取得日または買戻日の前の営業日および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。
申込書	管理会社または名義書換代理人より入手可能な受益証券の申込みの様式をいう。
豪ドル	オーストラリアの法定通貨をいう。
豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券	豪ドルで表示され、豪ドル建て（ヘッジあり）受益証券として指定されたヘッジあり受益証券をいう。
営業日	香港、ルクセンブルグ、ニューヨークおよび東京のそれぞれにおける商業銀行が営業を行っている日（土曜日、日曜日または祝日を除く。）および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。
為替ヘッジ取引	「第一部 ファンド情報、第1 ファンドの状況、2 投資方針、（1）投資方針、為替ヘッジ取引」の項に記載される取引をいう。

保管会社	香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイまたはサブ・ファンドの保管会社として受託会社によって選任されたその他の者をいう。
保管契約	受託会社および保管会社の間の2013年8月13日に締結された保管契約をいう。
取引期限	各取得日および買戻日直前の営業日の東京時間17時または管理会社が一般的にまたは特定の場合に決定するその他の時刻をいう。
販売会社	日本における受益証券またはその実質的権利の販売会社としての株式会社SMBC信託銀行および／または管理会社によって随時選任されたその他の販売会社をいう。
適格投資家	（i）米国の居住者、米国において設立されもしくは存続するパートナーシップ、または米国の法律に基づき設立されもしくは米国において存続する法人、信託もしくはその他の主体、（ii）ケイマン諸島に所在または居住する者または団体（慈善信託もしくは慈善権限授与の対象者またはケイマン諸島の免除会社もしくは非居住会社を除く。）、（iii）適用ある法律に違反することなく受益証券の申込みまたは保有を行うことができない者、法人または団体、または（iv）上記（i）から（iii）に記載される者、法人もしくは団体の保管会社、名義人もしくは受託会社、のいずれにも該当しない者、法人または団体または管理会社がサブ・ファンドに関して随時決定し、受託会社に通知するその他の者、法人もしくは団体をいう。
ユーロ	1992年2月7日にマーストリヒトで署名された欧州連合条約に従って単一通貨を採用した欧州連合の参加加盟国の共通通貨をいう。
ユーロ圏	欧州経済通貨同盟加盟国をいう。
ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券	ユーロで表示され、ユーロ建て（ヘッジあり）受益証券に指定されたヘッジ受益証券をいう。
金融商品取引法	日本の金融商品取引法（昭和23年法律第25号、改正済）をいう。
フランクリン・アドバイザーズ	マスター・ファンドの投資運用会社であるフランクリン・アドバイザーズ・インクをいう。

FTIF	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズをいう。
基準通貨	米ドルをいう。
総エクスポージャー	投資対象の市場リスク・エクスポージャー（ポートフォリオにおいて保有される場合、金融派生商品に関連する市場リスク・エクスポージャーおよび想定レバレッジを含む。）を考慮に入れるUCITSのリスク・エクスポージャーの程度をいう。UCITSは、ルクセンブルグの規制に基づき、当該リスク・エクスポージャーを「コミットメント・アプローチ」または「バリュエーション・リスク・アプローチ」を用いて測定するよう求められる。
投資対象	人、団体（法人格の有無を問わない。）、ファンド、信託、世界中の国、州もしくは地域の政府もしくは政府機関によって発行されたあらゆる種類の株、株式、パートナーシップ持分、債券、負債、優先株、ワラント、転換社債、貸株、投資信託の受益証券もしくは副受益証券、株式もしくはストック・オプションもしくは先物取引、通貨スワップ、金利スワップ、レポ取引、譲渡性預金証書、約束手形、為替手形、もしくはあらゆる種類の有価証券、もしくは上記の者に対してなされるローン（もしくはローン・パーティシペーション）、またはミューチュアル・ファンドもしくは類似のスキームへの参加、および、全額もしくは一部払込済または未払いであるかを問わず、不動産または管理会社が随時書面により指定するその他の投資対象もしくはその派生商品をいう。
投資運用契約	受託会社と管理会社との間で締結された投資運用契約（随時修正または追補される。）をいい、投資運用契約に基づき、受託会社は、各サブ・ファンドの信託財産の運用に関する投資運用サービスを管理会社に委託する。
投資運用サービス	投資運用契約に基づき管理会社に委託された各サブ・ファンドに関する業務ならびに／または管理会社および受託会社が書面にて随時合意するその他の業務をいう。
管理会社	シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドをいう。
マスター・ファンド	フランクリン・テンブルトン・インベストメント・ファンズのサブ・ファンドであるテンブルトン・グローバル・ボンド・ファンドをいう。詳細は、「第一部 ファンド情報、第1 ファンドの状況、2 投資方針、（1）投資方針、マスター・ファンド」に記載される。
純資産価額	サブ・ファンドの純資産価額をいう。

受益証券1口当たり純資産価格	受益証券の特定のクラスに帰属すべき純資産価額を計算時における当該クラスの受益証券の口数で除した額をいう。受益証券1口当たり純資産価格は、小数第3位または管理会社が受託会社と協議の上決定するその他の位まで四捨五入される。
英文目論見書	2008年11月付のトラストに関する英文目論見書（随時修正または補足される。）をいう。
参照通貨	受益証券のあるクラスがこれにより表示される通貨をいう。
買戻日	各営業日および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。
買戻通知	管理会社または名義書換代理人より入手可能な様式による受益者がその保有する受益証券に関して提出する買戻通知をいう。
買戻価格	各サブ・ファンドに関して、当該サブ・ファンドの受益証券1口当たりの買戻価格をいい、信託証書に基づき、当該サブ・ファンドに関する関連する英文目論見書補遺に要約される方法で計算される。
シリーズ会社	管理会社または受託会社の趣意により設立され、いずれかのサブ・ファンドを参照して指名される有限責任の子会社をいう。
サブ・ファンド	信託証書および追補信託証書に基づき設定および設立されたトラストのサブ・ファンドであるテンプルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズをいう。
サブ・ファンド決議	いずれかのサブ・ファンドに関して、（a）当該サブ・ファンドの発行済受益証券の単純過半数を保有し、関連する決議について議決権を行使する権利を有する者が書面により承認した決議、または（b）当該サブ・ファンドの受益者集会において、当該集会に関する基準日において、本人または代理人が出席し、議決権を有しかつ当該集会で議決権を行使する受益者であって、当該サブ・ファンドの受益証券の単純過半数を保有する者により可決された決議をいう。
サービス・プロバイダー	フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社をいう。

取得日	各営業日および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。
追補信託証書	受託会社および管理会社の間で2013年8月5日に締結されたサブ・ファンドを設立する追補信託証書（随時修正される。）をいう。
償還日	2157年10月21日または管理会社および受託会社が合意したこれよりも早い日をいう。
名義書換代理契約	受託会社、管理会社および名義書換代理人の間の2013年8月13日に締結された登録名義書換代理契約をいう。
名義書換代理人	シティコープ・フィナンシャル・サービスズ・リミテッドまたはサブ・ファンドに関して登録名義書換事務を提供するよう受託会社および管理会社によって選任されたその他の者をいう。
トラスト	ケイマン諸島の法律に基づき設立されたオープン・エンド型のアンブレラ型ユニット・トラストであるレッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストをいう。
信託証書	受託会社および管理会社の間の2008年10月21日付で締結されたトラストの設立に関する信託証書（2015年3月10日付修正・再録信託証書により変更・再録済。）（随時修正および追補される。）をいう。
受託会社	CIBC・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッドをいう。
信託財産	各サブ・ファンドに関して、当該サブ・ファンドの信託によって受託会社が保有する100米ドルの当初資産および以下の金額の合計をいう。 （a）当該サブ・ファンドの受益証券の発行手取金 （b）信託証書に定められるとおり、当該サブ・ファンドの信託によって受託会社またはその代理人が保有し、または保有しているとみなされる一切の現金およびその他の資産 また、かかる用語が一般的に用いられる場合、「信託財産」とは、すべてのサブ・ファンドに総じて適用する信託財産をいうものとする。

UCITS	2009年7月13日付け欧州議会および理事会指令2009/65/EC（その後の改正を含む。）に基づく譲渡性のある有価証券を投資対象とする投資信託をいう。
受益証券	サブ・ファンドの受益証券をいい、また「受益証券」との用語は、文脈上別異に解すべき場合を除き、受益証券のすべてのクラスを含むものとする。
受益者	当該時点での受益証券の登録保有者をいい、受益証券の保有者として共同して登録されるすべての者を含む。
受益者決議	（a）すべてのサブ・ファンドの発行済受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者が書面で承認した決議（当該決議により、各受益者は、すべてのサブ・ファンドの純資産価額の総額に対して当該受益者が保有するすべてのサブ・ファンドの受益証券の純資産価額の総額の比率に基づき比例按分して計算される議決権を受領するものとする。）、または（b）受益者集会において、当該集会に関する基準日に、本人または代理人が出席しており、議決権を有しかつ当該集会で議決権を行使する受益者で、すべてのサブ・ファンドの受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者により可決された決議をいう。
米国	アメリカ合衆国の、その属領および領土をいう。
米ドル	米国の法定通貨である米ドルをいう。
米ドル建て受益証券	米ドルで表示され、米ドル建て受益証券として指定される受益証券をいう。
評価日	各営業日および／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいう。

(訳文)

独立監査人の監査報告書

受託会社御中

監査意見

私どもは、7ページから47ページ（訳注：原文のページ）に記載されたレッド・アーク・グローバル・インベストメンツ(ケイマン)トラストのサブ・ファンドであるテンプルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズ（以下「サブ・ファンド」という。）の財務書類、すなわち、2019年6月30日現在の財政状態計算書、同日に終了した会計年度における包括利益計算書、受益証券保有者に帰属する純資産変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書、ならびに重要な会計方針の要約を含む財務書類に対する注記の監査を行った。

私どもは、当該財務書類が、香港公認会計士協会(以下「HKICPA」という。)が発行した香港財務報告基準(以下「HKFRS」という。)に準拠して、サブ・ファンドの2019年6月30日現在の財政状態、ならびに同日に終了した会計年度における経営成績およびキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私どもは、HKICPAが発行した香港監査基準(以下「HKSA」という。)に準拠して監査を行った。本基準のもとでの私どもの責任は、本報告書の「財務書類の監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。私どもは、ケイマン諸島における財務書類の監査に関連のある倫理上の要求とともにHKICPAの「職業会計士の倫理規程」（以下「当規程」という。）に基づきサブ・ファンドに対して独立性を保持しており、また、これらの要求および当規程で定められるその他の倫理上の責任を果たした。私どもは、監査意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務書類および監査報告書以外の情報

サブ・ファンドの管理会社および受託会社は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容は、年次報告書のうち、財務書類および監査報告書以外のすべての情報である。

私どもの監査意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、したがって、私どもは当該その他の記載内容に対していかなる保証の結論も表明しない。

財務書類監査における私どもの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務書類または私どもが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか考慮すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な虚偽表示の兆候があるかどうか留意することにある。私どもは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽表示があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私どもは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

財務書類に対するサブ・ファンドの管理会社および受託会社の責任

サブ・ファンドの管理会社および受託会社は、HK I C P Aが発行したHK F R Sに準拠して、当該財務書類を作成し適正に表示すること、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するためにサブ・ファンドの管理会社および受託会社が必要と判断した内部統制を整備および運用する責任を有している。

財務書類を作成するに当たり、サブ・ファンドの管理会社および受託会社は、サブ・ファンドが継続企業として存続する能力があるかどうかを評価し、必要がある場合には当該継続企業の前提に関する事項を開示する責任を有し、また、サブ・ファンドの管理会社および受託会社がサブ・ファンドの清算もしくは事業停止の意図があるか、またはそうする以外に現実的な代替案がない場合を除き、継続企業の前提に基づいて財務書類を作成する責任を有している。

財務書類監査に対する監査人の責任

私どもの監査の目的は、全体としての財務書類に、不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を表明することにある。本報告書は、機関としての受託会社に対してのみ作成されたものであり、他の目的では作成されていない。私どもは、本報告書の内容について、他の何人に対しても責任を負わない。

合理的な保証は、高い水準の保証であるが、HK S Aに準拠して行った監査が、すべての重要な虚偽表示を常に発見することを保証(guarantee)するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該財務書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私どもは、HK S Aに準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持し、また、以下を行う。

- ・ 不正または誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、取引等の記録からの除外、虚偽の陳述、および内部統制の無効化が伴うためである。

- ・ 状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、サブ・ファンドの内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・ サブ・ファンドの管理会社および受託会社が採用した会計方針およびその適用方法の適切性、ならびにサブ・ファンドの管理会社および受託会社によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。
- ・ サブ・ファンドの管理会社および受託会社が継続企業を前提として財務書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、サブ・ファンドの継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務書類の開示に注意を喚起すること、または重要な不確実性に関する財務書類の開示が適切でない場合は、財務書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。私どもの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、サブ・ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務書類の表示方法が適切であるかどうかを評価すること、関連する注記を含めた全体としての財務書類の表示、構成および内容を検討し、財務書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

私どもは、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、および監査の基準で求められているその他の事項について、サブ・ファンドの管理会社および受託会社に対して報告を行っている。

ケーピーエムジー

ケイマン諸島

2019年12月6日

[次へ](#)

Independent Auditors' Report to the Trustee

Opinion

We have audited the financial statements of Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series (the "Series Trust"), a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust, set on pages 7 to 47, which comprise the statement of financial position as at 30 June 2019, the statement of comprehensive income, the statement of changes in net assets attributable to the unitholder and the statement of cash flows for the year then ended, and notes to the financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the accompanying financial statements present fairly, in all material respects, the financial position of the Series Trust as at 30 June 2019, and its financial performance and its cash flows for the year then ended in accordance with Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs") issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA").

Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing ("HKSA") issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements* section of our report. We are independent of the Series Trust in accordance with the HKICPA's Code of Ethics for Professional Accountants (the "Code") together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the financial statements in the Cayman Islands, and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with these requirements and the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Information Other Than the Financial Statements and Auditors' Report Thereon

The Manager and the Trustee of the Series Trust are responsible for the other information. The other information comprises all the information included in the annual report, but does not include the financial statements and our auditors' report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit, or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Independent Auditors' Report to the Trustee (continued)

Responsibilities of the Manager and the Trustee of the Series Trust for the Financial Statements

The Manager and the Trustee of the Series Trust are responsible for the preparation and fair presentation of these financial statements in accordance with HKFRSs issued by the HKICPA and for such internal control as the Manager and the Trustee of the Series Trust determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the Manager and the Trustee of the Series Trust are responsible for assessing the Series Trust's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Manager and the Trustee of the Series Trust either intend to liquidate the Series Trust or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditors' report that includes our opinion. This report is made solely to you, as a body, in accordance with our agreed terms of engagement, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report.

Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements.

As part of an audit in accordance with HKSAs, we exercise professional judgment and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Series Trust's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Manager and the Trustee of the Series Trust.

Independent Auditors' Report to the Trustee (continued)

Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements (continued)

- Conclude on the appropriateness of the Manager's and Trustee's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Series Trust's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditors' report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditors' report. However, future events or conditions may cause the Series Trust to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with the Manager and the Trustee of the Series Trust regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

KPMG

6 December 2019

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出代理人が別途保管している。

[次へ](#)

(訳文)

独立監査人の監査報告書

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
(香港で設立された有限責任会社)
の株主各位

財務書類監査に関する報告**監査意見**

私どもは、7ページから37ページ（訳注：原文のページ）に記載されたシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド（以下「会社」という。）の財務書類、すなわち、2018年12月31日現在の財政状態計算書、同日に終了した事業年度における純損益およびその他の包括利益計算書、資本変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書、ならびに重要な会計方針の要約を含む財務書類に対する注記の監査を行った。

私どもは、当該財務書類が、香港公認会計士協会(以下「HK I C P A」という。)が発行した香港財務報告基準(以下「HK F R S」という。)に準拠して、2018年12月31日現在の会社の財政状態ならびに同日に終了した事業年度の経営成績およびキャッシュ・フローに対して真実かつ公正な概観を与えているものと認める。

監査意見の根拠

私どもは、HK I C P Aが発行した香港会計基準(以下「HK S A」という。)に準拠し、実務指針第820号（改訂）「登録会社および仲介業者の関連会社の監査」を参照して監査を行った。本基準のもとでの私どもの責任は、当報告書の「財務書類の監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。私どもは、HK I C P Aの「職業的監査人の倫理規定」（以下「当規定」という。）に準拠して会社から独立しており、さらに私どもは、当規定に準拠してその他の倫理上の責任を果たした。私どもは、監査意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務書類およびそれに対する監査報告書以外の情報

取締役は、その他の情報について責任を有する。その他の情報は、年次報告書に含まれるすべての情報から成るが、財務書類およびそれに対する監査報告書は含まれない。

財務書類に対する私どもの監査意見は、その他の情報を対象としていないため、私どもは、当該その他の情報に対していかなる形式の保証の結論も表明しない。

財務書類の監査に関する私どもの責任は、その他の情報を通読し、その過程で、当該その他の情報が財務書類もしくは私どもが監査上入手した知識と著しく矛盾していないか、またはそれ以外に重要な虚偽表示であると疑われるようなものがないかを検討することである。

私どもは、実施した作業に基づき、当該その他の情報に重要な虚偽の記載があるとの結論に至った場合、かかる事実を報告する必要がある。私どもはこの点に関し、報告すべきことはない。

財務書類に対する取締役の責任

取締役は、HK I C P Aが発行したHK F R Sおよび香港会社法に準拠して、真実かつ公正な概観を与える財務書類を作成する責任、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するために取締役が必要と判断する内部統制に対する責任がある。

財務書類の作成において、取締役は、会社の継続企業の前提の評価、継続企業に関連する事項の開示（該当する場合）および継続企業の前提による会計処理の実施に責任を有する。ただし、取締役が会社を清算または業務を停止する意思を有する場合、あるいはそうするより他に現実的な代替方法がない場合はこの限りでない。

さらに、取締役は、当該財務書類が、香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足していることを確保する必要がある。

財務書類の監査に対する監査人の責任

私どもの目的は、全体として財務書類に不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を含む監査報告書を発行することにある。当報告書は香港会社法の第405条に準拠し、集団としての株主に対してのみ作成されるものであり、その他の目的で使用してはならない。私どもは当報告書の内容に関して他のいかなる人物に対する責任も負わず、かつ責務も引き受けない。

合理的な保証は、高い水準の保証であるが、HK S Aに準拠して実施された監査が、存在する重要な虚偽表示を常に発見することを確認するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該財務書類の利用者の経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。また私どもは、当該財務書類が香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足しているかどうかについての合理的な保証を得る必要がある。

HK S Aに準拠した監査の一環として、私どもは、監査を通じて職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持する他、以下を行う。

- 不正または誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎を提供する十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による当該リスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な除外、虚偽の言明、または内部統制の無効化が伴うためである。
- 状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、会社の内部統制の有効性に対する意見を表明することが目的ではない。

- － 取締役が採用した会計方針の適切性、ならびに取締役によって行われた会計上の見積りおよび関連する開示の妥当性を評価する。
- － 取締役が継続企業の前提により会計処理を実施したことの適切性について結論付ける。また、入手した監査証拠に基づき、会社の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して、重要な不確実性が存在するか否かを判断する。重要な不確実性が存在するとの結論に至った場合、当監査報告書において、財務書類の関連する開示を参照するよう促すか、または当該開示が不適切な場合は、財務書類に対する私どもの監査意見を修正する必要がある。私どもの結論は、監査報告書の日付までに入手した監査証拠に基づいている。しかし、将来の事象または状況により、会社が継続企業として存続しなくなる可能性がある。
- － 財務書類の全体的な表示、構成および内容（開示を含む。）、ならびに、財務書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表しているかを評価する。

私どもは、取締役と、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、および監査上の重要な発見事項（監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む。）に関して、協議する。

香港証券先物法の香港証券先物（記録の保存）規則および香港証券先物（会計および監査）規則に基づいた法定事項に関する報告

私どもは、当該財務書類が、香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足しているものと認める。

ケーピーエムジー

公認会計士

香港、セントラル

チャターロード10

プリンスビル8階

2019年4月29日

[次へ](#)

**Independent auditor's report to the member of Citigroup
First Investment Management Limited**
(Incorporated in Hong Kong with limited liability)

Report on the audit of the financial statements

Opinion

We have audited the financial statements of Citigroup First Investment Management Limited (“the Company”) set out on pages 7 to 37, which comprise the statement of financial position as at 31 December 2018, the statement of profit or loss and other comprehensive income, the statement of changes in equity and the statement of cash flows for the year then ended and notes to the financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the financial statements give a true and fair view of the financial position of the Company as at 31 December 2018 and of its financial performance and its cash flows for the year then ended in accordance with Hong Kong Financial Reporting Standards (“HKFRSs”) issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants (“HKICPA”) and have been properly prepared in compliance with the Hong Kong Companies Ordinance.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing (“HKSAs”) and with reference to Practice Note 820 (Revised), *The audit of licensed corporations and associated entities of intermediaries*, issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements* section of our report. We are independent of the Company in accordance with the HKICPA's *Code of Ethics for Professional Accountants* (“the Code”) and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Information other than the financial statements and auditor's report thereon

The directors are responsible for the other information. The other information comprises all the information included in the annual report, other than the financial statements and our auditor's report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated.

If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the directors for the financial statements

The directors are responsible for the preparation of the financial statements that give a true and fair view in accordance with HKFRSs issued by the HKICPA and the Hong Kong Companies Ordinance and for such internal control as the directors determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the directors are responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the directors either intend to liquidate the Company or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

In addition, the directors are required to ensure that the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules.

Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. This report is made solely to you, as a body, in accordance with section 405 of the Hong Kong Companies Ordinance, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report.

Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements. In addition, we are required to obtain reasonable assurance about whether the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules

As part of an audit in accordance with HKSAs, we exercise professional judgement and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the directors.
- Conclude on the appropriateness of the directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Company to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with the directors regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

Report on matters under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules of the Hong Kong Securities and Futures Ordinance

In our opinion, the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules.

KPMG

Certified Public Accountants

8th Floor, Prince's Building

10 Chater Road

Central, Hong Kong

29 April 2019

（注）上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出代理人が別途保管している。